

岩手県埋文センター文化財調査報告書第36集

二戸バイパス関連遺跡発掘調査報告書

二戸市 長瀬B遺跡

昭和57年3月

岩手県教育委員会
(財)岩手県埋蔵文化財センター
建設省岩手工事事務所

二戸バイパス関連遺跡発掘調査報告書

二戸市 長瀬B遺跡

序

岩手県は四国四県に匹敵する広大な面積を有し、その広大な県土に存在する埋蔵文化財包蔵地は、県教育委員会文化課調査によりますと4,719ヶ所の多きとなっております。この数は今後の精密な分布調査によって更に増加するものと考えられます。この埋蔵文化財包蔵地は、我々の祖先の貴重な文化遺産であります。この貴重な文化遺産を守り伝えることが我々の責務と考えている所であります。

岩手県を南から北に縦断する国道4号線は181.8kmの長きにわたっております。この国道4号線は自動車時代の到来により交通事情が悪化し、特に市街地における交通渋滞を引き起こし市民生活へも影響をもたらしております。これの解消のため県下各地においてバイパス開通の要望が高まっております。

本報告書にかゝる二戸バイパスも、二戸市中心部を通る国道4号線の交通渋滞緩和のため建設省東北地方建設局岩手工事々務所によって建設されるものであります。このバイパス路線内に13ヶ所の埋蔵文化財包蔵地が存在してございました。これらの包蔵地は、建設省と県文化課との協議によって一部工法変更による保存の外は調査の上記録保存することとしました。

発掘調査は、昭和49年度から行なわれ、昭和56年度をもって終了いたしました。この調査によって得られた成果は大きく、例えば長瀬B遺跡の県北地区初の縄文時代早期集落、荒谷A遺跡の大型住居址、下村B遺跡の配石遺構、大淵遺跡の弥生時代住居址、数多くの奈良・平安時代集落など貴重な資料が得られております。

本年度はセンターに新たに資料課を設置し、鋭意報告書作成にとり組みました。本報告書の内容については不十分な点が多々あるとは思いますが、いささかでも関係各位の参考に供され斯学向上の一助となれば幸甚と存じます。

最後に県教委、委託者をはじめ関係各位に多大のご協力、ご援助を頂きましたことを厚く感謝申し上げます、今後のご指導、ご協力を合せてお願い申し上げます。

昭和57年3月

(財) 岩手県埋蔵文化財センター

理事長 新里 益

財団法人 岩手県埋蔵文化財センター組織

役員

理事長	新里 盈	(県教育長)
副理事長	中原 良一	(県教育次長)
常務理事	菅原 一郎	(センター所長)
理事	吉田 良和	(県農政部長)
◇	田代 太志	(県林業水産部次長)
◇	後藤 光雄	(県土木部次長)
◇	板橋 源	(県立博物館長)
◇	草間 俊一	(県立盛岡短大校長)
◇	小形 信夫	(県民俗の会会長)
監事	白石 文雄	(県教委総務課長)
◇	及川 久男	(県教委財務課長)

職員

所長	菅原 一郎
副所長	小野寺 登
総務課長	小笠原喜一
庶務係長	岡沢 成治
主事	佐藤久四郎
◇	戸草内幸男
◇	立花多加志
技能員	佐藤 春男

調査課長 鳴 千秋

主任専門調査員 近藤 宗光

◇ 遠藤 勝博

◇ 国生 尚

専門調査員 村上 達夫

◇ 畠山 靖彦

◇ 朝野 孝二

◇ 菊池 利和

◇ 鈴木 恵治

◇ 小平 忠孝

◇ 大原 一則

◇ 田頭 寿夫

◇ 佐々木嘉直

◇ 栃沢 潤郎

専門調査員 平井 進

◇ 種市 進

◇ 鈴木 隆英

◇ 三浦 謙一

◇ 岩瀬 久

◇ 光井 文行

◇ 佐勝 勝

◇ 高橋 義介

◇ 佐々木清文

◇ 酒井 宗孝

資料課長 瀬川 司男

専門調査員 高橋与右衛門

◇ 本沢 慎輔

◇ 工藤 利幸

◇ 高橋 文夫

◇ 四井 謙吉

◇ 中川 重紀

◇ 松野 恒夫

岩手県立埋蔵文化財センター
文化財専門員 渡辺 洋一

緒 言

1. 本報告書は、国道4号線二戸バイパス建設予定地内に所在する岩手県二戸市長瀬B遺跡の発掘調査の結果を収録したものである。
2. 発掘調査は調査要項に示した期間に行なわれた。室内整理作業は、昭和53年1月4日から53年3月31日までの期間と56年4月6日から57年1月28日までの期間に行なわれた。
3. 発掘調査は調査要項に示した者が担当した。また室内整理作業は、53年分については佐藤と四井の2名が分担して行なったが、56年以降の分についてはすべて四井が担当した。
4. 発掘調査および室内整理においては、次の方々からご教示をいただいた。

建築構造……………佐藤 巧（東北大学工学部教授）
人骨鑑定……………山内 昭雄（東京大学医学部教授）
炭化材質鑑定………吉田 栄一（岩手大学農学部助教授）
石器石質鑑定………佐藤 二郎（県立大船渡農業高等学校教諭）

5. 発掘調査にあたっては、次の諸機関のご協力をいただいた。

建設省東北地方建設局岩手工事事務所・岩手工事事務所二戸国道維持出張所・二戸市教育委員会

6. 発掘調査の作業には、竹林卯太郎・沢内義一・畑本芳雄の三氏をはじめとする地元の方々にご協力をいただいた。巻末に発掘調査作業協力者名簿を掲載して、感謝の意を表した。
7. 本報告書の執筆分担は、次のとおりである。

I. 序論 1. 調査に至る経過……………瀬川司男 2. 調査方法と室内整理の方法
～ 4. 基本層序……………四井謙吉

II. 検出遺構……………四井謙吉

III. 遺構外の出土遺物……………四井謙吉

IV. まとめ……………四井謙吉

8. 実測図・トレース・遺物実測・図版作成などにあたっては、次の方々にご協力をいただいた。
越場ミチエ・阿部蓉子・家子珠枝・浅沼朝子・戸花耐子・川崎清子・菊池仁子・吉田 京・
浅沼啓子・浅沼恵美子・滝村キヨ・天沼キミエ・佐藤ヨシ・佐藤良子・川村京子・武蔵ア
サヨ・佐藤渙恵・川村ミチ子・藤島ヒロ子・村上幹子・南館恭子・北条恵美子・高橋不二・
浅沼幸子・吉田律子・勝政タカ子・瀬川幸子・浅沼光子・佐々木啓子・菅原久美子・大木
絹子・佐々木キヌ・境田久美子・小泉修栄・大木エサ・吉田サン・佐藤リエ・武蔵ヒサ
9. また出土遺物の写真撮影にあたっては、次の方々にご協力をいただいた。

岩淵希士・佐藤和也

本文目次

序

緒言

I. 序論	9
1. 調査に至る経過	9
2. 調査方法と室内整理の方法	10
(1) 調査方法	10
(2) 室内整理の方法	13
3. 遺跡の立地	16
4. 基本層序	17
II. 検出遺構	27
1. 原始時代	27
(1) 竪穴住居址	27
(2) 炉址	36
(3) ビット	36
(4) 陥し穴状遺構	40
(5) 土器埋設遺構	42
2. 古代	83
(1) 竪穴住居址	83
(2) 竪穴住居址状遺構	123
(3) 掘立柱建物址	125
(4) ビット	126
(5) 周溝	129
3. 近世	249
土城墓	249
III. 遺構外の出土遺物	263
1. 土器	263
2. 石器	268

3. 土製品.....270

IV. まとめ.....285

図版目次

<p>図版 1 岩手県全体図…………… 3</p> <p>図版 2 二戸バイパス関連遺跡 及び周辺遺跡分布図…………… 5</p> <p>図版 3 遺跡地形図…………… 7</p> <p>図版 4 長瀬B遺跡グリッド配置図…………… 15</p> <p>図版 5 長瀬B遺跡深掘り土層断面図…………… 18</p> <p>図版 6 長瀬B遺跡遺構配置図(1)…………… 19</p> <p>図版 7 長瀬B遺跡遺構配置図(2)…………… 21</p> <p>図版 8 長瀬B遺跡出土遺物 重量分布図(1)…………… 23</p> <p>図版 9 長瀬B遺跡出土遺物 重量分布図(2)…………… 25</p> <p>図版10 O e 65住居址(1)…………… 43</p> <p>図版11 O e 65住居址(2)…………… 44</p> <p>図版12 O e 65住居址出土遺物(1)…………… 45</p> <p>図版13 O e 65住居址出土遺物(2)…………… 46</p> <p>図版14 O j 71住居址(1)…………… 47</p> <p>図版15 O j 71住居址(2)…………… 48</p> <p>図版16 O j 71住居址出土遺物(1)…………… 49</p> <p>図版17 O j 71住居址出土遺物(2)…………… 51</p> <p>図版18 O j 71住居址出土遺物(3)…………… 52</p> <p>図版19 O j 71住居址出土遺物(4)…………… 53</p> <p>図版20 O j 71住居址出土遺物(5)…………… 54</p> <p>図版21 O j 71住居址出土遺物(6)…………… 55</p> <p>図版22 B g 06住居址…………… 56</p> <p>図版23 B g 06住居址出土遺物…………… 57</p> <p>図版24 B i 03住居址(1)…………… 58</p> <p>図版25 B i 03住居址(2)…………… 59</p> <p>図版26 B i 03住居址(3)…………… 60</p>	<p>図版27 B i 03住居址(4)…………… 61</p> <p>図版28 B i 03住居址出土遺物(1)…………… 63</p> <p>図版29 B i 03住居址出土遺物(2)…………… 64</p> <p>図版30 B i 03住居址出土遺物(3)…………… 65</p> <p>図版31 B i 03住居址出土遺物(4)…………… 66</p> <p>図版32 D a 06住居址(1)…………… 67</p> <p>図版33 D a 06住居址(2)…………… 68</p> <p>図版34 D a 06住居址出土遺物(1)…………… 69</p> <p>図版35 D a 06住居址出土遺物(2)…………… 70</p> <p>図版36…………… 71</p> <p style="padding-left: 2em;">a. A c 56炉址</p> <p style="padding-left: 2em;">b. A d 56炉址</p> <p>図版37…………… 72</p> <p style="padding-left: 2em;">a. A j 68ピット</p> <p style="padding-left: 2em;">b. B a 71ピット</p> <p>図版38 B b 68ピット…………… 73</p> <p>図版39…………… 74</p> <p style="padding-left: 2em;">a. B d 59ピット</p> <p style="padding-left: 2em;">b. C g 06ピット</p> <p>図版40…………… 75</p> <p style="padding-left: 2em;">a. C g 50ピット</p> <p style="padding-left: 2em;">b. C h 03ピット</p> <p style="padding-left: 2em;">c. C h 06ピット</p> <p style="padding-left: 2em;">d. C h 62ピット</p> <p>図版41 ピット出土遺物…………… 76</p> <p>図版42…………… 77</p> <p style="padding-left: 2em;">a. C j 03ピット</p> <p style="padding-left: 2em;">b. C j 09ピット</p> <p style="padding-left: 2em;">c. D a 03ピット</p>
--	---

d. D h 53ピット	図版64 B g 50住居址 (2)	148
図版43..... 78	図版65 B g 50住居址 (3)	149
a. A j 06陥し穴状遺構	図版66 B g 50住居址出土遺物 (1)	150
b. B h 56陥し穴状遺構	図版67 B g 50住居址出土遺物 (2)	
c. B j 62陥し穴状遺構	B h 50住居址出土遺物.....	151
図版44..... 79	図版68 B h 50住居址.....	152
a. C f 59陥し穴状遺構	図版69 B i 59住居址 (1)	153
b. C h 56陥し穴状遺構	図版70 B i 59住居址 (2)	154
c. C j 50陥し穴状遺構	図版71 B i 59住居址出土遺物.....	155
図版45..... 80	図版72 B j 50住居址 (1)	156
a. D b 12陥し穴状遺構	図版73 B j 50住居址 (2)	157
b. D b 53陥し穴状遺構	図版74 B j 50住居址出土遺物.....	158
図版46 C a 09土器埋設遺構・出土遺物...81	図版75 C b 53-1住居址 (1)	159
図版47 A d 62住居址.....131	図版76 C b 53-1住居址 (2)	160
図版48 A d 62住居址出土遺物.....132	図版77 C b 53-1住居址 (3)	161
図版49 A f 59住居址 (1)	図版78 C b 53-1住居址出土遺物 (1)・162	
133	図版79 C b 53-1住居址出土遺物 (2)・163	
図版50 A f 59住居址 (2)	図版80 C b 53-2住居址.....	164
134	図版81 C b 53-2住居址出土遺物.....	165
図版51 A f 59住居址 (3)	図版82 C b 59住居址 (1)	166
135	図版83 C b 59住居址 (2)	167
図版52 A f 59住居址出土遺物 (1)	図版84 C b 59住居址出土遺物 (1)	168
136	図版85 C b 59住居址出土遺物 (2)	169
図版53 A f 59住居址出土遺物 (2)	図版86 C d 59住居址.....	170
137	図版87 C g 50住居址 (1)	171
図版54 A f 59住居址出土遺物 (3)	図版88 C g 50住居址 (2)	172
138	図版89 C d 59住居址出土遺物	
A h 50住居址出土遺物	C g 50住居址出土遺物.....	173
図版55 A h 50住居址.....139	図版90 C i 06住居址.....	174
図版56 B a 68住居址.....140	図版91 C j 06住居址.....	175
図版57 B d 03住居址 (1)	図版92 D a 50住居址.....	176
141	図版93 C j 06住居址出土遺物	
図版58 B d 03住居址 (2)		
142		
図版59 B a 68住居址出土遺物		
B d 03住居址出土遺物 (1)		
143		
図版60 B d 03住居址出土遺物 (2)		
144		
図版61 B e 68住居址.....145		
図版62 B e 68住居址出土遺物.....146		
図版63 B g 50住居址 (1)		
147		

	D a 50住居址出土遺物·····	177	圖版125	D h 03住居址·····	209
圖版94	D a 62住居址 (1) ·····	178	圖版126	D-h 03住居址出土遺物·····	210
圖版95	D a 62住居址 (2) ·····	179	圖版127	D h 15住居址·····	211
圖版96	D a 62住居址 (3) ·····	180	圖版128	D i 06住居址 (1) ·····	212
圖版97	D a 62住居址 (4) ·····	181	圖版129	D i 06住居址 (2) ·····	213
圖版98	D a 62住居址出土遺物 (1) ·····	182	圖版130	D i 06住居址出土遺物 (1) ·····	214
圖版99	D a 62住居址出土遺物 (2) ·····	183	圖版131	D i 06住居址出土遺物 (2) ·····	215
圖版100	D c 03住居址·····	184	圖版132	D i 06住居址出土遺物 (3) ·····	216
圖版101	D c 03住居址出土遺物 (1) ·····	185	圖版133	D j 03住居址 (1) ·····	217
圖版102	D c 03住居址出土遺物 (2) ·····	186	圖版134	D j 03住居址 (2) ·····	219
圖版103	D c 09住居址 (1) ·····	187	圖版135	D j 03住居址出土遺物 (1) ·····	221
圖版104	D c 09住居址 (2) ·····	188	圖版136	D j 03住居址出土遺物 (2) ·····	222
圖版105	D c 09住居址 (3) ·····	189	圖版137	D j 03住居址出土遺物 (3) ·····	223
圖版106	D c 09住居址 (4) ·····	190	圖版138	E a 12住居址 (1) ·····	224
圖版107	D c 09住居址出土遺物 (1) ·····	191	圖版139	E a 12住居址 (2) ·····	225
圖版108	D c 09住居址出土遺物 (2) ·····	192	圖版140	E a 12住居址 (3) ·····	226
圖版109	D d 53住居址 (1) ·····	193	圖版141	E a 12住居址出土遺物 (1) ·····	227
圖版110	D d 53住居址 (2) ·····	194	圖版142	E a 12住居址出土遺物 (2) ·····	228
圖版111	D d 53住居址 (3) ·····	195	圖版143	E a 12住居址出土遺物 (3) ·····	229
圖版112	D d 53住居址出土遺物 (1) ·····	196	圖版144	E a 12住居址出土遺物 (4) ·····	230
圖版113	D d 53住居址出土遺物 (2) ·····	197	圖版145	E d 09住居址 出土遺物·····	231
圖版114	D d 53住居址出土遺物 (3) ·····	198	圖版146	E g 53住居址 (1) ·····	232
圖版115	D d 53住居址出土遺物 (4) ·····	199	圖版147	E g 53住居址 (2) ·····	233
圖版116	D d 53住居址出土遺物 (5) ·····	200	圖版148	E g 53住居址出土遺物·····	234
圖版117	D d 53住居址出土遺物 (6) ·····	201	圖版149	E i 50住居址·····	235
圖版118	D d 53住居址出土遺物 (7) ·····	202	圖版150	E i 50住居址出土遺物·····	236
圖版119	D g 09住居址·····	203	圖版151	B i 06住居址狀遺構·····	237
圖版120	D g 09住居址出土遺物·····	204	圖版152	C i 62住居址狀遺構·····	238
圖版121	D g 56住居址 (1) ·····	205	圖版153	D f 12住居址狀遺構·····	239
圖版122	D g 56住居址 (2) ·····	206	圖版154	D i 59住居址狀遺構·····	240
圖版123	D g 56住居址出土遺物 (1) ·····	207	圖版155	C i 62住居址狀遺構出土遺物	
圖版124	D g 56住居址出土遺物 (2) ·····	208		D i 59住居址狀遺構出土遺物·····	241

図版156	242	a. E c 56—1 土坟墓	
a. C e 09 掘立柱建物址		b. E c 56—2 土坟墓	
b. C f 12 掘立柱建物址		c. E c 59 土坟墓	
図版157	243	図版168 土坟墓出土遺物 (1)	260
a. C f 62 ビット		図版169 土坟墓出土遺物 (2)	261
b. C h 50 ビット		図版170 土坟墓出土遺物 (3)	262
図版158 C f 62 ビット出土遺物	244	図版171 遺構外の出土遺物 (1)	271
図版159	245	図版172 遺構外の出土遺物 (2)	272
a. C i 53 ビット		図版173 遺構外の出土遺物 (3)	273
b. D e 53 ビット		図版174 遺構外の出土遺物 (4)	274
c. D j 03 ビット		図版175 遺構外の出土遺物 (5)	275
図版160	246	図版176 遺構外の出土遺物 (6)	276
a. D i 53 ビット		図版177 遺構外の出土遺物 (7)	277
b. D j 50 ビット		図版178 遺構外の出土遺物 (8)	278
c. D j 56 ビット		図版179 遺構外の出土遺物 (9)	279
図版161 C f 62 周溝	247	図版180 遺構外の出土遺物 (10)	280
図版162 E d 03 周溝	248	図版181 遺構外の出土遺物 (11)	281
図版163	255	図版182 遺構外の出土遺物 (12)	282
a. B d 62 土坟墓		図版183 遺構外の出土遺物 (13)	283
b. B d 65 土坟墓			
図版164 B d 68 土坟墓	256		
図版165	257		
a. B e 68 土坟墓			
b. E a 56—1 土坟墓			
c. E a 56—2 土坟墓			
d. E b 56—1 土坟墓			
図版166	258		
a. E b 56—2 土坟墓			
b. E b 56—5 土坟墓			
c. E b 56—3 土坟墓			
d. E b 56—4 土坟墓			
図版167	259		

写真図版目次

写真図版 1 遺跡周辺の航空写真……………305	写真図版11…………… 315
写真図版 2……………306	a. B i 03住居址 (遺物出土状況)
a. 遺跡遠景	b. D a 06住居址
b. 遺跡近景	写真図版12…………… 316
写真図版 3……………307	a. A c 56炉址(1)・A d 56炉址(2)
a. 試掘調査状況	b. 縄文時代早期遺物包含層調査状況
b. 検出遺構群	写真図版13…………… 317
写真図版 4……………308	a～d. 縄文時代早期土器出土状況
a. 調査風景	写真図版14…………… 318
b. 調査風景	a. A j 68ピット
写真図版 5……………309	b. A j 68ピット (土層断面)
a. O e 65住居址	c. B a 71ピット (土層断面)
b. O e 65住居址 (土層断面)	写真図版15…………… 319
写真図版 6……………310	a. B b 68ピット
a. O e 65住居址 (遺物出土状況)	b. B b 68ピット (土層断面)
b. O j 71住居址	写真図版16…………… 320
写真図版 7……………311	a. B d 59ピット
a. O j 71住居址 (土層断面)	b. B d 59ピット (土層断面)
b. O j 71住居址 (土器出土状況)	c. C g 50ピット
c. O j 71住居址 (土器出土状況)	d. C g 50ピット (土層断面)
d. B g 06住居址	e. C h 62ピット
写真図版 8……………312	f. C h 62ピット (土層断面)
a. B g 06住居址 (土層断面)	写真図版17…………… 321
b. B g 06住居址 (土層断面)	a. D a 03ピット
c. B g 06住居址 (遺物出土状況)	b. D a 03ピット (土層断面)
写真図版 9… B i 03住居址……………313	c. D h 53ピット
写真図版10……………314	d. D h 53ピット (土層断面)
a. B i 03住居址 (土層断面)	写真図版18…………… 322
b. B i 03住居址 (土層断面)	a. A j 06陥し穴状遺構(土層断面)
c. B i 03住居址(刻線岩球出土状況)	

b. B j 62陥し穴状遺構		d. A f 59住居址(炭化木製品出土状況)	
c. B h 56陥し穴状遺構		写真図版26	330
d. B h 56陥し穴状遺構(土層断面)		a. A h 50住居址	
写真図版19	323	b. A h 50住居址(土層断面)	
a. C f 59陥し穴状遺構		写真図版27	331
b. C f 59陥し穴状遺構(土層断面)		a. A h 50住居址(土層断面)	
c. C h 56陥し穴状遺構		b. A h 50住居址(炭化材出土状況)	
d. C h 56陥し穴状遺構(土層断面)		写真図版28	332
写真図版20	324	a. A h 50住居址カマド	
a. C j 50陥し穴状遺構		b. B a 68住居址	
b. C j 50陥し穴状遺構(土層断面)		写真図版29	333
c. D b 12陥し穴状遺構		a. B a 68住居址(土層断面)	
d. D b 12陥し穴状遺構(土層断面)		b. B a 68住居址(土層断面)	
写真図版21	325	c. B a 68住居址カマド	
a. D b 53陥し穴状遺構		d. B a 68住居址カマド(掘り方)	
b. D b 53陥し穴状遺構(土層断面)		写真図版30	334
c. C a 09土器埋設遺構		a. B d 03住居址	
d. C a 09土器埋設遺構(断面)		b. B d 03住居址(土層断面)	
写真図版22	326	c. B d 03住居址(土層断面)	
a. A d 62住居址		写真図版31	335
b. A d 62住居址(土層断面)		a. B d 03住居址カマド	
写真図版23	327	b. B d 03住居址カマド(土器出土状況)	
a. A f 59住居址		c. B d 03住居址(土器出土状況)	
b. A f 59住居址(土層断面)		d. B d 03住居址(土器出土状況)	
写真図版24	328	写真図版32	336
a. A f 59住居址(土層断面)		a. B e 68住居址	
b. A f 59住居址(炭化材出土状況)		b. B e 68住居址(土層断面)	
写真図版25	329	写真図版33	337
a. A f 59住居址カマド		a. B e 68住居址カマド	
b. A f 59住居址カマド(掘り方)		b. B e 68住居址(土器出土状況)	
c. A f 59住居址カマド(凝灰岩 使用状況)		c. B g 50住居址	
		写真図版34	338

a. B g 50住居址 (土層断面)	写真図版42	346
b. B g 50住居址 (土層断面)	a. C b 53-1住居址(土層断面)	
c. B g 50住居址カマド(検出状況)	b. C b 53-1住居址カマド	
写真図版35	c. C b 53-1住居址カマド (土 器出土状況)	
a. B g 50住居址カマド	写真図版43	347
b. B h 50住居址	a. C b 53-2住居址	
写真図版36	b. C b 53-2住居址(土層断面)	
a. B h 50住居址 (土層断面)	c. C b 53-2住居址カマド(埋込断面)	
b. B h 50住居址 (土層断面)	写真図版44	348
c. B h 50住居址カマド	a. C b 59住居址	
d. B h 50住居址(土器出土状況)	b. C b 59住居址 (土層断面)	
写真図版37	c. C b 59住居址 (土層断面)	
a. B h 50住居址(炭化材出土状況)	写真図版45	349
b. B i 59住居址	a. C b 59住居址カマド	
写真図版38	b. C b 59住居址(鉄鍬等出土状況)	
a. B i 59住居址 (土層断面)	c. C d 59住居址	
b. B i 59住居址カマド(検出状況)	写真図版46	350
c. B i 59住居址カマド	a. C d 59住居址 (土層断面)	
d. B i 59住居址(カマド使用凝 灰岩出土状況)	b. C d 59住居址 (土層断面)	
写真図版39	c. C d 59住居址カマド	
a. B j 50住居址	写真図版47	351
b. B j 50住居址 (土層断面)	a. C g 50住居址	
c. B j 50住居址 (土層断面)	b. C g 50住居址 (土層断面)	
写真図版40	c. C g 50住居址 (土層断面)	
a. B j 50住居址カマド	写真図版48	352
b. B j 50住居址カマド(掘り方)	a. C g 50住居址 (十和田a 降下 火山灰層)	
c. B j 50住居址(土器出土状況)	b. C g 50住居址(炭化材出土状況)	
d. B j 50住居址(炭化材出土状況)	写真図版49	353
写真図版41	a. C g 50住居址カマド	
a. C b 53-1住居址	b. C g 50住居址(炭化クワミ出土状況)	
b. C b 53-1住居址(土層断面)		

c. C i 06住居址		a. D c 03住居址カマド	
写真図版50.....	354	b. D c 03住居址(土器出土状況)	
a. C i 06住居址カマド		c. D c 03住居址(遺物出土状況)	
b. C i 06住居址カマド(粘土質 シルト残存状況)		写真図版58.....	362
c. C j 06住居址		a. D c 09住居址	
写真図版51.....	355	b. D c 09住居址(土層断面)	
a. C j 06住居址(土層断面)		写真図版59.....	363
b. C j 06住居址(土層断面)		a. D c 09住居址カマド	
c. C j 06住居址(土器出土状況)		b. D c 09住居址カマド(掘り方)	
写真図版52.....	356	c. D c 09住居址(遺物出土状況)	
a. D a 50住居址		写真図版60.....	364
b. D a 50住居址(土層断面)		a. D d 53住居址	
c. D a 50住居址(土層断面)		b. D d 53住居址(土層断面)	
写真図版53.....	357	c. D d 53住居址(土層断面)	
a. D a 62住居址		写真図版61.....	365
b. D a 62住居址(土層断面)		a. D d 53住居址カマド	
c. D a 62住居址(土層断面)		b. D d 53住居址(炭化材出土状況)	
写真図版54.....	358	写真図版62.....	366
a. D a 62住居址(遺物出土状況)		a ~ f. D d 53住居址(土器出土状況)	
b. D a 62住居址1号カマド		写真図版63.....	367
c. D a 62住居址2号カマド・P ₂		a. D d 53住居址(鉄製品出土状況)	
写真図版55.....	359	b. D d 53住居址(炭化材出土状況)	
a. D a 62住居址P ₂ (土層断面)		c. D d 53住居址(炭化材出土状況)	
b. D a 62住居址(土器出土状況)		d. D d 53住居址(炭化材出土状況)	
c. D a 62住居址(鉄器出土状況)		写真図版64.....	368
d. D a 62住居址(鉄器出土状況)		a. D g 09住居址	
写真図版56.....	360	b. D g 09住居址(土層断面)	
a. D c 03住居址		c. D g 09住居址(土層断面)	
b. D c 03住居址(土層断面)		写真図版65.....	369
c. D c 03住居址(土層断面)		a. D g 09住居址カマド	
写真図版57.....	361	b. D g 09住居址カマド(掘り方)	
		c. D g 09住居址(炭化材・礫出土状況)	

写真図版66	370	b. D j 03住居址 (土器出土状況)	
a. D g 56住居址		c. D j 03住居址 (土器出土状況)	
b. D g 56住居址 (土層断面)		写真図版75	379
c. D g 56住居址 (土層断面)		a. E a 12住居址	
写真図版67	371	b. E a 12住居址 (土層断面)	
a. D g 56住居址カマド		c. E a 12住居址 (土層断面)	
b. D g 56住居址 (遺物出土状況)		写真図版76	380
写真図版68	372	a. E a 12住居址カマド	
a. D h 03住居址		b. E a 12住居址カマド (掘り方)	
b. D h 03住居址 (土層断面)		c. E a 12住居址 (炭化材出土状況)	
写真図版69	373	写真図版77	381
a. D h 03住居址カマド		a. E a 12住居址 (土器出土状況)	
b. D h 03住居址 (炭化木製品出土状況)		b. E a 12住居址 (土器出土状況)	
c. D h 03住居址 (炭化材出土状況)		c. E a 12住居址 (鉄器出土状況)	
写真図版70	374	d. E a 12住居址 (炭化材加工痕)	
a. D h 15住居址		e. E a 12住居址 (炭化材加工痕)	
b. D i 06住居址		f. E a 12住居址 (礫出土状況)	
写真図版71	375	写真図版78	382
a. D i 06住居址 (土層断面)		a. E d 09住居址	
b. D i 06住居址1号カマド		b. E d 09住居址 (土層断面)	
c. D i 06住居址1号カマド (掘り方)		c. E d 09住居址 (土層断面)	
写真図版72	376	写真図版79	383
a. D i 06住居址2号カマド		a. E d 09住居址カマド	
b. D i 06住居址地床炉		b. E d 09住居址 (動物の糞の出土状況)	
c. D i 06住居址P ₁ (土器出土状況)		c. E d 09住居址 (動物の糞の出土状況)	
d. D j 03住居址		d. E d 09住居址 (動物の糞の出土状況)	
写真図版73	377	写真図版80	384
a. D j 03住居址 (土層断面)		a. E g 53住居址	
b. D j 03住居址 (土層断面)		b. E g 53住居址 (土層断面)	
c. D j 03住居址 (炭化材出土状況)		c. E g 53住居址 (土層断面)	
写真図版74	378	写真図版81	385
a. D j 03住居址カマド		a. E g 53住居址カマド	

b. E i 50住居址		b. D j 03ピット (炭化材出土状況)	
写真図版82	386	c. D j 50ピット	
a. E i 50住居址 (土層断面)		d. D j 50ピット (土層断面)	
b. E i 50住居址カマド		e. D j 56ピット	
写真図版83	387	f. D j 56ピット (土層断面)	
a. B i 06住居址状遺構		写真図版90	394
b. B i 06住居址状遺構 (土層断面)		a. C f 62周溝	
写真図版84	388	b. C f 62周溝 (土層断面)	
a. C i 62住居址状遺構		c. C f 62周溝 (土層断面)	
b. C i 62住居址状遺構 (土層断面)		写真図版91	395
c. C i 62住居址状遺構 (断面状況)		a. E d 03周溝	
写真図版85	389	b. B 区土塚墓群	
a. D f 12住居址状遺構		写真図版92	396
b. D f 12住居址状遺構 (土層断面)		a. B d 62土塚墓	
c. D f 12住居址状遺構 (土層断面)		b. B d 62土塚墓 (キセル出土状況)	
写真図版86	390	c. B d 62土塚墓 (人骨出土状況)	
a. D f 12住居址状遺構 (断面状況)		d. B d 62土塚墓 (人骨出土状況)	
b. D i 59住居址状遺構 (断面状況)		e. B d 65土塚墓	
c. D i 59住居址状遺構		f. B d 65土塚墓 (人骨出土状況)	
写真図版87	391	写真図版93	397
a. C e 09獨立柱建物址 (1)		a. B d 68土塚墓	
C f 12獨立柱建物址 (2)		b. B d 68土塚墓 (人骨出土状況)	
b. C h 50ピット		c. B d 68土塚墓 (人骨出土状況)	
c. C h 50ピット (土層断面)		d. B e 68土塚墓 (人骨出土状況)	
写真図版88	392	e. E a 56-1・2土塚墓 (人骨出土状況)	
a. C i 53ピット		f. E b 56-1土塚墓 (人骨出土状況)	
b. C i 53ピット (土層断面)		写真図版94	398
c. D e 53ピット		a. E 区土塚墓群	
d. D e 53ピット (土層断面)		b. E b 56-2土塚墓 (人骨出土状況)	
e. D i 53ピット		写真図版95	O e 65住居址出土遺物 (1) 399
写真図版89	393	写真図版96	O e 65住居址出土遺物 (2) 400
a. D j 03ピット			

写真図版97	・O j 71住居址出土遺物 (1)・401	C g 50住居址出土遺物 (1)・426
写真図版98	O j 71住居址出土遺物 (2)・402	写真図版123 C g 50住居址出土遺物 (2)
写真図版99	O j 71住居址出土遺物 (3)・403	C j 06住居址・D a 50住居址
写真図版100	O j 71住居址出土遺物 (4)・404	出土遺物……………427
写真図版101	O j 71住居址出土遺物 (5)・405	写真図版124 D a 62住居址出土遺物 (1)・428
写真図版102	B g 06住居址出土遺物……………406	写真図版125 D a 62住居址出土遺物 (2)・429
写真図版103	B i 03住居址出土遺物 (1)・407	写真図版126 D c 03住居址出土遺物 (1)・430
写真図版104	B i 03住居址出土遺物 (2)・408	写真図版127 D e 03住居址出土遺物 (2)・431
写真図版105	D a 06住居址出土遺物 (1)・409	写真図版128 D e 09住居址出土遺物 (1)・432
写真図版106	D a 06住居址出土遺物 (2)	写真図版129 D c 09住居址出土遺物 (2)・433
	B b 68・C g 50ピット、C a	写真図版130 D d 53住居址出土遺物 (1)・434
	09土器埋設遺構出土遺物……………410	写真図版131 D d 53住居址出土遺物 (2)・435
写真図版107	A d 62住居址出土遺物	写真図版132 D d 53住居址出土遺物 (3)・436
	A f 59住居址出土遺物 (1)・411	写真図版133 D d 53住居址出土遺物 (4)・437
写真図版108	A f 59住居址出土遺物 (2)・412	写真図版134 D d 53住居址出土遺物 (5)・438
写真図版109	A f 59住居址出土遺物 (3)・413	写真図版135 D d 53住居址出土遺物 (6)・439
写真図版110	A f 59住居址出土遺物 (4)	写真図版136 D d 53住居址出土遺物 (7)・440
	A h 50住居址出土遺物……………414	写真図版137 D d 53住居址出土遺物 (8)・441
写真図版111	B a 68住居址出土遺物	写真図版138 D g 09住居址出土遺物……………442
	B d 03住居址出土遺物 (1)・415	写真図版139 D g 56住居址出土遺物……………443
写真図版112	B d 03住居址出土遺物 (2)・416	写真図版140 D h 03住居址出土遺物 (1)・444
写真図版113	B e 68住居址出土遺物……………417	写真図版141 D h 03住居址出土遺物 (2)
写真図版114	B g 50住居址出土遺物 (1)・418	D i 06住居址出土遺物 (1)・445
写真図版115	B g 50住居址出土遺物 (2)・419	写真図版142 D i 06住居址出土遺物 (2)・446
写真図版116	B h 50住居址・B i 59住居址	写真図版143 D j 03住居址出土遺物 (1)・447
	出土遺物……………420	写真図版144 D j 03住居址出土遺物 (2)・448
写真図版117	B j 50住居址出土遺物……………421	写真図版145 D j 03住居址出土遺物 (3)・449
写真図版118	C b 53—1住居址出土遺物(1)422	写真図版146 E a 12住居址出土遺物 (1)・450
写真図版119	C b 53—1住居址出土遺物(2)423	写真図版147 E a 12住居址出土遺物 (2)・451
写真図版120	C b 59住居址出土遺物 (1)・424	写真図版148 E a 12住居址出土遺物 (3)・452
写真図版121	C b 59住居址出土遺物 (2)・425	写真図版149 E g 53住居址出土遺物……………453
写真図版122	C d 59住居址出土遺物	写真図版150 E a 50住居址出土遺物……………454

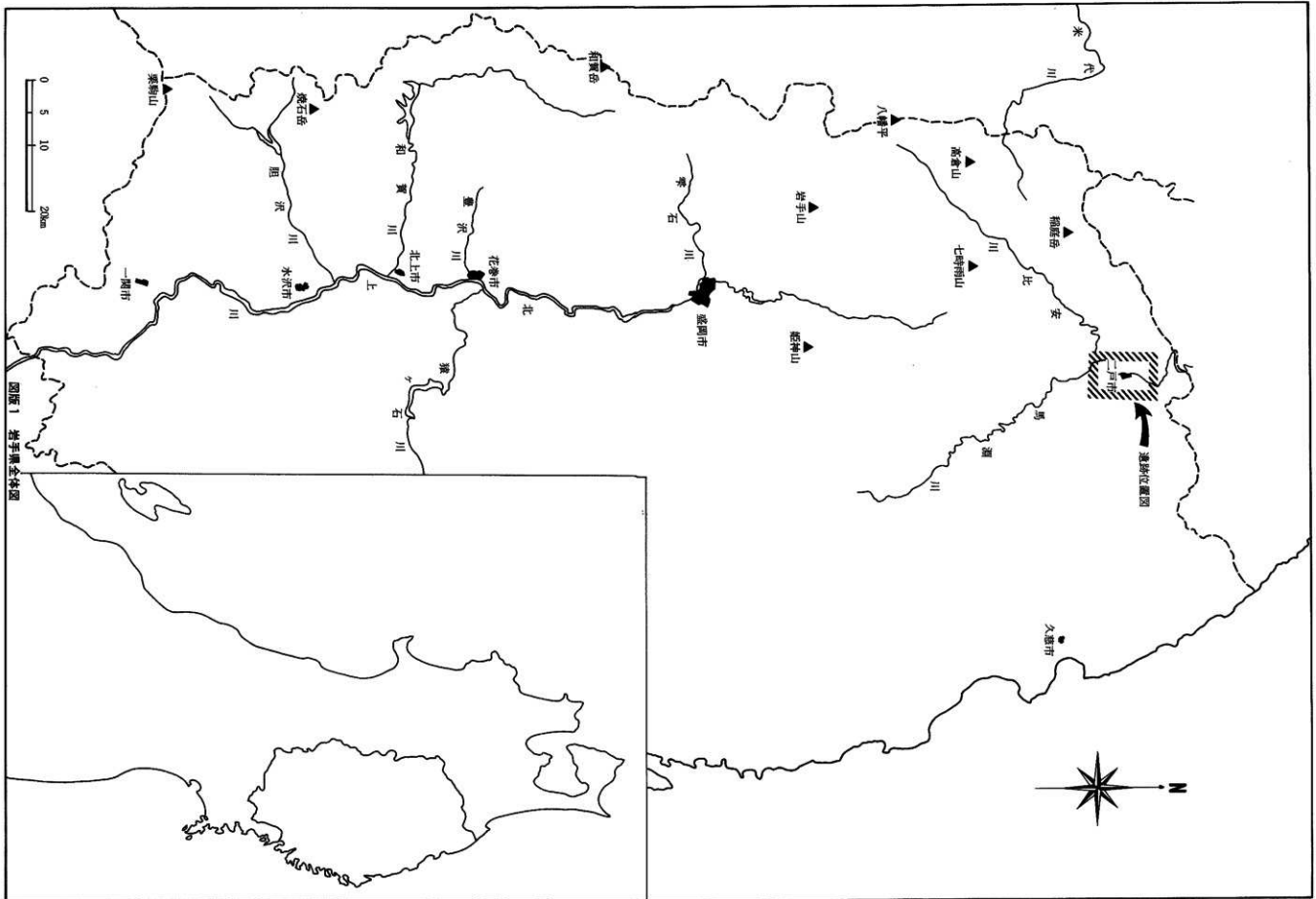
写真図版151	C i 62・D i 59住居址状遺構	
	C f 62ピット出土遺物	455
写真図版152	土壌墓出土遺物 (1)	456
写真図版153	土壌墓出土遺物 (2)	457
写真図版154	土壌墓出土遺物 (3)	458
写真図版155	遺構外の出土遺物 (1)	459
写真図版156	遺構外の出土遺物 (2)	460
写真図版157	遺構外の出土遺物 (3)	461
写真図版158	遺構外の出土遺物 (4)	462
写真図版159	遺構外の出土遺物 (5)	463
写真図版160	遺構外の出土遺物 (6)	464
写真図版161	遺構外の出土遺物 (7)	465
写真図版162	遺構外の出土遺物 (8)	466
写真図版163	遺構外の出土遺物 (9)	467
写真図版164	遺構外の出土遺物 (10)	468
写真図版165	遺構外の出土遺物 (11)	469
写真図版166	遺構外の出土遺物 (12)	470

表 目 次

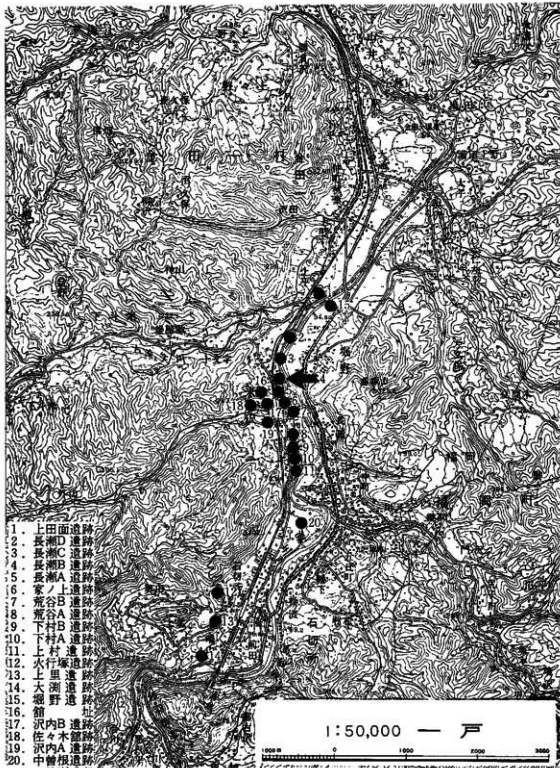
表 1	長瀬B遺跡出土石器計測表.....	297
表 2	長瀬B遺跡土塚墓出土古銭計測表.....	303

長瀬 B 遺跡

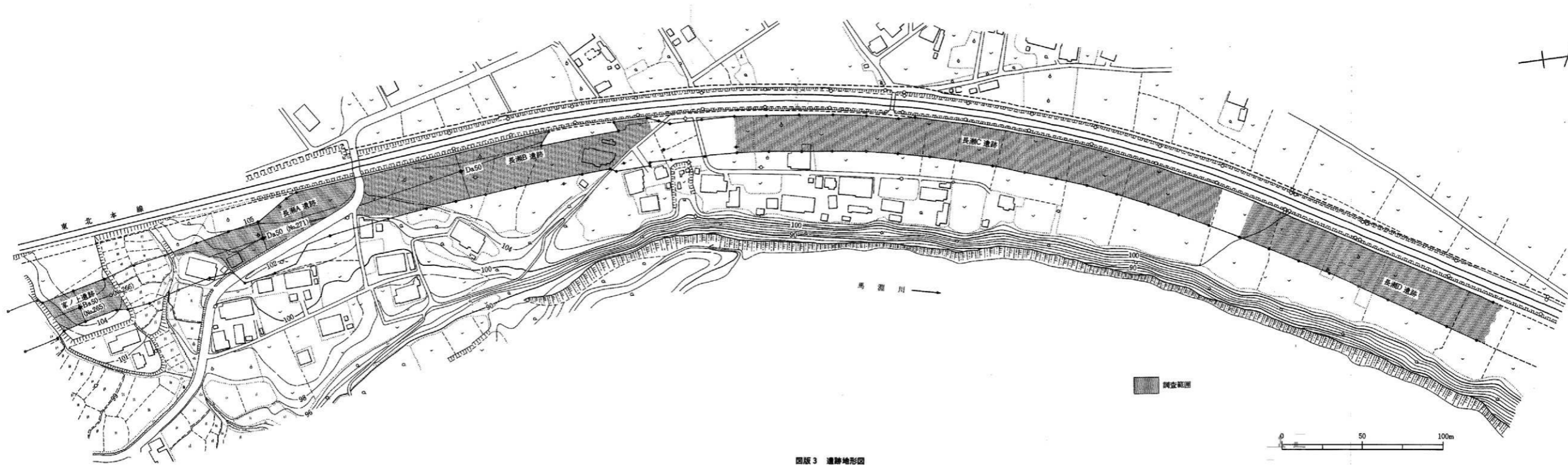
- | | |
|-----------|---|
| 1. 遺跡所在地 | 岩手県二戸市米沢字長瀬 |
| 2. 調査担当者 | 第1次 四井謙吉・高橋文夫
第2次 四井謙吉・佐藤 洋 |
| 3. 調査補助員 | 第1次 高田和徳・関 豊・福土廣志・鈴木貞行・
桐生正一・坂川 進・松尾芳弘 |
| 4. 調査期間 | 第1次 昭和51年10月12日～12月18日
第2次 昭和52年5月29日～12月26日 |
| 5. 調査対象面積 | 7,952㎡ |
| 6. 発掘面積 | 第1次 1,996㎡ 第2次 5,956㎡ |
| 7. 遺跡記号 | NS-B76・77 |



図版 1 岩手県全体図



図版2 二戸バイパス関連遺跡及び周辺遺跡分布図



図版3 遺跡地形図

I. 序 論

1. 調査に至る経過

岩手県は四国四県に匹敵する県土をもち、自然を多く残している。しかし列島改造が叫ばれた昭和40年代後半から急激に大型開発の波が押し寄せてきた。特に昭和47年に東北縦貫自動車道・東北新幹線・バイパス・工業団地等の建設が一斉にはじまった。これらの開発は当然遺跡を内包することになる。この遺跡に対する処置が文化財保護行政側の問題となり、それに対応するため昭和47年岩手県教育委員会事務局社会教育課に埋蔵文化財調査班が設置された。翌年これの強化のため同事務局に文化課が新設され、調査体制が整備された。その後調査量の増大と整理・報告書の停滞が目立ち、これの解決の方途として、昭和52年に財団法人岩手県埋蔵文化財センターが設立された。

本報告にかかわる二戸バイパスは国道4号線バイパス工事の一環で、建設省東北地方建設局岩手工事事務所が事業主体となって建設したものである。

二戸市の中心街は、馬淵川と山地との間に存在する狭い平坦部を中心に発展した城下町で南北に長く延びている。この市街地の中心を国道4号線が通り、交通量の増加に伴ない朝夕のラッシュ時の混雑は一戸町とともに県内一・二であろう。この交通渋滞解消のためにバイパス建設は永年の懸案事項であり、地元市民の念願でもあった。

二戸バイパス建設計画は昭和48年以前から存在し、48年においてはじめて県教委文化課との協議が行なわれた。しかしこの時には建設計画は固まり路線発表も終り一部用地買収が行なわれており、協議は工事計画と調査行程との調整に絞られた。同建設事業に対する県文化課による分布調査は昭和48年に第一次、昭和49年に第二次が行なわれ、その結果路線内に13ヶ所の遺跡が存在することが確認された。この分布調査の結果を基に再度協議が行なわれ、昭和49年度より調査を開始し、重要な遺跡発見の時はその都度協議する事とした。

調査は49年4月から県教委文化課によって路線中央部の上村遺跡13065から開始され、順次北に向って進められた。49年・50年度の調査において縄文時代中期の大型住居址・大型燧石・十和田の降下火山灰堆積の住居址の発見など、県北地方における久しぶりの本格的調査として、貴重な成果をあげた。昭和50年度において、長瀬地区の遺跡に火山灰層を間層とする縄文時代早期から平安時代までの文化層の地積が認められ、それが約1kmに亘ることが推定された。このようなことは、岩手県において貝塚以外では認められた事のないものであるため、岩手工事事務

所に保存方の協議を申し入れた。それと同時に1kmの路線部分に30mメッシュのトレンチを入れ、遺構検出のための試掘調査を行なった。その結果、長瀬B遺跡から長瀬D遺跡まで全面的に遺構が検出され、特に北端の長瀬D遺跡には土器器伴出の住居跡・縄文時代住居跡・ピットが集中しているものと思われた。

この試掘調査結果をもとにして文化庁と協議した所、文化庁からも時代の異なる文化層が層位的に存在する貴重な遺跡であるから保存するよにという指示を受けた。この指示を受けて岩手工事事務所と50年10月頃より路線迂回も含めてあらゆる可能性を検討した。この検討の途中、文化庁の視察など保存への動きが新聞報道された事によって地元が硬化し県議会において問題化するなどの事態が生じた。しかしその後紆余曲折を経て51年2月、岩手工事事務所より最終案として長瀬D遺跡の切土を盛土保存工法に変更するという提示があった。この工法変更によって長瀬B・C遺跡も薄いが盛土工法となり、切土がなくなることとなった。この最終案を文化課が了承し、文化庁の了解もとつつけた。ただし長瀬D遺跡においても第一面は完掘し記録保存する事にした。

調査は昭和51年度まで県文化課が担当し、昭和52年度から県埋蔵文化財センターが担当した。昭和52年度は長瀬B・C・D遺跡と上田面遺跡の側道分を調査した。ただし長瀬C遺跡の500㎡は用地未買収のため調査対象外となった。昭和53年度は上田面遺跡の残り分を県埋蔵文化財センターが、中曽根遺跡を二戸市教育委員会が調査した。昭和54年度は県埋蔵文化財センターが大淵遺跡・上里遺跡・火行塚遺跡を、二戸市教育委員会が中曽根遺跡の継続調査を行なった。昭和56年度に長瀬C遺跡の未買収地分と私道取付け部分を調査し、野外調査の一切を終了した。

報告書の発刊は上村遺跡・下村A遺跡・下村B遺跡・荒谷A遺跡・上里遺跡については57年度の予定である。56年度に発刊される家ノ上・長瀬A・長瀬Bの3遺跡以外の他の6遺跡の報告書は、55年度に発刊されている。

2. 調査方法と室内整理の方法

(1) 調査方法

① 座標軸の設定

長瀬B遺跡の発掘調査において、次のような座標軸の設定を行なった(図版4)。長瀬A遺跡の座標中軸線を長瀬B遺跡の調査対象区域にまでさらに延長し、その線上に任意の1点を設定した。この延長線および任意の1点を、長瀬B遺跡の座標中軸線・座標原点として用いた。座標原点を通り座標中軸線に直交する直線をもう1つの座標軸とした。座標中軸線の方位は

N-2°16'20"-Wを示す。長瀬A・長瀬B遺跡の座標原点間の水平距離は127.5mを計る。

調査対象区域全体を座標軸線をもとに30mごとに大区画し、これらのうち南北方向の区画に対して北からO・A・B……のアルファベットを付した。また30mの大区画を南北方向および東西方向にそれぞれ10等分し、3m×3mのグリッドを設定した。これらのグリッドには北からa～jのアルファベットをふり、座標軸線から西方へ03・06・09……、東方へ50・53・56……のアラビア数字を付した。グリッド名は、以上のアルファベットと数字の組合せによって例えばA b 03・A b 50などのように表わした。

② 粗掘り・遺構検出

粗掘りの段階において遺構検出面までの土層の除去をほとんど人力によって行なったが、第2次調査の後半部でⅣ層～Ⅴ層の土層を取り除く際にベルトコンベヤーも活用した。層位ごとに遺構の有無を確認しつつ、最終的にⅥa層の下位まで掘り下げた。遺構検出面は2面に大別できる。第1面はⅢ層（中礫浮石層）の上面で、第2面はⅥa層（南部浮石層直下の暗褐色土層）の上面である。第1面では、原始時代（縄文時代中期以降）・古代・近世の各時代に位置づけられる遺構が検出された。また第2面では、原始時代（縄文時代早期中葉）の遺構が検出された。遺構が確認された場合には、その平面形の把握に努めた。古代の遺構は灰色の十和田a降下火山灰が層となって埋土の上部を覆っているか、またはブロック状になって埋土中に混入しているかいずれかの形をとっていることから、これを指標に遺構の存在を確認することは容易である。しかし以上のような状態を確認できるのはⅡ層の黒褐色土層中の中間部分であるため、埋土と生活面との境目が判然とせず遺構の輪郭線を把握することは極めて困難である。このような事情から結局Ⅲ層上面まで掘り下げて平面形を求める方法をとった。そのため十和田a降下火山灰が埋土の上部に一定の広がりをもって堆積しているタイプのうち堆積量が少なく層が薄状態のものは、平面形を確認する際に火山灰層が削割されて消滅してしまう結果となった。古代の遺構で埋土の土層断面に十和田a降下火山灰層が観察できないものは以上のような事由によるものである。また十和田a降下火山灰層が遺構内に深くはいり込む形で堆積しているもの場合には、火山灰層は多少削割されてもおお埋土中に残存し、その断面形はレンズ状または皿状を示す。

検出された遺構にはその種別に関係なく次のような方法で名称を与えた。遺構と係わりのあるグリッドのうちでもっとも北西に位置しているグリッド名を付すことを原則として、例えばA f 59住居址・A c 56炉址などのように呼称した。

なお粗掘り・遺構検出の作業は第1面については調査区域の全面を対象として実施されたが、第2面については調査期間の制約や出土遺物の関係などから一定の範囲に限定された。

③ 精査方法

住居址・住居址状遺構は4分法、ピット・陥し穴状遺構は2分法を原則として、移植ベラおよび竹ベラを使用して遺構の精査を行なった。精査の各段階において必要図面の作成や写真撮影を行なった。しかし遺構の中でその埋土が単層で構成されているものについては、その性状をフィールド・ノートに記載しただけで土層断面図の作成は省略した。出土遺物の取り上げは次のように行なった。遺構内のは遺構名・出土位置・出土レベルを、また遺構外のはグリッド名あるいは地区名とともに出土層位を記入の上取り上げた。なお第1次および第2次調査において、出土遺物1点1点の位置とレベルを記入した「遺物出土分布図」を作成した。「分布図」を作成したのは、第1次調査では古代の住居址（7棟）と住居址状遺構（1棟）の出土遺物について、また第2次調査では原始時代の住居址（5棟）とⅣ層・Ⅵa層の遺物包含層の出土遺物についてである。これらの出土遺物の洗浄・注記は発掘現場のプレハブにおいて野外作業と並行して行なわれた。

④ 実測方法

遺構が分布している区域に3m間隔の遣り方を設定して実測を行なった。遺構の実測図は60cmの縮尺を基本とし、炉やカマドなどはその状況に応じて60cmの縮尺とした。遺構のレベル計測は20cm間隔（第1次調査）・50cm間隔（第2次調査）で行なったが、必要に応じて計測の間隔を細かくした。遺構の実測・埋土の土層注記は、主に調査補助員と現場で養成した実測員（女子作業協力員）が行なった。

⑤ 写真撮影

野外調査では4×5インチ判カメラ1台・6×7cm判カメラ1台・35mm判カメラ2台を1セットとして使用した。写真撮影は各遺構の精査を担当していた調査員・調査補助員が行なった。第2次調査の後半の写真撮影では長瀬C遺跡の調査協力員である藤原 彰の応援を受けた。

⑥ その他

●昭和51（1976）年度の第1次調査で検出後精査が行なわれた遺構は、原始時代ではB j 62陥し穴状遺構、古代ではB g 50住居址・B i 59住居址・B j 50住居址・C b 53—1住居址・C b 53—2住居址・C b 59住居址・C g 50住居址・C i 62住居址状遺構である。これらの遺構のうちC b 53—2住居址以外はすべてこの年度内に精査を完了した。C b 53—2住居址は次年度の第2次調査に精査を持ち越した。

●長瀬B遺跡に関する現地説明会は、調査期間中に次のような形で実施した。第1次調査に

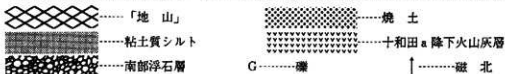
ついで、昭和51年10月9日午後1時から行なわれた長瀬A遺跡の現地説明会の際に併せて実行した。この時期は粗掘り・遺構検出の段階であったため、遺構検出の状況特に古代の住居址内にみられる十和田a降下火山灰の堆積状態について説明を行なった。このときの説明会には二戸バイパスの遺跡保存問題がマスコミを賑した直後でもあったためか、約80名ほどの多数の二戸市民が参会した。第2次調査についての説明会は、52年10月20日2時から30名余の参加者のもとに行なわれた。長瀬B遺跡の説明会と同じ日に長瀬C・D遺跡の説明会も順次実施された。

●遺跡特に遺構から情報収集については意識的な取り組みを行なわなかった。遺構精査中の日々の観察事項は個人が携帯しているフィールド・ノートに記録されただけで、ほとんど得られた情報が調査担当者間で共有化されることがなく、また検討されることもないまま野外調査を終了してしまった。このため各遺構の細部についての情報もれが目立つ。

(2) 室内整理の方法

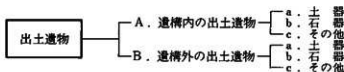
① 遺構図面の整理方法

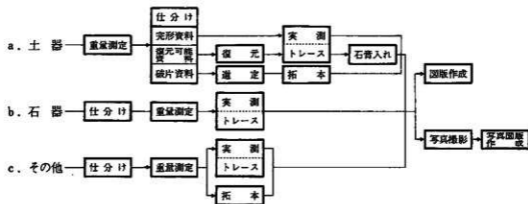
野外調査で作成した遺構実測図を各遺構ごとに整理し「図面台帳」に登録した。この後報告書に使用する図面を選択しそれぞれに必要指示事項を記入の上、トレース作業の段階にまわした。トレース作業にあたっては、東北縦貫自動車道班が用いている「トレース作業の手引き」を基本とした。全遺構のトレースが完了した後図版作成を行なった。図版の作成は第21集の報告書（安代町荒屋I遺跡などを収録したもの）を作る際に定めた「図版作成要項」にもとづいて進められた。各遺構の図の縮尺率をそれぞれの図版ごとに、例えばS=1/50・S=1/50……のように示した。また原則とした縮尺率に合わず不定となるものについてはスケールを付した。図版の中に使用されているスクリーン・トーンおよび記号は次のような事項を表すものである。



② 遺物整理の方法

長瀬B遺跡における遺物の整理方法を図式化すると次のようになる。





遺構内外の出土物の重量測定の結果を遺構単位・グリッド単位で集計した。その成果を図示したのが長瀬B遺跡出土遺物重量分布図（図版8・9）である。遺物図版の中で土器実測図に使用されているスクリーン・トーンおよび記号は次の事項を表すものである。

XXXXXX……内 黒（長瀬A ⋯⋯⋯） ↑……再調整が施されている部位

また土器実測図の上部に表示されている写植事項は次の内容を示すものである。上部の左側にある数値は口径・底径・器高を示すものである。このうち計測不可能な部位については——で残存部からの推定した部位については例えば（10.5）などのように表わした。計測値の単位はcmである。遺構関係の土器実測図の上部右側に表示されている床面・埋土などの文字は、その土器が出土した位置を示している。各遺物図版にはその大きさに応じたスケールを付した。

③ その他

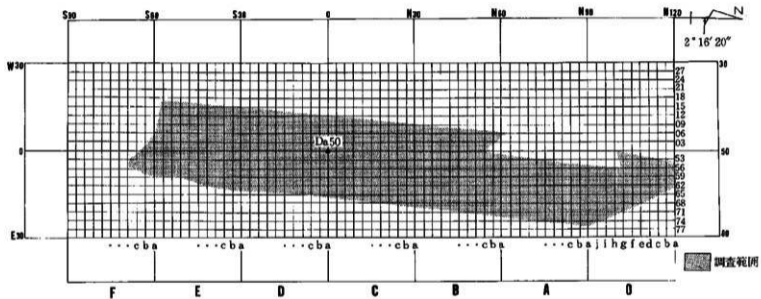
- 現場で撮影した写真の整理にあたっては、モノクロの35mm判のネガアルバムを基本とした。整理した写真は上記のほかに35mm判カラーライド・6×7cm判モノクロ・4×5インチ判モノクロである。以上の写真の各カットごとにそれぞれの撮影事項を記載の上、これらを収納しているアルバム単位で目次を作成しその表紙に掲げた。写真図版に使用した写真の引伸し・焼付は当センター写真室の仕事量の関係からすべて外注にした。

- 図面のトレース・遺物実測・図版作成・写真図版作成などの整理作業はすべて室内作業協力員が行なった。調査員は主としてこれらの作業の指示と点検を行なった。

- 昭和56年度の二戸バイパスの整理作業は、今般報告書が刊行される家ノ上遺跡・長瀬A遺跡・長瀬B遺跡のほかに、上村遺跡・下村A遺跡・下村B遺跡・荒谷A遺跡の4遺跡についても実施された。

追記

土器実測図の中で、断面部分が黒く塗潰されているものは「須恵器」を、また中心線が一点鎖線で表現されているものは「反転実測」によって図が作成されたことをそれぞれ示している。



図版4 長瀬B遺跡グリッド配置図

3. 遺跡の立地

長瀬B遺跡は二戸市^{いふぶ}米沢字長瀬地内に所在している。遺跡が所在する地点は、東北本線北福岡駅から北に3.1km、二戸市役所から北西に2.2kmの位置に相当する。遺跡が載っている段丘は、馬淵川によって形成された段丘群のうちの米沢段丘（大池ら、1966）にあたる。⁽¹⁾馬淵川は岩手県岩手郡葛巻町の袖山（標高1215m）の南斜面に源を発し、葛巻町江刈——一戸町小鳥谷——二戸市石切所——二戸市金田一と岩手県北部を経て青森県に至る。この間平糠川（小鳥谷付近）・安比川（石切所馬仙峡付近）などの支流が合流する。青森県に入った馬淵川は県南部の沖積平野を北流して八戸湾に至り太平洋に注いでいる。流路の延長距離142.4km、流域面積2054.6km²を計る。

長瀬地区内には長瀬B遺跡のほか二戸バイパス関連の遺跡として、長瀬A遺跡（四井、1982）・長瀬C遺跡（本沢ら、1981）・長瀬D遺跡（遠藤ら、1981）がある。これらの遺跡群は本調査に先立って行なわれた試掘調査の結果をもって区分されたものである。その試掘調査とは、昭和51年4月7日～4月22日および6月2日～6月4日に行なわれた調査である。その範囲はバイパス中心枕No.274～314の区間で、調査面積は5060m²を計る。この区間の遺構検出の状況からみて、3ブロックに区分できるものと考えられた。そこで3ブロックに対して長瀬B・C・Dの遺跡名を付した（四井、1976）。これらの遺跡はいずれも複合遺跡である。なお長瀬A・B遺跡は当初から一連のものであろうと予想されていたが契約上の問題などもあって県道二戸——田子線をその境として便宜的に2遺跡に区切った。

以上の遺跡群の周辺には、上田面遺跡（遠藤ら、1981）・家ノ上遺跡（四井、1982）・沢内A遺跡（上野、1978）⁽²⁾・沢内B遺跡（高橋、1978）・荒谷A遺跡・荒谷B遺跡（上野ら、1977）・下村A遺跡・下村B遺跡・中曾根遺跡（関、1978）・中曾根Ⅱ遺跡（関ら、1981）・堀野遺跡（草間、1965）などがある。

注

(1) 松山 力は『中曾根Ⅱ遺跡発掘調査報告書』の中で、二戸市の石切所から下山井までの馬淵川沿いにみられる段丘群を次のように区分している（「第Ⅱ章 自然的環境」P23～26）。区分された段丘群は、洪積世の仁左平段丘（中位段丘）・福岡段丘（低位段丘）、沖積世の長瀬段丘・中町段丘・堀野段丘・中曾根段丘で構成されている。長瀬B遺跡の載っている段丘はこの区分で言えば中町段丘に相当する。荒谷A遺跡・荒谷B遺跡・下村A遺跡・下村B遺跡・上村遺跡などが載っている段丘はこれまで堀野段丘より高位のものとして「米沢段丘」としての位置づけがなされてきたが、松山はこれからの段丘に対して「川面からの比高・段丘の性格

からみて、同一の段丘としてよいと考える」(P 23) との見解を示している。

(2) 「沢内遺跡」の名称で昭和52年に発掘調査が行なわれ、またその報告書も『二戸市沢内遺跡』(岩手県埋文センター文化財報告書第4集)として発行されている遺跡である。この遺跡の中に包括されるものと考えられていた部分が、翌年行なわれた調査の結果によって独立した遺跡として登録された。これが「沢内B遺跡」である。

4. 基本層序

長瀬B遺跡の主体部(標高105.2m±)の基本層序は次のとおりである(図版5)。なお以下の記載は深掘りの観察結果にもとづくもので、上位の層から順序に述べてある。

I層: 10Y R 3/6 黒褐色土層。表土層で耕作による攪乱が著しい。層厚10cm±~20cm±を計る。

II層: 10Y R 3/6 黒褐色土層。他の地点ではこの層の中間部に灰白色を呈する十和田a降下火山灰が介在している。層厚10cm±~30cm±を計る。

III a層: 10Y R 3/6 暗褐色土層(中塚浮石層)。層厚5cm±~15cm±を計る。

III b層: 10Y R 3/6 暗褐色土層(中塚浮石層)。III a層より褐色の色調が強い。層厚15cm±~20cm±を計る。

IV a層: 10Y R 3/6 黒色土層。この層は南部浮石混りのクロボク土層であり、原始時代(縄文時代前期前葉の時期)の遺物が分布している。層厚15cm±~25cm±を計る。

IV b層: 10Y R 3/6 黒褐色土層。この層も南部浮石混りのクロボク土層であり、原始時代(縄文時代早期末葉の時期)の遺物が少量分布している。層厚10cm±~20cm±を計る。

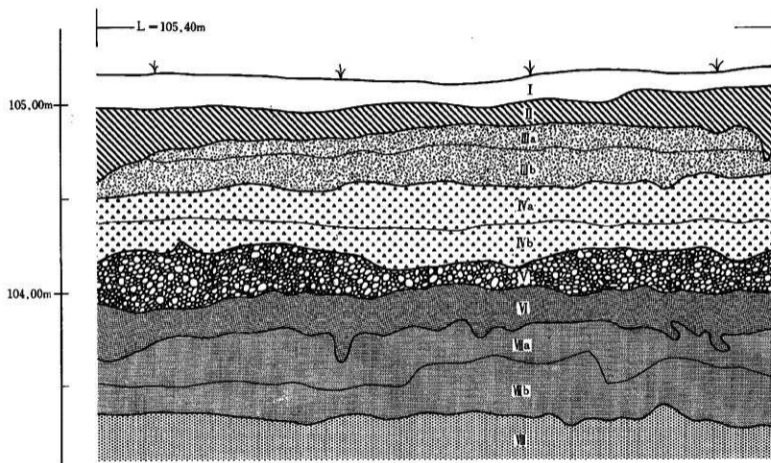
V層: 10Y R 6/6 明黄褐色土層(南部浮石層)。原始時代(縄文時代早期中葉の時期)の住居址などを覆っている。層厚10cm±~35cm±を計る。

VI層: 10Y R 6/6 褐色土層。この層の上部に原始時代(縄文時代早期中葉の時期)の遺物が多量に分布している。層厚15cm±~25cm±を計る。

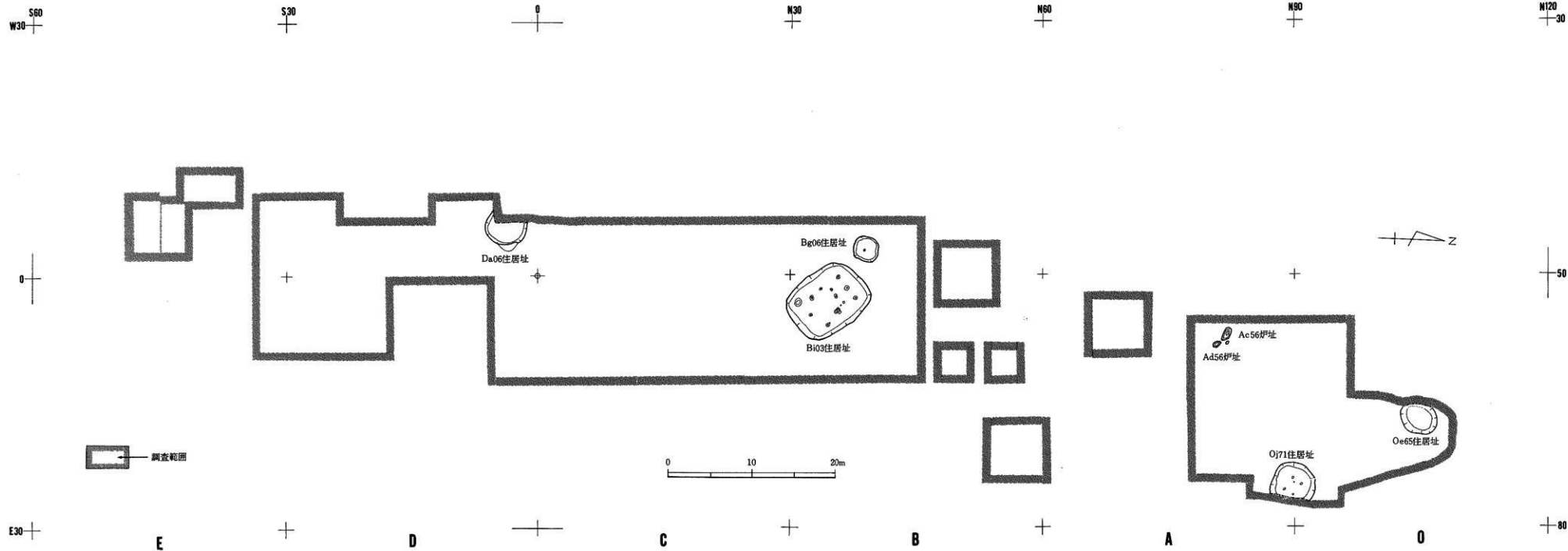
VII a層: 10Y R 6/6 黄褐色土層。この層には砂が微量に含まれている。層厚20cm±~35cm±を計る。

VII b層: 10Y R 6/6 におい黄褐色土層。この層には多量の砂が含まれている。層厚15cm±~30cm±を計る。

VIII層: 5 Y 3/6 淡黄色浮石質砂層。この層には明青灰色(5 B G 3/6)・灰白色(5 Y 3/6)・黒色(N 3/6)・暗灰色(N 3/6)などの色調を示す粗粒の砂のラミナがみられる。



图版 5 长湖B追跡深掘土层断面图



图版 6 长洲口遗址遗构配置图 (1)

S75
W30



S30

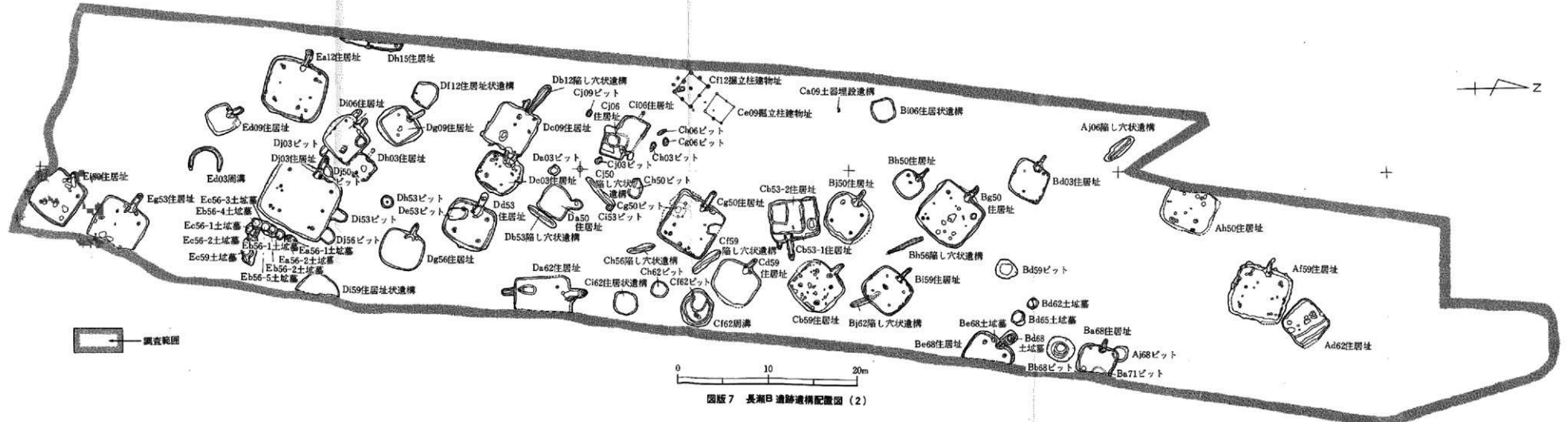
0

N30

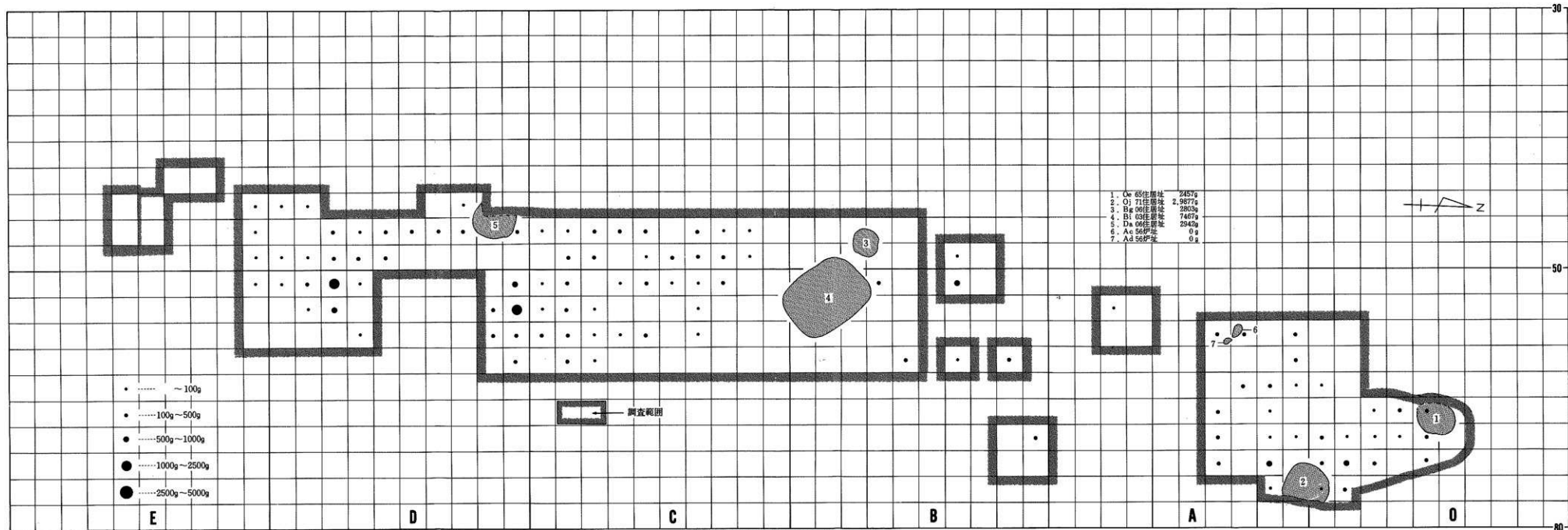
N60

N90

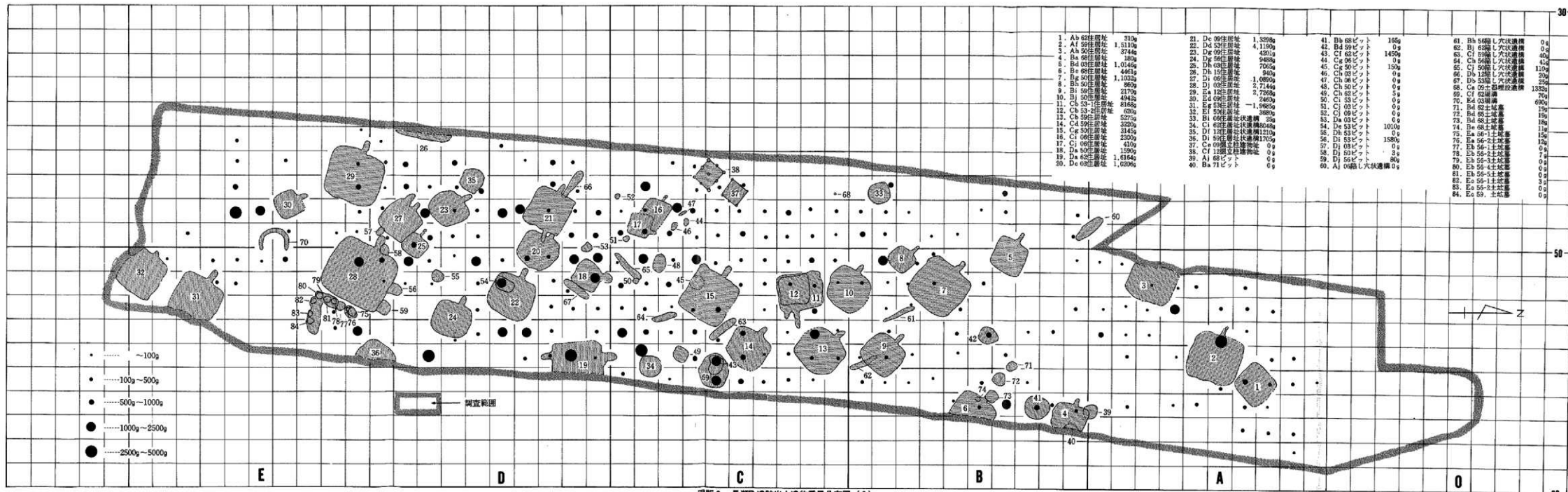
N120
+30



図版7 長瀬日遺跡遺構配置図 (2)



图版8 長洲B遺跡出土遺物重量分布圖(1)



図版9 長瀬B遺跡出土遺物重量分布図(2)

Ⅱ．検出遺構

1．原始時代

(1) 竪穴住居址

○e65住居址

遺 構 (図版10、11・写真図版5-a・b、6-a)

この住居址はⅤ層上面で検出されたもので、調査対象区の北端に位置している。調査期間との関係から西側部分が未調査に終わったためこの住居址の規模・形状を正確に把握できないが、検出部分から推定して径4.6m±×4.0m±の楕円形を呈するものと考えられる。

埋土の最上部は南部浮石層によって覆われていた。これより下位の埋土は暗赤褐色土層・明褐色土層・黄褐色土層などで構成されているが、それらのうちの上方部分に赤褐色を呈する異地性の焼土がみられる。この焼土の中には炭化物が含まれている。層厚は15cm±~25cm±を計る。

床面はほぼ平坦で、軟質なものとなっている。柱穴は精査した範囲内では確認されなかった。

壁の高さは、北壁85cm±・東壁85cm±・西壁95cm±を計る。壁の立ちあがりは比較的ゆるやかである。壁溝はみられない。

この住居址には炉は認められない。

出土遺物 (図版12、13・写真図版95、96)

出土遺物は埋土中から得られた土器 (1~36)・石器 (37~41) である。

1の土器は貝殻腹縁文が施文されている尖底部である。この貝殻腹縁文は外面のミガキ調整後に施文されており、列点状を呈する。内外面に黒斑がみられる。1以外の土器はすべて破片である。口縁部の破片 (2~18) は文様上の特徴により次のように分けられる。A. 無文のもの (2・3)。どちらも外面にミガキ調整が施されている。内面はナデ調整となっている。2には外面から穿たれた補修孔が2個みられる。色調はにぶい黄橙色を示す。B. 貝殻腹縁文のみが施文されているもの (4・5)。どちらの口唇部上面にも貝殻腹縁文がみられる。C. 刺突文が施文されているもの (6~18)。この中に含まれるものは刺突文の施文方法によって次のように細分できる。a. 半截竹管状の工具によって爪形の刺突文が施文されているもの (6~14・18)。6は刺突文より下位の部分が無文となっている。7は刺突文の下の部分に施文さ

れた条痕文が磨消されている。8は刺突文の下に貝殻腹縁文が施文されている。9～14は刺突文の下に条痕文が施文されている。12には横位・斜位に施された条痕文によって幾何学的な文様が展開されている。そのほかは縦位の条痕文となっている。6～13の口唇部上面には縄圧痕が施されている。また14の口唇部上面には爪形の刺突が施されている。18は刺突文の上に細い平行沈線文が施文されているものである。b. 貝殻の腹縁によって刺突文が施文されているもの(15～17)。15は刺突文の下部分が無文となっている。17は刺突文より下の部分に鋸歯状に貝殻腹縁文が施文されており、波状口縁を呈する。この波状口縁の頂部はオーバー・ハンク状につまみ出されている。15～17の口唇部上面にも貝殻腹縁文が施文されている。いずれも内面には入念なミガキ調整が施されている。体部の破片(19～31)は文様上の特徴により次のように分けられる。A. 貝殻腹縁文のみが施文されているもの(19～22・27)。20・27は列点状を呈する。B. 擬縄文のみが施文されているもの(23～25)。C. 貝殻腹縁文+条痕文が施文されているもの(26)。D. 刺突文が施されているもの(28～31)。28～30の刺突文は爪形を呈する。31の刺突文は貝殻の腹縁によって施文されている。底部の破片(32～36)はいずれも尖底の形態を示すものである。32・33は無文となっている。33は内外面に入念なミガキ調整が施されている。34・35には貝殻腹縁文が施文されている。また36には平行沈線状の条痕文と爪形の刺突文が施文されている。なおこれまでに記述したすべての土器の胎土に繊維が混入している。

石器としては、石槍(37)・鹿状石器(38)・スクレイパー(39)・不定形石器(40)・磨石(41)が出土している。37の石槍は背面・腹面ともほとんど片側の側縁部だけの剝離調整となっている。基部に折断面がみられる。38の鹿状石器は平面形が變形を呈する。刃部の腹面は平坦である。39は石器の長軸と直交する縁辺に刃部が形成されているスクレイパーである。この左側縁部に折断面がみられる。40の不定形石器は石器の長軸と直交する縁辺の一部に刃部加工がみられるものである。刃部は打面とは反対の方向にある。41は残存部から推定して平面形が隅丸長方形状を呈すると思われる磨石である。側縁部に研磨痕が認められる。

○ J71住居址

遺構(図版14、15・写真図版6-b、7-a～c)

この住居址はⅤ層上面で検出されたもので、調査対象区の北側に位置している。住居址の東側部分が調査区域外にあるため完掘できなかった。したがって規模・形状を正確に把握できないが、精査ができた部分から推定すると径5.5m±×5.2m±の円形を呈するものと考えられる。

埋土の最上部は黄橙色を呈する南部浮石層で覆われている。この浮石層は住居址の中央部分で肥厚するいわゆるレンズ状の堆積を示しており、最大層厚45cm±を計る。これより下位の埋土は暗褐色土層・褐色土層で構成されている。南部浮石層の直下に堆積している暗褐色土層中

には多量の土器や礫が分布している。またこの層中には細粒の炭化物を含む異地性の焼土がみられる。その焼土は住居址外の北東部分にまで広がっており、その広がりに沿って土器も分布している。

床面はほぼ平坦で、やや堅くしまっている。

柱穴は、P₁(径28cm土・深さ57cm土)・P₂(径30cm土・深さ34cm土)・P₃(径25cm土・深さ35cm土)・P₄(径30cm土・深さ30cm土)の4個で構成され、長方形の配置を示す。以上の柱穴のほかに床面からP₄(径20cm土・深さ14cm土)の柱穴状のピットが1個検出されているが、このピットの性格については不明である。

壁の高さは、北壁75cm土・南壁70cm土・西壁50cm土を計る。壁の立ちあがりは比較的ゆるやかである。壁溝はみられない。

この住居址には炉は認められない。

出土遺物(図版16~21・写真図版97~101)

出土遺物は埋土中から得られた土器・石器・石製品である。これらのほとんどは上層部から出土している。異地性の焼土を伴って多量の遺物が出土していることを先に遺構に関する事実記載の中でふれたが、このような遺物の出土状態はO e 65住居址にもみられた現象である。

出土した土器は1~6の実測土器と拓影図として示した7~53の破片からなる。1は円錐形の深鉢形土器であり、貝殻腹縁文が施文されている。貝殻腹縁文は口縁部では横位、体部~底部では斜位に施文されている。底部に施文されてあるものは条痕文状を呈する。波状口縁の口唇部上面には縄圧痕が施されているが、この部分に加えられたミガキ調整によって大半が磨消されている。内面の器面調整はナデとなっている。外面体部上半部には黒斑およびススの付着がみられる。色調はにぶい橙色を示す。2は平縁口縁の円錐形の深鉢形土器である。口縁部の文様は平行沈線状に施された貝殻腹縁文と爪形の刺突文とで構成されている。これより下の部分には斜位の貝殻腹縁文が施文されている。この貝殻腹縁文が施文されている部分の地文には条痕文状の器面調整がなされている。口唇部の上面に貝殻腹縁の圧痕が施されている。内外面のところどころに黒斑がみられる。また外面体部上半部にスス状の付着物が認められる。内面の器面調整はナデとなっている。色調は浅黄色を示す。3は体部下半部以下の部位が欠如している円錐形の深鉢形土器である。口縁の形態は平縁である。施文されている文様は2と同じ構成である。色調は浅黄色を示す。4は波状口縁を呈する円錐形の深鉢形土器である。体部下半部以下の部位が欠如している。口縁部の文様は細い平行沈線文と貝殻の腹縁によって横位に施文された刺突文とで構成されている。刺突文が施文されている地の部分は沈線によって帯状に区画されている。体部には斜位の貝殻腹縁文が施文されている。口唇部の上面に施されている圧痕は貝殻の腹縁によるものである。内面の器面調整はミガキとなっている。内外面のところどころに黒斑がみられる。5は埋土の土層断面観察用のベルトから直立の状態(写真図版7

一c参照)で出土したもので、深鉢形土器の尖底部である。施文されている文様は斜位の貝殻腹縁文である。器面調整は外面底部先端部がミガキ、内面がナエとなっている。外面の先端部に黒斑とともにスズ状の付着物が認められる。色調はにぶい橙色を示す。6は貝殻条痕文が施文されている深鉢形土器の尖底部である。条痕は非常に短かく小刻みである。内面には粗いミガキ調整が施されている。口縁部の破片(7-35)は文様上の特徴により次のように分けられる。A. 無文のもの(7)。7の口唇部の上面には貝殻の腹縁による圧痕がみられる。B. 貝殻腹縁文のみが施文されているもの(8-17)。この中に含まれるものは貝殻腹縁文の施文方向によって次のように細分できる。a. 斜位にのみ施文されているもの(8-12)。9のものはやや縦位に近い施文状態である。b. 横位に施文されているもの(13-17)。15・16は横位のほかにそれに接続する形で斜位にも施文されている。17は横位の下に羽状を呈する貝殻腹縁文が施文されている。これには外面から穿たれた補修孔が1個みられる。C. 条痕文が施文されているもの(18-19)。これらには刺突文はみられない。19は条痕文のほかに羽状の貝殻腹縁文が施文されているものである。D. 刺突文が施文されているもの(20-35)。この中に含まれるものは刺突文の施文方法や沈線文の有無によって次のように細分できる。a. 半截竹管状の工具によって爪形の刺突文が施文されているもので、沈線文がないもの(20-27)。20・21は刺突文より下位の部分が無文となっている。25は刺突文から連続する形で下位の部分に条痕文が羽状に施文されている。このほかのものは刺突文の下に斜位や鋸歯状の貝殻腹縁文が施文されている。b. 貝殻の腹縁によって刺突文が施文されているもので、沈線文がないもの(28-31)。28-31には刺突文の下に羽状の貝殻腹縁文が施文されているが、31はさらにその下に条痕文が付加されている。c. 爪形の刺突文+平行沈線文が施文されているもの(32-33)。33には鋸歯状に施文された沈線文がみられる。d. 貝殻の腹縁による刺突文+平行沈線文が施文されているもの(34-35)。34は波状口縁を呈する。どちらも体部の文様は斜位の貝殻腹縁文である。体部の破片(36-47)は文様上の特徴により次のように分けられる。A. 貝殻腹縁文のみ施文されているもの(36-40)。B. 条痕文のみが施文されているもの(41)。C. 貝殻腹縁文+条痕文が施文されているもの(42-44)。D. 沈線文+条痕文が施文されているもの(45)。45の沈線文は格子状になっている。E. 羽状縄文が施文されているもの(46-47)。底部の破片(48-53)はすべて尖底の形態を示すものである。48-51には貝殻腹縁文が施文されている。50の尖底先端部は乳頭状を呈している。52は体部下半部に平行沈線状の条痕文が施文されているもので、それより下位の部分は無文となっている。53には爪形の刺突文が施文されているが、その上下の部分は無文となっている。なおこれまでに記述したすべての土器の胎土に繊維が混入している。

出土した石器は、石鏝1点(54)・鹿状石器1点(55)・スクレイパー2点(56-57)・不

定形石器3点(58~60)・凹石4点(61~64)・磨石12点(65~75)・石錘2点(77・78)・敲石2点(79・80)・台石2点(82・83)である。54は無茎の石鏃でその基部が僅かに凹状を呈する。55の筈状石器は三角形の平面形をもち、刃部が両面加工されているものである。56・57のスクレイパーは石器の長軸に平行する縁辺に刃部が形成されている。58・59の不定形石器は石器の長軸と直交する縁辺の一部に刃部加工が施されている。59の両面に油性をおびたピッチ状の付着物がみられる。60は石器の長軸に平行する縁辺の一部が刃部加工されている。凹石は平面形が隅丸長方形または長楕円形状を呈するもの(61~63)と円形を呈するもの(64)とに分けられる。前者のものは両面に複数の凹みがみられる。後者のものは両面の中央部にそれぞれ1個ずつの凹みが形成されている。12点の磨石はその平面形によって次のように分けられる。隅丸長方形を呈するもの6点(65~70)、半円形状を呈するもの2点(71・72)、円形または楕円形状を呈するもの4点(73~76)である。これらの中で研磨痕のほかには敲打痕が認められるのは66と70の2点である。石錘は半円状の平面形を有する扁平な自然礫の長軸の両端に打ちかきが生じているものである。素材として使用された自然礫の石質は、輝石安山岩(77)・緑泥石片岩(78)である。敲石も平面形が半円状で扁平な自然礫を素材としている。79は長軸に平行する側縁部の片側にだけ敲打痕がみられる。また80は両側の側縁部に敲打痕がみられる。82の台石は平面形が半円状を呈する。片側の面に火熱を受けた形跡が認められ、その部分の表面がアバタ状に剥落している。83の台石は板状の礫を素材としており、その両面全体に擦痕が認められる。平面形は五角形状を呈する。

出土した石製品は1点(81)だけである。81は流紋岩質細粒凝灰岩を素材として製作された有孔岩版である。長軸方向の中心線に沿って3個の孔が両面から穿たれている。このほかに途中で穿孔を中止した孔が11個みられる。孔の大きさは径7mm±を計る。この石製品の平面形は半円状を呈する。

B g 06住居址

遺構(図版22・写真図版7-d、8-a~c)

この住居址はⅤ層の上面で検出されたもので、調査対象区の中央部寄りにある。径3.0m±×2.9m±の規模をもち、円形状の平面形を呈する。

埋土の最上部は南部浮石層によって覆われていた。これより下位の埋土は褐色土層・暗褐色土層で構成されている。暗褐色土層中には細粒の炭化物が多く包含されている。

床面はやや平坦で、軟質なものとなっている。

柱穴は住居址の中央部分に検出されたP₁(径15cm±・深さ25cm±)1個だけであり、その全体の配置関係は不明である。

壁の高さは、北壁45cm土・東壁50cm土・南壁50cm土・西壁40cm土を計る。壁の立ちあがりは比較的ゆるやかであるが、上半部分が直立に近い状態を示すところもみられる。壁溝は検出されなかった。

この住居址には炉は認められない。

出土遺物 (図版23・写真図版102)

出土遺物は埋土上部から得られた土器(1)や石器(2~6)である。

室内整理の土器復元作業中に、当Bg06住居址とこれからみて65m土北東の位置にあるOe65住居址の埋土中から出土した土器片のうちに同一個体の破片が存在することが判明したために、両者のものを合せて接合・復元したのが1の土器である。1個体の土器が2つの住居址に破片として分散していたことになるが、記載にあたってはこの1個体分の中で量的割合において優位に立つ当Bg06住居址の出土遺物として扱うこととした。この土器は波状口縁を呈する円錐形の深鉢形のもので、欠損している部分がやや多い。施文されている文様の構成は、口縁部が上位から爪形の刺突文—斜位の貝殻腹縁文—爪形の刺突文、体部が斜位の貝殻腹縁文となっている。口唇部上面には縄圧痕が施されている。内面の器面調整は口縁部がミガキ、体部がナデとなっている。外面の口縁部および体部上半部に黒斑がみられる。色調は暗褐色~にぶい黄褐色を示す。この土器の胎土には繊維が含まれている。

石器としては、寛状石器1点(2)・磨石4点(3~6)が出土している。1の寛状石器はその平面形がやや不整な盤形を呈する。刃部の加工は両面からなされている。刃部の腹面の縦断面形は凸状を示す。磨石の平面形は円形または楕円形となっている。3の磨石はその周縁部に研磨痕とともに敲打痕が認められる。この磨石の両面には凹みがみられるが、研磨によって凹みが浅くなっている。このことからみて、3は当初凹石の機能を果たしたものと考えられる。4の磨石はその一部分が欠損している。6の磨石の片面中央部分に敲打されたような痕跡が認められる。

B i 03住居址

遺構 (図版24~27・写真図版9、10—a~c、11—a)

この住居址はVI層の上面で検出されたもので、調査対象区の中央部寄りに位置している。前述のBg06住居址はこの住居址からみて1.6m土北西の位置にある。住居址内部にみられるピット群の配置や相互関係を検討した結果、このBi03住居址内には床面・壁などを何らかの形で共有して異なる柱穴配置を示す2棟の住居址が存在していることが判明した。これらの2棟の住居址の新旧関係は不明であるが、一応ここではBi03—a住居址・Bi03—b住居址と仮称する。これらの住居址について以下に記載するが、柱穴配置以外の各住居址に共通する事項

についてまず一括して述べることにする。

規模は9.6m±×7.3m±を計り、平面形は隅丸長方形を呈する。

住居址全体は黄褐色の南部浮石層によって覆われている。この南部浮石層は、住居址の中央部に近づくにしたがって肥厚する「レンズ」状の堆積を示しており、最大層厚55cm±を計る。これより下位の埋土は極暗褐色土層・におい黄褐色土層・暗褐色土層・褐色土層・黄褐色土層で構成されている。これらのうち黄褐色土層を除く各土層中には多量の炭化物が包含されている。

床面は住居址の中央部分ではあまり起伏が認められずほぼ平坦であるが、これから壁際にかけては極めてゆるやかに上昇している。床面と壁との変換点は大変不明瞭である。なお床面全体は非常に堅緻であり、埋土との間に明瞭な「肌わかれ」現象がみられる。

壁の高さは、北壁70cm±・東壁60cm±・南壁60cm±・西壁67cm±を計る。O e 65住居址などと同一ように壁溝は存在しない。

南側隅に貯蔵穴状のピットP₁₀が確認された。P₁₀は95cm±×78cm±・深さ22cm±の規模をもち、隅丸長方形の平面形を呈する。埋土は暗褐色土・におい黄褐色土で構成されている。住居址のまわりに周堤状の黄褐色土の僅かな高まりがみられた。この上面には径13cm±～22cm±・深さ11cm±～15cm±の柱穴状のピット群が不規則な形で分布している。これらのピット群の具体的な位置づけについては不明である。

当B i 03住居址には炉は認められない。

B i 03-a 住居址

この住居址は、B i 03住居址内で次のような柱穴配置を示すものである。P₁(径18cm±・深さ57cm±)・P₄(径30cm±・深さ37cm±)・P₈(径40cm±・深さ48cm±)・P₉(径40cm±・深さ47cm±)・P₁₁(径60cm±×40cm±・深さ51cm±)・P₁₂(径30cm±・深さ56cm±)・P₁₃(径55cm±×45cm±・深さ51cm±)・P₁₄(径55cm±・深さ54cm±)・P₁₆(径15cm±・深さ15cm±)の9個で構成され、長方形に近い五角形の配置を示す。

B i 03-b 住居址

この住居址は、B i 03住居址内で次のような柱穴配置を示すものである。P₁₇(径40cm±・深さ43cm±)・P₅(径23cm±・深さ23cm±)・P₈(径40cm±・深さ48cm±)・P₉(径40cm±・深さ47cm±)・P₁₁(径60cm±×40cm±・深さ51cm±)・P₁₂(径30cm±・深さ56cm±)・P₁₃(径55cm±×45cm±・深さ51cm±)・P₁₄(径55cm±・深さ54cm±)・P₁₆(径15cm±・深さ15cm±)の9個で構成され、長方形に近い五角形の配置を示す。

以上の柱穴のほかに住居址内の床面には、P₂(径25cm±・深さ17cm±)・P₃(径18cm±・深さ11cm±)・P₆(径75cm±×35cm±・深さ10cm±)・P₇(径17cm±・深さ16cm±)・P₁₅(径30cm±・深さ14cm±)の柱穴状のピット群が検出されている。しかしこれらのピット群の性格に

については不明である。

出土遺物（図版28～31・写真図版103、104）

遺物として土器・石器・石製品が出土しているが、これらのほとんどは埋土中から得られたものである。

床面上から出土したのは石器と石製品である。石器としてはスクレイパー 3点(17・21・23)・不定形石器 3点(27・28・34)が出土している。17・21のスクレイパーは石器の長軸と直交する縁辺に刃部が形成されている。21は両側縁部に折断面がみられる。23のスクレイパーは石器の長軸に平行する縁辺に刃部が形成されている。このスクレイパーの下部の先端部は折断されている。3点の不定形石器は、石器の長軸と直交する縁辺の一部に刃部加工が施されているもの(27・28)と長軸に平行する縁辺の一部に刃部加工が施されているもの(34)とに分けられる。出土した石製品は1点(51)だけである。51は流紋岩質細粒凝灰岩を素材として製作されたもので、径6.5cm土の球状を呈する。その全面に渦巻状の刻線が彫刻されている。整理段階で51の球状の石製品に「刻線岩球」の名称を付した。なおこの刻線岩球は床面に若干くい込む状態で南壁寄りの地点から出土している。

埋土中からは土器・石器が出土している。土器はすべて破片である。口縁部の破片(1・2)には次のような文様が施文されている。1は爪形の刺突文十貝殻条痕文が施文されており、2は平行沈線文十縄文が施文されている。体部の破片(3～14)には次のような文様が施文されている。斜位の貝殻腹縁文(3・4)、羽状の貝殻腹縁文(5・6)、貝殻条痕文(8)、斜位・横位の貝殻腹縁文十平行沈線文(7)、鋸歯状の条痕文(9)、羽状縄文(10～14)などの文様である。底部の破片(15)には貝殻腹縁文が羽状に施文されている。これまでに記述したすべての土器の胎土には繊維が含まれている。石器としては、石匙1点(16)・スクレイパー7点(18～20・22・24～26)・不定形石器7点(29～33・35・36)・使用痕のある剝片7点(37～43)・凹石3点(44～46)・磨石3点(48～49)・敲石1点(50)・台石1点(52)が出土している。16の石匙は刃部の一部が残存しているだけで、つまみ部の形態は不明である。スクレイパーは、その主要刃部が石器の長軸と直交する縁辺に形成されているもの(18～20・22)と石器の長軸に平行する縁辺に形成されているもの(24・25・26)とに分けられる。不定形石器も刃部が形成されている位置によって次のように分けられる。石器の長軸と直交する縁辺の一部に刃部加工が施されているもの(29～33)と石器の長軸に平行する縁辺の一部に刃部加工が施されているもの(35・36)とがある。32・33はノッチ状の刃部が形成されている。使用痕のある剝片7点はいずれも剝片の長軸と直交する側縁部に使用痕が認められるものである。44～46の凹石は両面に数個の凹みをもっている。3点の磨石のそれぞれの平面形は、隅丸長方形(47)・楕円形(48)・円形(49)を呈する。50の敲石は半円状の扁平な自然礫を素材とし

ており、直線を呈する縁辺が敲打されている。研磨痕は認められない。52の台石は両面が磨減しており、周縁部に細い溝状の凹みが数本形成されている。この台石の素材となった礫は平面形が台形状の扁平な輝石安山岩である。以上の遺物のほかに埋土中から炭化胡桃が出土している。

D a 06住居址

遺 構 (図版32、33・写真図版11-b)

この住居址はⅤ層の上面で検出されたもので、調査対象区の南側寄りに位置している。調査期間などの関係もあって完掘できなかったためこの住居址の規模・形状を正確に把握できないが、精査した部分から推定して径4.8m±の円形を呈するものと考えられる。

埋土の最上部は黄褐色の南部浮土層によって覆われている。この部分の南部浮土層も住居址中央部で肥厚する「レンズ」状の堆積を示しており、最大層厚40cm±を計る。これより下位の埋土は極暗褐色土層・褐色土層・暗褐色土層で構成されている。住居址の中央部分に堆積している暗褐色土層中には炭化物が多量に含まれている。

床面はほぼ平坦で、軟質なものとなっている。精査が行なわれた範囲内に柱穴・壁溝・炉は確認されなかった。

壁の高さは、北壁45cm±・東壁45cm±・南壁40cm±を計る。

この住居址はD b 12陥し穴状遺構に切られている。

出土遺物 (図版34、35・写真図版105、106)

出土遺物は埋土中から得られた土器 (1~25)・石器 (27~31) である。

1の土器以外はほとんど小破片である。1は無文の尖底部であり、その外面の器面調整は入念なミガキとなっている。口縁部の破片 (2~10) にはそれぞれ次のような文様が施文されている。貝殻腹縁文 (2・3)、爪形の刺突文 (4・5)、貝殻腹縁による刺突文+貝殻腹縁文 (6~8)、平行沈線文+貝殻腹縁による刺突文+貝殻腹縁文 (9・10) などの文様がみられる。体部の破片 (11~22) には以下のような貝殻腹縁文が施文されている。11~19は斜位の貝殻腹縁文となっており、20~22は横位・斜位の貝殻腹縁文となっている。底部の破片の文様には、貝殻条痕文 (23・24) と貝殻腹縁文 (25・26) がある。24は貝殻条痕文のほかに爪形の刺突文が付加されている。これまでに述べたすべての土器の胎土に繊維が含まれている。

出土した石器は次のとおりである。1は無茎の石鏃で、基部が僅に凹状を呈する。この石鏃の両面の中央部分にはピッチ状のものが微量に付着している。28のトランシェ状石器は撥形の平面形を示すものであり、その両面に油性をおびた附着物が認められる。29はその長軸に平行する側縁部に使用痕がみられる割片である。30は隅丸長方形の形を有する磨石であり、側縁部に研磨痕とともに敲打痕が残されている。31の凹石は両面に数個の凹みが作られているもの

である。この凹石の素材は輝石安山岩の扁平な自然礫である。

(2) 炉 址

A c 56 炉 址

遺 構 (図版36-a・写真図版12-a)

この炉址はⅤ層の上面で検出されたもので、調査対象区の北側のブロックにありO j 71住居址からみて16m 土南西のところに位置している。炉址の使用面は径160cm±×80cm±の楕円状の広がりをもっている。この使用面下に形成されている現地性の焼土はa・bの上下2層からなる。aは暗赤褐色の色調を示し、その上部に炭化物が少量混入している。またbは色調が赤褐色で、aとの境界線部分に炭化物が分布している。bの炭化物の含有量はaに比べて多い。

精査の結果この炉址には掘り方が伴うことが判明した。その掘り方は開口部径170cm±×83cm±・底部径65cm±×25cm±・深さ45cm±の規模をもち、楕円形状の平面形を呈する。断面形は楕錐形を示す。掘り方の底面から焼土層の間は炭化物・焼土粒を微量に含む明褐色土および黄褐色土で充填されていた。

A c 56炉址に直接的に伴う遺物は得られなかったが、当炉址から18cm土西側の近接した位置に径径35cm±×27cm±を計る扁平な台石状の礫が確認された。

A d 56 炉 址

遺 構 (図版36-b・写真図版12-a)

この炉址はⅤ層の上面で検出されたもので、前述のA c 56炉址からみて22cm土南東の位置にある。炉址の使用面は径90cm±×50cm±の楕円形状の広がりをもっている。この使用面下には火熱により赤褐色を呈する現地性の焼土が形成されている。焼土の厚さは10cm±を計る。

この炉址にも次のような規模・形状をもつ掘り方が確認された。規模は開口部径95cm±×55cm±・底部径70cm±×35cm±・深さ13cm±を計り、平面形はやや不整な楕円形状を呈する。断面形は皿形を示す。掘り方の底面の北西隅に径18cmの柱穴状の落ちこみがみられるが、この部分は炭化物を微量に含む極暗褐色土で充填されている。

当A d 56炉址からも土器や石器などの遺物は得られなかったが、使用面上に扁平な自然礫が1個認められた。

(3) ピット

A j 68ピット

遺構 (図版37-a・写真図版14-a・b)

このピットはⅢ層の上面で検出されたもので、調査対象区の北側に位置している。規模は開口部径180 cm±×155 cm±・頸部径140 cm±×130 cm±・底部径165 cm±×155 cm±・深さ220 cm±を計り、平面形は楕円形を示す。断面形はフラスコ形を呈する。埋土は黒褐色土層・暗褐色土層・黄褐色土層などで構成されている。これらの土層中にはほとんど炭化物が含まれていない。底面はほぼ平坦で、僅に軟質なものとなっている。出土遺物はない。このピットは古代のB a 68住居址に切られている。

B a 71ピット

遺構 (図版37-b・写真図版14-c)

このピットはB a 68住居址の北東の床面を掘り下げた際に検出されたもので、土層断面の観察結果ではⅢ層以下の層を切りこんで作られている。B a 68住居址によって大半が破壊されているため、このピットの規模・形状の詳細は不明である。残存部分の状況は次のようになっている。開口部径168 cm±・底部径155 cm±・深さ70 cm±を計り、断面形は浅いピーカー形を呈する。平面形は円形を示すものと考えられる。埋土は黒褐色土層・暗褐色土層・黒色土層・褐色土層で構成されている。底面は平坦で堅くしまっている。出土遺物はない。

B b 68ピット

遺構 (図版38・写真図版15-a・b)

このピットはⅢ層の上面で検出されたもので、前述のA j 68ピットの4 m 南側に位置している。規模は開口部径300 cm±×273 cm±・底部径185 cm±×167 cm±・深さ250 cm±を計り、平面形は楕円形を示す。断面形は下半部に凸状の膨らみが見られるものとなっているが、全体としてピーカー形を呈する。埋土は橙色土層・黒褐色土層・明黄褐色土層・暗褐色土層などで構成されている。最上部に堆積している橙色土層中には焼土粒が少量含まれている。また上部にみられる「レンズ状」の堆積を示すc層はⅣ層起源の浮石質の砂で構成されている。底面は中央部が僅に凹み、軟質なものとなっている。

出土遺物 (図版41・写真図版106)

埋土中位から出土した土器(1~6)はいずれも貝殻腹縁文が施文されている破片である。1は貝殻腹縁文のほかに口縁部に爪形の刺突文が施文されている。また口唇部上面には刻目が施されている。2~6は斜位の貝殻腹縁文が施文されている体部片である。以上のすべての土器の胎土に繊維が含まれている。

B d 59ピット

遺構 (図版39—a・写真図版16—a・b)

このピットはⅢ層以下の遺構の有無を確認するため掘り下げた際に検出されたものであるが、土層断面観察の結果によればⅢ層の上面から切りこんで作られている。位置的にはB a 68ピットの南西8m±のところに存在している。開口部の北側部分を破壊してしまっただが、残存部の規模・形状は次のようになっている。開口部径240cm±×210cm±・頸部径210cm±×190cm±・底部径125cm±×120cm±・深さ205cm±の規模をもち、円形の平面形を示す。断面形はやや歪なフラスコ形を呈する。埋土は暗褐色土層・黒褐色土層・黄褐色土層などで構成されている。底面は平坦で、軟質なものとなっている。出土遺物はない。

C g 06ピット

遺構 (図版39—b)

このピットはⅢ層の上面で検出されたもので、調査対象区の中央部に位置している。規模は開口部径105cm±×55cm±・底部径80cm±×30cm±・深さ37cm±を計り、平面形は楕円形状を示す。長軸方向の断面形は皿形を呈する。埋土は黒色土層・極暗褐色土層などで構成されている。底面はやや平坦で、軟質なものとなっている。出土遺物はない。

C g 50ピット

遺構 (図版40—a・写真図版16—c・d)

このピットは古代のC g 50住居地の床面を掘り下げた際に確認されたものであるが、土層断面などの観察結果によればⅢ層の上面から掘りこまれている。C g 50住居地によって破壊されなかった部分の規模・形状は次のようになっている。開口部径178cm±×165cm±・底部径75cm±×65cm±・深さ160cm±の規模をもち、円形の平面形を示す。断面形はピーカー形を呈する。埋土は褐色土層・黒色土層などで構成されている。底面はやや平坦で、堅くしまっている。

出土遺物 (図版41・写真図版106)

出土遺物は埋土の中位から得られた土器の破片(7~11)である。これらのどの胎土にも繊維が含まれている。7・8の口縁部片には貝殻の腹縁による刺突文が施文されている。9の体部片には斜位の貝殻腹縁文、10の体部片には羽状の貝殻腹縁文がそれぞれ施文されている。11の体部片の文様は羽状縄文となっている。

C h 03ピット

遺構 (図版40—b)

このピットはⅢ層の上面で検出されたもので、調査対象区の中央部に位置している。規模は開口部径105 cm±×60 cm±・底部径100 cm±×28 cm±・深さ35 cm±を計り、平面形は楕円形状を示す。長軸方向の断面形は皿形を呈する。埋土は黒色土層・極暗褐色土層などで構成されている。底面は平坦で軟質なものとなっている。出土遺物はない。

C h 06ピット

遺 構 (図版40—c)

このピットはⅢ層の上面で検出されたもので、調査対象区の中央部に位置している。規模は開口部径110 cm±×43 cm±・底部径83 cm±×23 cm±・深さ30 cm±を計り、平面形は楕円形状を示す。長軸方向の断面形は皿形を呈する。埋土は極暗褐色土層・黒褐色土層で構成されている。底面は平坦で軟質なものとなっている。出土遺物はない。

C h 62ピット

遺 構 (図版40—d・写真図版16—e・f)

このピットはⅢ層の上面で検出されたもので、調査対象区中央部の東側に位置している。規模は開口部径190 cm±×172 cm±・底部径150 cm±×135 cm±・深さ18 cm±を計り、平面形は円形を示す。断面形は皿形を呈する。埋土は黒褐色土層・極暗褐色土層で構成されている。底面は平坦でやや軟質なものとなっている。出土した遺物は埋土中から得られた縄文土器の破片であるが、すべて極小の細片であるため文様などの詳細は不明である。

C j 03ピット

遺 構 (図版42—a)

このピットはⅢ層の上面で検出されたもので、調査対象区の中央部寄りに位置している。規模は開口部径80 cm±×70 cm±・底部径60 cm±×45 cm±・深さ30 cm±を計り、平面形は円形状を示す。断面形は皿形を呈する。埋土は黒色土層・極暗褐色土層などによって構成されている。底面は平坦で軟質なものとなっている。出土遺物はない。

C j 09ピット

遺 構 (図版42—b)

このピットはⅢ層の上面で検出されたもので、調査対象区の中央部寄りに位置している。規模は開口部径75 cm±×65 cm±・底部径50 cm±×45 cm±・深さ40 cm±を計り、平面形は円形状を示す。断面形は皿形を呈する。埋土は黒色土層・極暗褐色土層で構成されている。底面は平坦

で軟質なものとなっている。出土遺物はない。

D a 03ピット

遺構 (図版42-c・写真図版17-a・b)

このピットはⅢ層の上面で検出されたもので、調査対象区の中央部寄りに位置している。規模は開口部径115cm±×100cm±・底部径77cm±×75cm±・深さ27cm±を計り、平面形は円形を示す。断面形は皿形を呈する。埋土は明褐色土層・黒褐色土層などで構成されている。底面はやや平坦で軟質なものとなっている。この底面部分に粒径10cm±の亜角礫が数個確認された。出土遺物はない。なお埋土上位にみられる明褐色土層(a)・橙色土層(b)は砂である。このほかの層の土性はシルトである。

D h 53ピット

遺構 (図版42-d・写真図版17-c・d)

このピットはV層の上面で検出されたが、埋土の性状などからみてⅢ層上面から掘りこまれているものと考えられる。位置的には調査対象区の南側寄りに存在している。規模は開口部径137cm±・頸部径110cm±・底部径92cm±・深さ110cm±を計り、平面形は円形を示す。断面形はフラスコ形を呈する。埋土は黒色土層・黄褐色土層・暗褐色土層などで構成されている。底面は平坦で堅くしまっている。この底面の中央部に径20cm±・深さ50cm±の柱穴が確認された。出土遺物はない。

(4) 陥し穴状遺構

A j 06陥し穴状遺構

遺構 (図版43-a・写真図版18-a)

この陥し穴状遺構はⅢ層の上面で検出されたもので、調査対象区の北西に位置している。規模は開口部径410cm±×125cm±・底部径325cm±×10cm±・深さ190cm±を計り、平面形は長楕円形を示す。横断面形は漏斗状を呈する。長軸の方向はN-50°-Wを示す。底部における軸長比は0.03である。埋土は黒色土層・黒褐色土層で構成されている。底面はほぼ平坦で軟質なものとなっている。西側の壁は奥に抉りこまれている。出土遺物はない。

B h 56陥し穴状遺構

遺構 (図版43-b・写真図版18-c・d)

この陥し穴状遺構はⅢ層の上面で検出されたが、実際はⅢ層の上面から掘りこまれているものであろう。規模は開口部径 425 cm \pm 45cm \pm ・底部径 450 cm \pm 20cm \pm ・深さ85cm \pm を計り、平面形は長楕円形を示す。横断面形は漏斗状を呈する。長軸の方向はN-30°-Wを示す。底部における軸長比は0.04である。埋土は黒褐色土層・褐色土層などで構成されている。底面はほぼ平坦で軟質となっている。東西の壁が奥に抉りこまれている。出土遺物はない。

B j 62陥し穴状遺構

遺構 (図版43-c・写真図版18-b)

この陥し穴状遺構はⅢ層の上面で検出されたもので、古代のB i 59住居址に切られている。規模は開口部径 370 cm \pm 65cm \pm ・底部径 345 cm \pm 15cm \pm ・深さ 150 cm \pm を計り、平面形は長楕円形を示す。横断面形は漏斗状を呈する。長軸の方向はN-30°-Wを示す。底部における軸長比は0.04である。埋土は黒色土層・暗褐色土層などで構成されている。底面はかなり起伏が認められるものとなっている。出土遺物はない。

C f 59陥し穴状遺構

遺構 (図版44-a・写真図版19-a・b)

この陥し穴状遺構はⅢ層の上面で検出されたもので、調査対象区の中央部に位置している。規模は開口部径 385 cm \pm 90cm \pm ・底部径 380 cm \pm 15cm \pm ・深さ155cm \pm ~185cm \pm を計り、平面形は長楕円形を示す。横断面形は漏斗状を呈する。長軸の方向はN-41°-Wを示す。底部における軸長比は0.04である。埋土は黒褐色土層・黄褐色土層で構成されている。底面は大変起伏とんでいる。東側の奥に抉りこまれている。埋土中から縄文土器の細片が出土している。

C h 56陥し穴状遺構

遺構 (図版44-b・写真図版19-c・d)

この陥し穴状遺構はⅢ層の上面で検出されたもので、調査対象区の中央部に位置している。規模は開口部径 310 cm \pm 65cm \pm ・底部径 290 cm \pm 18cm \pm ・深さ 185 cm \pm を計り、平面形は長楕円形を示す。横断面形は漏斗状を呈する。長軸の方向はN-18°-Wを示す。底部における軸長比は0.06である。埋土は黒色土層・暗褐色土層などで構成されている。底面の南側部分が傾斜している。埋土中から縄文土器の細片が出土している。

C j 50陥し穴状遺構

遺構 (図版44—c・写真図版20—a・b)

この陥し穴状遺構はⅢ層の上面で検出されたもので、古代のC i 53ピットに切られている。規模は開口部径 440 cm±×75 cm±・底部径 435 cm±×25 cm±・深さ 200 cm±を計り、平面形は長楕円形を示す。横断面形は漏斗状を呈する。長軸の方向はN—45°—Eを示す。底部における軸長比は0.06である。埋土は黒褐色土層・明褐色土層などで構成されている。底面はほぼ平坦である。東西の両壁が奥に挟りこまれている。埋土中から縄文土器の細片が出土している。

D b 12陥し穴状遺構

遺構 (図版45—a・写真図版20—c・d)

この陥し穴状遺構はⅢ層の上面で検出されたもので、古代のD c 09住居址に切られている。規模は開口部径 400 cm±×100 cm±・底部径 425 cm±×20 cm±・深さ 175 cm±を計り、平面形は長楕円形を示す。横断面形は漏斗状を呈する。長軸の方向はN—50°—Wを示す。底部における軸長比は0.05である。埋土は黒色土層・暗褐色土層などで構成されている。底面は東側部分に向って傾斜している。東西の両壁が奥に挟りこまれている。埋土中から縄文土器片が出土した。

D b 53陥し穴状遺構

遺構 (図版45—b・写真図版21—a・b)

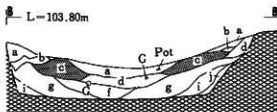
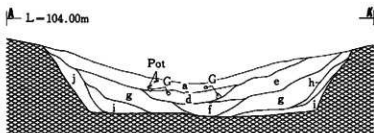
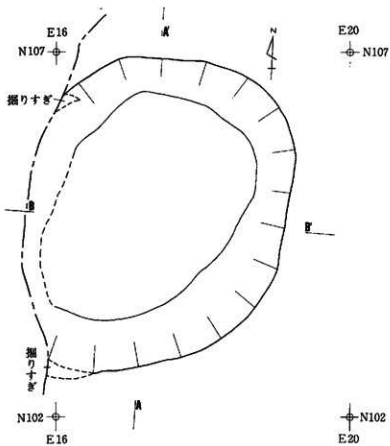
この陥し穴状遺構はⅢ層の上面で検出されたもので、調査対象区の中央部寄りに位置している。規模は開口部径 370 cm±×90 cm±・底部径 340 cm±×20 cm±・深さ 185 cm±を計り、平面形は長楕円形を示す。横断面形は漏斗状を呈する。長軸の方向はN—35°—Eを示す。底部における軸長比は0.06である。埋土は黒色土層・暗褐色土層などで構成されている。底面は東側に向って傾斜している。出土遺物は埋土中から得られた縄文土器の細片である。

(5) 土器埋設遺構

C a 09土器埋設遺構

遺構・出土遺物 (図版46・写真図版21—c・d、106—43)

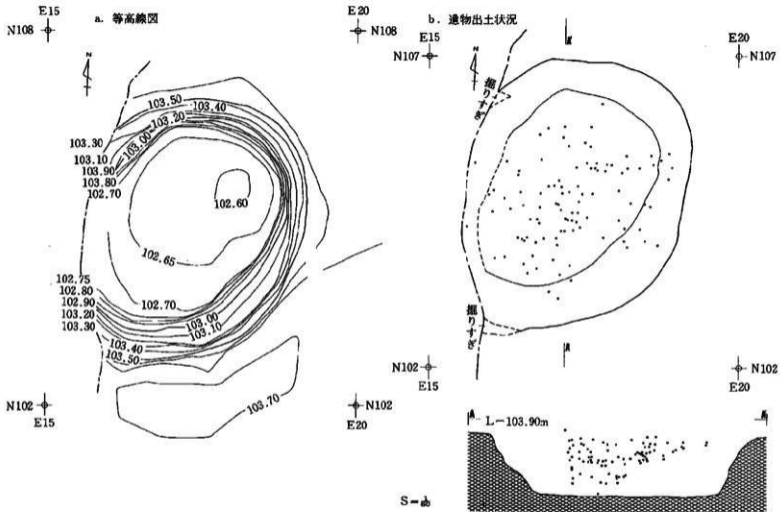
この土器埋設遺構はⅢ層の上面で検出されたもので、調査対象区の中央部の西側に位置している。R Lの単節の斜縄文を地文とする深鉢形土器を直立に埋設している。この土器内や遺構の掘り方部分は黒褐色土で充填されている。土器の外面上半部に黒斑・ススが見られる。底部には網代痕が施されている。なお埋設土器の周囲や掘り方部に板状の凝灰岩が散在している。



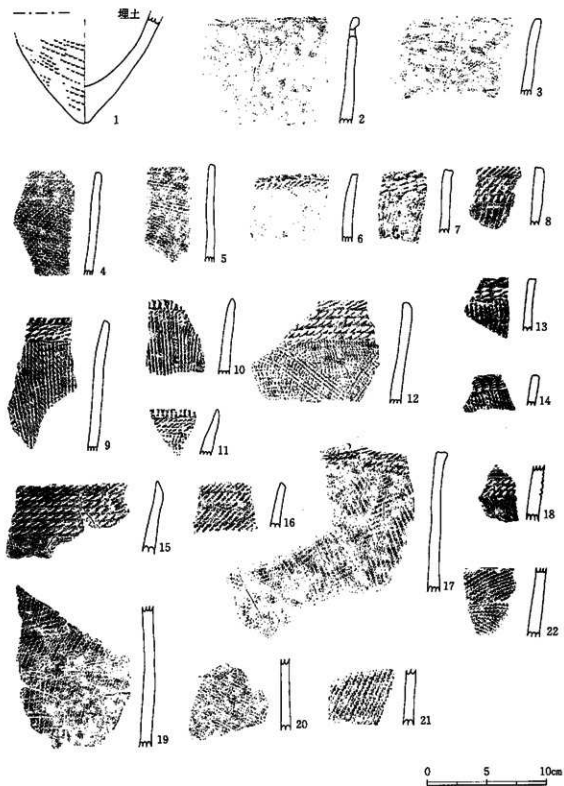
- a. 5 YR 3/2暗赤褐色土層 (含炭化物)
- b. 7.5 YR 5/6暗褐色土層 (含炭化物)
- c. 2.5 YR 4/6赤褐色土層 (鐵土・含炭化物)
- d. 7.5 YR 2/3暗暗褐色土層 (含炭化物)
- e. 10 YR 3/4暗褐色土層
- f. 5 YR 2/4暗暗赤褐色土層
- g. 10 YR 3/3暗褐色土層 (含炭化物)
- h. 10 YR 5/6暗褐色土層
- i. 10 YR 4/6暗褐色土層
- j. 10 YR 5/8暗褐色土層

S-ab

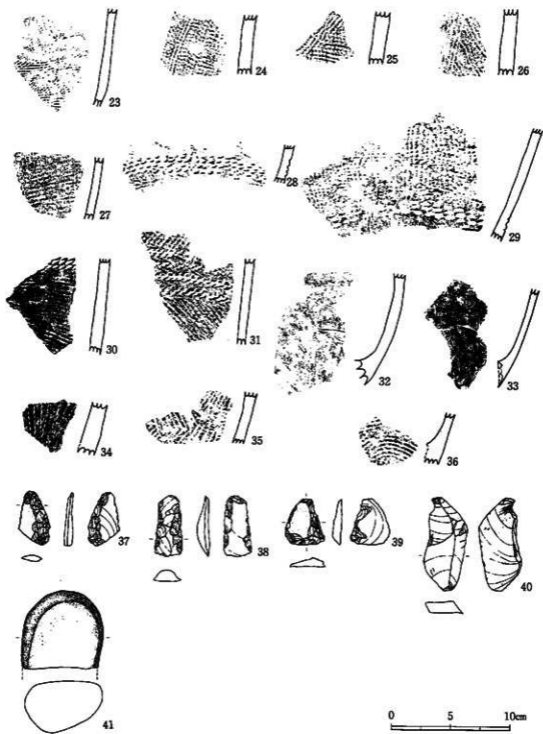
図版10 Oe65住居址 (1)



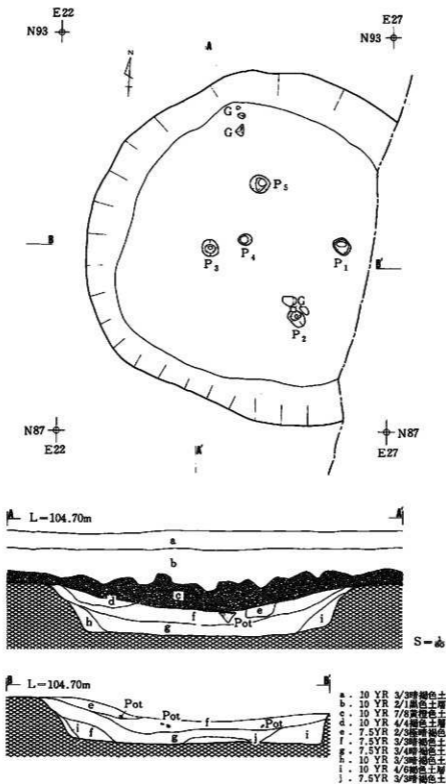
図版11 Oe65住居址 (2)



图版12 Oe65住居址出土遺物(1)

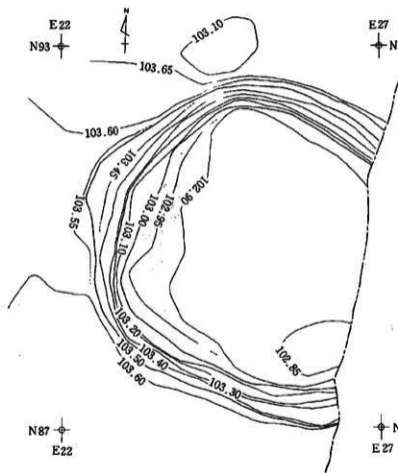


图版13 Oe65住居址出土遺物(2)



圖版14 Oj71住居址(1)

a. 住居址等高線圖

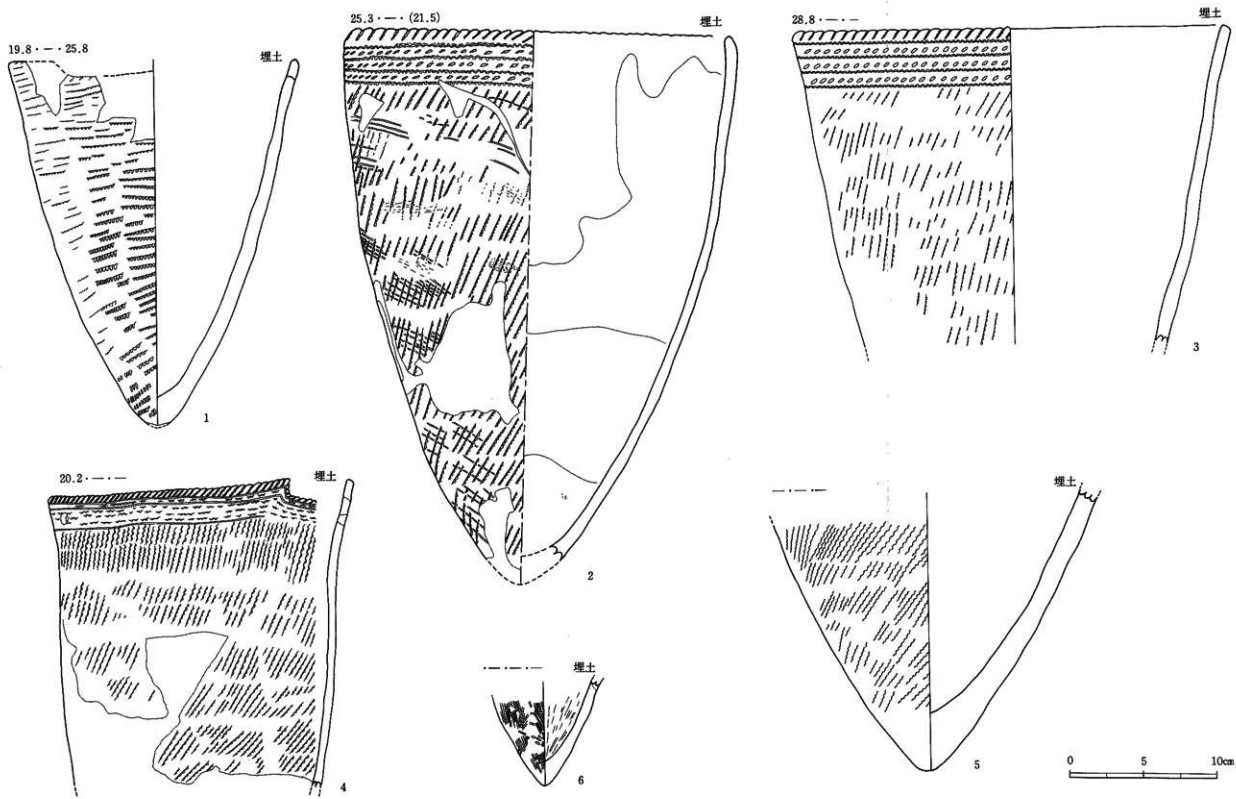


b. 遺物出土状況

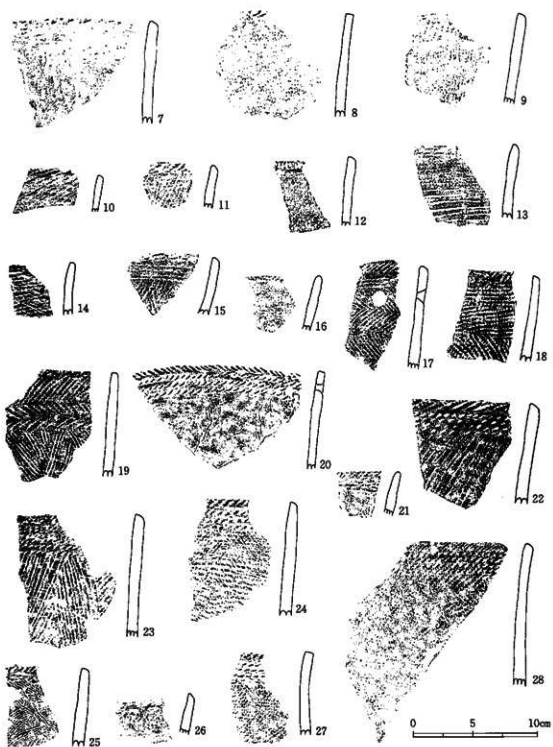


S-7b

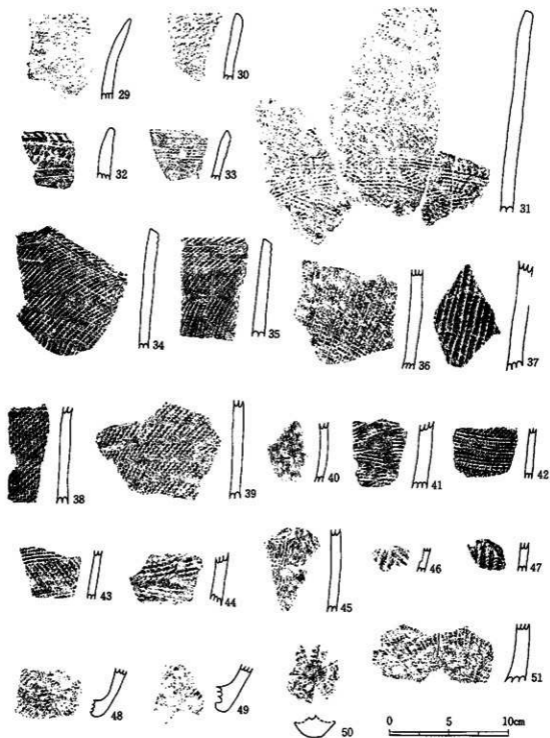
図版15 OJ1住居址(2)



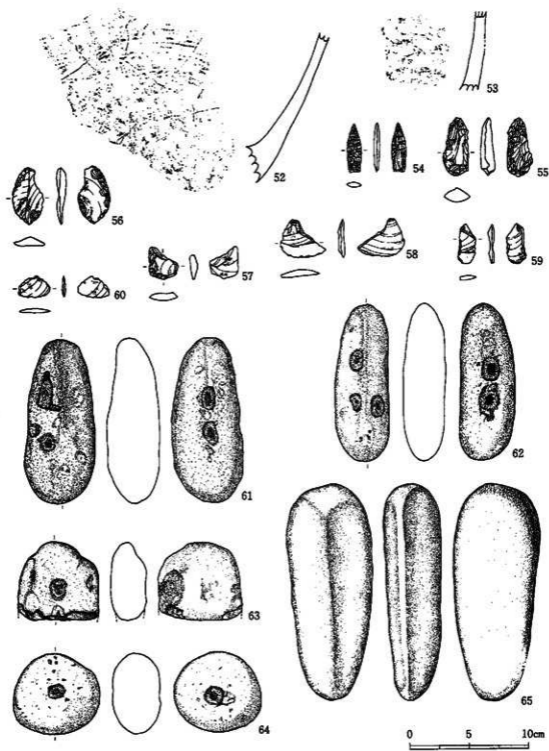
图版16 OJ71住居址出土遺物(1)



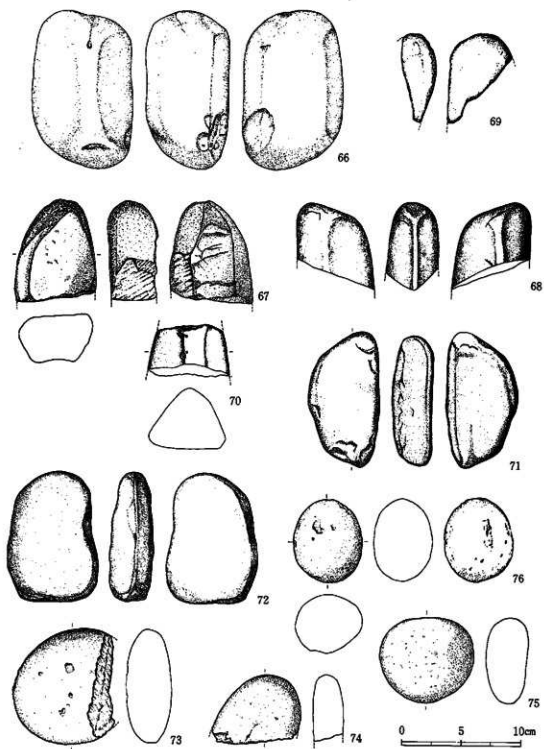
图版17 Oj71住居址出土遺物（2）



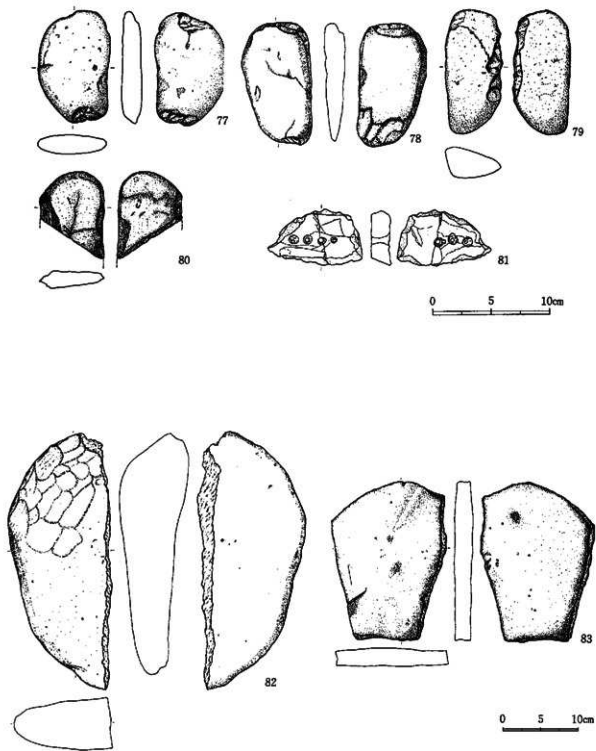
图版18 OJ71住居址出土遺物(3)



图版19 Oj71住居址出土遺物(4)

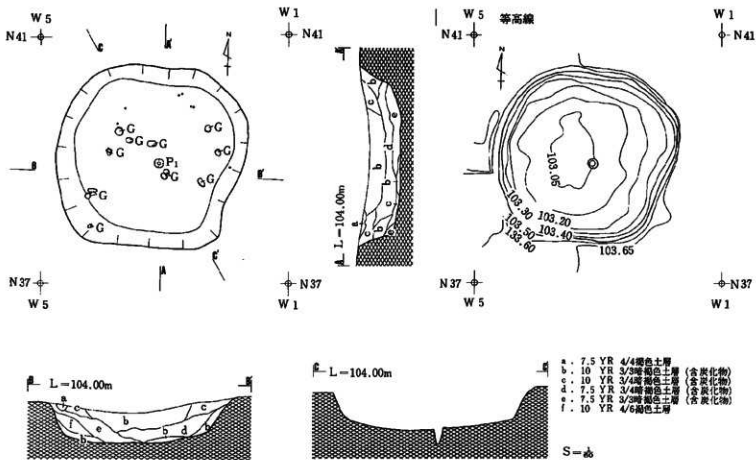


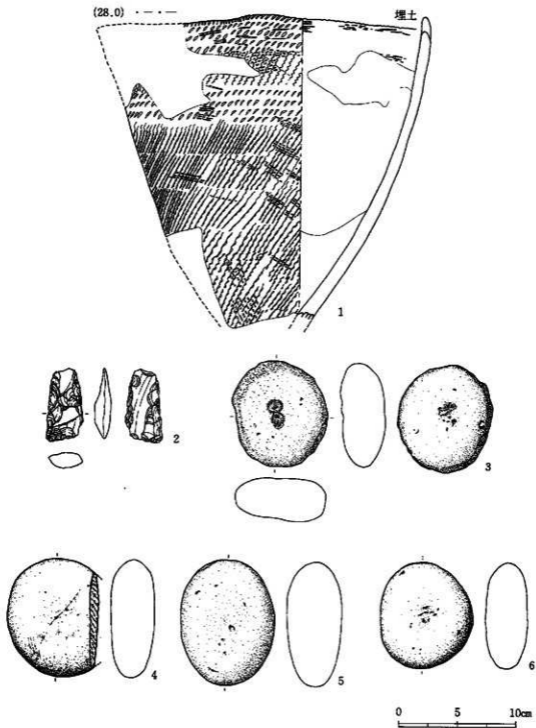
图版20 OJ71住居址出土遺物(5)



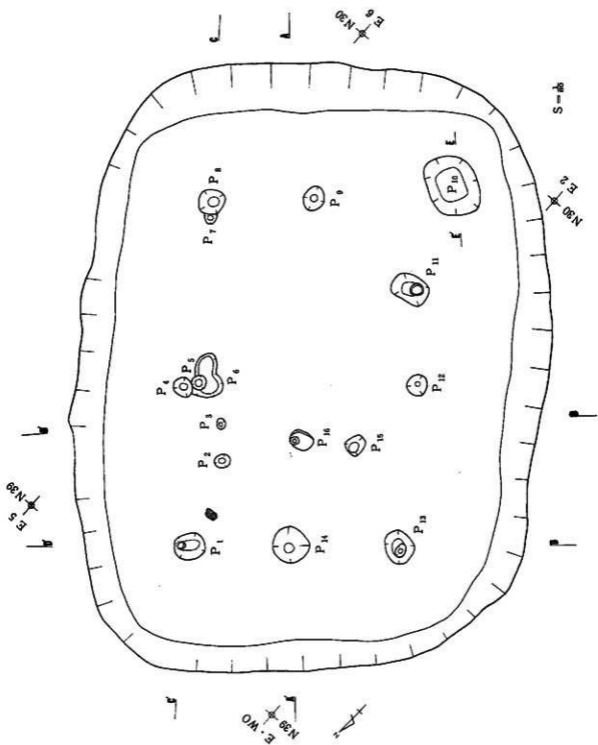
图版21 OJ71住居址出土遺物(6)

圖版22 白鬚06住居址

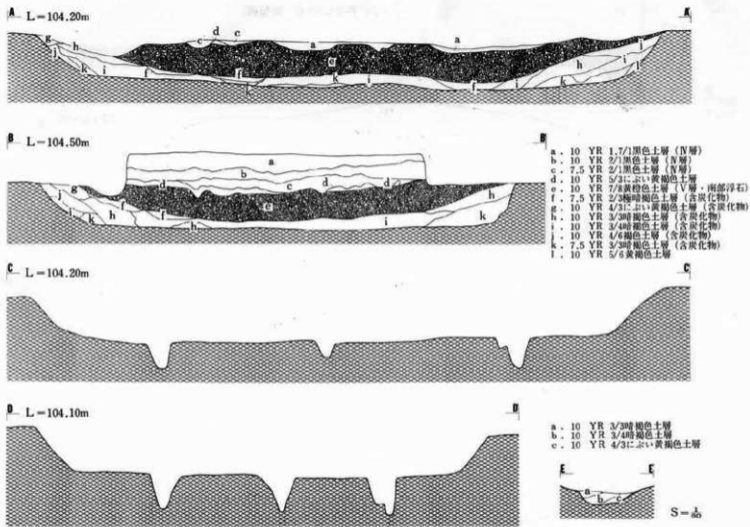




图版23 Bg06住居址出土遺物

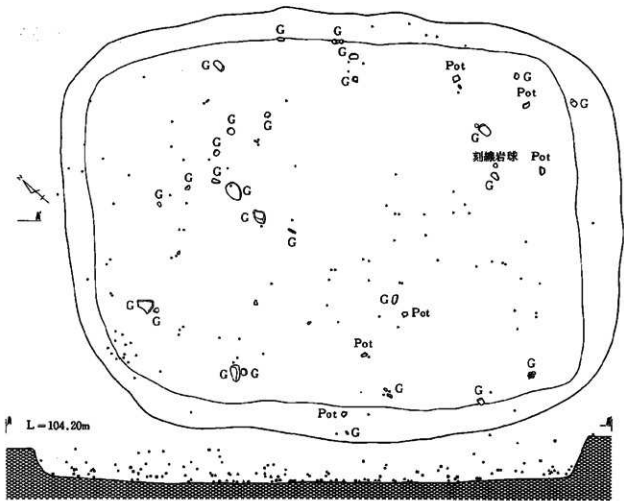


图版24 BI03住居址(1)



圖版25 Bi03住居址(2)

遺物出土狀況

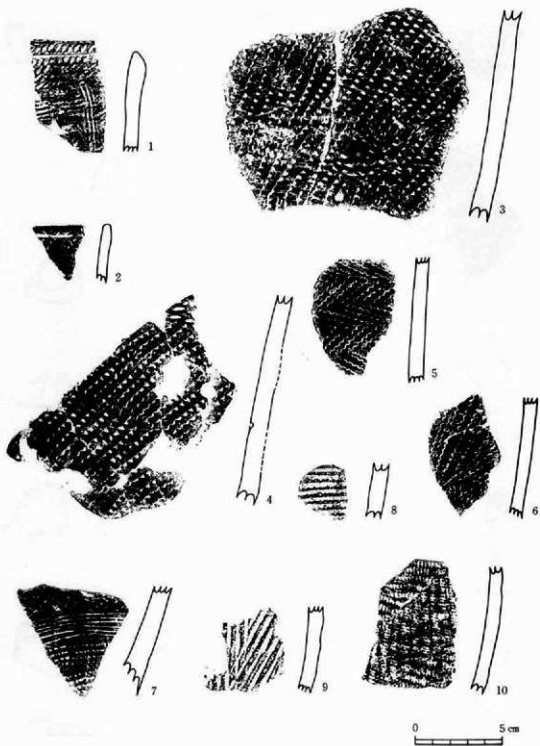


圖版26 Bi03住居址 (3)

S-6



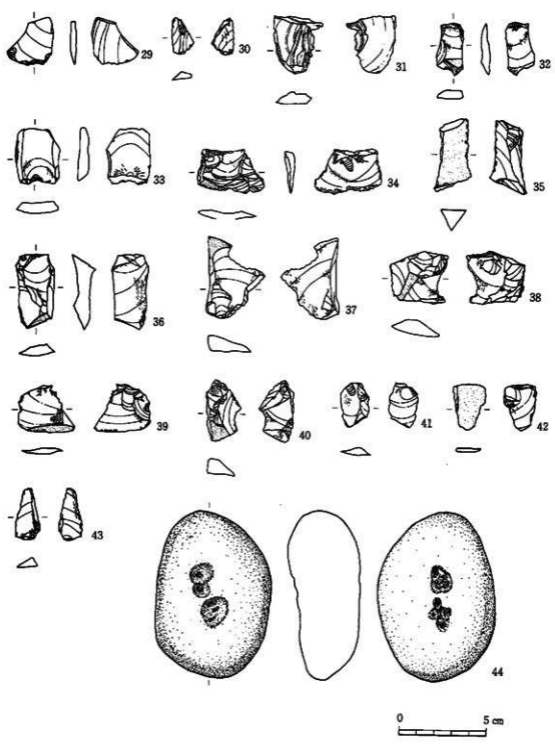
図版27 B-03住居址(4)



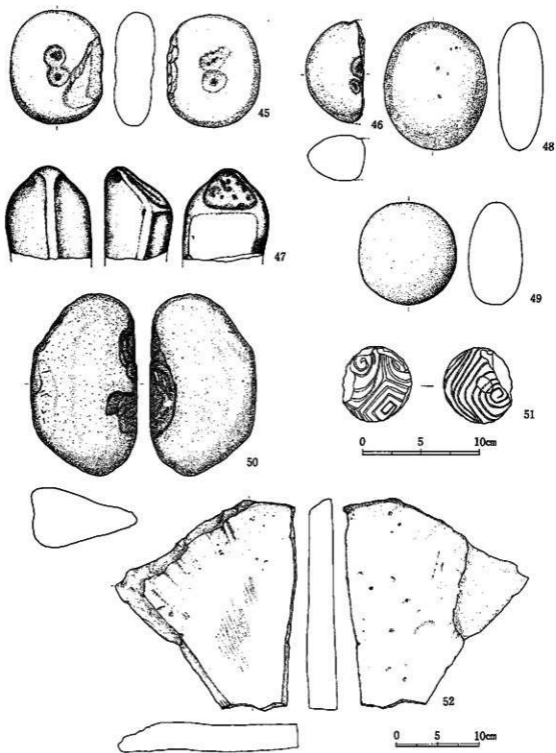
图版28 B103住居址出土遗物(1)



图版29 B:03住居址出土遗物(2)



图版30 Bi03住居址出土遗物(3)

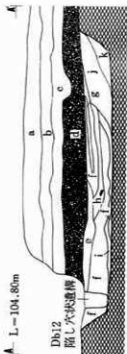


图版31 B103住居址出土遺物 (4)

W 8
N-SO

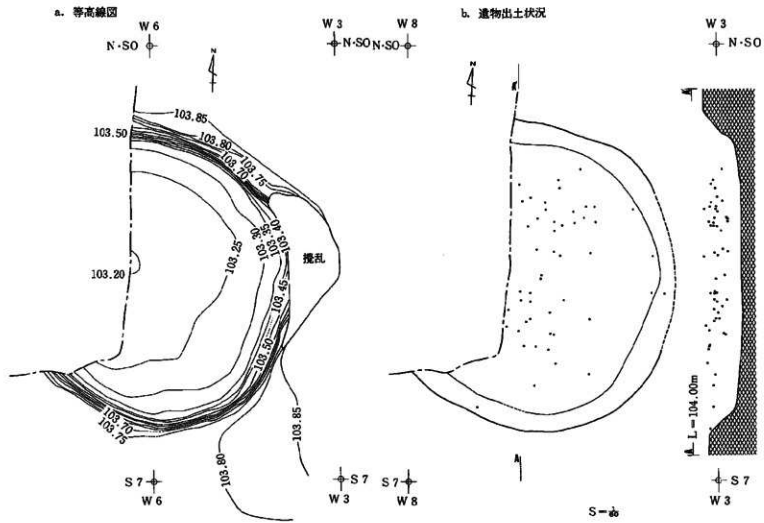


W 3
N-SO

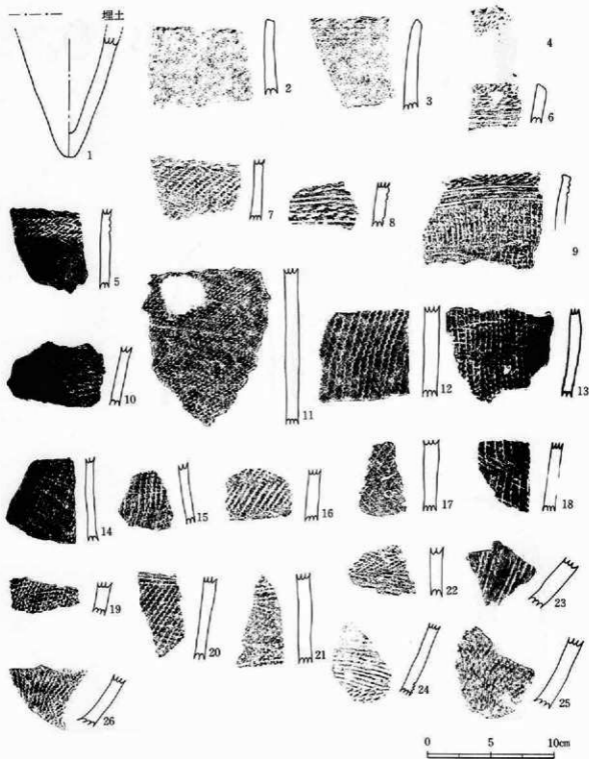


- a. 10 YR 3/3暗褐色土層 (Ⅱa層)
 b. 10 YR 3/4暗褐色土層 (Ⅱb層)
 c. 10 YR 2/1黒色土層 (Ⅳ層)
 d. 10 YR 7/8黄棕色土層 (Ⅴ層・南部浮石)
 e. 7.5 YR 2/3暗褐色土層
 f. 10 YR 3/4暗褐色土層
 g. 7.5 YR 4/4褐色土層
 h. 10 YR 3/3暗褐色土層 (含炭化物)
 i. 10 YR 3/4暗褐色土層 (含炭化物)
 j. 7.5 YR 3/3暗褐色土層
 k. 7.5 YR 3/4暗褐色土層

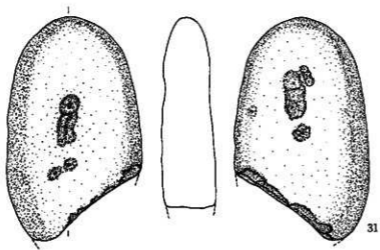
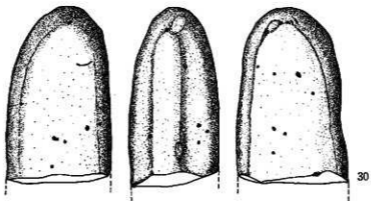
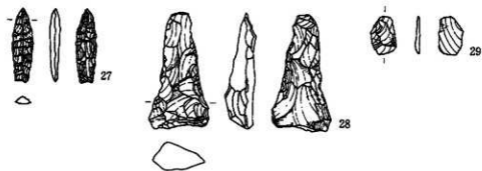
図版32 Da06住居址 (1)



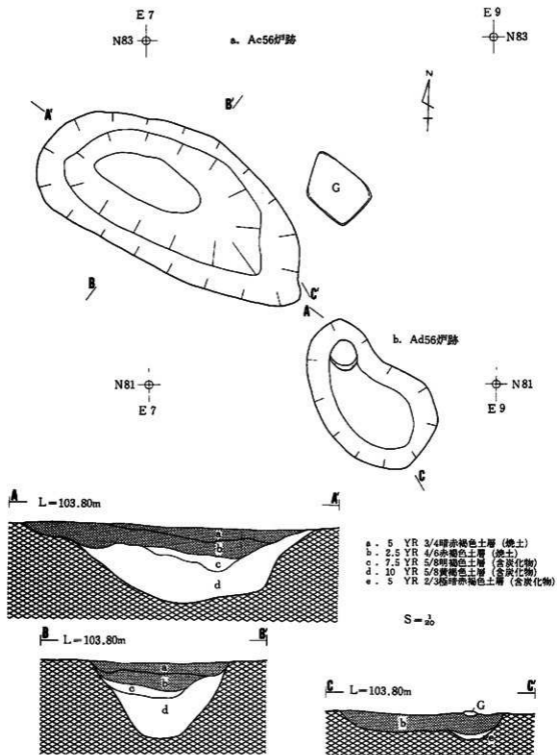
図版33 Da06住居址(2)



图版34 Da06住居址出土遗物(1)

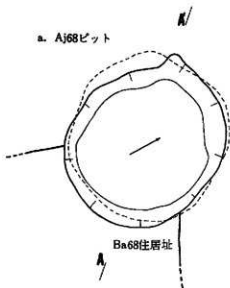


图版35 Da06住居址出土遗物（2）

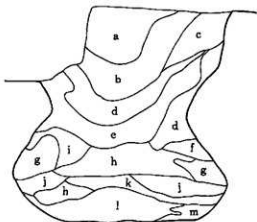


圖版36 Ac56·Ad56炉跡

a. A68ピット



L-104.90m

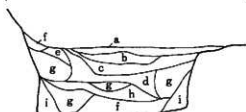


- a. 10 YR 3/2黒褐色土層
- b. 10 YR 2/1黒色土層
- c. 10 YH 3/3暗褐色土層
- d. 10 YR 3/4暗褐色土層
- e. 10 YR 1.7/1黒色土層
- f. 10 YR 7/8黄褐色土層
- g. 10 YR 5/6黄褐色土層
- h. 10 YR 2/2黒褐色土層
- i. 10 YR 6/8明黄褐色土層
- j. 10 YR 5/8暗褐色土層
- k. 10 YR 2/3黒褐色土層
- l. 7.5 YR 3/3暗褐色土層
- m. 2.5 YR 6/8明黄褐色土層

b. Ba71ピット



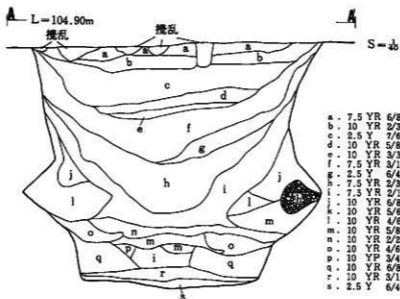
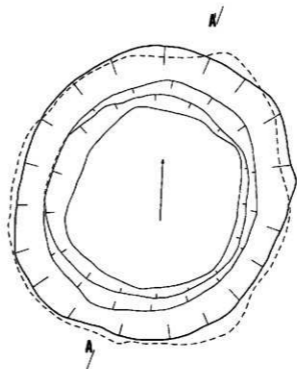
L-104.80m



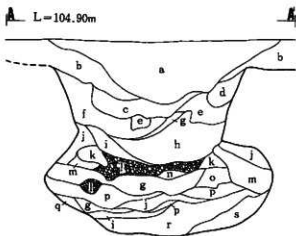
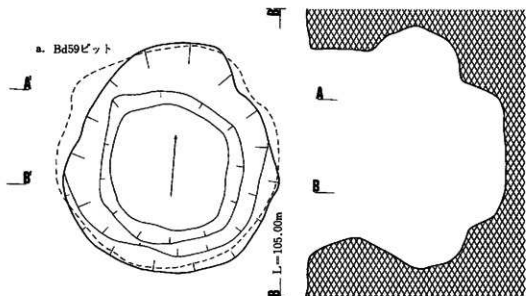
- a. 10 YR 2/3黒褐色土層
- b. 10 YR 2/2黒褐色土層
- c. 10 YR 3/3暗褐色土層
- d. 10 YR 4/4褐色土層
- e. 10 YR 3/2黒褐色土層
- f. 10 YR 3/4暗褐色土層
- g. 7.5 YR 2/1黒色土層
- h. 10 YR 4/6褐色土層
- i. 10 YR 2/1黒色土層

S = 26

図版37 A68・Ba71ピット

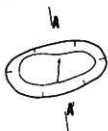


図版38 Bb68ピット



- a. 10 YR 3/3暗褐色土層
- b. 10 YR 3/4暗褐色土層 (目層)
- c. 10 YR 4/4褐色土層
- d. 10 YR 3/2暗褐色土層
- e. 2.5 Y 6/6明黄褐色土層
- f. 10 YR 2/1黒色土層
- g. 10 YR 4/3にぶい黄褐色土層
- h. 7.5 YR 2/1黒色土層
- i. 10 YR 2/2黒褐色土層
- j. 7.5 YR 2/2黒褐色土層
- k. 10 YR 3/6暗褐色土層
- l. 7.5 YR 7/8黄褐色土層 (南部浮石)
- m. 10 YR 5/8黄褐色土層
- n. 10 YR 3/3暗褐色土層
- o. 10 YR 5/6黄褐色土層
- p. 10 YR 6/8明黄褐色土層
- q. 5 Y 8/3黄褐色土層
- r. 10 YR 6/8明黄褐色土層
- s. 10 YR 7/8黄褐色土層

b. Cg06ピット

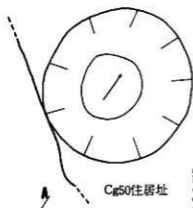


- a. 7.5 YR 2/1黒色土層 (含焼土粒)
- b. 7.5 YR 2/3暗褐色土層
- c. 7.5 YR 2/2黒褐色土層

S=あ

図版39 Bd59・Cg06ピット

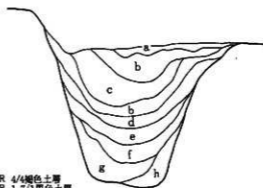
a. Cg50ピット



Cg50住居址

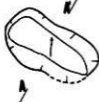
N

L-104.90m



- a. 7.5 YR 4/4暗褐色土層
- b. 7.5 YR 1.7/1黒色土層
- c. 7.5 YR 2/1黒色土層
- d. 7.5 YR 3/1黒褐色土層
- e. 7.5 YR 2/2黒褐色土層
- f. 7.5 YR 4/6暗褐色土層
- g. 10 YR 3/4暗褐色土層
- h. 10 YR 3/3暗褐色土層

b. Ch03ピット

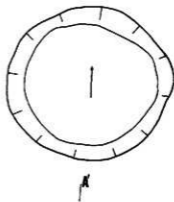


L-105.00m

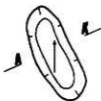


- a. 7.5 YR 2/1黒色土層 (含炭化物)
- b. 7.5 YR 2/3暗暗褐色土層
- c. 7.5 YR 2/2黒褐色土層

d. Ch62ピット



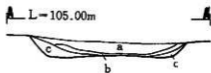
c. Ch06ピット



L-105.00m



- a. 7.5 YR 2/3暗暗褐色土層
- b. 7.5 YR 2/2黒褐色土層



- a. 7.5 YR 2/2黒褐色土層
- b. 7.5 YR 3/1黒褐色土層
- c. 7.5 YR 2/3暗暗褐色土層

S-26

図版40 Cg50・Ch03・Ch06・Ch62ピット

Bb68ピット (1~6)



1



2



3



4



5



6

Cg50ピット (7~11)



7



9



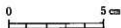
10



11

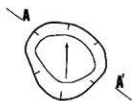


8

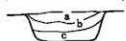


図版41 ピット出土遺物

a. Cj03ピット



L=105.00m

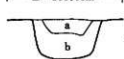


- a. 7.5 YR 2/1黒色土層 (含炭化物)
- b. 7.5 YR 2/3暗褐色土層
- c. 7.5 YR 2/2黒褐色土層

b. Cj09ピット

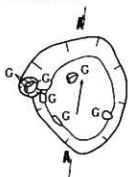


L=105.00m

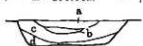


- a. 7.5 YR 2/1黒色土層
- b. 7.5 YR 2/3暗褐色土層

c. Da03ピット

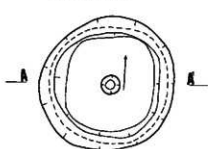


L=104.90m

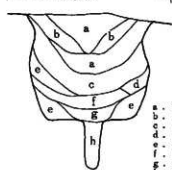


- a. 7.5 YR 5/8暗褐色土層
- b. 7.5 YR 6/8褐色土層
- c. 7.5 YR 2/2黒褐色土層
- d. 7.5 YR 2/1黒色土層

d. Dh53ピット



L=104.20m

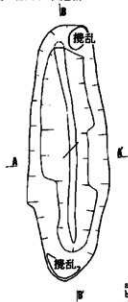


- a. 7.5 YR 2/1黒色土層
- b. 10 YR 4/3にぶい黄褐色土層
- c. 7.5 YR 1.7/1黒色土層
- d. 10 YR 5/8黄褐色土層
- e. 7.5 YR 3/1黒褐色土層
- f. 10 YR 3/4暗褐色土層
- g. 10 YR 3/3暗褐色土層
- h. 2.5 YR 3/3暗オリーブ褐色

S=26

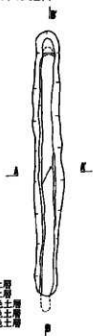
図版42 Cj03・Cj09・Da03・Dh53ピット

a. Aj06陥し穴状遺構

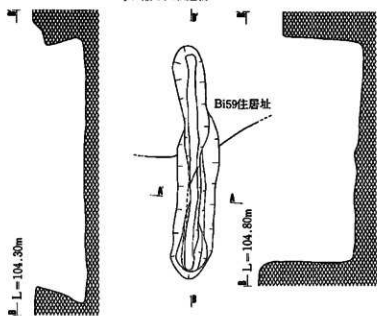


- a. 10 YR 2/1黒色土層
- b. 7.5 YR 2/1黒色土層
- c. 7.5 YR 1.7/1黒色土層
- d. 7.5 YR 2/2黒褐色土層
- e. 10 YR 2/2黒褐色土層

b. Bh56陥し穴状遺構



c. Bj62陥し穴状遺構

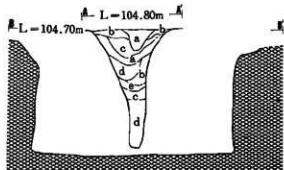


L-104.80m

L-104.30m

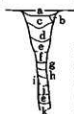


- a. 7.5 YR 3/1黒褐色土層
- b. 10 YR 4/6褐色土層
- c. 10 YR 5/8黄褐色土層
- d. 10 YR 2/3黒褐色土層



L-104.80m

L-104.90m



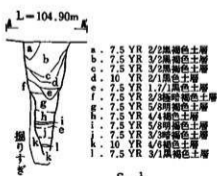
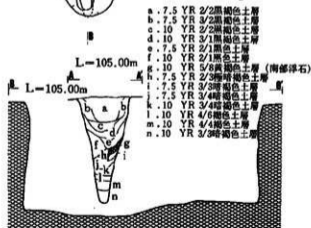
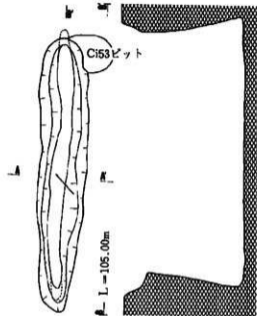
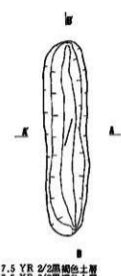
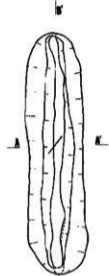
- a. 10 YR 1.7/1黒色土層
- b. 10 YR 2/2黒褐色土層
- c. 10 Y 2/1黒色土層
- d. 10 YR 2/3黒褐色土層
- e. 10 YR 3/1黒褐色土層
- f. 10 YR 3/3暗褐色土層
- g. 10 YR 3/4暗褐色土層
- h. 10 YR 4/4褐色土層
- i. 10 YR 5/6黄褐色土層
- j. 10 YR 4/6褐色土層
- k. 2.5 GY 3/1暗オリブ灰色土層

図版43 A j06・Bh56・Bj62陥し穴状遺構

a. Cf59縮し穴状遺構

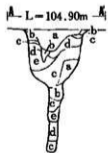
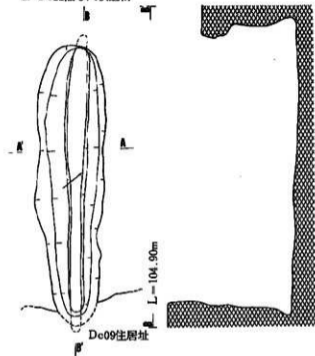
b. Ch56縮し穴状遺構

c. Cj50縮し穴状遺構



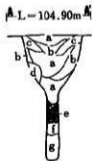
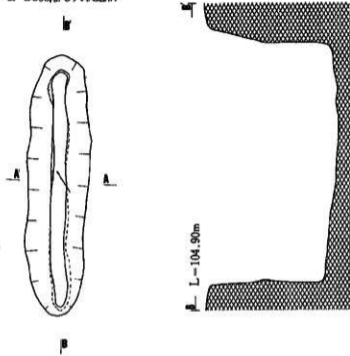
図版44 Cf59・Ch56・Cj50縮し穴状遺構

a. Db12陥し穴状遺構



- a. 7.5 YR 1.7/1 黑色土層
- b. 7.5 YR 2/2 黒褐色土層
- c. 7.5 YR 2/1 黑色土層
- d. 7.5 YR 3/3 暗褐色土層
- e. 7.5 YR 3/4 暗褐色土層

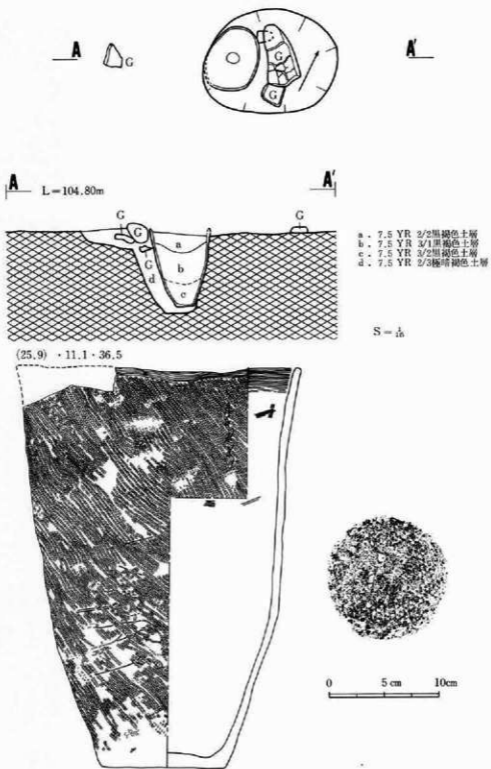
b. Db53陥し穴状遺構



- a. 7.5 YR 2/1 黑色土層
- b. 7.5 YR 1.7/1 黑色土層
- c. 7.5 YR 2/3 暗褐色土層
- d. 7.5 YR 4/4 褐色土層
- e. 7.5 YR 4/6 褐色土層 (南部浮石)
- f. 7.5 YR 3/3 暗褐色土層
- g. 10 YR 2/1 黑色土層

S=ab

図版45 Db12・Db53陥し穴状遺構



圖版46 Ca09土器埋設遺構・出土遺物

2. 古 代

(1) 竪穴住居址

A d62住居址

遺 構 (図版47・写真図版22-a・b)

この住居址はⅢ層の上面で検出されたもので、調査対象区の北側に位置している。4.4 m 土 × 4.3 m 土の規模をもち、隅丸方形の平面形を呈する。

埋土は黒褐色土層・黒色土層・暗褐色土層で構成されている。

床面は凹凸が目立ち、軟質なものとなっている。またこの住居址の床面は耕作などによる攪乱を受けて全体的に破損が著しい。

柱穴配置は不明であるが、住居址内に P₁(径10cm土・深さ9cm土)・P₂(径18cm土・深さ12cm土)・P₃(径20cm土・深さ8cm土)・P₄(径24cm土・深さ32cm土)の柱穴状のピットが4個検出されている。しかしこれらのピットの性格については不明である。

壁の高さは、北壁25cm土・東壁25cm土・南壁19cm土・西壁14cm土を計る。壁の一部も攪乱によって破壊されている。壁溝は検出されなかった。

直接的にカマドと断定できる施設は見当たらないが、西壁中央部寄りの床面上に確認された黒色土混りの粘土質シルト塊や現地性の焼土の存在はカマドの痕跡を示すものではないかと考えられる。以上の焼土のほかにもう1つの現地性の焼土が住居址中央部の床面上に確認されている。この焼土はその状況からみて地床炉的な機能を果たしたものと考えられる。なお先に述べた粘土質シルト塊の上には粒径10cm土の凝灰岩が数個散在していた。

出土遺物 (図版48・写真図版107)

遺物は床面上や埋土中から出土しているが、その量は僅である。

床面上からは土器(2~5)と石製品(6)が出土している。土器はいずれもロクロ未使用の甕の体部片である。内外面にハケ目調整が施されている。6は硬砂岩の円礫を素材としている有孔石製品である。

埋土の下位からは1の土器が出土している。この土器はロクロ未使用の甕の底部片である。底部に施された木葉痕が磨消されている。色調は黄灰色を示す。

A f 59住居址

遺構 (図版49～51・写真図版23～25)

この住居址はⅢ層の上面で検出されたもので、前述のA d 62住居址の1 m 土南側に位置している。6.3 m 土×5.9 m 土の規模をもち、隅丸方形の平面形を呈する。

埋土の上部に灰白色の十和田a 降下火山灰層がみられる。この火山灰層は「レンズ」状の堆積状態を示しており、最大層厚20cm 土を計る。これより下位の埋土は黒色土層・黒褐色土層・暗褐色土層などで構成されている。最下位に堆積している黒褐色土層の上面に多量の炭化材および現地性の焼土が検出された。これらの検出状態からみてこの住居址は焼失を受けたものと考えられる。

床面は凹凸が激しく軟質なものとなっている。

柱穴は、P₂(径25cm 土・深さ77cm 土)・P₃(径23cm 土・深さ55cm 土)・P₄(径38cm 土・深さ70cm 土)・P₅(径25cm 土・深さ28cm 土)・P₆(径40cm 土・深さ71cm 土)・P₇(径45cm 土・深さ73cm 土)・P₁₀(径25cm 土・深さ65cm 土)の7個で構成されているが、それぞれの位置関係からみて次のような柱穴配置が考えられる。1つはP₂・P₄・P₆・P₇・P₁₀の6個で構成され正方形の配置を示すものであり、もう1つはP₃・P₅・P₆・P₇の5個で構成され台形状の配置を示すものである。以上の柱穴のほかには床面上にはP₁(径25cm 土・深さ17cm 土)・P₈(径25cm 土・深さ36cm 土)・P₉(径20cm 土・深さ37cm 土)の柱穴状のピットが3個検出されているが、これらのピットの性格については不明である。

壁の高さは、北壁50cm 土・東壁52cm 土・南壁50cm 土・西壁42cm 土を計る。幅12cm 土～22cm 土・深さ4cm 土～10cm 土を計る壁溝がほぼ全周しているが、南壁では部分的に途切れている。

カマドは西壁の中央部に位置しており、全長220cm 土を計る。カマドの残存状態はほぼ良好である。袖部は芯とした板状の凝灰岩の周囲に粘土質シルトを貼り付けて構築されている。凝灰岩は床面から6cm 土～8cm 土の深さに直立に埋設されている。燃焼部には2つの使用面がみられる。1つは周辺の床面より5cm 土高いレベルにあり、もう1つは周辺の床面と同レベルにある。これらの使用面下には火熱により層厚4cm 土～9cm 土を計る褐色～明赤褐色の現地性の焼土が形成されている。煙道部は燃焼部から緩やかに上昇して煙出し部に至る構造をもつ。規模は全長160cm 土・最大幅55cm 土を計る。焚口部から煙道部の側壁には板状の凝灰岩が使用されており、直立に埋設された両側壁の凝灰岩を結ぶ形で凝灰岩の天井石が高架されている。そしてこれらの上部は袖部に使用されたものと同じ粘土質シルトによって覆われている。煙出し部は径25cm 土・煙道部底面からの深さ13cm 土の円形のピットを伴うものである。なお焚口部前方の床面上ににおい黄褐色の粘土質シルトが敷きつめられていた。この粘土質シルトの広がりには145cm 土×75cm 土の長方形を呈する。

出土遺物（図版52～54・写真図版107～110）

出土遺物は床面上や埋土下部から得られているが、その大半は後者に属するものである。埋土下部から出土した遺物は層準的に炭化材・現地性の焼土よりも下位にあたる。出土した土器はいずれもロクロ不使用のもので、巻上げ成形あるいは輪積み成形によって製作されている。土器の器種は坏（1～5）・甕（6～18）・壺（19・20）・甗（21・22）・小型土器（23）で構成されている。

1は体部に段を有する丸底の坏であり、内面がヘラミガキ後黒色処理されている。2は段がみられない平底風の坏であり、内外面に施されているヘラミガキは入念である。この土器の内面も黒色処理がなされている。3～5の坏は口径が10cm以下で前述の1・2に比べて小型である。3・4は体部に段がみられない丸底の坏である。5は体部に段を有する平底の坏である。出土した甕のうち完形の状態のものは4点（6・14・15・16）である。6は体部中央部に最大径をもつ長胴形の甕であり、その上半部の形が大きく歪んでいる。内外面の器面調整としてハケ目が施されているが、このうち外面のものはヘラミガキによって大部分が磨消されている。6以外にハケ目がみられる土器は9・14の2点である。そのほかの土器の体部の主な器面調整は、外面がヘラミガキ、内面がヘラナデ+ヘラミガキとなっている。13は底部の中心部分が円形に穿孔されているものであるが、その形態からみて単孔式の甗として使用された可能性が考えられる。15・16は小型の甕であり、内外面の器面調整は比較の入念なヘラミガキとなっている。17・18は甕の底部である。19・20の壺はいずれも底部が欠損しているものである。19は頸部のくびれが強く口縁部が大きく外反しているもので、その口唇部は直立気味に立ちあがっている。20は19よりやや大型であり、口縁部の立ちあがりは直立気味である。これらの壺の外面の器面調整はヘラミガキとなっている。21・22の甗は多孔式の形態のもので、径7mm±の孔が穿たれている。23の小型土器は「ぐい飲」状のものである。なおこれまでに記述した土器のほかに埋土下部から写真図版25-dにみられるような炭化した木製品が出土している。この木製品はD h 03住居址から出土した炭化木製品と同じものと思われる（図版126-6参照）。

A h 50住居址

遺 構（図版55・写真図版26-a・b、27-a・b、28-a）

この住居址はⅢ層の上面で検出されたもので、調査対象区の北側に位置している。住居址の西側部分がルート外にあるためその規模・形状を正確に把握することはできないが、精査された部分から推測すると、一辺が5.9m±の隅丸方形を呈するものと考えられる。

埋土の最上部は灰白色の十和田a降下火山灰層によって覆われている。この火山灰層の最大層厚は10cm±を計る。これより下位の埋土は黒色土層・暗褐色土層・黒褐色土層で構成されて

いる。床面直上のレベルから多量の炭化材・現地性の焼土が検出されたが、その出土状態からみてこの住居址は焼失を受けたものと考えられる。

床面は多少凹凸が認められるもので、堅くしまっている。

柱穴は、P₁ (径37cm±・深さ48cm±)・P₇ (径34cm±・深さ38cm±)・P₁₀ (径35cm±・深さ40cm±)・P₁₂ (径40cm±・深さ40cm±) の4個で構成され、正方形の配置を示す。以上の柱穴のほかに床面から検出されている柱穴状のビットP₂・P₃・P₄・P₅・P₆・P₈・P₉・P₁₁などは攪乱穴であろうと思われる。

壁の高さは、北壁55cm±・東壁50cm±・南壁53cm±を計る。精査が行なわれた範囲内には壁溝はみられない。

この住居址の大半がルート外にあるためその詳細は不明であるが、検出された袖部の位置からみて西壁中央部に布設されているものと考えられる。袖部はA f 59住居址のものと同じ方法で構築されている。この袖部の周囲に散在している粘土質シルトや板状の凝灰岩は、この部位に使用されていたものであろう。またこれらとともに確認された現地性の焼土は燃焼部の下部構造を構成していたものと考えられる。

出土遺物 (図版54・写真図版110)

出土遺物としては埋土下部から得られた壺 (24) がある。この壺はロクロ不使用のもので、口縁部が大きく外反している。外面の器面調整は、口縁部がヨコナデナヘラミガキ、体部がヘラミガキとなっている。色調は明黄褐色を示す。

B a 68住居址

遺構 (図版56・写真図版28-b、29-a~d)

この住居址はⅢ層の上面で検出されたもので、調査対象区の北東部に位置している。住居址の東側部分がルート外にあるためその規模・形状を正確に把握できないが、精査された部分から推測して、一辺が4.3 m ±の隅丸方形を呈するものと考えられる。

埋土は黒色土層・黒褐色土層・暗褐色土層・極暗褐色土層で構成されている。最上位にある黒色土層の上面には十和田 a 降下火山灰が少量みられる。また下位にある黒褐色土層の中間部には異地性の焼土が介在していた。

床面は平坦で、やや軟質なものとなっている。

柱穴は、P₁ (径25cm±・深さ72cm±)・P₂ (径24cm±・深さ70cm±)などで構成されるものと考えられる。

壁の高さは、北壁53cm±・南壁56cm±・西壁58cm±を計る。南壁および北壁際に幅15cm±～20cm±・深さ10cm±～20cm±の壁溝が設けられている。

カマドは西壁中央部に位置している。袖部・燃烧部の残存状態はやや良好であるが、煙道部から煙出し部にかけての部分は電柱によって破壊されている。したがってカマドの全長を測定することは困難である。袖部は板状の凝灰岩を直立に埋置しその周囲を黄褐色を呈する粘土質シルトで固める方法で構築されている。両袖部ともその前方部の粘土質シルトが崩壊し芯として使用されている凝灰岩が露出している。燃烧部はその使用面が周辺の床面よりも2cm±～13cm±高いレベルにあるものとなっている。この使用面下には火熱により層厚5cm±で橙色の色調を示す現地性の焼土が形成されている。燃烧部の天井部も袖部のものと同じ粘土質シルトで構築されている。煙道部は燃烧部から緩やかに上昇した後次第に傾斜を増していく構造をもつ。煙道部内の埋土は黒色土・暗褐色土・褐色土などで構成されている。下底部に堆積している褐色土には炭化物がかなり混入している。なお燃烧部の使用面上に長さ45cm±×20cm±・厚さ4cm±の板状の凝灰岩が検出された。またこの部分の下部に径80cm±・深さ20cm±の円形の掘り方が確認された。

この住居址は、原始時代のA j 68ピットおよびB a 71ピットを切っている。

出土遺物（図版59・写真図版111）

出土遺物は埋土中から得られた1などの土器である。1は埋土下部から出土したロクロ未使用の小型の甕である。この土器の器面調整は次のようになっている。外面は口縁部がヨコナデ十ヘラミガキで、体部がヘラミガキとなっている。また内面は口縁部がヨコナデ、体部がハケ目となっている。色調は明赤褐色を示す。このほかの土器はロクロ未使用の甕の細片であり、埋土上部から出土したもののばかりである。

B d 03住居址

遺構（図版57、58・写真図版30-a～c、31-a～d）

この住居址はⅢ層の上面で検出されたもので、調査対象区の北西部に位置している。規模は一辺が4.2m±の長さを計り、平面形は隅丸方形を呈する。

埋土は黒色土層・黒褐色土層・極暗褐色土層・暗褐色土層で構成されている。遺構検出の際にこれらの土層の上部に灰白色の十和田a 降下火山灰層が観察された。

床面は平坦で、硬質な部分と軟質な部分とが明確に分かれる。硬質な部分は住居址の中央部からカマド周辺の範囲に認められるが、この範囲内では埋土が床面から容易に剝離する「肌わかれ」現象がみられる。

柱穴配置は不明であるが、床面からP₁・P₂・P₃・P₄などの柱穴状のピットが検出されてい

る。しかしこれらのピットの性格については明らかでない。

壁の高さは、北壁63cm土・東壁60cm土・南壁60cm土・西壁55cm土を計る。どの壁際にも壁溝は設けられていない。

カマドは西壁中央部に位置しており、全長200cm土を計る。カマドの残存状態は比較的良好である。袖部の構築方法はB a 68住居址のものと同じである。燃焼部はその使用面が周辺の床面とほぼ同じレベルにあるものとなっている。この使用面下には火熱により層厚5cm土の赤褐色を呈する現地性の焼土が形成されている。また使用面上には崩落した褐色の粘土質シルトと板状の凝灰岩が検出した。さらに粘土質シルトの上面からロクロ未使用の甕などの破片が多数出土した。煙道部は燃焼部から急な勾配を上昇して煙出し部に至る構造をもつ。煙道部の規模は全長125cm土・最大幅40cm土を計る。煙道部内の埋土は黒色土・黒褐色土・暗褐色土で構成されている。煙出し部は径32cm土・煙道部底面からの深さ15cm土を計る円形のピットを伴うものである。

なお精査の途中で床面直上のレベルに現地性の焼土とともに小さな炭化材が少量検出された。この検出状態から当B d 03住居址が焼失を受けたか否かを判定することは困難である。

出土遺物 (図版59、60・写真図版111、112)

遺物は床面上や埋土下部から出土している。

床面上の出土遺物としては土器・石製品・土製品がある。土器はロクロ不使用のもので、甕(4~6・9)・壺(13~16)の器種で構成されている。4は体部中央部に膨らみをもつ長胴形の甕である。外面には入念なヘラミガキが施されており、スガかなり付着している。色調はにぶい赤褐色を示す。5は内外面にハケ目が施されている長胴形の甕である。6は外面の器面調整がヘラミガキのやや小型の甕である。9の外面にはハケ目+ヘラミガキの器面調整がみられる。壺は小型のもの(12)と大型のもの(14~16)とに分けられる。12・14・16にはハケ目の器面調整がみられる。15にはハケ目調整はみられず、ヘラミガキ・ヘラナアの調整技法が用いられている。石製品(17)はメノウ製の勾玉であるが、半分以上が欠損している。土製品(18)は形が歪な土玉であり、平面形・断面形とも楕円形を示す。

カマド内から出土した土器は、8の甕や12の壺などである。8は外面がヘラミガキ、内面がヘラナアの器面調整となっている。12は外面にハケ目が施されている小型の壺であり、体部の一部に黒斑がみられる。

これまでに述べた以外の出土遺物はすべて埋土下部から得られたものである。出土したものは坏(2・3)・甕(7)・壺(10・11)などの土器である。2は体部上半部に段を有する丸底の坏で、その口縁部は内弯気味に立ちあがっている。3は体部下半部に段を有する平底風の坏であり、内面に黒色処理が施されている。7の甕は小型のもので底部が欠損している。外面体部上半部の器面調整はヘラミガキとなっている。10の壺は口縁部が直立気味に立ちあがって

おり、11に比べて大型である。11は頸部のくびれが大きい壺で、内面にハケ目調整が施されている。

B e 68住居址

遺構 (図版61・写真図版32—a・b、33—a・b)

この住居址はⅢ層の上面で検出されたもので、前述のB a 68住居址からみて7m±南側に位置している。住居址の東側半分ほどがルート外にあるためその規模・形状を正確に知ることができないが、積査された部分から推測すると一辺が5.2m±の隅丸方形を呈するものと考えられる。

埋土は黒色土層・黒褐色土層・極暗褐色土層で構成されている。床面直上のレベルに長さ20cm±～140cm±・幅3cm±～17cm±の炭化材と現地性の焼土が検出された。これらの検出状態などから推し量ってこの住居址は焼失を受けた可能性も考えられる。

床面はほぼ平坦で堅くしまっている。特に後述する柱穴の周辺が叩きしめられたように非常に堅緻であり、埋土の「肌わかれ」現象がみられた。

柱穴は、P₁(径40cm±・深さ70cm±)・P₂(径50cm±・深さ70cm±)などで構成され正方形の配置を示すものと考えられる。

壁の高さは、北壁60cm±・南壁40cm±・西壁45cm±を計る。幅10cm±～20cm±・深さ5cm±～10cm±の規模をもつ壁溝が検出されているが、東壁を通して一巡する形をとるかどうかは不明である。

カマドは西壁中央部に位置しているが、近世の土壌墓によって袖部や煙道部が破壊されているためその規模・形状を正確に把握することはできない。袖部は板状の凝灰岩を斜位に埋置しその周囲を明黄褐色などの色調を示す粘土質シルトで固める方法で構築されている。燃焼部はその使用面が周辺の床面より4cm±低いレベルにあるものとなっている。この使用面下には火熱により橙色を呈する層厚9cm±の現地性の焼土が形成されている。焚口部寄りの使用面上方に長さ25cm±×9cm±・厚さ4cm±を計る板状の凝灰岩が崩落していた。煙道部全体の構造は明らかではないが、燃焼部から階段状に上昇する構造となっている。煙道部内の埋土は暗褐色土・黒褐色土で構成されている。煙出し部の形態は全く不明である。なお住居址の北西隅および南西隅の床面直上のレベルに廃棄されたと思われる汚れた粘土質シルト塊が検出された。この粘土質シルトはその性状からみてカマドに使用されていたものと考えられる。北西隅に確認された粘土質シルトの上面からは甕の破片が出土している。

この住居址は、近世のB d 68土壌墓・B e 68土壌墓と重複関係にあり、これらによって切られている。

出土遺物（図版62・写真図版113）

出土遺物は床面上や埋土中などから得られている。

床面上からは土器（2）・鉄器（7）・土製品（9～11）が出土している。2の土器は須恵器の高台をもつ坏である。この高台は底部を回転ヘラケズリによって再調整した後に取り付けられている。7の鉄器は最大長13.0cm±・最大幅2.9cm±・最大厚0.6cm±を計る録である。9～11の土製品は断面形が台形を示す紡錘車であり、いずれもヘラケズリ後入念なヘラミガキが施されている。

カマド関係からは3～5の土器が出土しているが、これらの土器は袖部の補強用に使われた可能性が高い。3・4は体部中央部に段を有する丸底の坏であり、内面には黒色処理が施されている。3は4に比べてやや平底風であり、個体の2分の1にあたる部分がカマド寄りの床面上から得られている。5は長胴形の甕であり、内外面にハケ目がみられる。

埋土中からは土器（1・6）・石器（8）が出土している。1は埋土上部から出土した巻上げ成形の坏の破片であり、底部の形態である。外面の口縁部～体部にはヨコナデ、また底部にはヘラナデの器面調整が施されている。内面は入念なヘラミガキ後黒色処理が施されている。6は床面直上や埋土中位に破片としてバラバラに散在していたものである。体部の器面調整はヘラミガキナデとなっている。8の石器は平面形が楕円形を呈する凹石であり、その両面に複数の凹みが形成されている。この凹石は原始時代の遺物と考えられる。なお2以外の土器はすべてロクロ不使用のものである。

B g 50住居址

遺構（図版63～65・写真図版33-b、34-a～c、35-a）

この住居址はⅢ層の上面で検出されたもので、前述のB d 03住居址からみて3m±南側に位置している。規模は6.5m±×6.1m±を計り、平面形は隅丸方形を呈する。

埋土の中間部に灰白色の十和田a降下火山灰層が「レンズ」状に堆積しており、その層厚は10cm±である。この火山灰層より上位の埋土は黒褐色土層・黒色土層、また下位の埋土も黒褐色土層・黒色土層で構成されている。埋土の下部に炭化材および現地性の焼土が検出されたが、これらの検出状態からみて当B g 50住居址は焼失を受けたものと考えられる。

床面は攪乱による損傷が目立つが、全体的にほぼ平坦で堅くしまっている。

柱穴は、P₁（径20cm±・深さ68cm±）・P₂（径30cm±・深さ68cm±）・P₃（径30cm±・深さ67cm±）・P₄（径35cm±・深さ76cm±）・P₅（径25cm±・深さ67cm±）の5個で構成されているが、それぞれの位置関係からみて次のような柱穴配置が考えられる。1つはP₁・P₂・P₄・P₅の4個で構成される正方形の配置を示すものであり、もう1つはP₂・P₃・P₄・P₅の4個で構成

され台形状の配置を示すものである。上述の柱穴のほかに床面からP₄(径28cm±・深さ22cm±)・P₅(径23cm±・深さ20cm±)・P₇(径18cm±・深さ47cm±)の柱穴状のピットが検出されている。しかしこれらのピットの性格については不明である。

壁の高さは、北壁66cm±・東壁53cm±・南壁54cm±・西壁67cm±を計る。幅7cm±～15cm±・深さ2cm±～10cm±を計る壁溝は2箇所で部分的に途切れるものの、ほぼ全周する形で壁際を巡っている。

カマドは西壁中央部に位置しており、全長210cm±を計る。カマドの残存状態は良好である。袖部は板状の凝灰岩を芯として斜位に埋置しその周囲をにぶい黄色または黄褐色を呈する粘土質シルトで固める方法で構築されている。燃焼部には2つの使用面が認められる。1つは周辺の床面より3cm±高いレベルにあり、もう1つは4cm±低いレベルにある。これらの使用面下には火熱により層厚8cm±～17cm±を計る橙色～明赤褐色の現地性の焼土が形成されている。煙道部は56cm±×30cmの長方形の扁平な凝灰岩を側壁部・天井部に使用して構築されており、「石室」状の構造となっている。使用されている板状の凝灰岩と凝灰岩の間隙は淡黄色の粘土質シルトで充填されている。燃焼部の上位の使用面に付随する煙道部の底面は緩やかに上昇した後煙出し部で急激な立ちあがりを示す。この煙出し部にはピットは伴わない。また下位の使用面に付随する煙道部の底面は極めて緩やかに遠いあがった後ほぼ平坦となって煙出し部に連続している。この下位の煙出し部には径35cm±・底面からの深さ25cm±を計る円形のピットがみられる。ピット内には淡黄色の粘土質シルトと炭化物を少量含む黒褐色土が互層をなして堆積している。なお煙道部の規模は全長130cm±・最大幅55cm±を計る。

住居址中央部の床面上に径90cm±×65cm±の楕円形状の広がりを出す現地性の焼土が確認された。精査の結果から判断してこの焼土は「地床炉」的な機能を果たしたものと考えられる。

出土遺物 (図版66、67・写真図版114、115)

遺物は床面上や埋土下部などから出土している。

床面上から出土した遺物は16の土製の紡錘車である。この紡錘車は断面形が台形を呈し、全面に入念なヘラミガキが施されている。

カマド燃焼部の使用面上から11の土器が出土した。この土器は体部上半部以上の部位が欠如している甕であり、外面の調整はナデとなっている。

埋土下部から出土した遺物は土器で、環(1～5)・甕(6～10・12)・壺(13)・小型土器(14・15)の器種で構成されている。1～4の環は体部中央部に段を有する平底風のものである。5は段をもたない平底風の環である。4以外の環はすべて内面が黒色処理されている。6～8の甕は長胴形でその内外面にハケ目がみられる。9・10・12の甕は体部上半部以上の部位が欠如しているもので、外面体部下半部にヘラケズリが施されている。13の壺は内外面にハ

ケ目の器面調整がみられるもので、口縁部および底部が欠損している。14・15の小型土器は手捏の技法によって製作されており、胎土に細粒の砂が多く混入しているためザラザラした器面となっている。これまでに述べた埋土下部から出土した土器は層準的に炭化材および現地性の焼土とは同位かやや下位にあたる。

なお以上に記載した土器はすべてロクロ不使用のものである。

B h 50住居址

遺 構 (図版68・写真図版35-b、36-a～d、37-a)

この住居址は第1検出面(Ⅲ層の上面)において確認もれになったため、最終的にその存在が確認されたのはⅣ層の上面である。位置的には前述のB g 50住居址の1m±西隣にあたる。規模は3.2m±×3.0m±を計り、平面形は隅丸方形を呈する。

埋土は黒褐色土層・黒色土層で構成されている。これらの土層中には炭化材が含まれており、特に下位の黒色土層中には多量に分布している。炭化材の検出状態からみてこの住居址は焼失を受けたものと考えられるが、他の焼失住居址とは異なり炭化材とともにみられる現地性の焼土は確認されなかった。

床面は多少凹凸にとみ、軟質なものとなっている。

柱穴配置は不明であるが、規模や位置からみてP₁(径28cm±・深さ30cm±)などで構成されるものと考えられる。このほかに床面中央部寄りに性格不明のピットP₂(径40cm±×25cm±、深さ10cm±)が検出されている。

壁の高さは、北壁32cm±・東壁35cm±・南壁28cm±・西壁29cm±を計る。壁際には壁溝の形跡は全くみられない。

カマドは西壁中央部に位置しており、全長180cm±を計る。カマドの残存状態はやや良好である。軸部は板状の凝灰岩と淡黄色の粘土質シルトで構築されている。凝灰岩は長さ30cm±・厚さ6cm±の大きさのもので、床面から3cm±の深さに斜位の状態で埋置されている。燃焼部はその使用面が周辺の床面よりも2cm±高いレベルにあるものとなっている。この使用面下には火熱により赤褐色を呈する層厚3cm±の現地性の焼土が形成されている。煙道部は燃焼部から煙出し部に向って急な勾配をもって上昇している。煙道部の規模は全長120cm±・最大幅45cm±を計る。煙道部内の埋土は砂質の黄褐色土で構成されている。煙出し部は径35cm±・煙道部底面からの深さ16cm±の規模をもつ円形のピットを伴うものである。このピット内にはよい黄褐色の粘土質シルトで充填されていた。

なお住居址の北東隅の床面上に80cm±×55cm±の隅丸長方形の広がりを示す黄褐色の粘土質シルトが確認された。この粘土質シルトはカマドに使用されているものよりも緻密であり、

厚さは3cm土を計る。

出土遺物 (図版67・写真図版116)

出土遺物は埋土下部から得られた17の土器だけである。

この土器はロクロ不使用の中型の甕であり、その内外面の器面調整は次のようになっている。外面はハケ目後入念なヘラミガキが施されている。内面は実測図ではヘラナデの表現となっているが、これは誤りで実際は密にハケ目が施されている。色調はにぶい黄橙色を示す。

B i 59住居址

遺構 (図版69・70・写真図版37-b、38-a～d)

この住居址はⅢ層の上面で検出されたもので、調査対象区の東側に位置している。規模は4.9m土×4.6m土を計り、平面形は隅丸方形を呈する。

埋土は黒色土層・黒褐色土層で構成されている。住居址南側の埋土下部に炭化材と現地性の焼土が確認された。これらの検出状況から判断して、当B i 59住居址も焼失を受けた可能性が大である。

床面は平坦で堅くしまっている。

柱穴は、P₁(径20cm土・深さ62cm土)・P₂(径21cm土・深さ58cm土)・P₄(径25cm土・深さ66cm土)・P₅(径22cm土・深さ76cm土)の4個で構成され、正方形の配置を示す。以上の柱穴のほかに床面からP₃(径22cm土・深さ19cm土)・P₆(径28cm土・深さ24cm土)の柱穴状のピットが検出されている。しかしこれらのピットの性格については不明である。

壁の高さは、北壁43cm土・東壁49cm土・南壁40cm土・西壁38cm土を計る。幅5cm土～10cm土・深さ3cm土～14cm土の規模をもつ壁溝が断続的な形で各壁に沿って巡っている。

カマドは西壁中央に位置しており、全長195cm土を計る。カマドの残存状態は良好である。袖部は板状の凝灰岩と黄褐色の粘土質シルトで構築されている。凝灰岩は長さ30cm土・厚さ6cm土で、直立および斜位の状態で埋置されている。燃焼部はその使用面が周辺の床面よりも4cm土低いレベルにあるものとなっている。この使用面下には火熱により明赤褐色を呈する層厚8cm土の現地性の焼土が形成されている。煙道部は燃焼部から急上昇した後緩やかに遠いあがって煙出し部に接続している。煙道部内の埋土は炭化物・焼土粒を少量含む黒色土・黒褐色土などで構成されている。煙道部の規模は全長130cm土・最大幅45cm土を計る。煙出し部は径28cm土・煙道部底面からの深さ7cm土の円形のピットを伴うものである。なお左袖部の南側にカマドの天井石として使用されたとと思われる板状の凝灰岩が西壁に斜めにたてかけられていた。このような現象は長瀬A遺跡のB c 12住居址でもみられたことである(写真図版38-d参照)。

当B i 59住居址は原始時代のB j 62陥し穴状遺構と重複関係にあり、この陥し穴状遺構を切

っている。

出土遺物（図版71・写真図版116）

出土遺物は埋土下部から得られた土器（1～3）・石器（4）・古銭（5）である。

土器はいずれもロクロ不使用の甕で、ハケ目の器面調整がみられる。1は口縁部～体部上半部の破片であり、外面にはヘラミガキが施されている。色調は褐色を示す。2・3は木葉痕が残されている底部である。2の場合には底部の周縁部をヘラケズリ調整しているため木葉痕の一部が磨消されている。

4の石器は原始時代の遺物と考えられる磨石である。平面形は楕円形を呈する。

5の古銭は鉄製のものであり、径2.1cm±・厚さ0.3cm±・重量4.1gを計る。中心孔は0.7cm±で方形を呈する。

B j 50住居址

遺構（図版72、73・写真図版39—a～c、40—a～d）

この住居址はⅢ層の上面で検出されたもので、前述のB i 59住居址からみて4m±南西に位置している。規模は5.1m±×4.9m±を計り、平面形は隅丸方形を呈する。

埋土は黒褐色土層・暗褐色土層・褐色土層で構成されている。最上位にある黒褐色土層の上面には灰白色の十和田A降下火山灰が少量みられる。床面直上のレベルに多量の炭化材とともに現地性の焼土が検出された。炭化材および焼土の検出状態から判断してこの住居址は焼失を受けたものと考えられる。

床面はほぼ平坦で僅に軟質なものとなっている。

柱穴は、P₁（径25cm±・深さ54cm±）・P₂（径30cm±・深さ46cm±）・P₃（径30cm±・深さ48cm±）・P₄（径40cm±・深さ46cm±）の4個で構成され、正方形の配置を示す。

壁の高さは、北壁61cm±・東壁47cm±・南壁70cm±・西壁64cm±を計る。西壁部分を除く各壁には幅8cm±～25cm±・深さ3cm±～15cm±の規模の壁溝が設けられている。

カマドは西壁中央部に位置しており、全長220cm±を計る。カマドの残存状態はやや良好である。袖部は板状の凝灰岩と淡黄色や浅黄色の粘土質シルトで構築されている。板状の凝灰岩は芯として使用されており、床面から5cm±～10cm±の深さに直立に埋置されている。燃焼部はその使用面が周辺の床面よりも5cm±高いレベルにあるものとなっている。この使用面下には火熱によりにおい橙色を呈する層厚4cm±の現地性の焼土が形成されている。煙道部は燃焼部から緩やかに上昇した後急斜面を這いあがって、それから先は煙出し部までは下降状態をとっている。煙道部内は黒褐色土・黒色土・暗褐色土などで構成されている。煙道部の規模は全長120cm±・最大幅50cm±を計る。煙出し部は径34cm±×20cm±・煙道部底面からの深さ15cm±

土の楕円形のピットを伴うものである。このピットの下底部から後述する甕が横転した状態で出土している。なお燃焼部の煙道部寄りの部分に粒径9cm土の礫が確認されているが、この礫は支脚の機能を果たしたものと考えられる。

出土遺物 (図版74・写真図版117)

出土遺物は床面上や埋土下部などから得られた土器(1~5)である。

床面上からは4の長胴形の甕が出土している。この甕は口縁部の部分が欠如しているもので、内外面にハケ目が施されている。色調は明赤褐色である。

カマドから得られた4の甕は前述のような出土状態を示す。この甕も長胴形のもので内外面にハケ目が施されている。このうち外面のハケ目は後で加えられたミガキ調整によって磨消されている。4の底部は欠損しているが、土器に残された痕跡からみてこの部分は意識的に打ちかかれたもののようである。外面体部にススと黒斑がみられる。色調はにぶい橙色を示す。

埋土下部からは坏(1)と甕(2・5)が出土した。1の坏は体部に段をもたない平底のものである。外面にハケ目が施されているが、ヘラミガキがその上加えられて部分的に磨消されている。内面はヘラミガキ後黒色処理されている。2の甕は体部中央部にかなり膨らみをもつ点で他の甕と形状が異なる。体部の器面調整は、外面がハケ目+ヘラミガキ、内面がハケ目となっている。色調はにぶい橙色を示す。5の甕も内外面にハケ目がみられる。外面体部にススが付着している。土器全体の色調はにぶい橙色となっている。

これまでに記載した土器はすべてロクロ不使用である。

C b 53-1 住居址

遺 構 (図版75~77・写真図版41-a・b、42-a~c)

この住居址はⅢ層の上面で検出されたもので、調査対象区の中央部寄りに位置している。規模は5.5m±×4.5m±を計り、平面形は隅丸長方形を呈する。

埋土は黒色土層・黒褐色土層・暗褐色土層で構成されているが、このうち下位の土層中にはブロック状の十和田a 降下火山灰が含まれているが、上位にある土層中には含包されていない。床面直上のレベルで7箇所(1)に現地性の焼土が検出されており、またそれとともにカマド周辺の同一レベルから炭化材が少量出土している。これらの現地性の焼土や炭化材の検出状態から考えて、この住居址も焼失を受けた可能性が認められる。

床面は大半が貼床であるが、全体的に平坦でやや堅くしまっている。貼床は後述のC b 53-2住居址と重複する部分にブロック状の十和田a 降下火山灰を含む黒褐色土や暗褐色土などの

土を充填して形成されている。

柱穴およびそれに類するものは、住居址内から検出されなかった。したがって柱穴配置は不明である。

南壁・西壁の一部はC b 53-2住居址の壁を再利用している。壁の高さは、北壁55cm土・東壁45cm土・南壁55cm土・西壁60cm土を計る。壁溝は東壁際で一部途切れているものの、ほぼ全周する形で巡っている。壁溝の規模は幅15cm土～25cm土・深さ10cm土～20cm土を計る。

カマドは東壁の南側に偏った位置にあり、全長300cm土を計る。カマドの残存状態は比較的良好である。袖部・燃焼部・煙道部などのそれぞれの部位に板状の凝灰岩が多用されている点はこのカマドの大きな特徴である。袖部は凝灰岩とにんい黄褐色の粘土質シルトで構築されている。凝灰岩は袖部の芯として使用されており、直立の状態に埋置されている。燃焼部はその使用面が周辺の床面とほぼ同じレベルにあるものとなっている。この使用面下には火熱により層厚18cm土を計る橙色の現地性の焼土が形成されている。煙道部は側壁部・天井部に板状の凝灰岩が使用され「石室」状の構造を呈している。下底部は燃焼部から煙出し部に向けて緩やかに上昇している。煙道部内の埋土は黒色土・暗褐色土・褐色土などで構成されている。煙道部の規模は全長220cm土・最大幅80cm土を計る。煙出し部は径40cm土・煙道部底面からの深さ33cm土の円形のピットを伴うものである。このピット内にはいんい黄色の粘土質シルトで充填されていた。

住居址の北東隅に確認された貯蔵穴状のピットは、開口部135cm土×110cm土・底部88cm土×55cm土・深さ63cm土の規模をもち隅丸長方形の平面形を呈する。断面形は浅いピーカー形を示す。このピット内の埋土は黒褐色土・黒色土・暗褐色土で構成されているが、上位にある黒褐色土(a)・黒色土(b)にのみブロック状の十和田a降下火山灰が含まれている。

なお住居址の南西隅の床面上に黄褐色の粘土質シルト塊が検出されている。この粘土質シルトはカマドに使用されているものと同じ性状を示す。

出土遺物 (図版78、79・写真図版118、119)

遺物はカマドや埋土下部から出土している。

カマドからの出土遺物は土器(4・6・8・9)と鉄器(11)である。土器の器種はすべて甕であるが、ロクロを使用していないもの(4・6)とロクロを使用しているもの(8・9)とに分けられる。4・6の外面上には非常に粗いヘラケズリが施されており、それがこれらの土器の特徴ともなっている。8は口唇部が直立している長胴形のもので外面体部下半部にヘラケズリがみられる。9は器壁が極めて薄い小型の甕である。この底部の切り離し技法は回転糸切りであるが、一度切り離しに失敗し粘土を貼り付けた後再度切り離しが行われた痕跡がみられる。11の鉄器は刃部から基部までが完全にそろっている刀子である。この刀子は最大長14.7cm土・最大幅1.3cm土・最大厚0.4cm土を計る。

埋土下部からはロクロ使用の坏(1・2)・ロクロ不使用の甕(3・7)および盤(10)の器種の土器が出土している。1・2の坏は回転糸切り後底部外縁～体部最下部に手もちのヘラケズリによる再調整が施されている。いずれの内面も黒色処理されている。3は外面体部に粗いヘラケズリがみられる長胴形の甕である。7の甕にも粗いヘラケズリの調整がみられる。10の盤は口径31.0cm土のもので、外面がヘラケズリ、内面がヨコナデの器面調整となっている。外面に多量のススが付着している。色調は黒色を示す。

C b 53-2 住居址

遺構 (図版80・写真図版43-a～c)

この住居址はC b 53-1 住居址の貼床を掘り下げた際にその存在が確認されたもので、C b 53-1 住居址に先行する住居址である。規模は3.9m土×3.6m土を計り、平面形は隅丸方形を呈する。

埋土はC b 53-1 住居址の貼床を形成する際に投入された土で、ブロック状の十和田a 降下火山灰を含む黒褐色土・暗褐色土などから構成されている。

床面はほぼ平坦で堅くしまっている。

柱穴およびそれに類するものは全く検出されなかった。

当住居址の床面とC b 53-1 住居址の床面との比高は、北壁で26cm土・東壁23cm土を計る。壁溝は北壁際のみ認められる。その規模は幅13cm土～20cm土・深さ5cm土～12cm土である。

カマドは東壁の南側部分に位置している。カマドで残存しているのは煙道部の一部と煙出し部だけである。煙道部内の埋土は焼土粒を多量に含む明褐色土・橙色土・明赤褐色土などで構成されている。これらの一部にブロック状の十和田a 降下火山灰が混入している。煙出し部は径30cm土・煙道部底面からの深さ7cm土を計る円形のピットを伴うものである。

住居址の南西隅に平面形が隅丸長方形を呈する貯蔵穴状のピットが検出された。このピットは開口部230cm土×195cm土・底部205cm土×160cm土・深さ90cm土の規模をもち、断面形がビーカー形を示すものである。ピット内の埋土は褐色土・ぶい黄褐色土・黄褐色土で構成されている。これらのうち上部にみられる褐色土にだけブロック状の十和田a 降下火山灰が包含されている。

出土遺物 (図版81)

出土遺物はカマドや埋土下部などから得られている。

カマドの煙道部の埋土中から長胴形の甕の破片(1・2)が出土している。どちらもロクロ不使用であり、外面の体部に粗いヘラケズリ後に施されたヘラナデ調整がみられる。色調は橙色(1)・ぶい赤褐色(2)を示す。

埋土下部から出土した土器(3)もロゴロ不使用のもので、やや小型の甕である。外面体部に施されているヘラケズリ・ナデは粗い調整である。色調は褐灰色を示す。

以上の土器のほかに東壁寄りの床面上から竈の羽口の細片と鉾澤が出土している。なお上述した貯蔵穴状のピット内の上部からも鉾澤が微量に出土している。

C b 59住居址

遺構(図版82、83・写真図版44-a~c、45-a・b)

この住居址はⅢ層の上面で検出されたもので、前述のB i 59住居址からみて2m±南側に位置している。規模は5.6m±×5.2m±を計り、平面形は隅丸方形を呈する。

埋土の上位に「レンズ」状に堆積した明黄褐色の十和田a降下火山灰層がみられる。層厚は25cm±を計る。これより下位の埋土は炭化物を多量に含む黒褐色土層・暗褐色土層で構成されている。

床面は攪乱によって破損しているが、全体的にほぼ平坦で堅くしまっている。

柱穴は、P₁(径45cm±・深さ73cm±)・P₂(径50cm±・深さ68cm±)・P₃(径39cm±・深さ79cm±)・P₄(径45cm±・深さ73cm±)の4個で構成され、正方形の配置を示す。

壁の高さは、北壁76cm±・東壁76cm±・南壁61cm±・西壁48cm±を計る。壁溝は検出されなかった。

カマドは西壁中央部に位置しており、全長230cm±を計る。カマドの残存状態は不良であり、袖部などは極一部分が遺存しているにすぎない。袖部は残存部分の状況から推定して板状の凝灰岩と粘土質シルトで構築されていたものと考えられる。燃焼部はその使用面が周辺の床面よりも5cm±低いレベルにあるものとなっている。この使用面下には火熱により層厚8cm±を計る橙色の現地性の焼土が形成されている。煙道部の下底部は燃焼部から途中までは平坦でそれ以後はやや急なぼり勾配となって煙出し部に接続している。煙道部内の埋土は黒色土・暗褐色土などで構成されているが、中にこの部位の天井部を形成していたと思われるにぶい黄橙色~にぶい黄褐色の粘土質シルトがみられる。煙道部の規模は全長160cm±・最大幅70cm±を計る。煙出し部には径35cm±・煙道部底面からの深さ30cm±の円形のピットが伴う。

出土遺物(図版84、85・写真図版120、121)

出土遺物は床面上や埋土下部から得られている。

床面上からは土製品類が出土しており、紡錘車3点(16~18)・勾玉2点(19・20)・土玉2点(21・22)となっている。紡錘車の断面形は、台形(16)・不整な長方形(17)・楕円形(18)を示しそれぞれ異なる。19・20の勾玉はいずれも三日月形の平面形を呈し、孔が設けられている先端部が欠損している。22は土玉の小破片である。

埋土下部からは坏(1~6)・甕(7~13)・壺(14)・小型土器(15)の器種からなる土器が出土している。坏は体部に段をもつもの(1~5)と段をもたないもの(6)とに大別できる。前者に属する坏はすべて内面が黒色処理されている。底部の形態は1~4が平底風で、5は完全な平底となっている。5の外面部にハケ目がみられる。6は巻き上げ痕が明瞭に残されている坏である。この坏の底部の形態は明らかではないが、残存部から推測して平底の可能性が考えられる。ほとんどの甕に器面調整として施されたハケ目がみられる。9・10はやや小型の甕で赤褐色~明赤褐色の色調を示すものである。9の口唇部は直立している。14の壺にも器面調整としてハケ目が施されている。15の小型土器は手捏によって成形されており、内外面に指痕が残されている。この胎土に細粒の砂が多く含まれているために器表面がザラザラした感じとなっている。色調はにぶい黄橙色を示す。なお以上の土器はいずれもロクロ不使用のものである。

Cd59住居址

遺構(図版86・写真図版45-c、46-a~c)

この住居址はⅢ層の上面で検出されたもので、調査対象区中央部の東側に位置している。規模は5.1m土×4.7m土を計り、平面形は隅丸長方形形状を呈する。

埋土は黒褐色土層・黒色土層・暗褐色土層で構成されている。最上位にみられる黒褐色土層の上面に十和田a降下火山灰が少量堆積している。

床面は平坦で堅くしまっている。特に住居址中央部からカマド周辺の部分が堅緻である。

柱穴およびそれに類するピットは検出されなかった。

壁の高さは、北壁47cm土・東壁55cm土・南壁47cm土・西壁48cm土を計る。壁溝は確認されなかった。

カマドは西壁中央部に位置しており、全長205cm土を計る。カマドの残存状態はやや不良である。袖部は板状の凝灰岩とにぶい黄橙色~浅黄色の粘土質シルトで構築されている。凝灰岩は芯として使用されており、床面から10cm土の深さに直立の状態で埋置されている。燃焼部の使用面は周辺の床面と同レベルにある。この使用面下には火熱により層厚5cm土を計るにぶい褐色の現地性の焼土が形成されている。煙道部の下底部は燃焼部から緩やかに上昇して煙出し部に接続している。煙道部内の埋土は黒色土・褐色土・黒褐色土などで構成されている。上部にみられる明黄褐色の粘土質シルトはこの部位の天井部を形成しているものと考えられる。煙道部の規模は全長125cm土・最大幅60cm土を計る。煙出し部は径25cm土・煙道部底面からの深さ20cm土の円形のピットを伴うものであり、このピットから西側の部分はさらに奥に挟りこまれている。ピット内は浅黄色の粘土質シルトと黒色の砂質シルトで充填されていた。なお燃焼

部の使用面の下には、径80cm±の円形の掘り方が確認されている。

出土遺物（図版89・写真図版122）

出土遺物は床面上や埋土下部から得られている。

床面上からは鉄器が1点（3）出土している。この鉄器は基部の木質部分が残存している刀子である。基部は長さ9.3cm±で、刃部は長さ10cm±・最大幅1.2cm±・最大厚0.6cm±となっている。

埋土下部からは土器（1・2）が出土している。1は体部下半部に段を有する丸底の坏である。底部外面にはヘラケズリが施されており、内面はヘラミガキ後黒色処理されている。2は内外面にハケ目が施されている甕で、体部上半部以上の部位が欠如しているものである。これらはどちらもロクロ不使用の土器である。

Cg50住居址

遺構（図版87、88・写真図版47—a～c、48—a・b、49—a・b）

この住居址はⅢ層の上面で検出されたもので、調査対象区の中央部に位置している。規模は6.3m±×6.1m±を計り、平面形は隅丸方形を呈する。

埋土の上部に「レンズ」状に堆積した灰白色の十和田a降下火山灰層がみられる。この火山灰層の層厚は25cm±である。これより下位の埋土は炭化物を含む黒色土層・黒褐色土層で構成されている。床面上および床面直上のレベルから多量の炭化材とともに現地性の焼土が検出された。これらの炭化材や現地性の焼土の在り方からみて、この住居址は焼失を受けたものと考えられる。

床面は平坦で堅くしまっている。

柱穴は、P₁（径30cm±・深さ60cm±）・P₆（径22cm±・深さ48cm±）・P₁₄（径27cm±・深さ75cm±）・北西隅寄り存在したと考えられる仮想柱穴P_xの4個で構成され、長方形の配置を示す。以上の柱穴のほかに住居址内からP₂（径28cm±・深さ10cm±）・P₃（径25cm±・深さ13cm±）・P₄（径25cm±・深さ10cm±）・P₅（径40cm±・深さ17cm±）・P₇（径22cm±・深さ17cm±）・P₈（径33cm±・深さ17cm±）・P₉（径30cm±・深さ14cm±）・P₁₀（径20cm±・深さ31cm±）・P₁₁（径10cm±・深さ10cm±）・P₁₂（径19cm±・深さ18cm±）・P₁₃（径13cm±・深さ11cm±）・P₁₅（径15cm±・深さ6cm±）・P₁₇（径20cm±・深さ8cm±）の柱穴状のピット群が検出されている。しかしこれらのピット群の性格については不明である。

壁の高さは、北壁44cm±・東壁52cm±・南壁63cm±・西壁55cm±を計る。北壁の一部は電柱によって破壊されている。壁溝は西壁の一部を除くそれぞれの壁に沿って設けられている。壁溝の規模は幅10cm±～18cm±・深さ3cm±～10cm±を計る。

カマドは西壁中央部に位置しており、全長270cm±を計る。カマドの残存状態は比較的良好である。袖部は板状の凝灰岩と浅黄色の粘土質シルトで構築されている。燃烧部の使用面は周辺の床面より6cm±低いレベルにあり、かなり凹凸が認められる。この使用面下には火熱により層厚5cm±で赤褐色を呈する現地性の焼土が形成されている。煙道部の下底部は燃烧部から煙出し部に向って急傾斜している。煙道部内の埋土は黒褐色土・黒色土・暗褐色土などで構成されている。煙出し部は径33cm±・煙道部の底面からの深さ40cm±の円形のピットが伴うものである。このピットの上に浅黄褐色の粘土質シルト塊が認められた。なお燃烧部の使用面の下には断面形が皿形を示す掘り方が存在している。

カマドの右袖部の脇に貯蔵穴状のピットが確認された。このピットは開口部径88cm±×52cm±・底部径47cm±×30cm±・深さ10cm±の規模をもち、平面形が楕円形を示す。また断面形は皿形を呈する。

この住居址は原始時代のC g 50ピットと重複関係にある。

出土遺物 (図版89・写真図版122、123)

出土遺物は床面上や埋土下部から得られている。

床面上からは土器(11・12)が出土している。11・12は須恵器の甕の破片であり、外面にのみ叩き目がみられる。色調は青黒色を示す。

埋土下部からは土器(4~10)と土製品(13~22)が出土している。4はロクロ不使用の平底の坏で、体部には段がみられない。体部外面の器面調整はハケ目後にナデが施されている。内面はヘラナデとなっている。内外面に巻き上げ痕が観察できる。底部には木葉痕が不明瞭であるが認められる。色調はにぶい褐色を示す。5・6は須恵器の坏の破片である。5の底部の切り離しは断定できないが、回転ヘラ切りと思われる。6の底部切り離し技法は静止ヘラ切りである。6の場合には切り離し後底部外縁に指ナデによる再調整が施されている。色調は灰色(5)・灰黄色(6)を示す。7・8はロクロ不使用の甕で、体部上半部以上の部位が欠如している。いずれの内面にも一部ハケ目の調整がみられる。色調はにぶい褐色(7)・にぶい褐色(8)を示す。9は須恵器の甕の口縁破片で、黒褐色の色調を示す。10は須恵器の甕の破片であり、色調は灰褐色である。13~22の土製品は、平面形が円形の土玉である。13は断面形が扁平で、色調がにぶい褐色を示す点で他のものと異なる。14~22の色調は黒色や黒褐色となっている。

C i 06住居址

遺構 (図版90・写真図版49-c、50-a・b)

この住居址はⅢ層の上面で検出されたもので、C j 06住居址とは重複関係にある。このC j

06住居址によって東側部分が破壊され損失しているため、当住居址の規模・形状を正確に把握することは困難である。しかし残存部から推定して、一辺が3.1m±の不整な隅丸方形を呈するものと考えられる。

埋土は極暗褐色土層・黒色土層・黒褐色土層・暗褐色土層で構成されている。埋土の上位にあたる土層中にはブロック状の十和田a降下火山灰が少量包含されている。

床面は多少起伏が認められ、僅に軟質なものとなっている。

柱穴およびそれに類するピットは住居址内に検出されなかった。

壁の高さは、北壁40cm±・南壁41cm±・西壁40cm±を計る。壁溝はみられない。

カマドは西壁中央部に位置している。袖部や燃烧部の実態が不明であるため、このカマドの規模を正確に把握することはできない。煙道部はトンネル式の構造であり、その下底部は煙出し部に向かって急傾斜している。煙道部内の埋土は黒褐色土・暗褐色土・黒色土で構成されている。煙道部の規模は全長113cm±・最大幅40cm±を計る。煙出し部は円柱状の構造を示すもので、下部に径30cm±・煙道部底面からの深さ43cm±の円形を呈するピットを伴っている。Ⅲ層上面における開口部は径30cm±の孔となっている。なおカマド寄りの床面直上に確認された淡黄色の粘土質シルト塊はカマドの袖部などに使用されていたものと思われる。

出土遺物

埋土中からロクロ不使用の甕の破片が出土しているが、実測不可能な細片ばかりである。このほかに縄文の土器片も得られている。

C J 06住居址

遺構（図版91・写真図版50-c、51-a～c）

この住居址はⅢ層の上面で検出されたもので、前述のC i 06住居址を切りこんで構築されている。平面形は一辺が2.8m±の隅丸方形を呈する。

埋土はブロック状の十和田a降下火山灰を多量に含む黒褐色土層・暗褐色土層で構成されている。

床面は電柱の掘り方などによる擾乱を受けているせいもあって全体的に凹凸が目立ち、やや軟質なものとなっている。

柱穴およびそれに類する小ピットは検出されなかった。

壁の高さは、北壁40cm±・東壁35cm±・南壁42cm±・西壁45cm±を計る。壁溝は存在しない。

カマドは北壁の東側に偏った位置にある。袖部のうち右側の部分は全く欠如している。残存部の袖部にはふい黄橙色の粘土質シルトでのみ構築されている。燃烧部の使用面は上下2面認められる。上位のものは周辺の床面と同じレベルにあり、下位のものは周辺の床面よりも5cm

土低いレベルにある。これらの使用面下には火熱により層厚5cm±~7cm±を計る明褐色~橙色の現地性の焼土が形成されている。上位の使用面に付随する煙道部の下底部は燃焼部から急上昇してコブを乗り越えた後煙出し部に向って緩やかに遠いあがっている。また下位の使用面に付随する煙道部の下底部は燃焼部から緩やかな状態で上昇している。煙出し部は攪乱を受けて消失しているため、その形態は全く不明である。

住居址の南西部分に貯蔵穴状のピットが確認された。このピットは開口部170cm±×130cm±・底部125cm±×103cm±・深さ46cm±の規模をもち、隅丸長方形の平面形を示す。断面形は浅いピーカー形を呈する。ピット内の埋土はブロック状の十和田a降下火山灰を多く含む黒褐色土・黒色土・灰褐色土で構成されている。これらの土にはこのほかに炭化物・焼土粒・礫などが含まれている。最下部に堆積している灰褐色土には灰状の物質も含まれている。

出土遺物 (図版93・写真図版123)

出土遺物はカマドと埋土下部から得られている。

カマドの燃焼部の使用面上から坏が1点(1)出土している。この坏はロクロ成形のもので、底部は回転糸切り後ヘラケズリによる再調整が施されている。黒色処理がなされている内面には油性をおびた漆状の付着物が認められる。色調は黒褐色を呈する。

埋土下部はロクロ成形の坏の破片(2)が出土している。2の底部も回転糸切り後その外縁部分が指ナデによって再調整されている。内面は入念なヘラミガキが行なわれた上で黒色処理されている。色調は灰黄褐色を示す。

D a 50住居址

遺構 (図版92・写真図版52-a~c)

この住居址はⅢ層の上面で検出されたもので、調査対象区の中央部寄りに位置している。規模は3.5m±×3.3m±を計り、平面形は不整な隅丸方形を呈する。

埋土は黒褐色土層・黒色土層・極暗褐色土層・暗褐色土層で構成されている。

床面は平坦で堅くしまっている。

柱穴は検出されなかった。住居址の周辺にみられる柱穴状のピットはいずれも攪乱穴である。

壁の高さは、北壁29cm±・東壁38cm±・南壁34cm±・西壁26cm±を計る。壁溝は確認されなかった。

この住居址にはカマドは布設されていないが、北壁の西側の隅の張り出し部に伊が設けられている。炉は地床炉の形態を示すもので、径80cm±の円形の使用面をもっている。この使用面

には火熱により層厚12cm±の橙色の現地性の焼土が形成されている。なお張り出し部は径150cm±×110cm±の楕円形の形状を呈し、その底面は住居址の床面と同じレベルで連続している。

出土遺物（図版93・写真図版123）

出土遺物は炉と埋土下部から得られている。

炉の使用面上から出土した遺物は4の土器であり、輪積みの技法によって成形されている。部分的な破片であるためこの土器の器種を断定することはできないが、図上復元によって求められた器形の状況や内外面にスガが認められることなどから推測して、小型の甕ではないかと考えられる。外面の器面調整はヨコナデ+粗いヘラケズリであり、内面のはハケ目+ナデとなっている。色調は橙色を示す。

埋土下部からは3の甕が出土している。この甕もロクロ不使用で輪積み成形の技法によって製作されている。器面調整は外面がヘラケズリ、内面がハケ目となっている。底部には木葉痕が残されている。色調は橙色である。

D a 62住居址

遺構（図版94～97・写真図版53-a～c、54-a～c、55-a～d）

この住居址はⅢ層の上面で検出されたもので、調査対象区中央部寄りに位置している。住居址の東側半分ほどがルート外にあるため正確な規模・形状を把握できないが、精査された部分から推定して、長軸の長さが6.5m±の隅丸長方形を呈するものと考えられる。

埋土は黒色土層・黒褐色土層・暗褐色土層などで構成されている。これらの土層のうち中位から下位に存在している黒褐色土層や暗褐色土層にはブロック状の十和田a降下火山灰が含まれている。壁際沿いの床面直上に少量の炭化材とともに現地性の焼土が検出された。これらの検出状態からみて、当D a 62住居址も焼失を受けたものと考えられる。

床面はほぼ平坦で、大変堅くしまっている。

柱穴としてはP₁（径25cm±・深さ49cm±）・P₂（径25cm±・深さ47cm±）の2個が検出されている。全体の柱穴配置については不明である。

壁の高さは、北壁49cm±・南壁49cm±・西壁62cm±を計る。壁溝は認められない。

この住居址には新旧2基のカマドが構築されている。記述の都合上ここでこの新旧のカマドに1号・2号の名称を付す。

1号カマドは北壁の西側に偏った位置にあり、全長260cm±を計る。左側の袖部は全く欠如しているが、このほかの部位の残存状態は良好である。逸存している右袖部は明黄褐色～浅黄色などの粘土質シルトで構築されている。燃焼部の使用面は周辺の床面とほぼ同じレベルにある。この使用面下には火熱により橙色～赤褐色で層厚10cm±の現地性の焼土が形成されている。

煙道部は燃焼部から緩やかな状態で煙出し部に向かって上昇している。煙道部内の埋土には炭化物や焼土粒のほかにはブロック状の十和田a 降下火山灰が混入している。煙出し部は板状の花崗岩類で「石囲炉」状の形に作られている。煙道部の下には燃焼部から煙出し部に向かって急傾斜する掘り方が確認されたが、この部分に堆積している埋土の性状からみてあるいは古い煙道部の下部構造を構成していたものかもしれない。なお煙道部の規模は全長270cm±・最大幅95cm±を計る。

2号カマドは南壁の西側に偏った位置にある。残存しているのは煙道部より先端部の部位だけである。煙道部の下底部は煙出し部に向かって緩やかに上昇している。この部位の埋土は黒褐色土・暗褐色土・極暗褐色土などで構成されており、このうち黒褐色土の中にはブロック状の十和田a 降下火山灰が含まれている。また煙出し部寄りの下位には褐色を呈する焼土層が認められた。煙道部の規模は全長150cm±・最大幅73cm±を計る。煙出し部はピットを伴わず直立に近い状態で立ちあがっている。これらの部位の下部に黒褐色土で充填された掘り方が存在している。

2号カマド寄りの床面上に貯蔵穴状のピット(P₂)が検出された。P₂は開口部150cm±×100cm±・底部110cm±×58cm±・深さ43cm±の規模をもち、隅丸長方形の平面形を呈する。ピット内の埋土はブロック状の十和田a 降下火山灰を含む黒褐色土や焼土粒を含む灰褐色土などで構成されている。埋土の中間部に黄褐色の色調を示す焼土層がみられる。底面はやや起伏があり軟質なものとなっている。

出土遺物 (図版98、99・写真図版124、125)

出土遺物はカマドや埋土下部から得られている。

カマドの燃焼部の使用面上から2の土器が出土している。この土器はロクロ不使用の長胴形の変であり、色調はにぶい黄橙色を示す。

埋土下部からは土器(1・3~10)・鉄器(11~13)・土製品(14)が出土している。1はロクロ不使用の坏で、内外面に粗いナデ調整が施されている。3~9はロクロ不使用の変であり、色調は橙色~赤褐色を示す。7の変は歪な器形をしており、外面にみられるヘラケズリは大変粗いものとなっている。10は褐灰色を呈する須恵器の変である。出土した鉄器は鎌1点(11)と刀子2点(12・13)である。11の鎌は刃部の一部が破損しているものの残存状態は比較的良好である。12の刀子は完全な形であるが、13は刃部および基部の一部分が欠損している。14は土製の紡錘車であり、断面形が台形を呈する。全面に渡って入念なミガキ調整が施されている。

以上に記述した土器の中で底部に圧痕がみられるものは、1(木葉痕)・4(木葉痕)・8(窪目)・9(木葉痕)の4点である。

Dc03住居址

遺構 (図版100・写真図版56-a~c、57-a~c)

この住居址はⅢ層の上面で検出されたもので、後述のDc09住居址に切られている。規模は4.8m土×4.2m土を計り、平面形は隅丸長形状を呈する。

埋土の最上部に灰白色の十和田a降下火山灰層が断続的な状態で観察される。この火山灰層の最大厚は10cm土を計る。これより下位の埋土は黒色土層・黒褐色土層・暗褐色土層などで構成されている。南壁寄りの床面直上に微量の炭化材とともに小規模な現地性の焼土が検出されているが、それらの状態から判断してこの住居址が焼失を受けたことは認め難い。

床面はかなり堅く踏みしめられているが、全体的にやや凹凸が認められる。床面が大変堅緻であるため埋土との「肌わかれ」現象がみられた。

住居址内に検出された柱穴状のピット群の中で「柱穴」として明確に断言できるものはないが、位置や規模から考えて次のピットが「柱穴」を構成する可能性をもっている。P₂(径20cm土・深さ34cm土)・P₃(径32cm土・深さ25cm土)・P₁₀(径23cm土・深さ27cm土)・P₁₇(径20cm土・深さ28cm土)の4個のピットであり、これらは台形状に配置されている。このほかの柱穴のピットは、P₁(径18cm土・深さ11cm土)・P₄(径20cm土・深さ11cm土)・P₅(径20cm土・深さ11cm土)・P₆(径18cm土・深さ11cm土)・P₇(径20cm土・深さ13cm土)・P₈(径32cm土・深さ23cm土)・P₉(径25cm土・深さ25cm土)・P₁₁(径20cm土・深さ16cm土)・P₁₂(径25cm土・深さ18cm土)・P₁₃(径20cm土・深さ30cm土)・P₁₄(径20cm土・深さ28cm土)・P₁₅(径20cm土・深さ17cm土)・P₁₆(径18cm土・深さ14cm土)の規模を示す。これらのピット群の性格については不明である。

壁の高さは、北壁60cm土・東壁58cm土・南壁55cm土・西壁56cm土を計る。壁溝は北壁および東壁の一部に設けられており、幅10cm土~15cm土・深さ5cm土~10cm土の規模である。

カマドは西壁の中央部よりやや北側に偏った位置にある。袖部にはよい黄色・淡黄色の粘土質シルトで構築されている。燃焼部の使用面は周辺の床面と同じレベルにある。この使用面下には火熱によりよい橙色・明赤褐色で層厚8cm土~15cm土を計る現地性の焼土が形成されている。煙道部の下底部は燃焼部から比較的急な勾配で上昇した後やや起伏をもって煙出し部方向へのびている。煙道部内の埋土は炭化物・焼土粒を含む暗褐色土・暗褐色土などで構成されている。煙出し部はDc09住居址によって破壊されているために、その形態は不明である。

出土遺物 (図版101、102・写真図版126、127)

出土遺物は床面上や埋土下部などから得られたロクロ不使用の土器である。

床面上から出土した土器の器種は、坏(1・2)・甕(5・6・8)・壺(11)である。1・2の坏は体部中央部に段を有するもので、底部の形態は丸底である。内面は入念なヘラミガ

キが施された後黒色処理されている。5・6・8の甕は長胴形で、外面体部に加えられたハケ目がヘラミガキによって磨消されているものである。いずれも口縁部や体部の外面にススが付着している。11の壺の体部外面に施されたハケ目もヘラミガキによって磨消されている。

カマドの煙道部内からは10の甕が出土している。内外面にハケ目がみられる。

埋土下部から出土した土器の器種は、坏（3・4）・甕（7）・壺（10）である。3は体部上半部に、また4は体部中央部にそれぞれ段を有する坏である。どちらも底部が丸底で、内面が黒色処理されている。7は体部の内外面にハケ目が施されている長胴形の甕である。10の壺も体部内外面にハケ目がみられる。

以上に述べた土器は概ね次の色調を示している。坏は暗褐色～にぶい橙色、甕は灰黄褐色～明黄褐色、壺は明赤褐色～橙色、となっている。

D c 09住居址

遺構（図版103～106・写真図版58-a・b、59-a～c）

この住居址はⅢ層の上面で検出されたもので、前述のD c 03住居址および原始時代のD b 12陥し穴状遺構と重複関係をもっておりこれらの遺構を切りこんでいる。一辺が5.0m±の隅丸方形を呈する。

埋土はブロック状の十和田a降下火山灰を含む黒色土層・黒褐色土層・暗褐色土層などで構成されている。床面直上のレベルに多量の現地性の焼土とともに炭化材が検出されたことからみてこの住居址も焼失を受けたものと考えられる。しかし形成されている焼土の多さに比べて炭化材の量が極めて少ない点で、他の焼失住居址の状況と著しく異なる。

床面は掘り方の部分にブロック状の十和田a降下火山灰や炭化物を含む黒色土を敷き詰めて形成された貼床である。この貼床は起伏が目立ち、大変堅くしまっている。

床面からP₁・P₂・P₄・P₆・P₇の柱穴状のピットが検出されているが、極めて浅く配置状況などからみても「柱穴」を構成するものとは思われない。

壁の高さは、北壁52cm±・東壁63cm±・南壁55cm±・西壁43cm±を計る。貼床の面では壁溝は認められなかったが、この床下に幅15cm±・深さ10cm±の壁溝が確認された。

当住居址には新旧2蓋のカマドが構築されている。記述の都合上ここでこの新旧のカマドに1号・2号の名称を付す。

1号カマドは東壁の北側に偏った位置にあり、全長285cm±を計る。カマドの残存状態はやや良好である。袖部は褐色・黄褐色の粘土質シルトで構築されている。燃焼部の使用面は上下2面が存在しており、上位のものは周辺の床面よりも5cm±高いレベルにあり、下位のもの周辺の床面と同レベルか僅に高いものとなっている。これらの使用面下には火熱により橙色・

明赤褐色を呈し層厚5cm±~17cm±を計る現地性の焼土がみられる。上位の使用面に付随する煙道部は板状の凝灰岩を側壁部に立てその上にさらに凝灰岩を渡す「石室」状の構造をもっている。煙道部の下底部は燃焼部から煙出し部に向かって急上昇している。この部位の埋土は暗褐色土・褐色土・黒褐色土などで構成されている。煙出し部は径40cm±・煙道部底面からの深さ16cm±の円形のピットを伴う。下位の使用面に付随する下底部は燃焼部から煙出し部に向かって下降している。煙出し部はピットを伴わずオーバー・ハンク状に立ちあがっている。この煙出し部の上方に明赤褐色~橙色の色調を示す焼土層が数層介在している。

2号カマドは西壁の中央部の位置に設けられているが、本来の形を止めているのは煙出し部から先端の部分だけである。袖部は全く残存しておらずその詳細は不明である。燃焼部の使用面は西壁から70cm±東側の位置にあり、周辺の床面より僅かに低く凹んでいる。この使用面下には火熱により明赤褐色を示す層厚17cm±の現地性の焼土が形成されている。煙道部はトンネル式の構造をもつもので、全長130cm±・最大幅55cm±を計る。下底部は斜め上方に開口する煙出し部に向かって下降している。煙出し部の皿層上面における孔は径47cm±×34cm±の楕円形を呈する。なお煙道部内の埋土は黒色土・褐色土・ぶい黄褐色土などで構成されている。

1号カマド寄りの床面上に貯蔵穴状のピット(P_a)が検出された。P_aは開口部径120cm±×80cm±・底部径75cm±×48cm±・深さ52cm±の規模を計り、楕円形状の平面形をもつ。断面形は浅いピーカー形を示す。ピット内の埋土を構成しているのは黒褐色土・暗褐色土・黒色土である。

2号カマド寄りの床面上にあるP_aはこのカマドの燃焼部の掘り方にあたる。

出土遺物 (図版107、108・写真図版128、129)

出土遺物は床面上・カマド・埋土下部などから得られている。

床面上からは土器(2・4)と鉄器(11・12)が出土している。2はロクロ不使用の甕であり、外面体部の器面調整は粗いヘラケズリとなっている。4はロクロ使用の甕でその胎土は2のものに比べて大変緻密である。11・12の鉄器は2点とも鉄鏝である。11は破損しているものの鐵身から莖部までが完全にそろっている。また12は莖部のみで鐵身が欠如している。

カマドから出土した土器(3・5・7)はすべて1号カマドから得られたものである。3は袖部の脇から出土したロクロ不使用の甕で底部に木葉痕がみられる。5・7は上位の煙道部の埋土中から出土したロクロ使用の甕である。

埋土下部から出土した土器は、坏(1)・甕(6)・壺(8~10)の器種からなる。1の坏はロクロ使用のもので回転糸切り後底部外縁が手もちのヘラケズリによって再調整されている。6はロクロを使用して成形された小型の甕である。8~10の壺は須恵器であり、褐灰色~灰黄褐色の色調を示す。8の口縁部分には自然釉のかぶりが見られる。

以上の遺物のほかに、床面上・P₃・埋土下部から鉾澤が出土している。

D d 53住居址

遺 構 (図版109～111・写真図版60—a～c、61—a・b、62—a～f、63—a～d)

この住居址はⅢ層の上面で検出されたもので、前述のD c 03住居址の東側に位置しており両住居址間の距離は50cm±と極めて近接している。規模は5.7m±×5.0m±を計り、平面形は隅丸長方形を呈する。

埋土の上部に十和田a降下火山灰層が「レンズ」状に堆積しており、色相によって次のように上下に2分できる。上位の部分は灰黄褐色を呈し最大厚5cm±を計る。また下位の部分は最大厚20cm±で灰白色となっている。これより下位の埋土は炭化物や焼土を含む極暗褐色土層・黒色土層・黒褐色土層・暗褐色土層などで構成されている。床面直上のレベルに多量の炭化材と現地性の焼土が検出された。炭化材の遺存状態は良好であるため、ある程度用材の組み方が把握できた。炭化材や現地性の焼土の検出状態からみて、この住居址も焼失を受けたことは確実である。これらの炭化材や焼土の上から写真図版62—a～fなどに示されているように多量の土器群が出土した。

床面はほぼ平坦で軟質なものとなっている。

柱穴は、P₁(径45cm±・深さ70cm±)・P₄(径40cm±・深さ80cm±)・P₅(径45cm±・深さ70cm±)・P₆(径40cm±・深さ70cm±)の4個で構成され、長方形の配置を示す。以上の柱穴のほかに床面からP₇(径25cm±・深さ21cm±)・P₈(径30cm±・深さ22cm±)の柱穴状のピットが検出されているが、これらの性格については不明である。

壁の高さは、北壁65cm±・東壁62cm±・南壁60cm±・西壁65cm±を計る。壁溝は幅6cm±～20cm±・深さ4cm±～6cm±の規模をもち、四隅を中心に部分的に存在する。

カマドは西壁中央部に位置し、全長285cm±を計る。カマドの残存状態は良好である。前方部が崩壊している右袖部には黄褐色の粘土質シルトだけが認められるが、左袖部の構築状況からみて右袖部にも板状の凝灰岩が芯として使用されていたものと考えられる。燃焼部には使用面が2面存在している。上位の使用面は周辺の床面より3cm±高いレベルにあり、また下位の使用面は3cm±低いレベルにある。これらの使用面には火熱により赤褐色・明赤褐色の色調を示す層厚5cm±の現地性の焼土が形成されている。上位の使用面に付随する煙道部下底部は燃焼部から緩やかに上昇して僅な回みをもつ煙出し部に接続している。下位の使用面に付随する下底部も緩やかな上昇を示し煙出し部に至る。この煙出し部には径30cm±・煙道部の底面からの深さ20cm±を計るピットが伴っている。なお煙道部の天井部分にはふい黄色の粘土質シルトでドーム形に構築されている。

この住居址は埋土中にブロック状の十和田a 降下火山灰がみられるD e 53ピットに切られている。

出土遺物 (図版112~118・写真図版130~137)

出土遺物は床面上および埋土下部から得られている。

床面上から出土した遺物は少量であり、40・44の土器が得られている。40はやや小型の壺で外面体部にハケ目がみられる。44は手捏の小型土器であり、外面にヘラケズリとハケ目が施されている。

埋土下部から出土した遺物は土器や鉄製品であり、いずれも炭化材や現地性の焼土の上から得られている。土器は坏 (1~8)・甕 (9~31)・壺 (32~39)・甎 (41)・小型土器 (42・43) の器種からなる。1~6は体部に段を有する丸底の坏であり、内外面に入念なヘラミガキが施されている。内面はいずれも黒色処理されているが、中には炭素分が飛んでしまって黒色処理以前の地がところどころ現われているものもある。7は体部に段がみられない丸底の小型の坏である。この外面底部の器面調整はヘラケズリとなっている。8は平底の須恵器の坏である。底部の切り離し技法はヘラ切りであろうと思われる。但し回転・静止のいずれの状態で行なわれたかは不明である。甕はほとんどのものにハケ目調整がみられるが、ヘラミガキによって部分的に磨消されている。23・24は小型の甕である。底部に木葉痕が残されているものは14・28の2点である。いずれの壺にもヘラミガキによって磨消されているハケ目調整が認められる。41の甎は多孔式のものであり、径6mm±の孔が穿たれている。42・43の小型土器は手捏によって成形されており、底部の形態が平底 (42)・丸底 (43) とそれぞれ異なる。45の鉄製品は鉄線をコイル状に撚り合わせて作られたもので、外径6.5cm±のリングとなっている。この鉄製品は形態上からみて「鋼」の一種と考えられる。

これまでに記述した遺物の中で、8以外の土器はすべてロクロ不使用である。

D g 09住居址

遺 構 (図版119・写真図版64-a~c、65-a~c)

この住居址はⅢ層の上面で検出されたもので、調査対象区の南側に位置している。規模は4.3m±×4.1m±を計り、平面形は歪な隅丸方形を呈する。

埋土の上部に十和田a 降下火山灰層が「レンズ」状に厚く堆積しており、色相によって次のように2分できる。上位の部分はいぶい黄褐色で層厚14cm±を計り、下部の部分は灰黄褐色で層厚20cm±を計る。これより下位の埋土は黒色土層・黒褐色土層で構成されている。床面直上に炭化材および現地性の焼土が少量検出された。これらの検出状態からみて、この住居址も焼失を受けた可能性がある。

床面はほぼ平坦で堅くしまっている。

柱穴はP₁(径27cm土・深さ16cm土)・P₂(径20cm土・深さ18cm土)などで構成されるものと思われるが、全体の配置関係は明らかでない。

壁の高さは、北東壁47cm土・南東壁62cm土・南西壁52cm土・北西壁42cm土を計る。幅9cm土～16cm土・深さ3cm土～5cm土の規模をもつ壁溝が各壁に巡らされている。

カマドは北西壁の中央部の位置にあり全長210cm土を計るもので、残存状態はやや良好である。袖部は板状の凝灰岩と灰黄褐色の粘土質シルトで構築されている。凝灰岩は芯として使用されており、床面から10cm土の深さに斜位の状態で埋置されている。燃焼部の使用面は周辺の床面と同レベルにある。この使用面下には火熱により橙色が層厚3cm土を計る現地性の焼土が形成されている。煙道部の下底部は燃焼部から僅に上昇した後煙出し部に向けて緩やかに下降しており、この上方にみられる埋土は暗褐色土・黒色土・にぶい黄褐色土など構成されている。煙道部の規模は全長185cm土・最大幅53cm土を計る。煙出し部には径25cm土・煙道部底面からの深さ40cm土の円形のピットが存在している。なお右袖部周辺の床面上に確認された粘土質シルトの広がりには袖部等に使用されていたものと考えられる。

出土遺物 (図版120・写真図版138)

出土遺物は床面上および埋土下部から得られている。

床面上からは1などの土器が出土している。1は体部に段をもたない平底の坏であり、外面にハケ目が部分的にみられる。内面はヘラミガキ後黒色処理が施されている。1のほかに甕の破片が少量出土している。

埋土下部からは土器(2～4)・土製品(5)が出土している。2～4の土器はいずれもハケ目調整がみられる甕である。2は底部の中央部分が径4cm土の円形状に打ちかかれており、Af59住居址から出土した甕(図版53-13)と同様単孔式の甕と同じような形態を示す。3は内面にハケ目がみられるものの外面にはみられず入念なヘラミガキ調整となっている。この底部には木葉痕が残されている。5の土製品は隅丸方形の断面形を示す土玉である。

以上に述べた土器はすべてロクロ不使用である。

Dg56住居址

遺構 (図版121、122・写真図版66-a～c、67-a・b)

この住居址はⅢ層の上面で検出されたもので、前述のDd53住居址からみて2m土南東に位置している。規模は4.9m土×4.3m土を計り、平面形は隅丸長方形を呈する。

埋土の上部に層厚10cm土を計るにぶい黄褐色の十和田a降下火山灰層が「レンズ」状に堆積している。これより下位の埋土は暗褐色土層・黒褐色土層・黒色土層などで構成されている。

床面直上のレベルに少量の炭化材および現地性の焼土が検出されたが、これらの状態から判断してこの住居址も焼失を受けた可能性がある。

床面は平坦で堅くしまっており、特にカマド周辺が堅緻である。

住居址内から柱穴およびそれに類するピットは全く検出されなかった。

壁の高さは、北壁56cm土・東壁36cm土・南壁37cm土・西壁37cm土を計る。壁溝は確認されなかった。

カマドは北西壁のやや北側に備った位置にあり全長230cm土を計るもので、残存状態はやや良好である。袖部は板状の凝灰岩と黄褐色の粘土質シルトで構築されている。燃焼部の使用面は周辺の床面より5cm土低いレベルにある。この使用面下には火熱により層厚10cm土で橙色を呈する現地性の焼土が形成されている。煙道部の下底部は燃焼部から緩やかに上昇した後煙出し部に向けて下降している。この上方部の埋土は黒色土・黒褐色土・暗褐色土などで構成されている。煙道部の規模は全長156cm土・最大幅60cm土を計る。煙出し部は径30cm土・煙道部底面からの深さ15cm土の円形のピットを伴うもので、オーバー・ハング状に立ちあがっている。なお右袖部の脇に確認された一辺が35cm土の方形状の扁平な凝灰岩はカマドに使用されていたものと思われる。

出土遺物 (図版123、124・写真図版139)

出土遺物は埋土下部から得られた土器(1~8)および鉄器(9)である。土器の器種は坏(1)・甕(2~7)・壺(8)となっている。1の坏は丸底の形態を示す小型のもので、体部に段はみられない。にぶい黄褐色の色調を示す外面の底部にはヘラケズリが施されており、内面全体はヘラミガキ後黒色処理されている。4・5の甕にはハケ目の器面調整がみられるが、他の甕にはハケ目がみられず主としてヘラミガキによる器面調整となっている。それぞれの色調は、にぶい黄橙色(2)・明黄褐色(3・4)・明赤褐色(5~7)を示す。8は橙色を呈する壺の底部であり、ヘラミガキで器面調整されている。以上に述べた土器はすべてロクロ不使用である。9の鉄器は刃部の先端部分が欠損している刀子である。

Dh03住居址

遺構 (図版125・写真図版68-a・b、69-a~c)

この住居址はⅢ層の上面で検出されたもので、調査対象区の南側に位置している。後述するDi06住居址に南壁部分が切りこまれている。平面形は一辺の長さが2.8m土の隅丸方形を呈する。

埋土の中間部を構成している黒褐色土層・黒色土層の中にはブロック状の十和田a降下火山灰が含まれている。これらの土層の直下に多量の炭化材と現地性の焼土が検出された。炭化

材や現地性の焼土の検出状態からみて、この住居址も焼失を受けたものと考えられる。

床面は僅に凹凸が認められるもののほぼ平坦で堅くしまっている。

住居址内にP₁(径22cm±・深さ19cm±)・P₂(径14cm±・深さ7cm±)・P₃(径13cm±・深さ8cm±)などの柱穴状のピットが確認されているが、規模および位置関係などから考えて「柱穴」と認定しうるものではない。したがってこれらのピットの性格については不明である。

壁の高さは、北壁45cm±・東壁40cm±・南壁46cm±・西壁47cm±を計る。壁溝は東壁の中央部分にのみ認められ、幅8cm±・深さ7cm±のものとなっている。

カマドは北西壁中央部の位置にあり、全長170cm±を計る。カマドの残存状態は非常に良好である。袖部・燃焼部の天井部は淡黄色の粘土質シルトだけで構築されており、火熱を受けて堅く赤変している。燃焼部の使用面は周辺の床面より4cm±高いレベルにある。この使用面下には火熱により橙色で層厚5cm±の現地性の焼土が形成されている。煙道部はトンネル式の構造をもつもので、全長130cm±・最大幅32cm±を計る。この下底部は燃焼部から煙出し部に向けて急勾配で上昇している。煙道部内の埋土は炭化物を含む黒色土で構成されている。精査上の手違いがあったために煙出し部にピットが存在したか否かは不明である。Ⅲ層上面での煙出し部の孔は径43cm±×33cm±の楕円形の形状を示す。なお燃焼部～煙出し部の下部には黒褐色土で充填されている掘り方がみられる。

出土遺物 (図版126・写真図版140、141)

出土遺物は炭化材や現地性の焼土の上面から得られたものが大半であり、1～5のロクロ不使用の土器と6の炭化した木製品である。土器の器種は甕(1～4)と壺(5)からなっており、いずれのものにもハケ目の器面調整がみられる。4は底部にもハケ目が施されている。6の炭化木製品は写真図版69-bに示されているような状態で出土しており、平面形が円形を呈し内径18.5cm±・外径21.0cm±・厚さ1.0cm±を計る。その周縁部には径1.5mm±の孔が2個ずつ対をなす形で穿たれている。以上に記述したような状況から推定して、この木製品は曲物の底板ではないかと思われる。

Dh15住居址

遺構 (図版127・写真図版70-a)

この住居址はⅢ層の上面で検出されたもので、調査対象区の南側に位置している。住居址の大半がルート外にあるため規模・形状の詳細は不明であるが、精査が行なわれた部分の南北方向の長さが7.2m±を計ることからみて、後述するDj03住居址と同じぐらいの規模をもつ大型の住居址である可能性が大である。

埋土は黒色土層・黒褐色土層・極暗褐色土層・暗褐色土層で構成されている。これらの土層

のうち上位にみられる黒色土層・黒褐色土層の中に灰白色でブロック状の十和田a 降下火山灰が含まれている。

床面はほぼ平坦で堅くしまっており、このうち北東部分が粘性を帯びた褐色シルトで形成された貼床となっている。

この貼床の近くに柱穴と考えられるP²(径40cm土・深さ21cm土)が検出されているだけであり、全体の柱穴配置は不明である。

壁の高さは東壁で57cm土を計る。北東の壁際に幅12cm土・深さ5cm土の壁溝が、また東壁の中央部分には西壁の方向に走る幅15cm土・深さ8cm土の溝が確認されている。後者の溝は間仕切りの機能をもったものではないかと考えられる。

カマドの位置や構造などについては全く把握できない。

出土遺物は埋土上位から得られたロクロ不使用の土器片が少量であり、いずれも器種や器面調整の識別が不能な摩滅した細片である。

D i 06住居址

遺構(図版128、129・写真図版70-b、71-a~c、72-a~c)

この住居址はⅢ層の上面で検出されたもので、D h 03住居址の一部を切りこんで構築されている。規模は4.6m土×4.5m土を計り、平面形は隅丸方形を呈する。

埋土は暗褐色土層・黒褐色土層・灰褐色土層・にぶい褐色土層などで構成されている。これらのうち中位から下位に堆積している土層中にはブロック状の十和田a 降下火山灰が多量に混入している。

床面はほぼ平坦で非常に堅くしまっており、特に中央部分が堅緻である。この部分では埋土との「肌わかれ」現象がみられた。

住居址内から検出された柱穴状のピットのうちP_a(径20cm土・深さ24cm土)・P_b(径15cm土・深さ28cm土)の2個は「柱穴」を構成する可能性があるが、他のP_a・P_bは規模や位置関係などから考えて「柱穴」と認定しうるものではない。

壁の高さは、北壁50cm土・東壁45cm土・南壁52cm土・西壁55cm土を計る。壁溝は認められない。

この住居址には新旧2基のカマドが存在している。記述の都合上、この新旧のカマドに1号・2号の名称を付す。

1号カマドは西壁の南西隅に設けられており、全長235cm土を計る。カマドの残存状態はやや良好である。袖部は芯として埋置した板状の凝灰岩などの周囲に鈍い黄褐色の粘土質シルトを貼り付ける方法で構築されている。燃焼部の使用面は周辺の床面よりも5cm土低いレベルに

ある。この使用面下には火熱により橙色の色調を示す層厚10cm±の現地性の焼土が形成されている。煙道部は凝灰岩などの扁平な礫で組み立てられており、全長165cm±・最大幅50cm±を計る。使用された礫の上面や礫と礫の間はぶい黄橙色の粘土質シルトで充填されている。煙道部の下底部は燃焼部から緩やかに下降して煙出し部に連続している。煙出し部はピットを伴わず直立に近い状態で立ちあがっている。

2号カマドは西壁のほぼ中央部に位置しており、煙道部から先端の部分だけが残存している。煙道部は全長135cm±・最大幅56cm±を計り、その下底部は煙出し部に向って階段状に上昇している。煙出し部には極めて浅い凹みがみられる。なお煙出し部の上方に粘土質シルトで囲まれた径30cm±×22cm±の楕円形の孔が認められた。

以上のカマドのほかにも東壁寄りに径35cm±の円形状の広がりを示す地床炉が検出されている。この地床炉のまわりは周辺の床面より僅かに低く凹んでいる。なお2号カマド際にみられる焼土は異地性のものである。

住居址の北側の隅に貯蔵穴状のピット(P₁)が確認されたが、このピットの上部が貼床として利用されていることからみて、1号カマドが構築される時点で廃棄されたものであろうと思われる。すなわち2号カマドに付随するピットと考えられる。P₁の規模は開口部130cm±×100cm±・底部100cm±×80cm±・深さ40cm±を計り、平面形は隅丸長方形を呈する。ピット内の埋土は褐色土・黒褐色土・暗褐色土で構成されており、このうち中位にある黒褐色土の中にはブロック状の十和田a降下火山灰が含まれている。

出土遺物 (図版130~132・写真図版141・142)

出土遺物は床面上・カマド・埋土中などから得られている。

床面上からはロクロ不使用の甕が2点(13・16)が出土している。13は明赤褐色の色調を示す小型の甕で、内外面の器面調整はナデとなっている。16も赤褐色を呈しナデ調整が施されている。

カマド関係から出土した土器(1・4・5・8・18・19)はすべて1号カマドから得られたものである。土器の器種は坏(1)・甕(4・5・8・18・19)の2種類からなる。1の坏はロクロ成形で内面が黒色処理されているものである。底部の切り離しは回転糸切りとなっているが、器表面がアバタ状に剝落しているため底部に再調整が施されているかどうかは明らかでない。甕はロクロ不使用のもの(4・5・8)とロクロ使用のもの(18・19)に分けられ、後者の胎土は前者のものに比べて緻密である。

貯蔵穴状のピットP₁の埋土上部からはロクロ不使用の甕(3・10・11)が出土している。外面体部の器面調整はナデとなっている。

床面直上から出土した遺物は、土器(6・9・14・17・21・22)と鉄器(23)である。土器

はいずれも甕であり、ロクロ不使用のもの(6・9・14・17)とロクロ使用のもの(21・22)とに分けられる。前者に属す7の底部には木葉痕が残されている。23の鉄器は鎌の基部と考えられるもので、木質部が僅に残存している。

埋土中から出土した遺物は主に中位から得られており、土器(2・7・15・17)と鉄製品(24)からなっている。土器は坏(2)と甕(7・15・20)の器種で構成されている。2の坏はロクロ成形で底部の切り難しが回転糸切りのものである。但し再調整の有無については判定できない。内面は黒色処理されたようであるが、炭素分がほとんど飛んでしまって元の生地が現われている。3点の甕もやはりロクロ不使用のもの(7・15)とロクロ使用のもの(20)とに分けられる。15の底部には木葉痕が残されており、また20の器形にはやや歪みが見られる。24の鉄製品は外径2.7cm±・内径1.7cm±の鉄輪であり、保存状態は良好である。

D J 03住居址

遺構(図版133、134・写真図版72-d、73-a~c、74-a~c)

この住居址はⅢ層の上面で検出されたもので、調査対象区の南側に位置している。規模8.4m±×7.5m±を計り、平面形は隅丸方形を呈する。

埋土の中間部に十和田a降下火山灰が「レンズ」状に堆積している。この火山灰層は色相によって、いよいよ黄褐色を呈し層厚10cm±を計る上位の部分といよいよ黄橙色を呈し層厚20cm±を計る下位の部分とに分けられる。上部の部分にはブロック化した十和田a降下火山灰を多量に含む灰褐色土層が見られる。下部の埋土は黒色土層・黒褐色土層・暗褐色土層で構成されている。床面直上のレベルに多量の炭化材と現地性の焼土が検出されており、これらの出土状態からみてこの住居址も焼失を受けたものと考えられる。

床面はほぼ平坦で中央部分が特に堅くしまっている。

柱穴は、P₁(径37cm±・深さ92cm±)・P₄(径28cm±・深さ83cm±)・P₈(径24cm±・深さ41cm±)・P₉(径34cm±・深さ83cm±)・P₁₀(径31cm±・深さ81cm±)・P₁₁(径18cm±・深さ29cm±)の6個で構成され、正方形の配置を示す。以上の柱穴のほかには床面からP₂(径30cm±・深さ33cm±)・P₃(径24cm±・深さ17cm±)・P₄(径30cm±・深さ38cm±)・P₆(径13cm±・深さ33cm±)・P₇(径23cm±・深さ15cm±)の柱穴状のピットが検出されているが、これらのピットの性格については不明である。

壁の高さは、北壁73cm±・東壁53cm±・南壁77cm±・西壁80cm±を計る。西壁の北側部分に壁溝状の落ちこみが見られるだけで、そのほかの部分には全く痕跡さえも認められない。

カマドはほぼ西壁中央部に位置し全長280cm±を計るもので、残存状態は良好である。袖部は板状の凝灰岩と浅黄色の粘土質シルトで構築されている。燃焼部の使用面は周辺の床面より

10cm土高いレベルにある。この使用面下には火熱により明赤褐色・赤褐色の現地性の焼土が形成されている。煙道部の下底部は燃焼部から緩やかに上昇した後途中から煙出し部に向かって下降している。またこの部位の上部は浅黄色～にぶい黄色を呈する粘土質シルトで遮蔽されている。煙道部の規模は全長 220 cm 土・最大幅 90 cm 土を計る。煙出し部には 45 cm 土×35 cm 土の隅丸長方形の平面形をもち煙道部底面からの深さが 53 cm 土であるピットが存在している。なおカマド前方に検出された長さ 66 cm 土×25 cm 土・厚さ 7 cm 土を計る板状の凝灰岩は、焚口部の天井石として使用されていたものと考えられる。

この住居址は、D i 53ピット・D j 50ピット・D j 56ピットのそれぞれに切られている。

出土遺物（図版135～137・写真図版143～145）

出土遺物は「レンズ」状に堆積した十和田 a 降下火山灰層より上位にある層から得られたものと下位にある層から得られたものに大別できる。

前者に属する遺物は 3・12の土器である。3の土器はロクロ成形の平底の坏であり、内面が黒色処理されている。底部は回転米切り後その周縁部が手もちのヘラケズリで再調整されている。外面の色調はにぶい橙色である。12の土器は外面に大変粗いヘラケズリが施されているロクロ不使用の甕である。この内面の器面調整はヘラナデとなっている。

後者に属するほとんどの遺物は炭化材や現地性の焼土と同レベルかやや低いレベルから出土したものである。土器は坏（1・2）・高坏（4）・甕（5～11・13・14）・壺（15・16）の器種からなる。1・2の坏は内面が黒色処理されている丸底のものである。1には明瞭な沈線状の段が形成されているが、2は外面にヨコナデとヘラケズリによって稜線が形成されているもので段としては不明瞭である。4の高坏にもヨコナデによって段が形成されている。内面は黒色処理されたようであるが炭素分がすべて飛んでしまっている。甕はいずれも内外面にハケ目が施されているロクロ未使用のものである。14は内面体部に輪積み痕がみられるとともに外面底部に木葉痕が認められる。15・16の壺にもハケ目調整が施されている。15は器高 42.5 cm 土を計る大型の壺であり、底部外面にもハケ目がみられる。土器以外には石器（17）・鉄器（18）・土製品（19）が出土している。17の石器は硬砂岩の石材によって製作された磨製の環状石斧であり、十和田 a 降下火山灰層直下の黒色土層中から出土している。18は全長 11.5 cm 土を計る鉄鏃である。19は断面形が隅丸長形状を呈する土玉である。

E a 12住居址

遺構 (図版138~140・写真図版75-a~c、76-a~c、77-a~f)

この住居址はⅢ層の上面で検出されたもので、前述のD j 03住居址からみて4 m 土西側に位置している。規模は6.9 m 土×6.6 m 土を計り、平面形は隅丸方形を呈する。

埋土の上部に十和田 a 降下火山灰が「レンズ」状に厚く堆積している。この火山灰層は浅黄色の色調を示し最大層厚30 cm 土を計る。これより下位の埋土は暗褐色土層・黒色土層・黒褐色土層などで構成されている。床面直上のレベルに多量の炭化材および現地性の焼土が検出されたが、これらの出土状態から判断してこの住居址も焼失を受けたものと考えられる。

床面はほぼ平坦であるが、中央部分が僅に凹んでいる。北壁寄りの方は非常に堅緻であるのに対して南壁寄りの方は軟質なものとなっている。

柱穴は、P₁ (径25 cm 土・深さ96 cm 土)・P₄ (径32 cm 土・深さ68 cm 土)・P₇ (径20 cm 土・深さ23 cm 土)・P₉ (径33 cm 土・深さ57 cm 土)・P₁₀ (径35 cm 土・深さ74 cm 土)・P₁₁ (径18 cm 土・深さ13 cm 土)の6個で構成され、正方形の配置を示す。以上の柱穴のほかに住居址内からP₂ (径30 cm 土・深さ36 cm 土)・P₃ (径20 cm 土・深さ36 cm 土)・P₆ (径38 cm 土・深さ21 cm 土)・P₈ (径30 cm 土・深さ15 cm 土)・P₅ (径23 cm 土・深さ8 cm 土)などの柱穴状のピットが検出されている。しかしこれらのピットの性格については不明である。

壁の高さは、北壁55 cm 土・東壁58 cm 土・南壁48 cm 土・西壁47 cm 土を計る。幅7 cm 土~20 cm 土・深さ4 cm 土~12 cm 土の規模をもつ壁溝が各壁に沿って巡っている。

カマドは西壁の中央部に位置し全長255 cm 土を計るもので、残存状態は不良である。袖部は板状の凝灰岩と淡黄色の粘土質シルトで構築されている。凝灰岩は床面から8 cm 土~10 cm 土の深さに斜位の状態で埋置されている。燃焼部の使用面は周辺の床面と同じレベルか僅に高いものとなっている。この使用面下には火熱により橙色で層厚8 cm 土の現地性の焼土が形成されている。煙道部の側壁で左袖部の付け根にあたる部に板状の凝灰岩が直立に埋置されており、またその対壁に礫の抜き取り痕と思われる穴が2個確認されている。煙道部は下底部が燃焼部から起伏をもちながら上昇していて、全長170 cm 土・最大幅70 cm 土を計る。なお煙出し部寄りの下底部に扁平な礫が置かれていた (写真図版76-a・b参照)。煙出し部には40 cm 土×28 cm 土の隅丸長方形の平面形を呈し煙道部床面からの深さが35 cm 土であるピットが存在している。

住居址の北西隅に検出された粘土質シルト塊の中には、凝灰岩片・炭化物・焼土粒が含まれている。これらはいずれもカマド部分の廃棄物であることからみて、当住居址のカマドは何らの理由で意識的に破壊されたものと考えられる。

また南壁寄りの床面直上に検出された扁平な礫群 (写真図版77-f) は、炭化材とともに入り混じった状態で出土していることなどから推測して、屋根の上に置かれていた礫が転落した

ものではないかと思われる。

出土遺物（図版141～144・写真図版146～148）

出土遺物は床面上や埋土中などから得られている。

床面上からは土器（4・31）・鉄製品（35）・石器（36・37）・玉類（39・40）が出土している。4は体部上半部に段を有する丸底の坏であり、内面が黒色処理されている。31は多孔式の甌の底部の破片である。35の鉄製品は他の製品に「金具」として使用されたと考えられるもので、装着時に穿たれたと思われるピン穴状の孔が数個存在している。36・37の石器は流紋岩の礫を素材としている砥石である。2点の玉類のうち、39は濃紺の色調を示すガラス玉であり、40は断面形が隅丸長方形を呈する土玉である。

柱穴P₄の埋土中からは、体部上半部に段を有する丸底の坏の破片（9）が出土している。9の内面も黒色処理が施されている。外面にハケ目調整がみられる。

床面直上からは坏・甕・壺の器種からなる土器が出土している。坏は、A. 体部に段を有し丸底のもの（1・2）、B. 同じく体部に段を有し平底風のもの（7・8）、C. 体部に段をもたない平底風のもの（13）、の3つに大別できる。いずれの坏も内面が黒色処理されている。外面にハケ目調整がみられるものは1・8の2点だけである。甕（19・21）および壺（28）にもハケ目による器面調整が認められる。

十和田a 降下火山灰層と炭化材・現地性の焼土との間の埋土から出土した遺物は次のとおりである。土器は坏・高坏・甕・壺の器種からなる。坏は、A. 体部に段を有し丸底のもの（3・6）、B. 同じく体部に段を有し平底風のもの（10）、C. 体部をもたない丸底のもの（11・12）、D. 平底で小型のもの（14）、の4つに大別できる。以上のうちで14のほかはすべて内面が黒色処理されている。またハケ目が外面に施されているものは、3・10の2点だけである。高坏は2点（15・16）出土しており、どちらも内面が黒色処理されている。15は体部上半部に段が形成されていて、この段より下位の部分にハケ目が施されているものである。甕（18～20・22～26）や壺（27・28・29）にもハケ目による器面調整がみられる。これまでに述べた土器以外に32の土器片と38の石器が出土している。32は弥生土器の破片であり、隆起線文・刺突文・斜縄文によって文様が構成されている。これらのうち横位の隆起線文には刻目が施されており、また斜縄文はRの無節のものとなっている。胎土に多くの砂が混入されている。色調は外面がにぶい橙色～黄灰色、内面が褐灰色を呈する。38は硬砂岩の礫を素材としている磨製の石斧である。

十和田a 降下火山灰層中からも遺物が出土している。この火山灰層の下位から写真図版77-cにみられるような出土状態を示す刀子が2点（33・34）が得られている。33は基部が、また34は刃部が欠損している。

これまでに述べた遺物の中で1～31の土器はすべてロクロ不使用のものである。

E d 09住居址

遺構 (図版145・写真図版78-a~c、79-a~d)。

この住居址はⅢ層の上面で検出されたもので、調査対象区の南側に位置している。規模は3.2m±×3.0m±を計り、平面形は隅丸方形を呈する。

埋土はブロック状の十和田a 降下火山灰を含む黒褐色土層・暗褐色土層・黒色土層で構成されている。

床面はブロック状の十和田a 降下火山灰を含む黒色土で形成された貼床であるが、ほぼ平坦で堅くしまっている。特にカマド周辺の床面が非常に堅緻である。

カマド左袖部の脇から柱穴状のピットP₁(径30cm±・深さ21cm±)が1個検出されているだけで明確に「柱穴」と断定できるものはない。

壁の高さは、北東壁40cm±・南東壁44cm±・南西壁44cm±・北西壁52cm±を計る。壁溝は検出されなかった。

カマドは北西壁の中央部に位置し全長210cm±を計るもので、残存状態は比較的良好である。袖部は板状の凝灰岩と褐色の粘土質シルトで構築されている。凝灰岩は床面から4cm±の深さに斜位の状態で埋置されている。燃焼部の使用面は周辺の床面と同レベルにあり、この下位には火熱により橙色・明褐色を呈する現地性の焼土が形成されている。煙道部はその下底部が燃焼部から緩やかに上昇した後煙出し部に向かって下降しており、全長130cm±・最大幅75cm±を計る。煙道部内の埋土は黒褐色土・にぶい黄褐色土・暗褐色土などで構成されている。このうち上部に堆積している黒褐色土の中にはブロック状の十和田a 降下火山灰が包含されている。煙出し部はピットがみられないもので、途中で傾斜変換点をもつ形で立ちあがっている。なお燃焼部の下部に暗褐色土などで充填されている掘り方が確認された。

出土遺物 (図版145)

出土遺物は埋土中から得られた坏や甕などである。坏はロクロ成形で内面が黒色処理されているものであるが、口縁部だけの破片であるためどのような底部の切り離し技法が使用されているかは全く不明である。甕はロクロ不使用で外面に非常に粗いヘラケズリが施されているもので、いずれも実測不可能な細片ばかりである。これらの土器以外にカマド周辺の床面直上から馬などの草食性動物の歯と思われるものが出土している。

E g 53住居址

遺構 (図版146、147・写真図版80-a~c、81-a)

この住居址はⅢ層の上面で検出されたもので、調査対象区の南東に位置している。住居址の東側部分がルート外にあるため規模・形状を正確に把握できないが、精査された部分から推定

して一辺の長さが5.8m±を計る隅丸方形を呈するものと考えられる。

埋土は黒褐色土層・黒色土層・暗褐色土層で構成されている。このうち上位にある黒褐色土層の一部に十和田a降下火山灰が多く含まれている。カマド周辺の床面直上に現地性の焼土が4箇所検出されたが、炭化材が共存していないことなどからみて、これらの焼土の存在をもって当住居址が焼失を受けたものとするにはやや無理があるように思われる。

床面は多少起伏が認められ僅に軟質なものとなっている。

精査された範囲内の床面からP₁(径25cm±・深さ56cm±)・P₂(径22cm±・深さ50cm±)の2個の柱穴が検出された。

壁の高さは、北壁28cm±・南壁45cm±・西壁39cm±を計る。これらの壁際には壁溝は存在していない。

カマドは西壁の中央部に位置し全長260cm±を計るもので、残存状態は比較的良好である。袖部は板状の凝灰岩とにふい褐色～にふい黄色の粘土質シルトで構築されている。凝灰岩は床面から10cm±～15cm±の深さに直立の状態では埋置されている。燃焼部の使用面は周辺の床面とほぼ同レベルにあり、この下位には火熱により赤褐色で層厚4cm±の現地性の焼土が形成されている。煙道部はその下底部が燃焼部からやや角度をもって上昇しており、全長165cm±・最大幅65cm±を計る。煙出し部には一辺の長さが42cm±の隅丸方形を呈するピットが存在している。このピットの煙道部底面からの深さは20cm±となっている。なおカマド前方部の床面上に確認された板状の凝灰岩は焚口部などの天井石として使用されていたものと思われる。

出土遺物 (図版148・写真図版149)

出土遺物は床面直上から得られた土器(1～5)および石器(6～9)である。土器は環(1～4)と甕(5)の器種からなる。環はいずれも体部に段を有する丸底の環である。1は口径24.0cm±を計る浅鉢状の大型の環である。外面に施されたハケ目が入念なヘラケズリによって磨消されており、極一部分にその痕跡がみられるだけである。2・3の内面は黒色処理がなされている。5の甕は口縁部が欠如している長胴形のもので、外面の器面調整は入念なヘラミガキとなっている。6・7の石器は輝石安山岩・流紋岩の自然礫を素材としている砥石である。8・9の石器は原始時代の遺物と考えられる磨石であり、側縁部に研磨痕がみられる。このうち9には敲打痕も認められる。なお以上に記述した1～5の土器はいずれもロクロ未使用のものである。

E i 50住居址

遺構 (図版149・写真図版81-b、82-a・b)

この住居址はⅢ層の上面で検出されたもので、前述のE g 53住居址の2m±南側のところに

位置している。住居址の南側部分が累道の下にあっているため発掘することができなかった。したがって規模や形状を正確に把握することは不可能であるが、精査された部分から推定して一辺の長さが5.3m土の隅丸方形を呈するものと考えられる。

埋土の大半にはふい黄橙色で層厚20cm土を計る十和田a降下火山灰層によって占められている。この火山灰層は「レンズ」状の堆積を示しており、住居址の中央部分における火山灰層の下底部は床面直上の状態となっている。このほかの埋土は微妙に色相が異なる黒褐色土で構成されている。

床面は多少凹凸があり、僅に軟質なものとなっている。

床面上に検出されたP₁(径40cm土・深さ38cm土)・P₂(径36cm土・深さ53cm土)は柱穴の一部を構成するものと思われる。北東隅の柱穴は想定される部分が攪乱されているために明確な形で確認することができなかった。

壁の高さは、北壁25cm土・東壁25cm土・西壁28cm土を計る。各壁に沿って幅7cm土～12cm土・深さ5cm土～10cm土の規模をもつ壁溝が巡っている。

カマドは西壁の中央部に位置し全長175cm土を計るもので、残存状態は不良である。残存している左軸部は板状の安山岩類の礫と極暗褐色のシルトで構築されている。使用されている礫は長軸方向の両端が打ちかかれており、床面から5cm土の深さに斜位の状態で埋置されている。燃焼部の使用面は周辺の床面と同レベルにあり、この下位には火熱により層厚10cm土で橙色を呈する現地性の焼土が形成されている。煙道部はその下底部が燃焼部から緩やかに上昇しているもので、全長110cm土・最大幅55cm土を計る。煙出し部には径26cm土・煙道部底面からの深さ18cm土の円形のピットが存在している。焚口部の周辺に板状の凝灰岩や黄褐色の粘土質シルトが散在していたことから考えて、このカマドも意識的に破壊された可能性がある。なお燃焼部～煙道部にかけて掘り方がみられる。

出土遺物 (図版150・写真図版150)

出土遺物はカマドや床面直上から得られたロクロ不使用の甕(1～4)である。

カマド燃焼部の使用面上から出土した甕は3のものである。色調は橙色を呈する。

床面直上からは1・2・4の甕が出土している。1・2は長胴形であり、4は前者に比べて小型のものとなっている。

以上の甕にはヨコナデ・ヘラナデの器面調整が多用されている。

(2) 竪穴住居址状遺構

B i 06住居址状遺構

遺 構 (図版151・写真図版83-a・b)

この住居址状遺構はⅢ層の上面から検出されたもので、調査対象区の中央部寄りに位置している。平面形は一辺の長さが2.6m±の隅丸方形を呈する。

埋土は黒色土層・黒褐色土層・極暗褐色土層で構成されている。遺構検出の時点ではこれらの土層の上に十和田a 降下火山灰層が薄く堆積していた。

床面は平坦でやや堅くしまっている。

柱穴およびそれに類するピットは検出されなかった。

壁の高さは、北壁35cm±・東壁30cm±・南壁28cm±・西壁30cm±を計る。壁溝はみられない。カマドおよび地床炉などの施設は認められなかった。

なお南壁際や西壁際などの床面直上から粒径15cm±～20cm±の歪角礫が数個ずつまとまった形で出土している。

出土遺物

埋土上部から縄文土器片が少量出土しただけである。

C i 62住居址状遺構

遺 構 (図版152・写真図版84-a～c)

この住居址状遺構はⅢ層の上面で検出されたもので、調査対象区中央部の東側に位置している。平面形は一辺の長さが2.6m±の隅丸方形を呈する。

埋土は暗褐色土層・黒褐色土層・黒色土層で構成されている。これらのうち最上部にある暗褐色土層中にはブロック状の十和田a 降下火山灰が多量に含まれている。

床面は平坦で、やや軟質なものとなっている。

柱穴およびそれに類するピットは検出されなかった。

壁の高さは、北壁35cm±・東壁37cm±・南壁36cm±・西壁37cm±を計る。壁溝は存在していない。

カマドや地床炉などの施設は認められなかった。

出土遺物 (図版155・写真図版151)

出土遺物は埋土の最上部から得られた1～5の土器である。1は巻き上げ成形による平底の坏であり、内面が黒色処理されている。この底部についていた木葉痕がヘラケズリによってほとんどが磨消されている。2・3は口クロ成形の坏で、底部に再調整がみられる。2は回転糸

切り後底部の外縁から周辺の部分が回転ヘラケズリによって再調整されており、また3は回転ヘラ切り後底部の周辺部分が指ナデによって再調整されている。なお2の内面は黒色処理が行なわれている。4・5は輪積み成形であり、外面の器面調整がヘラケズリとなっている。底部に木葉痕が残されている4の内面にはハケ目調整がみられる。

D f 12住居址状遺構

遺 構 (図版153・写真図版85-a~c、86-a・b)

この住居址状遺構はⅢ層の上面で検出されたもので、調査対象区の南側寄りに位置している。規模は2.9m±×2.6m±を計り、平面形は不整な隅丸の台形状を呈する。

床面直上のレベルに炭化した材やカヤとともに多量の現地性の焼土が検出された。これらの出土状態からみて、この住居址状遺構は焼失を受けたものと考えられる。焼土層より上位の埋土はブロック状の十和田a降下火山灰を多量に含む黒色土層・黒褐色土層・暗褐色土層などで構成されている。また下位の埋土は黒色土層・黒褐色土層で構成されているが、これらには十和田a降下火山灰が包含されていない。

床面はほぼ平坦で幾分堅くしまっている。

東壁際に柱穴と思われるP₁(径20cm±・深さ25cm±)・P₂(径13cm±・深さ10cm±)の2個の小ピットが確認された。

壁の高さは、北壁74cm±・東壁75cm±・南壁74cm±・西壁70cm±を計る。壁溝は存在していない。

カマドや地床などの施設は認められなかった。

出土遺物

埋土の上部から実測不可能なロクロ不使用の甕の細片が出土している。

D i 59住居址状遺構

遺 構 (図版154・写真図版86-b・c)

この住居址状遺構はⅢ層の上面で検出されたもので、調査対象区の南側に位置している。当遺構の2分の1以上がルート外にあるため完掘することができなかった。したがって規模・形状の詳細は不明であるが、精査された部分から推測して一辺の長さが4.5m±の隅丸形状を呈するものと考えられる。

埋土は黒褐色土の単層である。

床面はやや平坦で、軟質なものとなっている。

調査範囲内から柱穴およびそれに類するピットは検出されなかった。

壁の高きは、北壁11cm±・南壁20cm±・西壁10cm±を計る。壁溝は確認されなかった。

カマドや地床炉などの施設も認められなかった。

出土遺物（図版155・写真図版151）

出土遺物は床面直上から得られた6・7の土器である。6は口縁部が外反して立ちあがっている長胴形の甕であり、内外面には次のような器面調整が施されている。外面はヨコナデ・ヘラミガキ、内面はナデ・ヘラミガキとなっている。7は口縁部が直立気味に立ちあがっている甕の破片で、外面の器面調整がヘラケズリ+ヘラミガキとなっているものである。以上の2点はロクロ不使用の土器である。

(3) 掘立柱建物址

C e 09 掘立柱建物址

遺構（図版156-a・写真図版87-a）

この掘立柱建物址はⅢ層の上面で検出されたもので、調査対象区中央部の西側に位置している。

掘立柱は、P₁（径25cm±・深さ41cm±）・P₂（径30cm±・深さ45cm±）・P₃（径28cm±・深さ39cm±）・P₄（径25cm±・深さ39cm±）・P₅（径21cm±・深さ39cm±）・P₆（径20cm±・深さ28cm±）の6個で構成され、東西1間×南北2間の配置を示す。それぞれの柱間寸法は次のとおりである。P₁~P₂=110cm±、P₂~P₃=125cm±、P₃~P₄=240cm±、P₄~P₅=130cm±、P₅~P₆=110cm±、P₆~P₁=230cm±、の間隔となっている。出土遺物はない。

C f 12 掘立柱建物址

遺構（図版156-b・写真図版87-a）

この掘立柱建物址はⅢ層の上面で検出されたもので、前述のC e 09掘立柱建物址からみて1.4m±南方に位置している。

掘立柱は、P₇（径43cm±・深さ60cm±）・P₈（径30cm±・深さ76cm±）・P₉（径42cm±・深さ70cm±）・P₁₀（径47cm±・深さ61cm±）・P₁₁（径40cm±・深さ70cm±）・P₁₂（径35cm±・深さ58cm±）・P₁₃（径43cm±・深さ64cm±）・P₁₄（径30cm±・深さ60cm±）・P₁₅（径28cm±・深さ58cm±）の9個で構成され、東西2間×南北2間の配置を示す。それぞれの柱間寸法は次のとおりである。P₇~P₈=135cm±、P₈~P₉=125cm±、P₉~P₁₀=155cm±、P₁₀~P₁₁=145cm±、P₁₁~P₁₂=110cm±、P₁₂~P₁₃=135cm±、P₁₃~P₁₄=145cm±、P₁₄~P₇=165cm±、

$P_8 \sim P_{15} = 155\text{cm} \pm$ 、 $P_{10} \sim P_{15} = 120\text{cm} \pm$ 、 $P_{12} \sim P_{15} = 150\text{cm} \pm$ 、 $P_{14} \sim P_{15} = 130\text{cm} \pm$ 、の間隔となっている。以上に述べた掘立柱のうち $P_{11} \sim P_{12} \sim P_{15}$ を結ぶ柱筋とC e 09掘立柱建物址の $P_4 \sim P_8 \sim P_9$ を結ぶ柱筋とが同一線上にのっている。

上述したように当C f 12掘立柱建物址はⅢ層の上面でその存在が確認されたものであるが、調査対象区域の西側境界線部分にある P_{11} の土層断面の観察結果によれば層位的にはⅡ層の上位に位置づけられるものであろうと考えられる。出土遺物はない。

(4) ピット

C f 62ピット

遺構 (図版157-a)

このピットはⅢ層の上面で検出されたもので、調査対象区中央部の東側に位置している。規模は開口部径 $235\text{cm} \pm \times 180\text{cm} \pm$ ・底部径 $195\text{cm} \pm \times 140\text{cm} \pm$ ・深さ $20\text{cm} \pm$ を計り、平面形は不整な楕円形状を示す。断面形は皿形を呈する。

埋土は黒褐色土層・褐色の焼土層からなり、このうち最上部の黒褐色土層中には十和田 a 降下火山灰が少量包含されていて灰色をおびている。また焼土層中には土器片 (土器器片) が混入していた。

底面の大部分を掘りすぎたためその状態については把握できない。

このピットはC f 62周溝を切りこんでいる。

出土遺物 (図版158・写真図版151)

出土遺物は埋土上部の黒褐色土層や焼土層から土器 (1~6)・鉄器 (7) が得られている。1は内面が黒色処理されている巻き上げ成形の環であるが、底部の形態は不明である。2・3は内面が黒色処理されているログロ成形の環であり、底部の切り離しが回転ヘラ切りとなっているものである。これらの底部の外縁および周辺の部分が指ナデによって再調整されている。4・5は底部が回転ヘラ切りされている須恵器の環であり、切り離した後底部の周辺部分が指ナデによって再調整されている。6は内外面にハケ目が施されている輪積み成形の甕である。7の鉄器は刃部・基部がほぼ完全にそろっている刀子である。

C h 50ピット

遺構 (図版157-b・写真図版87-b・e)

このピットはⅢ層の上面で検出されたもので、調査対象区の中央部に位置している。規模は

開口部径 225 cm ± 140 cm ± ・ 底部径 200 cm ± × 105 cm ± ・ 深さ 16 cm ± を計り、平面形はやや不整な楕円形状を示す。断面形は皿形を呈する。

埋土は明褐色土層・極暗褐色土層・黒色土層で構成されている。上位にある極暗褐色土層は中にブロック状の十和田 a 降下火山灰が含まれており灰褐色気味である。なお西側の底面直上部分に明褐色を呈する焼土層がみられた。

底面はほぼ平坦で、軟質なものとなっている。西側の底面は東側部分に比べて 12 cm ± 低くなっている。出土遺物はない。

C i 53 ビット

遺 構 (図版 159— a ・ 写真図版 88— a ・ b)

このビットはⅢ層の上面で検出されたもので、前述の C h 50 ビットの 2 m 土南東に位置している。規模は開口部径 85 cm ± × 60 cm ± ・ 底部径 75 cm ± × 45 cm ± ・ 深さ 19 cm ± を計り、平面形は楕円形を示す。断面形は皿形を呈する。

埋土はブロック状の十和田 a 降下火山灰を含む黒褐色土の単層となっている。

底面の 2 分の 1 ほどを掘りすぎてしまったためその詳細は不明であるが、残存している部分はほぼ平坦で軟質なものとなっている。出土遺物はない。

このビットは原始時代の C j 50 陥し穴状遺構を切っている。

D e 53 ビット

遺 構 (図版 159— b ・ 写真図版 88— c ・ d)

このビットはⅢ層の上面で検出されたもので、D d 53 住居址を切りこんでいる。規模は開口部径 220 cm ± × 130 cm ± ・ 底部径 193 cm ± ・ 深さ 30 cm ± を計り、平面形は隅丸長方形を示す。断面形は皿形を呈する。

埋土はブロック状の十和田 a 降下火山灰を含む数層の黒褐色土層で構成されているが、これらの土層とともに南側の底面直上部分に赤褐色を呈する焼土層がみられた。

底面はやや凹凸をもち軟質なものとなっており、南側部分が僅に低く凹んでいる。

出土遺物

埋土中から土器の細片 (ロクロ不使用の土師器片、須恵器片) が得られている。

D i 53 ビット

遺 構 (図版 160— a ・ 写真図版 88— e)

このビットはⅢ層の上面で検出されたもので、D j 03 住居址を切りこんでいる。積土上の手

遠いから南側部分を掘りすぎてしまったため規模・形状を正確に把握できないが、残存部分から推測して長軸の長さが300cm±を計る不整な隅丸長方形形状を示すものと考えられる。断面形は皿形を呈する。

埋土はブロック状の十和田a降下火山灰を含む黒褐色土層・褐色土層・暗褐色土層で構成されているが、これらの土層とともに北側の底面直上の部分に橙色を呈する焼土層がみられた。

底面はほぼ平坦で軟質なものとなっており、南側部分がさらに播鉢状に深く凹んでいる。検出面から床面までの深さは25cm±～52cm±を計る。

出土遺物

埋土中からロクロ不使用の甕の細片が出土している。

D j 03ピット

遺構(図版159-c・写真図版89-a・b)

このピットはⅢ層の上面で検出されたもので、D i 06住居址とD j 03住居址との間に位置している。規模は開口部120cm±×85cm±・底部110cm±×70cm±・深さ11cm±を計り、平面形は隅丸長方形形状を示す。断面形は皿形を呈する。

埋土は黒色土層・暗褐色土層で構成されている。底面直上のレベル炭化材とともに少量の現地性の焼土が検出された。この炭化材がどのような使われ方をしたもののなのかは不明である。

底面はほぼ平坦で、軟質なものとなっている。出土遺物はない。

D j 50ピット

遺構(図版160-b・写真図版89-c・d)

このピットはⅢ層の上面で検出されたもので、D j 03住居址を切りこんでいる。ピットの東側部分を掘りすぎてしまったため規模・形状を正確に把握できないが、残存部分から推定して径170cm±の円形を示すものと考えられる。断面形は浅いピーカー形を呈する。

埋土はブロック状の十和田a降下火山灰や焼土粒を含む3層の黒褐色土層で構成されている。

底面は平坦で堅くしまっている。底面の南側にみられる黄褐色の粘土質シルトや凝灰岩はD j 03住居址のカマドの煙道部に使用されているものである。

出土遺物

埋土中からロクロ不使用の甕の細片が少量出土している。

D j 56ピット

遺構 (図版160—c・写真図版89—e・f)

このピットはⅢ層の上面で検出されたもので、D j 03住居址を切りこんでいる。南側部分を掘りすぎてしまったが、残存部分から推定して径200 cm±×155 cm±の楕円形を示すものと考えられる。断面形は皿形を呈する。

埋土は性状が微妙に異なる数層の黒褐色土層で構成されており、このうち中位の一部の土層中にはブロック状の十和田a 降下火山灰が微量に包含されている。また埋土の上部に黄橙色を呈する焼土層がみられた。

底面は平坦でやや堅くしまっている。

出土遺物

埋土中からロクロ成形の坏の細片が出土している。

(5) 周溝

C f 62周溝

遺構 (図版161・写真図版90—a～c)

この周溝はⅢ層の上面で検出されたもので、調査対象区中央部の北東に位置している。外径3.7 m±～3.9 m±・内径2.6 m±～2.9 m±を計り円形を呈する。

溝の埋土は黒褐色土層・極暗褐色土層・暗褐色土層で構成されている。

周溝内部には径45 cm±・深さ46 cm±～67 cm±を計る柱穴状のピットが2個みられただけで、そのほかに何らかの施設が存在したことを物語るような形跡は認められなかった。

この周溝はC f 62ピットに切られている。

出土遺物

遺物としては溝の埋土から縄文土器の細片が出土したのみである。

E d 03周溝

遺構 (図版162・写真図版91—a)

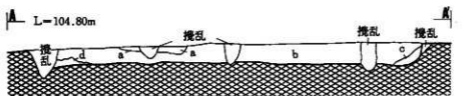
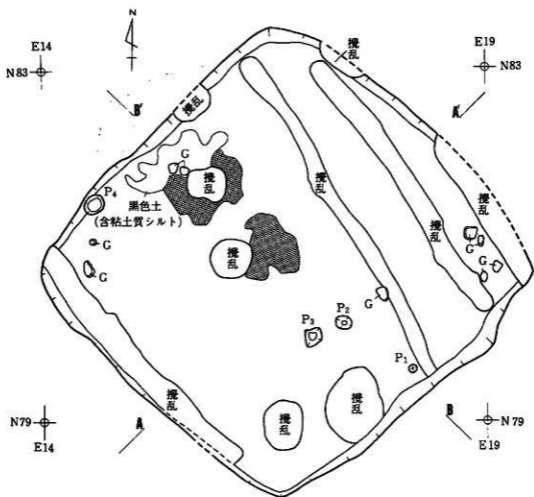
この周溝はⅢ層の上面で検出されたもので、調査対象区の南側に位置している。外径3.7 m±・内径2.8 m±を計り馬蹄形を呈する。

溝の埋土はややブロック化した十和田a 降下火山灰を含む黒褐色土の単層である。

周溝内部には何らの施設も認められなかった。

出土遺物

遺物としては溝の埋土からハケ目が施された甕の細片が出土している。



- a. 7.5 YR 3/3黒褐色土層
- b. 7.5 YR 2/1黒色土層
- c. 7.5 YR 3/3暗褐色土層
- d. 7.5 YR 3/2黒褐色土層
- e. 7.5 YR 3/1黒褐色土層 (含粘土粒)
- f. 7.5 YR 3/4暗褐色土層
- g. 5 YR 5/6明赤褐色土層 (黄土)

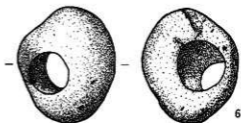
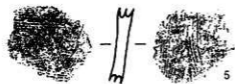
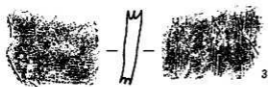
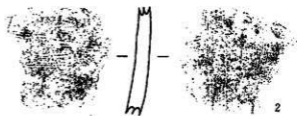


S-26

図版47 Ad62住居址

—6.4—

埋土



图版48 Ac62住居址出土遗物

E10
N80

E17
N80



N72
E10

N72
E17



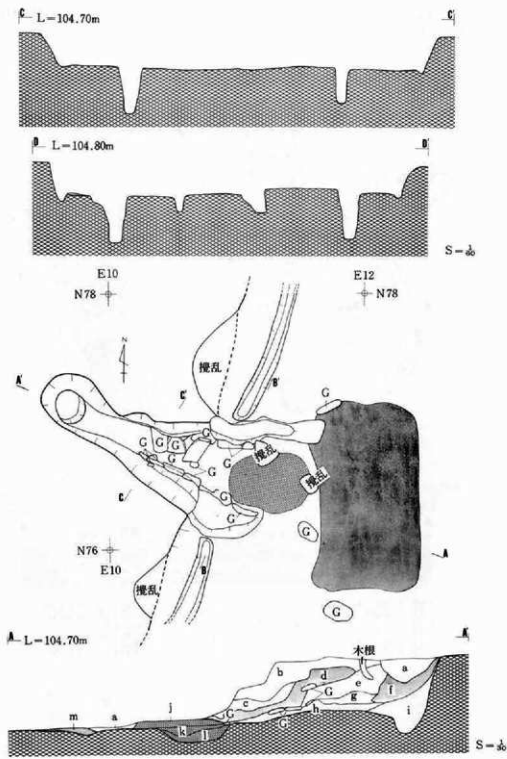
- a. 7.5 YR 2/1 黒色土層
- b. 7.5 YR 3/4暗 褐色土層
- c. 2.5 YR 8/1 灰白色土層 (十和田峠下火山灰)
- d. 7.5 YR 1.7/1 黒色土層
- e. 7.5 YR 2/1 黒色土層
- f. 7.5 YR 2/1 黒色土層 (含炭化材)

- g. 7.5 YR 2/2 黒褐色土層 (含炭化材)
- h. 7.5 YR 1.7/1 黒色土層 (含炭化材)
- i. 5 YR 6/3 棕色土層 (焼土)
- j. 7.5 YR 3/3 暗 褐色土層
- k. 7.5 YR 2/2 黒褐色土層 (含炭化材・焼土)
- l. 7.5 YR 3/2 黒褐色土層 (含炭化材)



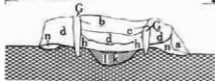
S-ab

図版49 Af59住居址 (1)



图版50 Af59住居址(2)

B. L=104.40m



E. L=104.70m



S=10

a. 10 YR 2/1黒色土層 (含粘土質シルト)

b. 7.5 YR 2/1黒色土層

c. 10 YR 1.7/1黒色土層

d. 10 YR 4/2黄褐色土層 (粘土質シルト)

e. 10 YR 2/2黒褐色土層 (含粘土質シルト)

f. 10 YR 5/4濃い黄褐色土層 (粘土質シルト)

g. 10 YR 3/3暗褐色土層 (含焼土粒)

h. 10 YR 2/3黒褐色土層 (含炭化物・焼土粒)

i. 7.5 YR 1.7/1黒色土層

j. 10 YR 4/6褐色土層 (焼土)

k. 10 YR 5/6黄褐色土層 (焼土)

l. 5 YR 5/8明赤褐色土層 (焼土)

m. 10 YR 5/3濃い黄褐色土層 (粘土質シルト)

n. 2.5 Y 7/4浅黄色土層 (粘土質シルト)

E10

N80

E17

N80

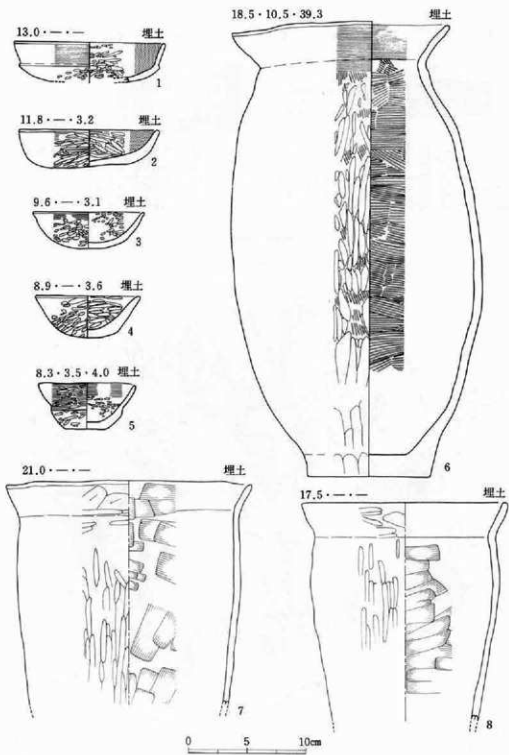
炭化材・遺物出土状況



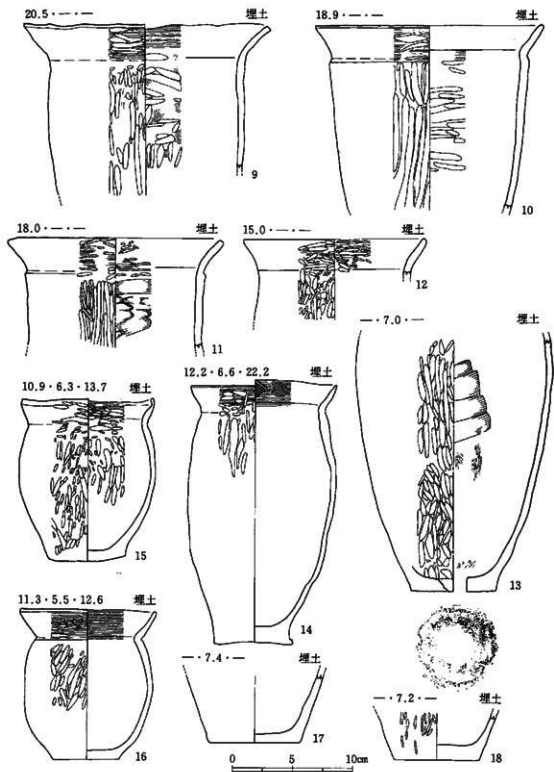
N72
E10

N72
E17

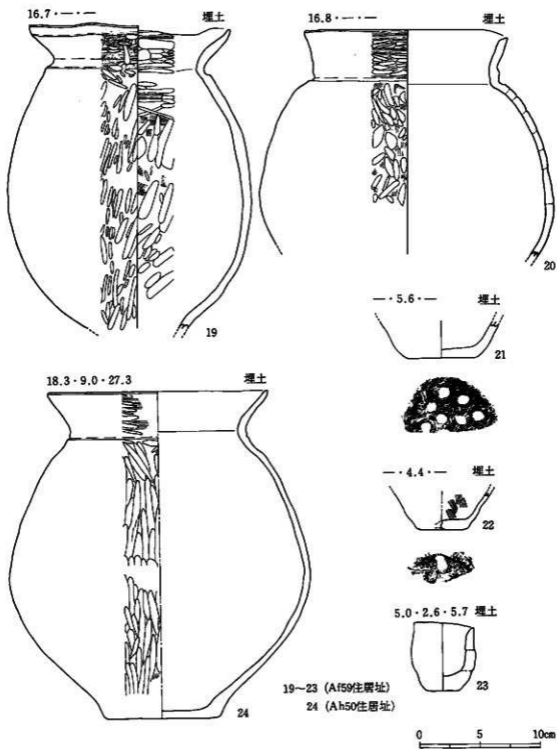
図版51 Af59住居址 (3)



图版52 Af59住居址出土遺物(1)

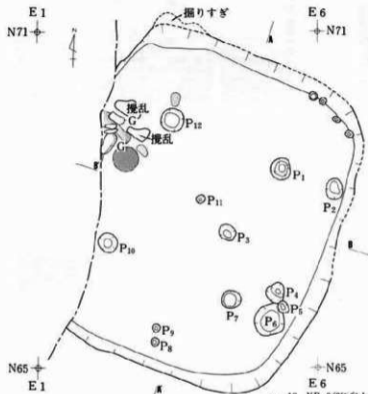


图版53 Af59住居址出土遗物(2)



图版54 Af59住居址出土遺物(3)
Ah50住居址出土遺物

炭化材・遺物出土状況

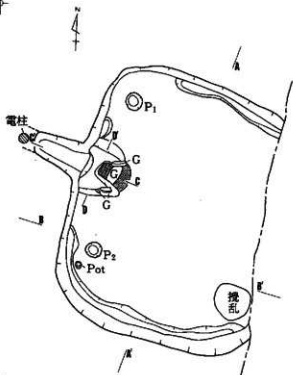


- E 6
- a. 10 YR 8/2黄白土層 (十相山跡下火山灰)
 - b. 7.5 YR 1.7/1黒色土層
 - c. 7.5 YR 2/1黒色土層
 - d. 10 YR 1.7/1黒色土層
 - e. 10 YR 2/1黒色土層
 - f. 7.5 YR 3/3暗褐色土層 (含焼土粒)
 - g. 10 YR 2/1黒色土層 (含炭化物)
 - h. 10 YR 2/3黒褐色土層
 - i. 7.5 YR 3/4暗褐色土層 (含炭化材・焼土粒)
 - j. 7.5 YR 2/1黒色土層 (含炭化材)
 - k. 10 YR 3/2黒褐色土層
 - l. 7.5 YR 4/4褐色土層 (焼土粒)
 - m. 10 YR 3/2黒褐色土層 (含炭化物)

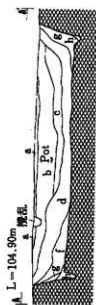


図版55 AH50住居址

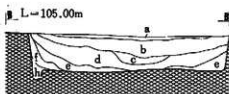
E18
N61



E23
N61



N55
E18

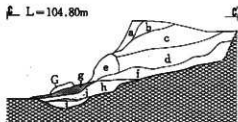


N55
E23

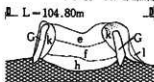
- a. 7.5 YR 2/1 黒色土層 (含十和田a降下火山灰)
- b. 7.5 YR 2/1 黒色土層
- c. 7.5 YR 1.7/1 黒色土層
- d. 7.5 YR 2/2 黒褐色土層
- e. 7.5 YR 3/1 黒褐色土層
- f. 7.5 YR 3/2 黒褐色土層
- g. 7.5 YR 3/4 暗褐色土層
- h. 7.5 YR 2/3 暗褐色土層

- a. 7.5 YR 2/3 暗褐色土層
- b. 7.5 YR 2/2 黒褐色土層
- c. 7.5 YR 2/1 黒色土層
- d. 7.5 YR 3/3 暗褐色土層
- e. 2.5 Y 6/4 によい黄色土層 (粘土質シルト)
- f. 10 YR 4/4 褐色土層 (含炭化物)
- g. 7.5 YR 6/6 橙色土層 (雑土)
- h. 5 YR 3/1 黒褐色土層 (木灰)
- i. 7.5 YR 8/2 灰白色土層
- k. 7.5 YR 7/8 黄褐色土層 (粘土質シルト)
- l. 10 YR 3/2 黒褐色土層

f. L=104.80m



f. L=104.80m

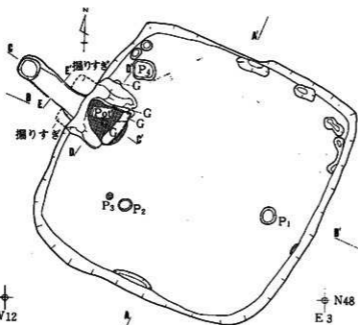


S-ab

図版56 B=68住居址

W 2
N53

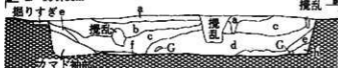
E 3
N53



N48
W12

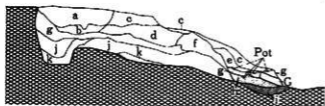
N48
E 3

L-104.80m



- a. 7.5 YR 2/1黒色土層
- b. 7.5 YR 1.7/1黒色土層
- c. 10 YR 1.7/1黒色土層
- d. 10 YR 2/1黒色土層
- e. 7.5 YR 3/2褐色土層 (含炭化物・焼土粒)
- f. 7.5 YR 2/2褐色土層 (含炭化物・焼土粒)
- g. 7.5 YR 2/3暗褐色土層
- h. 10 YR 3/3暗褐色土層

L-104.70m

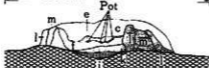


S-ab

L-104.70m

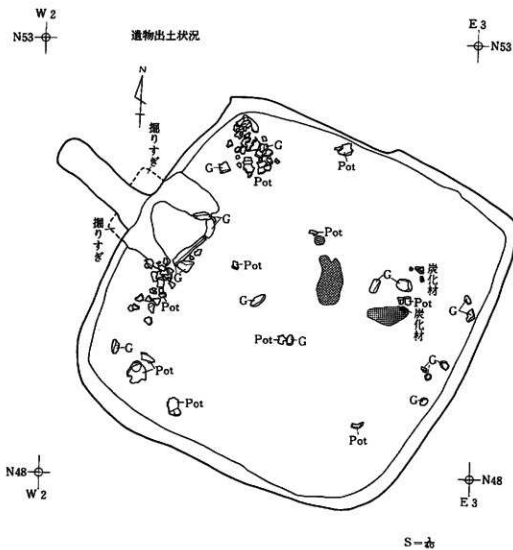


L-104.40m

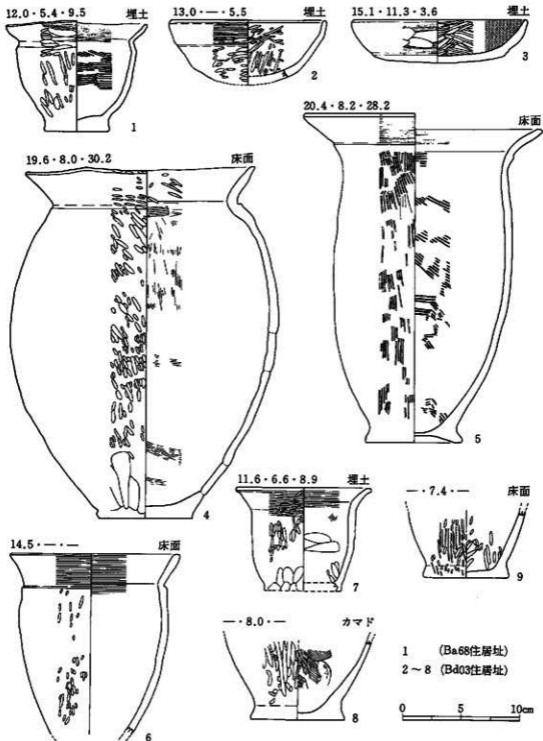


- a. 10 YR 3/3暗褐色土層
- b. 10 YR 1.7/1黒色土層
- c. 10 YR 2/1黒色土層
- d. 10 YR 2/2黒色土層
- e. 10 YR 3/2褐色土層 (含炭化物)
- f. 10 YR 2/1褐色土層 (含粘土質シルト)
- g. 10 YR 3/4暗褐色土層
- h. 10 YR 4/4褐色土層 (粘土質シルト)
- i. 5 YR 4/6赤褐色土層 (焼土)
- j. 10 YR 3/1黒褐色土層
- k. 7.5 YR 2/1黒色土層
- l. 10 YR 5/2黄褐色土層 (粘土質シルト)
- m. 5 Y 7/3淡黄色土層 (粘土質シルト)

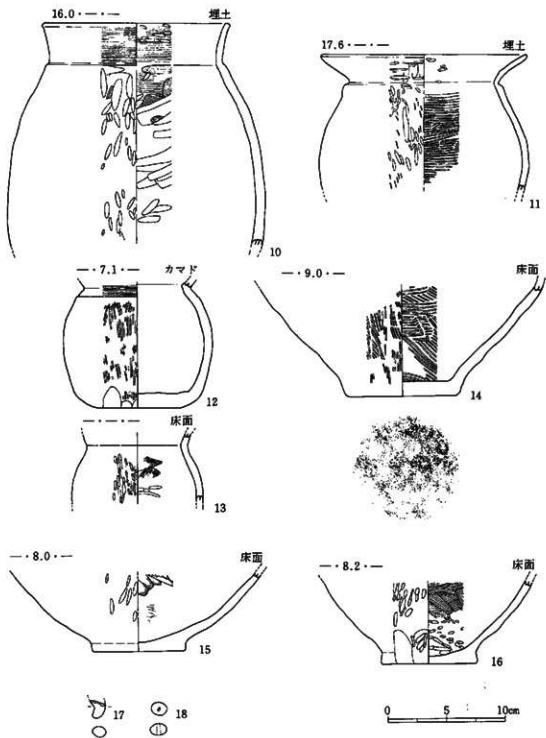
図版57 Bd03住居址 (1)



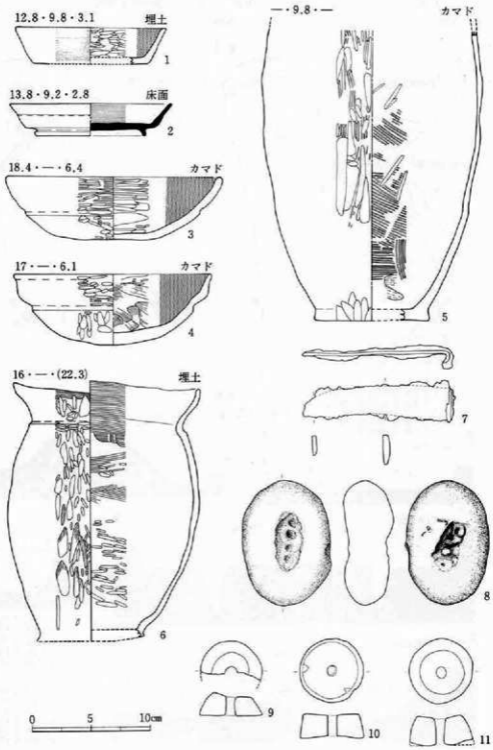
図版58 Bd03住居址 (2)



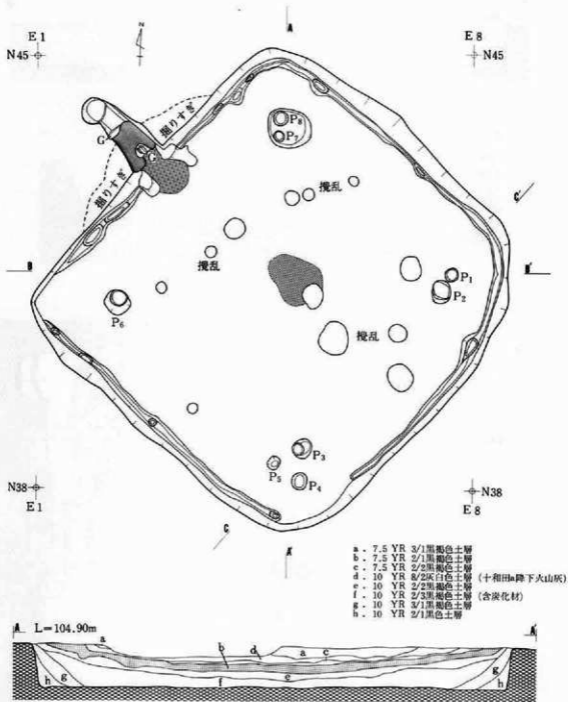
図版59 Ba68住居址出土遺物
Bd03住居址出土遺物 (1)



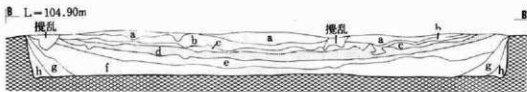
図版60 Bd03住居址出土遺物（2）



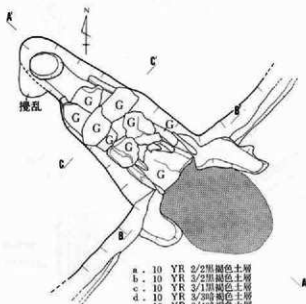
図版62 Be68住居址出土遺物



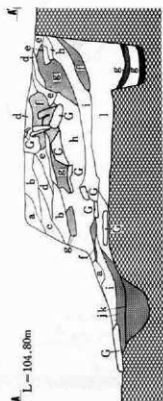
図版63 Bg50住居址(1)



S-ab



E 4
N44



A L-104.80m

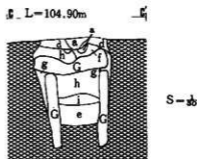
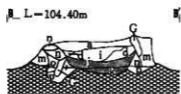
S-ab

- a. 10 YR 2/2 黒褐色土層
 b. 10 YR 3/2 黒褐色土層
 c. 10 YR 3/1 黒褐色土層
 d. 10 YR 3/3 暗褐色土層
 e. 10 YR 3/4 暗褐色土層
 f. 10 YR 3/4 暗褐色土層 (粘土質シルト)
 g. 5 Y 8/3 淡黄色土層 (粘土質シルト)
 h. 10 YR 2/3 黄褐色土層 (含炭化材)
 i. 10 YR 4/3 にぶい黄褐色土層 (含焼土粒)
 j. 5 YR 6/8 棕色土層 (焼土)
 k. 5 YR 5/8 明赤褐色土層 (焼土)
 l. 10 YR 3/2 黒褐色土層 (含炭化物)
 m. 2.5 Y 6/3 にぶい黄色土層 (粘土質シルト)
 n. 2.5 Y 6/4 にぶい黄色土層 (粘土質シルト)
 o. 2.5 Y 5/3 黄褐色土層 (粘土質シルト)
 p. 10 YR 2/1 黒色土層

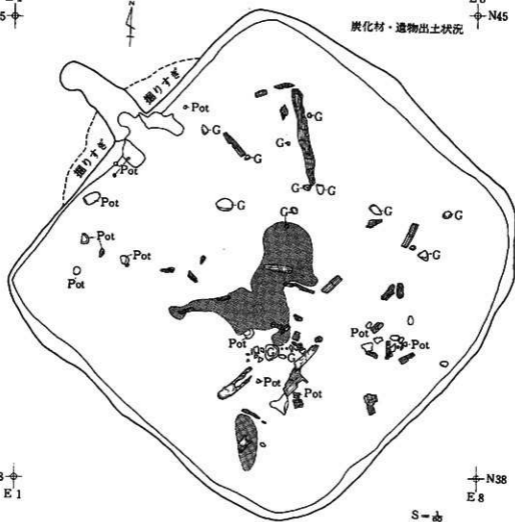
N42
E 2

N42
E 4

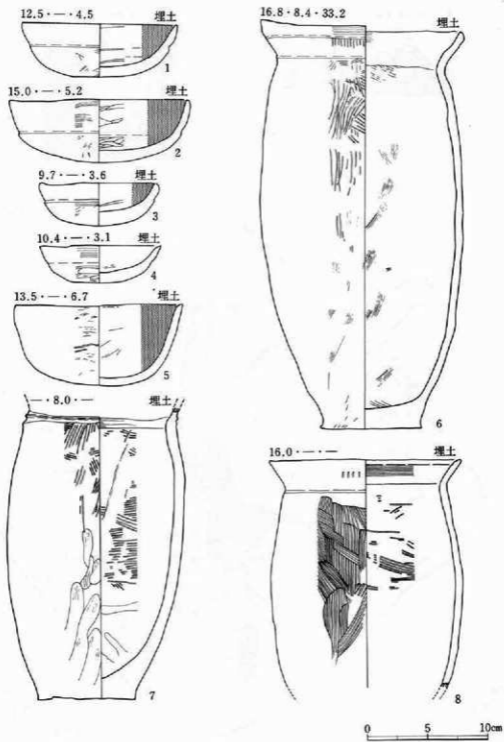
図版64 Bg50住居址 (2)



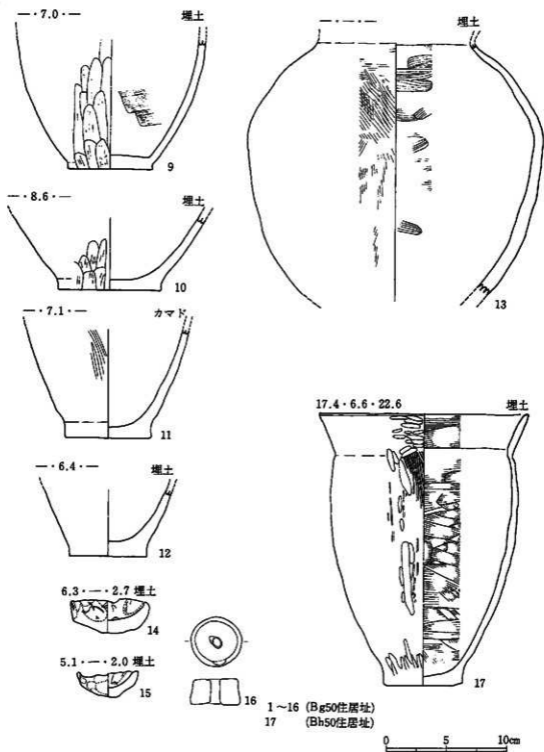
炭化材・遺物出土状況



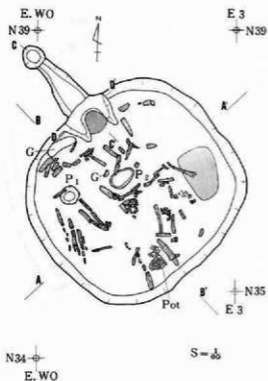
図版65 Bg50住居址 (3)



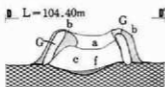
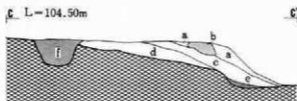
図版66 Bg50住居址出土遺物 (1)



図版67 Bg50住居址出土遺物(2)
Bh50住居址出土遺物



- a. 7.5 YR 3/1黒褐色土層
- b. 7.5 YR 2/1黒色土層



- a. 7.5 YR 3/2黒褐色土層 (含炭化物)
- b. 2.5 Y 8/4淡黄色土層 (粘土質シルト)
- c. 5 YR 2/2黒褐色土層
- d. 10 YR 6/8赤褐色土層
- e. 2.5 YR 4/8赤褐色土層 (礫土)
- f. 10 YR 7/4にぶい黄褐色土層 (粘土質シルト)

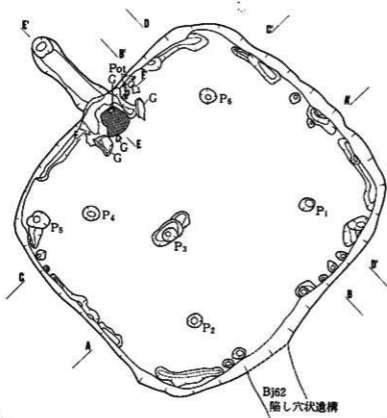
S=50

図版68 Bh50住居址

E10
N38

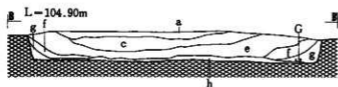


E16
N38



N31
E10

N31
E16



- | | | | | |
|----|-----|----|-------|-------|
| a. | 10 | YR | 2/1 | 黒色土層 |
| b. | 7.5 | YR | 2/1 | 黒色土層 |
| c. | 10 | YR | 1.7/1 | 黒色土層 |
| d. | 10 | YR | 2/2 | 黒褐色土層 |
| e. | 7.5 | YR | 1.7/1 | 黒色土層 |
| f. | 7.5 | YR | 3/1 | 黒褐色土層 |
| g. | 7.5 | YR | 3/2 | 黒褐色土層 |
| h. | 10 | YR | 3/1 | 黒褐色土層 |
- (含炭化材)



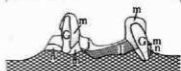
S=由

図版69 Bi59住居址(1)

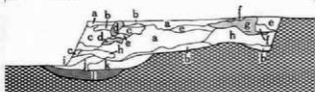
D L-104.90m



F L-104.10m



L L-104.80m



S-60

S-60

- a. 7.5 YR 2/1黒色土層
- b. 5 YR 1.7/1黒色土層 (含炭化物)
- c. 10 YR 2/1黒色土層
- d. 2.5 Y 5/3黄褐色土層 (粘土質シルト)
- e. 10 YR 2/2黒褐色土層 (含焼土粒)
- f. 10 YR 2/3黒褐色土層 (含焼土粒)
- g. 10 YR 5/3にぶい黄褐色土層 (粘土質シルト)
- h. 5 YR 2/1黒褐色土層
- i. 10 YR 3/4暗褐色土層
- j. 10 YR 3/3暗褐色土層
- k. 7.5 YR 2/3暗褐色土層
- l. 5 YR 5/8明赤褐色土層 (焼土)
- m. 25 Y 5/6黄褐色土層 (粘土質シルト)
- n. 10 YR 1.7/1黒色土層

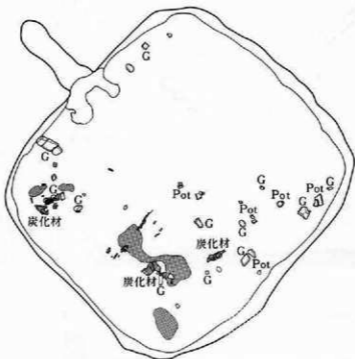
E10

N38

炭化材・遺物出土状況

E16

N38



N31

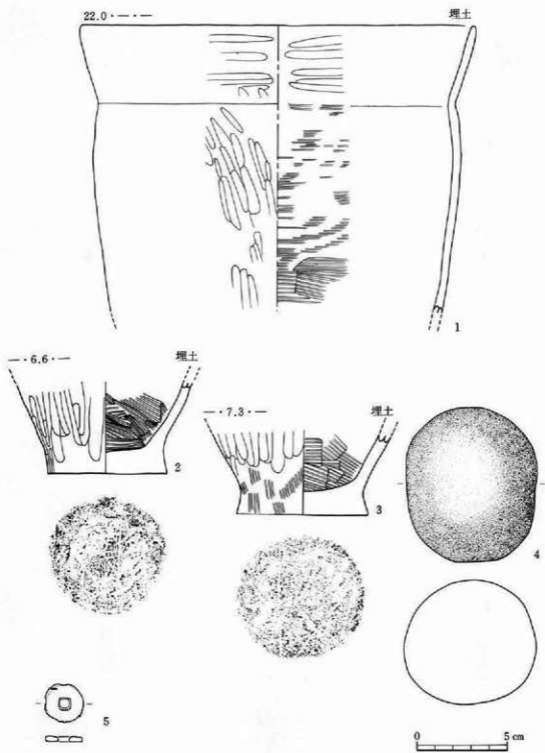
E10

S-60

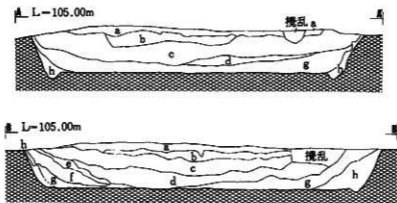
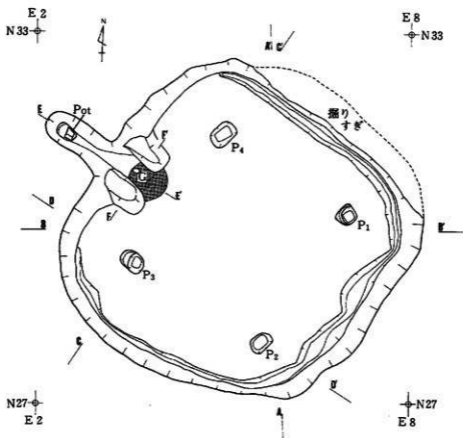
N31

E16

図版70 B159住居址 (2)



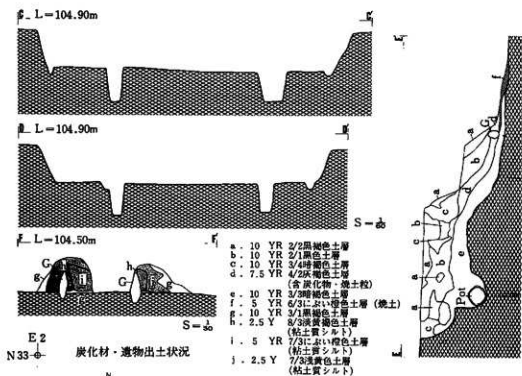
图版71 B159住居址出土遺物



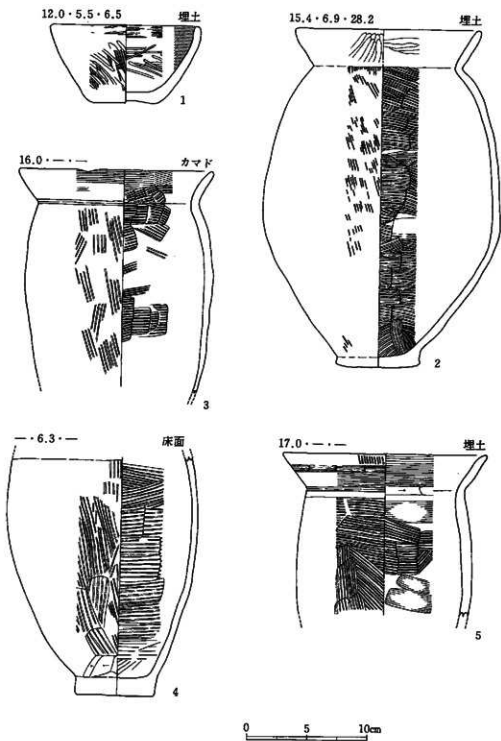
- a. 10 YR 3/2 黑褐色土層 (含十和田a降下火山灰)
- b. 10 YR 3/1 黑褐色土層
- c. 10 YR 2/2 黑褐色土層
- d. 10 YR 2/3 黑褐色土層
- e. 10 YR 3/3 暗褐色土層
- f. 10 YR 3/4 暗褐色土層 (含炭化材・焼土)
- g. 10 YR 3/2 黑褐色土層
- h. 10 YR 4/4 褐色土層

S-ab

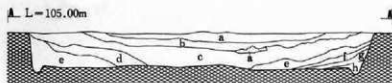
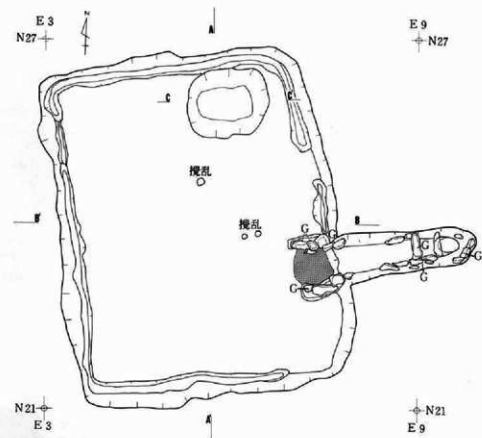
図版72 B.J.50住居址(1)



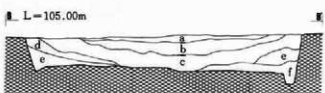
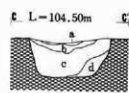
図版73 B_j50住居址(2)



図版74 B J50住居址出土遺物

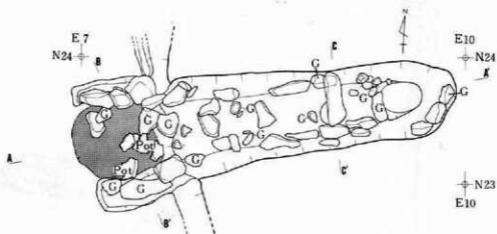


- a. 7.5 YR 2/1 黒色土層
- b. 7.5 YR 1.7/1 黒色土層
- c. 7.5 YR 3/1 黒褐色土層
- d. 10 YR 3/2 黒褐色土層
- e. 10 YR 3/3 黒褐色土層 (含十和田a降下火山灰)
- f. 10 YR 3/2 黒褐色土層 (含十和田a降下火山灰・炭化物・焼土粒)
- g. 10 YR 2/2 黒褐色土層 (含十和田a降下火山灰)
- h. 10 YR 2/1 黒色土層 (含十和田a降下火山灰)

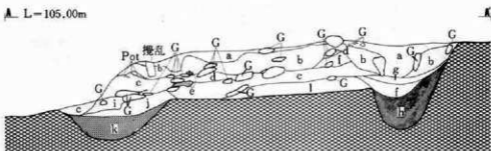


- a. 10 YR 2/2 黒褐色土層 (含十和田a降下火山灰)
- b. 10 YR 2/1 黒色土層 (含十和田a降下火山灰)
- c. 10 YR 2/3 黒褐色土層
- d. 10 YR 3/4 暗褐色土層

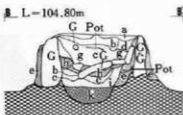
図版75 Cb53-1住居址(1)



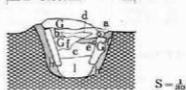
A L-105.00m



B L-104.80m



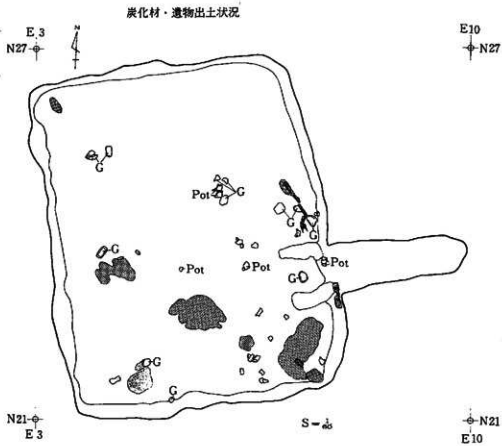
C L-105.00m



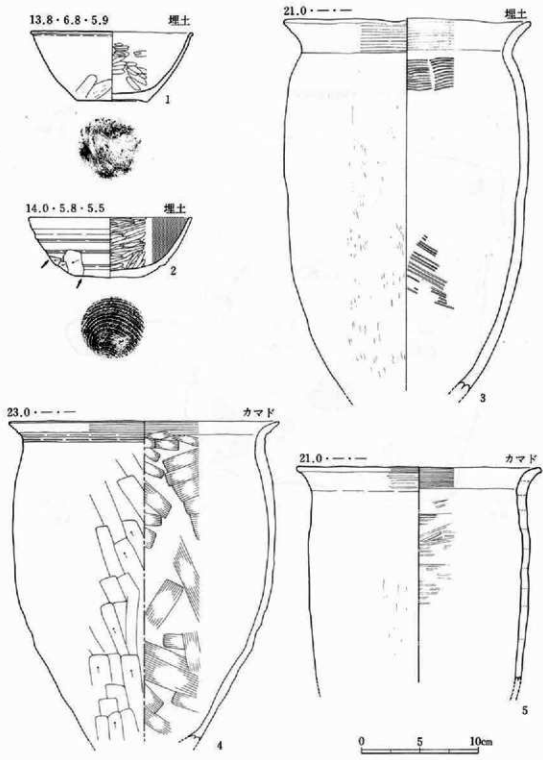
- a. 10 YR 2/1黒色土層 (含十和田湖降下火山灰)
- b. 10 YR 1.7/1黒色土層 (含十和田湖降下火山灰)
- c. 10 YR 3/3暗褐色土層 (含焼土粒)
- d. 10 YR 4/3にぶい黄褐色土層 (粘土質シルト)
- e. 10 YR 7/2にぶい黄褐色土層 (粘土質シルト)
- f. 10 YR 2/1黒色土層

- g. 10 YR 4/6褐色土層
- h. 2.5 Y 6/3にぶい黄色土層 (粘土質シルト)
- i. 10 YR 4/4褐色土層 (含炭化物・焼土粒)
- j. 10 YR 5/4にぶい黄褐色土層 (含焼土粒)
- k. 5 YR 6/8褐色土層 (焼土)
- l. 5 YR 2/3極暗赤褐色土層 (含炭化物・焼土粒)

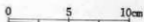
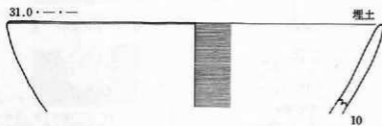
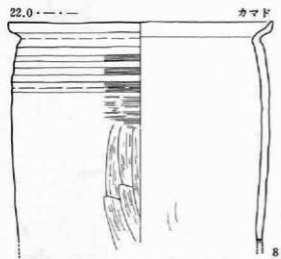
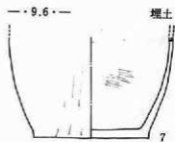
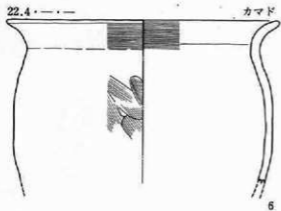
図版76 Cb53-1住居址(2)



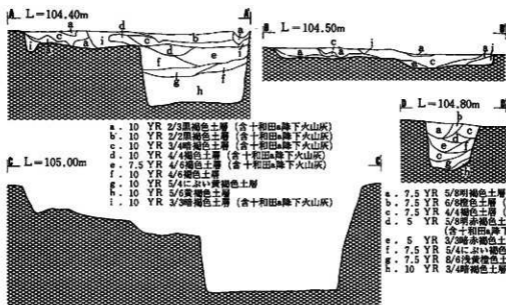
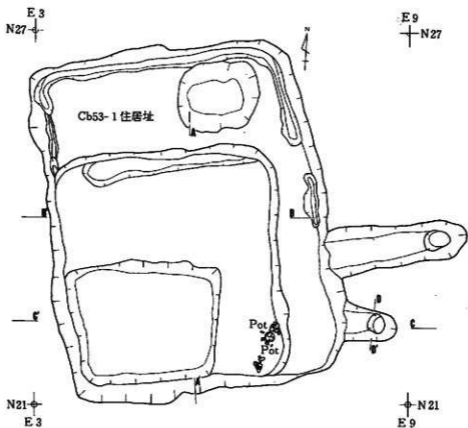
図版77 Cb53-1住居址 (3)



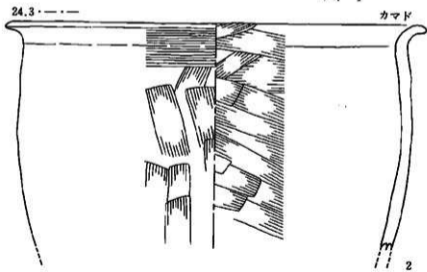
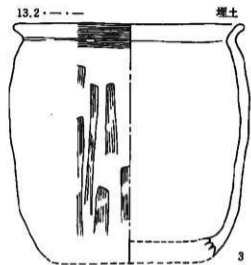
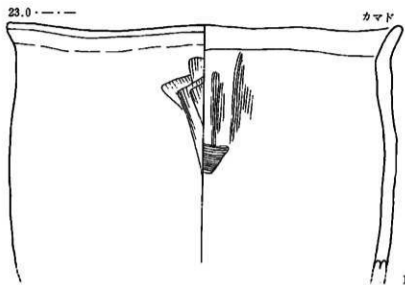
図版78 Cb53-1住居址出土遺物(1)



図版79 Cb53-1住居址出土遺物(2)



図版80 Cb53-2 住居址



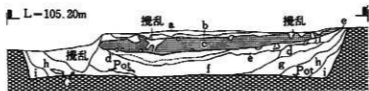
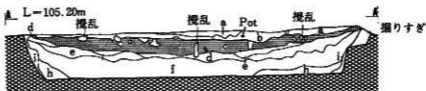
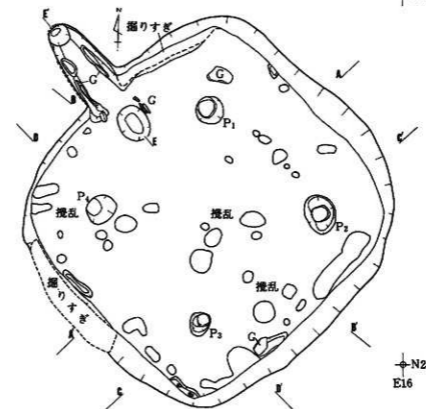
図版81 Cb53-2 住居址出土遺物

E 9
N30

E16
N30

N24
E 9

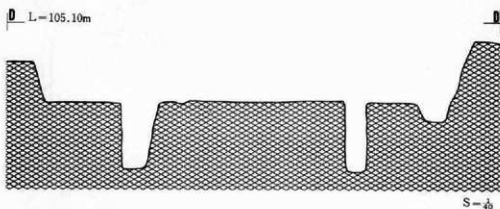
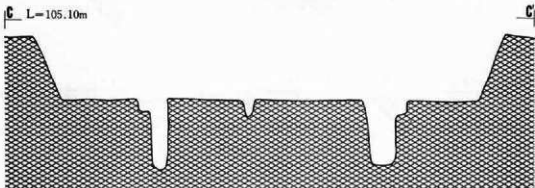
N24
E16



- a. 10 YR 2/1 黒色土層
- b. 10 YR 1.7/1 黒色土層
- c. 2.5 YR 6/6 明黄褐色土層 (十和田A降下火山灰)
- d. 10 YR 2/2 黒褐色土層
- e. 10 YR 2/3 黒褐色土層
- f. 10 YR 3/3 暗褐色土層 (含炭化物)
- g. 10 YR 3/4 暗褐色土層 (含炭化物)
- h. 10 YR 3/1 黒褐色土層 (含炭化物)
- i. 10 YR 3/2 黒褐色土層

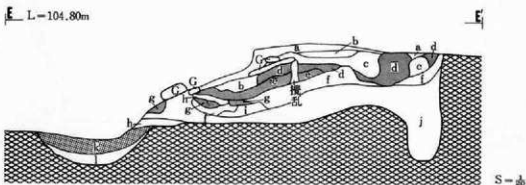
S-6

図版82 Cb59住居址(1)

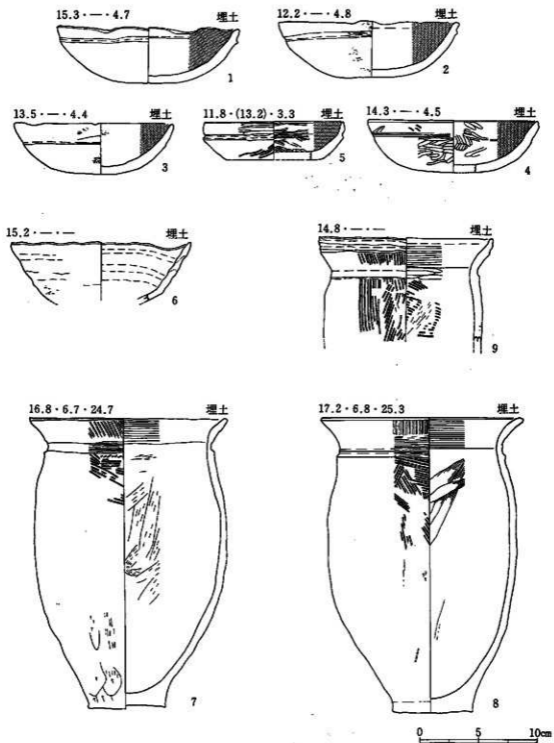


- a. 10 YR 2/1黒色土層
- b. 10 YR 3/3暗褐色土層
- c. 10 YR 2/2黒褐色土層
- d. 10 YR 6/3にふい黄褐色土層 (粘土質シルト)
- e. 10 YR 5/3にふい黄褐色土層 (粘土質シルト)
- f. 10 YR 3/4暗褐色土層

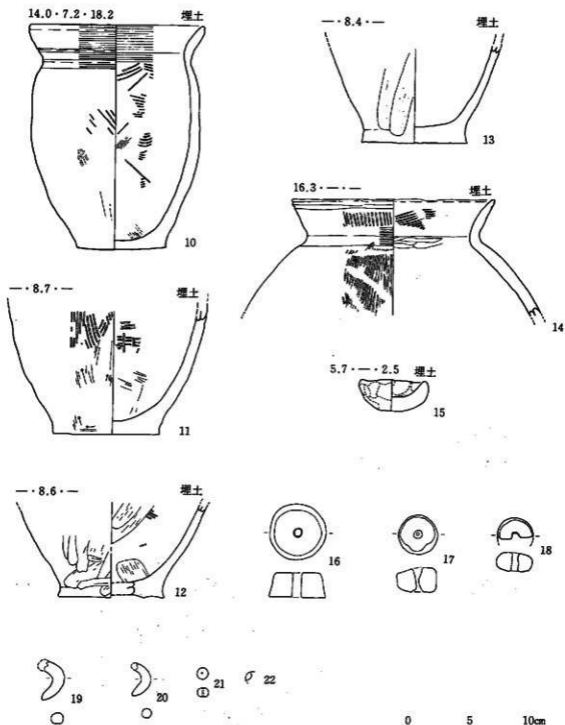
- g. 10 YR 7/4浅黄色土層 (粘土質シルト)
- h. 10 YR 2/3赤褐色土層
- i. 10 YR 3/1黒褐色土層
- j. 10 YR 3/2黒褐色土層 (含炭化物・焼土)
- k. 10 YR 6/8棕色土層 (焼土)
- l. 10 YR 4/6褐色土層



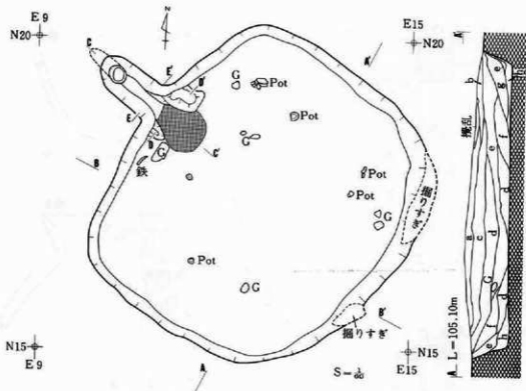
図版83 Cb59住居址 (2)



図版84 Cb59住居址出土遺物(1)

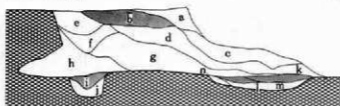


図版85 Cb59住居址出土遺物(2)



- a. 7.5 YR 3/1黒褐色土層
- b. 7.5 YR 2/2黒褐色土層
- c. 7.5 YR 3/2黒褐色土層
- d. 10 YR 2/2黒褐色土層
- e. 7.5 YR 2/1黒褐色土層
- f. 10 YR 3/1黒褐色土層
- g. 7.5 YR 1.7/1黒褐色土層
- h. 7.5 YR 3/3暗褐色土層

L-104.90m



- a. 7.5 YR 4/2灰褐色土層
- b. 10 YR 7/6明黄褐色土層 (粘土質シルト)
- c. 2.5 YR 4/3オリーブ褐色土層
- d. 7.5 YR 1.7/1黒色土層
- e. 10 YR 5/4にぶい黄褐色土層 (粘土質シルト)
- f. 7.5 YR 4/6褐色土層
- g. 7.5 YR 4/4褐色土層 (含焼土粒)
- h. 5 YR 2/1黒褐色土層 (含焼土粒)
- i. 2.5 YR 7/3黄褐色土層 (粘土質シルト)
- j. 7.5 YR 2/2黒褐色土層
- k. 7.5 YR 5/4にぶい褐色土層 (焼土)
- l. 7.5 YR 6/4にぶい橙褐色土層 (焼土)
- m. 2.5 YR 明褐色土層
- n. 5 YR 1.7/1黒色土層
- o. 10 YR 7/4にぶい黄褐色土層 (粘土質シルト)
- p. 2.5 YR 7/4黄褐色土層 (粘土質シルト)
- q. 10 YR 2/2黒褐色土層

L-104.60m

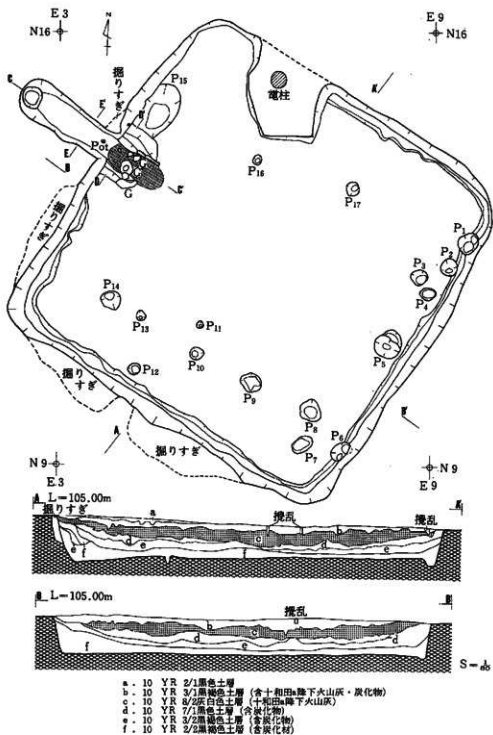


L-104.90m



S=30

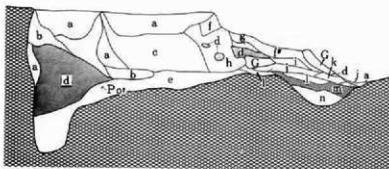
図版86 Cb59住居址



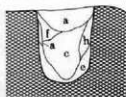
図版87 Cg50住居址(1)

f. L=105.10m

f



f. L=104.90m



- | | |
|-----------------------------|------------------------------|
| a. 10 YR 2/2 黒褐色土層 | i. 10 YR 3/4 暗褐色土層 (含炭化物) |
| b. 10 YR 3/3 暗褐色土層 | j. 7.5 YR 4/6 褐色土層 (含炭化物) |
| c. 10 YR 2/3 暗褐色土層 | k. 10 YR 4/4 褐色土層 (含炭化物) |
| d. 10 YR 8/3 黄褐色土層 (粘土質シルト) | l. 10 YR 6/5 黄褐色土層 (含炭化物) |
| e. 10 YR 2/1 黒色土層 | m. 5 YR 4/6 暗褐色土層 (黄土) |
| f. 10 YR 3/1 黒褐色土層 (含炭化物) | n. 5 YR 3/6 暗褐色土層 |
| g. 10 YR 4/6 褐色土層 (含炭土粒) | o. 2.5 YR 7/4 淡黄色土層 (粘土質シルト) |
| h. 10 YR 3/2 黒褐色土層 (含炭化物) | |

f. L=104.90m



E 3
N16
炭化材・遺物出土状況

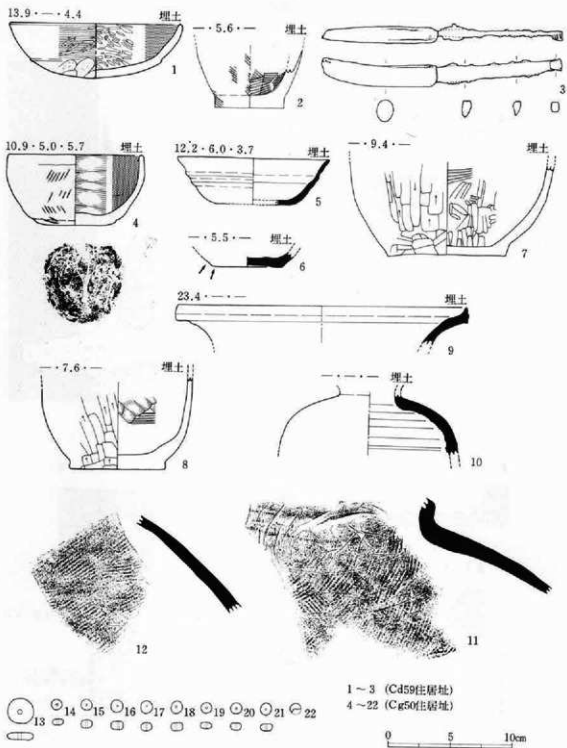


N 9
E 3

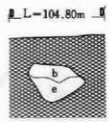
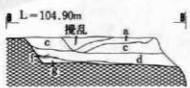
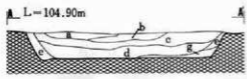
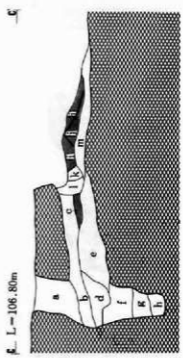
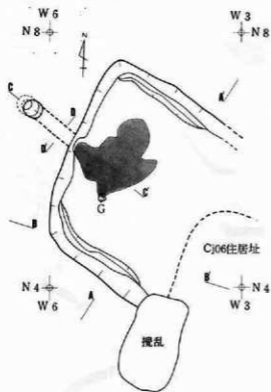
S-ab

N 9
E 10

図版88 Cg50住居址 (2)



图版89 Cd59住居址出土遺物
Cg50住居址出土遺物



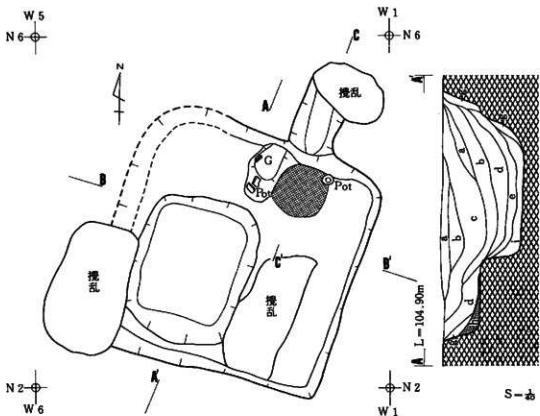
- a. 7.5 YR 2/3 棕暗褐色土層 (含 十和田山跡下火山灰)
- b. 7.5 YR 2/1 黒色土層 (含 十和田山跡下火山灰)
- c. 7.5 YR 2/2 黒褐色土層
- d. 7.5 YR 3/1 黒褐色土層
- e. 7.5 YR 3/4 暗褐色土層
- f. 7.5 YR 2/3 棕暗褐色土層
- g. 7.5 YR 3/2 黒褐色土層

- a. 7.5 YR 3/1 黒褐色土層
- b. 7.5 YR 2/2 黒褐色土層
- c. 2.5 Y 6/4 にぶい黄色土層 (粘土質シルト)
- d. 10 YR 3/3 暗褐色土層
- e. 7.5 YR 2/1 黒色土層
- f. 10 YR 2/2 黒褐色土層
- g. 10 YR 3/1 黒褐色土層
- h. 10 YR 2/3 黒褐色土層
- i. 2.5 Y 8/4 淡黄色土層 (粘土質シルト)
- j. 10 YR 3/3 にぶい黄褐色土層 (粘土質シルト)
- k. 10 YR 3/2 黒褐色土層
- l. 7.5 YR 1.7/1 黒色土層
- m. 10 YR 2/1 黒色土層

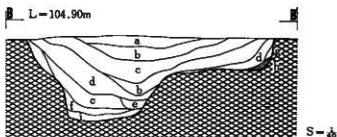
S-6b

S-6c

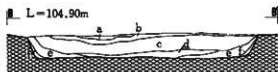
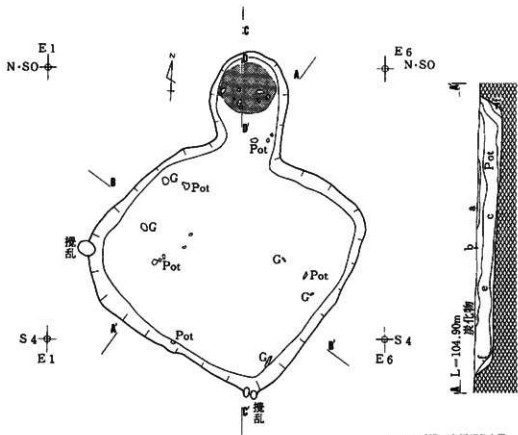
図版90 Ci06住居址



- a. 7.5 YR 2/2 黒褐色土層 (含十和田 α 降下火山灰)
 b. 7.5 YR 3/1 黒褐色土層 (含十和田 α 降下火山灰)
 c. 10 YR 3/2 黒褐色土層 (含十和田 α 降下火山灰)
 d. 10 YR 3/1 黒褐色土層 (含十和田 α 降下火山灰)
 e. 7.5 YR 2/1 黒色土層 (含十和田 α 降下火山灰)
 f. 7.5 YR 3/2 黒褐色土層 (含炭化物・礫)
 g. 7.5 YR 1.7/1 黒色土層 (含十和田 α 降下火山灰)
 h. 7.5 YR 5/6 明褐色土層 (焼土)
 i. 7.5 YR 4/2 灰褐色土層 (含炭化物・焼土性)



図版91 C.J06住居址



- a. 7.5 YR 3/1 黑褐色土層 (含炭化物)
- b. 7.5 YR 3/2 黑褐色土層 (含炭)
- c. 7.5 YR 2/1 褐色土層 (含炭)
- d. 7.5 YR 2/3 暗褐色土層
- e. 7.5 YR 2/2 黑褐色土層
- f. 7.5 YR 3/3 暗褐色土層

a. 2.5 YR 6/8 棕色土層 (黄土)

S-ab

S-ab

图版92 De50住居址

14.8・6.1・5.4

カマド



1

14.6・6.0・5.0

埋土



2



1・2 (Cj06住居址)

3・4 (Da50住居址)

---6.8---

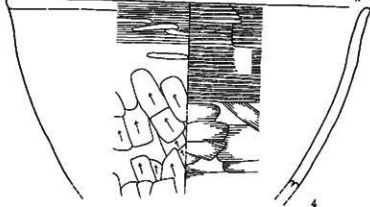
埋土



3

20.0 ---

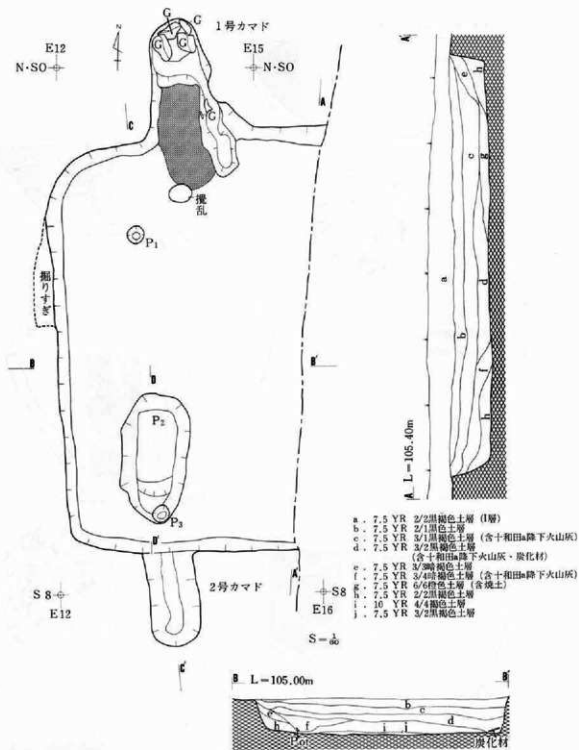
炉



4



図版93 Cj06住居址出土遺物
Da50住居址出土遺物



図版94 Da62住居址 (1)

c L-105.00m



β L-104.50m



- a. 10 YR 3/1黒褐色土層 (含十和田珪下火山灰)
- b. 10 YR 2/2黒褐色土層 (含十和田珪下火山灰)
- c. 10 YR 2/3黒褐色土層 (含十和田珪下火山灰)
- d. 10 YR 3/2黒褐色土層 (含十和田珪下火山灰)
- e. 10 YR 5/6黄褐色土層 (焼土)
- f. 7.5 YR 4/2灰褐色土層 (含焼土粒)
- g. 7.5 YR 3/3暗褐色土層
- h. 7.5 YR 3/4暗褐色土層
- i. 7.5 YR 2/2黒褐色土層
- j. 7.5 YR 5/8明褐色土層 (焼土)
- k. 10 YR 4/4褐色土層

E13
N 1

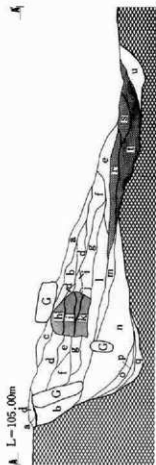


E15
N 1

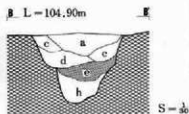
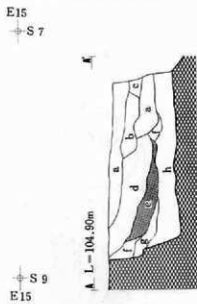
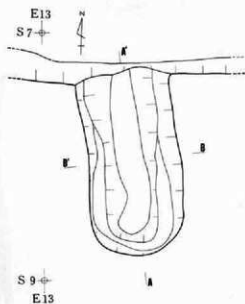
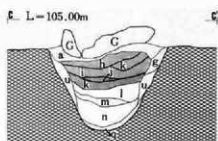
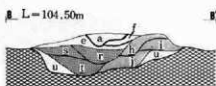
S 2
E13

S 2
E15

S-3b



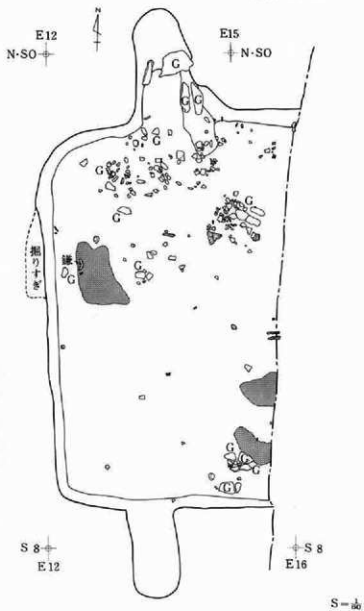
図版95 Da62住居址(2)1号カマド



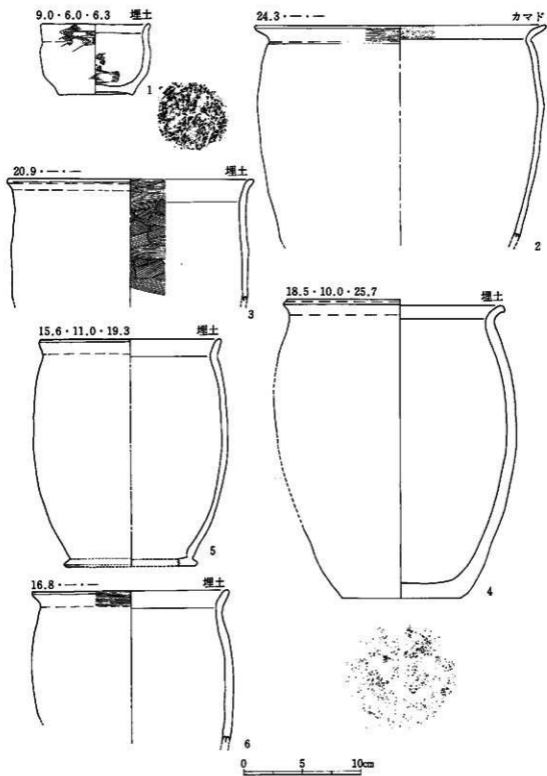
- a. 7.5 YR 2/2 黒褐色土層 (含十和田a降下火山灰)
- b. 7.5 YR 3/2 黒褐色土層 (含十和田a降下火山灰)
- c. 7.5 YR 3/3 暗褐色土層
- d. 7.5 YR 2/3 暗褐色土層 (含焼土粒)
- e. 7.5 YR 4/6 褐色土層 (焼土)
- f. 7.5 YR 3/4 暗褐色土層
- g. 10 YR 3/3 暗褐色土層 (含焼土粒)
- h. 7.5 YR 2/2 黒褐色土層

図版96 Da住居址(3)2号カマド

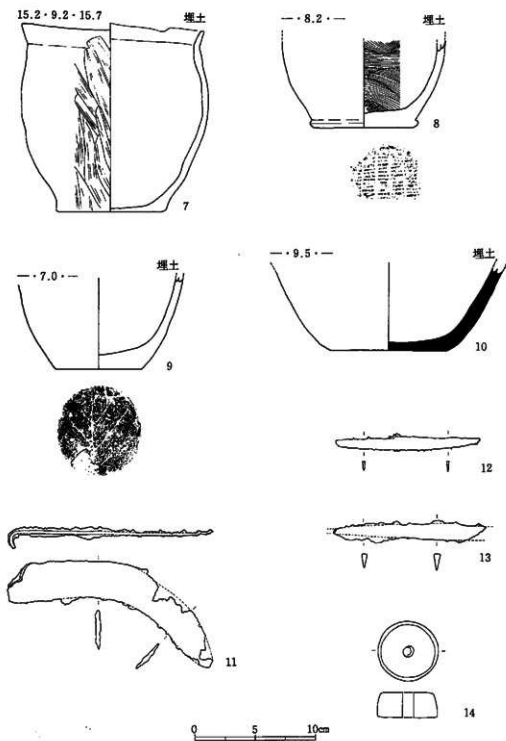
遺物出土状況



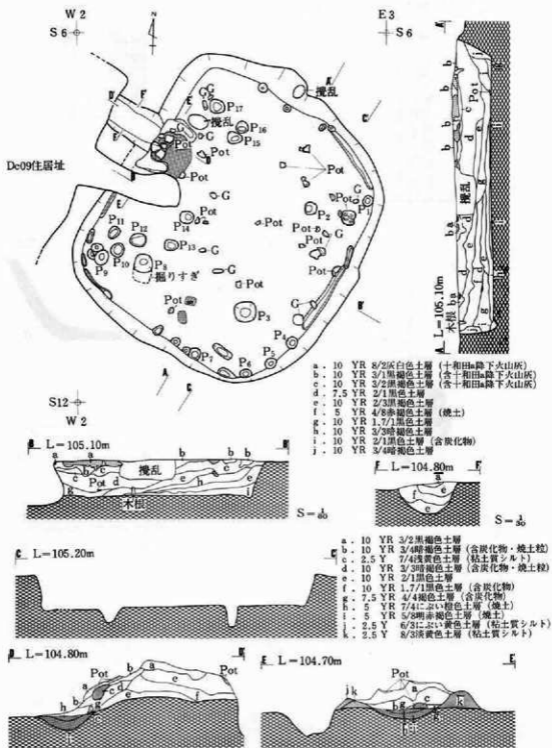
図版97 Da62住居址 (4)



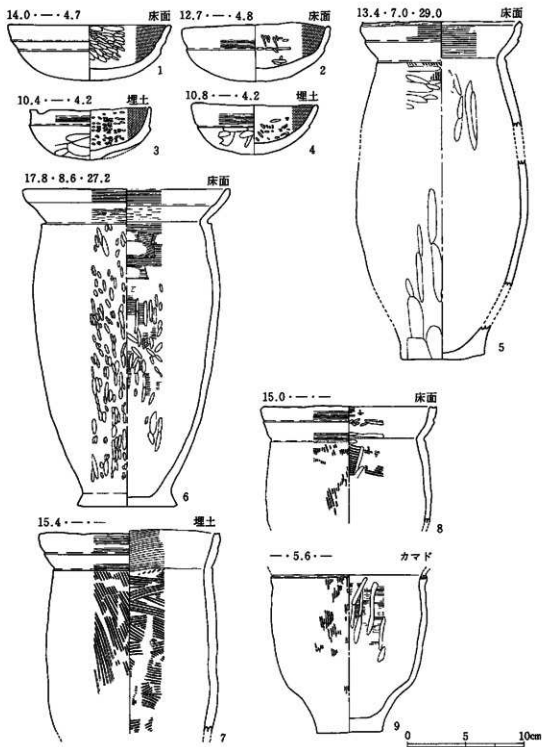
図版98 Da62住居址出土遺物 (1)



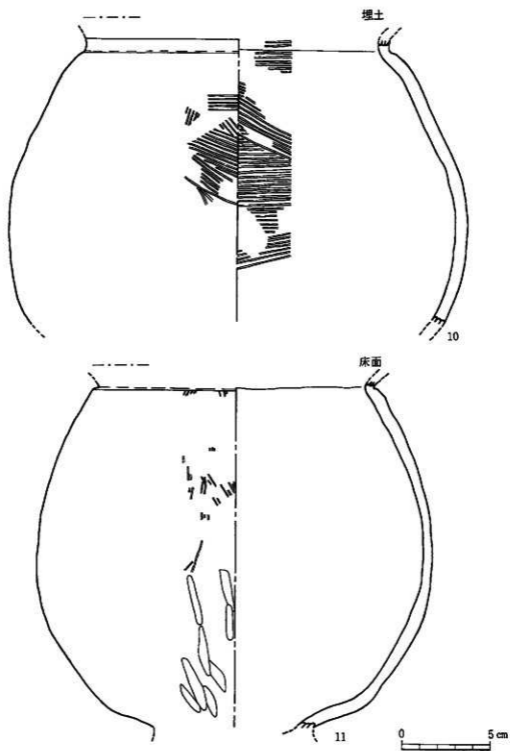
图版99 Da62住居址出土遺物(2)



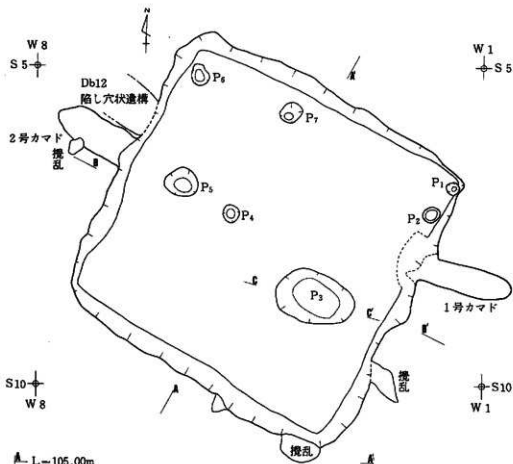
図版100 De03住居址



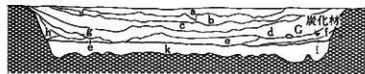
図版101 Dc03住居址出土遺物 (1)



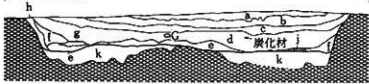
图版102 Dc03住居址出土遺物(2)



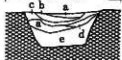
A-L-105.00m



B-L-105.00m



C-L-104.30m

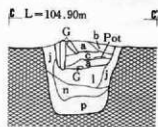
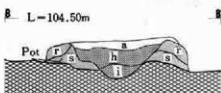
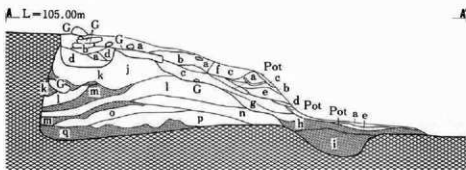
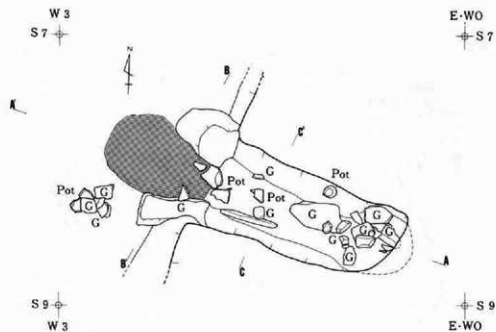


- a. 7.5 YR 1.7/1黒色土層
- b. 7.5 YR 2/2黒褐色土層
- c. 7.5 YR 2/1黒色土層 (含十和田a降下火山灰)
- d. 10 YR 2/2黒褐色土層 (含十和田a降下火山灰・炭化物)
- e. 7.5 YR 3/3暗褐色土層 (含十和田a降下火山灰)
- f. 7.5 YR 3/1黒褐色土層
- g. 7.5 YR 3/2黒褐色土層 (含十和田a降下火山灰)
- h. 7.5 YR 3/4暗褐色土層
- i. 7.5 YR 2/2黒褐色土層 (含炭化物)
- j. 2.5 YR 5/8赤褐色土層 (黄土)
- k. 10 YR 1.7/2黒色土層 (含十和田a降下火山灰・炭化物)

- a. 10 YR 2/2黒褐色土層 (含黄土粒)
- b. 10 YR 3/3暗褐色土層
- c. 7.5 YR 1.7/1黒色土層
- d. 7.5 YR 2/1黒色土層
- e. 7.5 YR 3/3暗褐色土層

S-ab

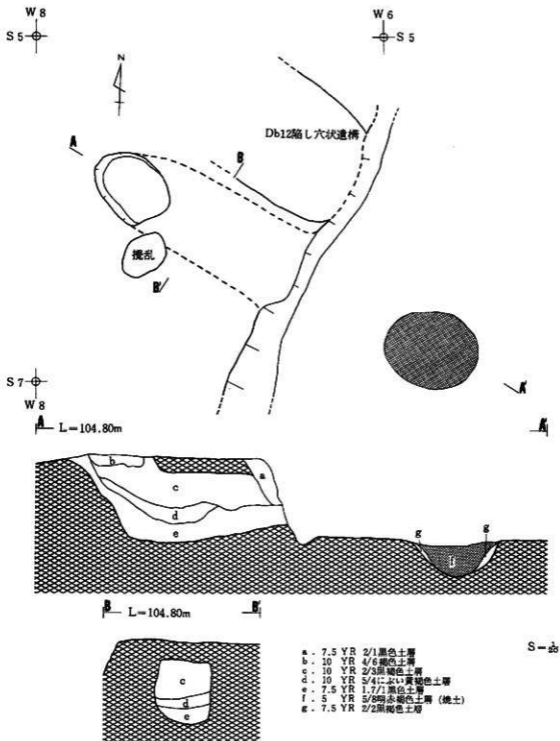
図版103 Dc09住居址 (1)



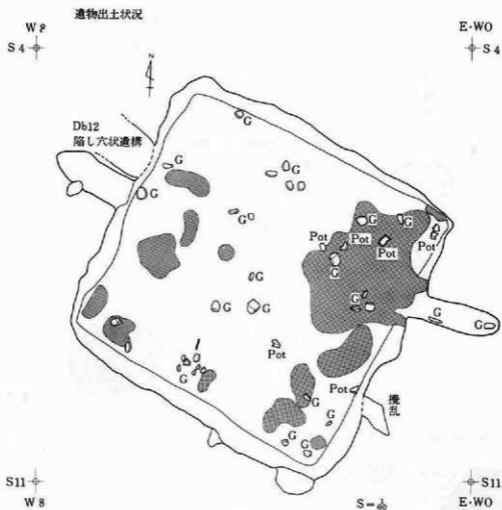
- a. 10 YR 3/25暗褐色土層
- b. 10 YR 4/4褐色土層
- c. 10 YR 3/4暗褐色土層
- d. 10 YR 3/2暗褐色土層
- e. 10 YR 5/3によい黄褐色土層
- f. 7.5 YR 5/8明褐色土層
- g. 7.5 YR 3/1黒褐色土層 (含炭化物・焼土)
- h. 5 YR 6/8棕色土層 (焼土)
- i. 5 YR 5/8明赤褐色土層 (焼土)
- j. 10 YR 2/1黒色土層 (含十和田・降下火山灰)

- k. 2.5 YR 5/8明赤褐色土層 (焼土・含炭化物)
- l. 10 YR 2/1黒色土層 (含炭化物)
- m. 2.5 YR 6/8棕色土層 (焼土・含炭化物)
- n. 2.5 YR 6/8棕色土層 (焼土・含炭化物)
- o. 10 YR 3/2黒褐色土層 (含炭化物・焼土粒)
- p. 10 YR 2/2黒褐色土層 (含炭化物・焼土粒)
- q. 2.5 YR 5/8明赤褐色土層 (焼土)
- r. 10 YR 4/6褐色土層 (粘土質シルト)
- s. 10 YR 5/6黄褐色土層 (粘土質シルト)

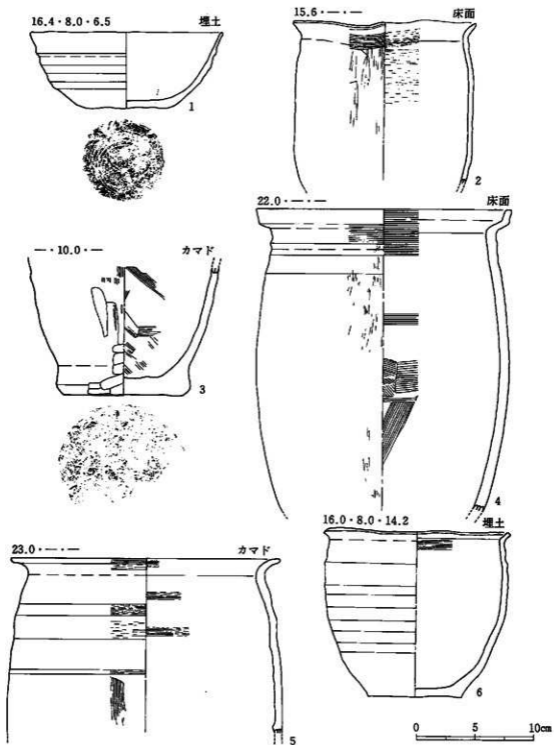
図版104 Dc09住居址(2) 1号カマド



図版105 Dc09住居址(3)2号カマド

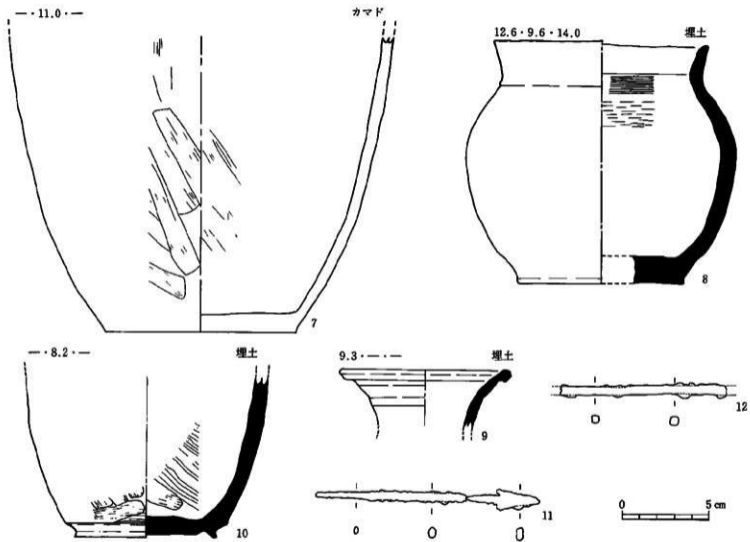


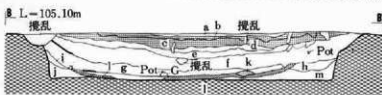
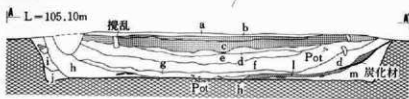
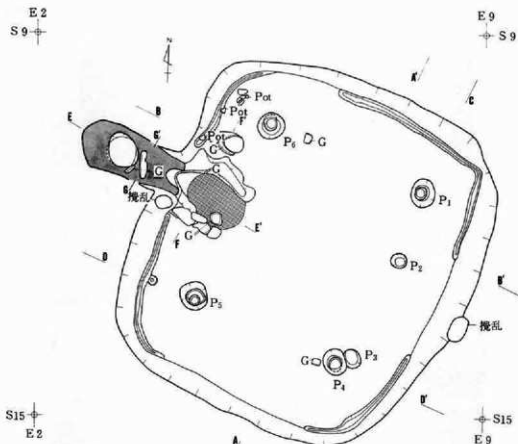
図版106 Dc09住居址 (4)



図版107 Dc09住居址出土遺物(1)

図版108 D009住居址出土遺物(2)

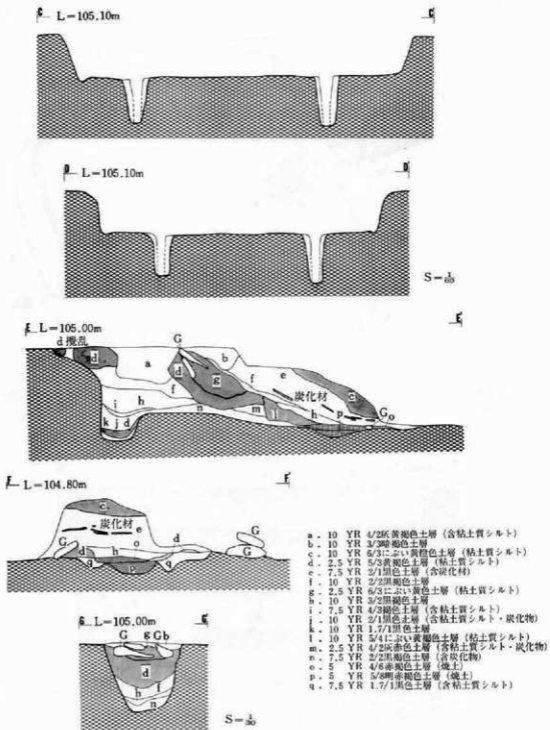




- | | |
|---------------------------------|------------------------------|
| a. 10 YR 3/1 黑褐色土層 | h. 10YR 3/2 黑褐色土層 (含炭化材) |
| b. 10 YR 4/2 灰褐色土層 (十和田隕下火山灰) | i. 10 YR 3/3 暗褐色土層 |
| c. 10 YR 8/2 灰白色土層 (十和田隕下火山灰) | j. 10 YR 1.7/1 黒色土層 |
| d. 7.5 YR 2/3 極暗褐色土層 (含炭化物・焼土粒) | k. 2.5 YR 8/4 淡黄色土層 (粘土質シルト) |
| e. 10 YR 2/1 黒色土層 (含炭化物) | l. 5 YR 5 |
| f. 10 YR 2/2 黒褐色土層 (含炭化物) | l. 5 YR 5/8 暗赤褐色土層 (焼土) |
| g. 10 YR 1.7/ 黒色土層 (含炭化物・焼土) | m. 7.5 YR 2/1 黒色土層 (含炭化材) |

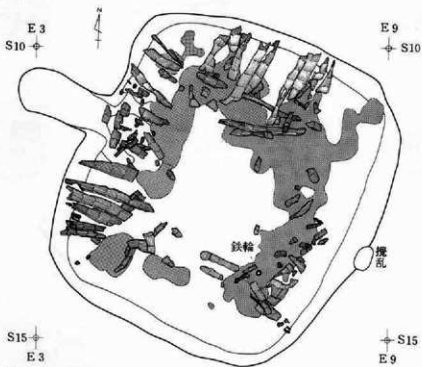
S-100

図版109 Dd53住居址 (1)

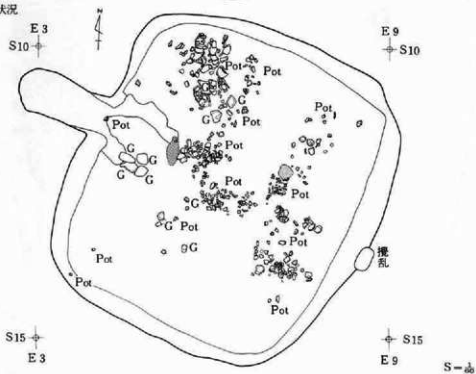


図版 110 Dd53住居 (2)

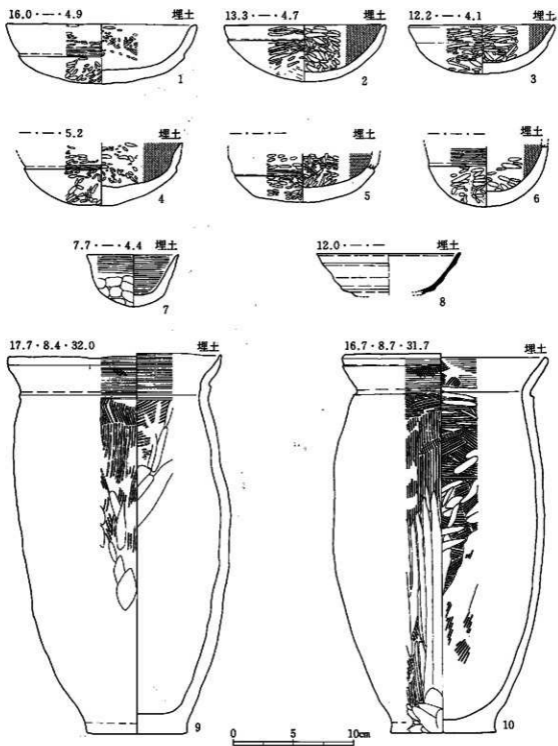
a. 炭化材出土状況



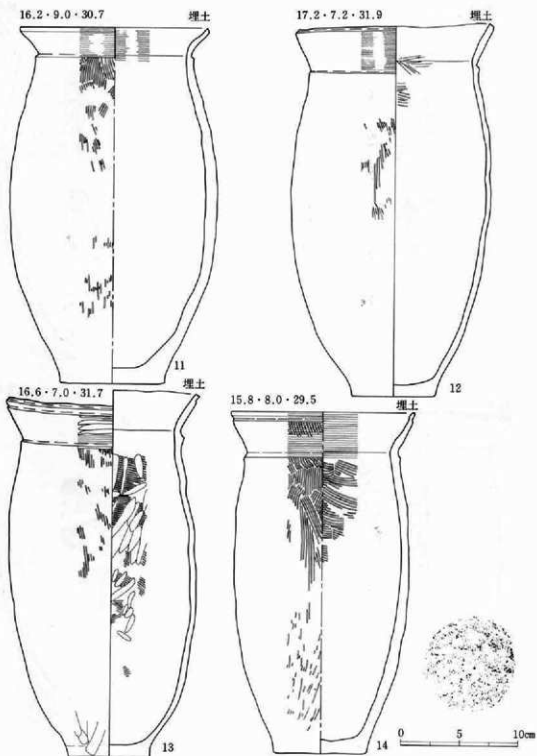
b. 遺物出土状況



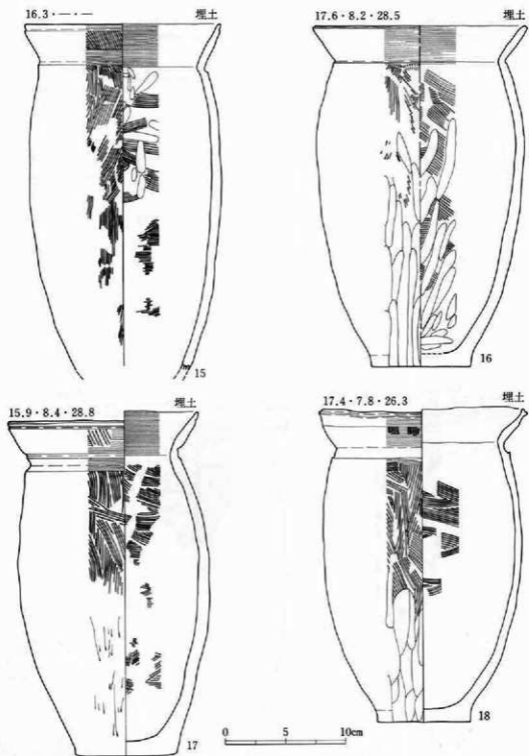
図版111 Dd53住居址(3)



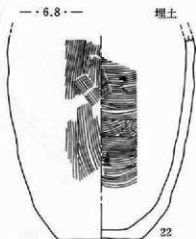
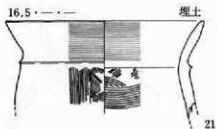
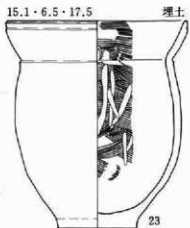
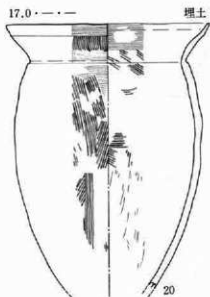
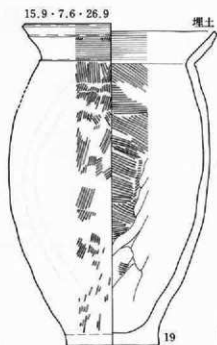
図版112 Dg53住居址出土遺物 (1)



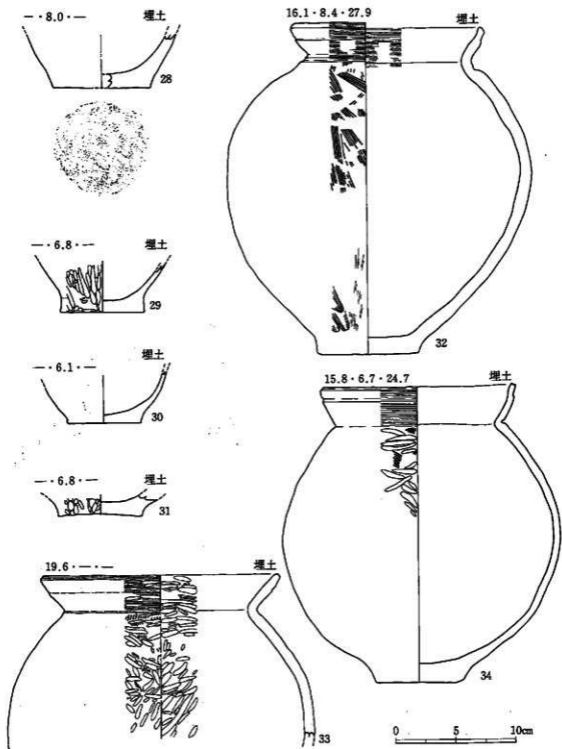
図版113 Dd53住居址出土遺物 (2)



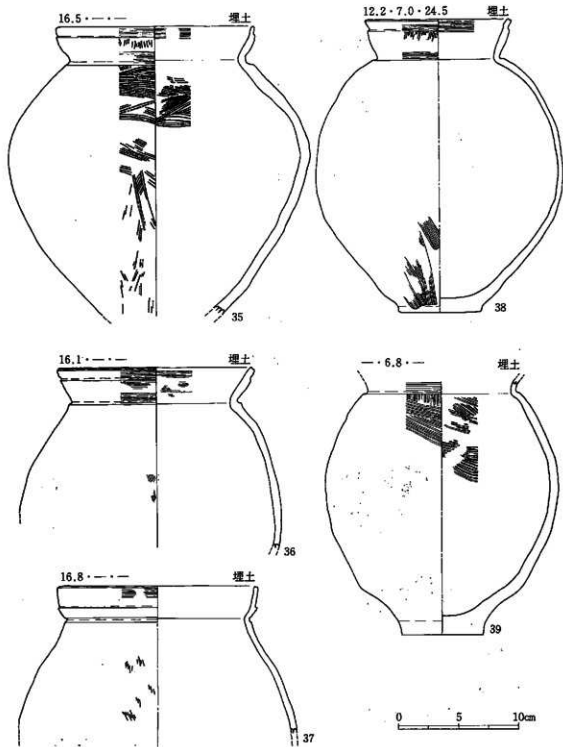
図版114 Dd53住居址出土遺物(3)



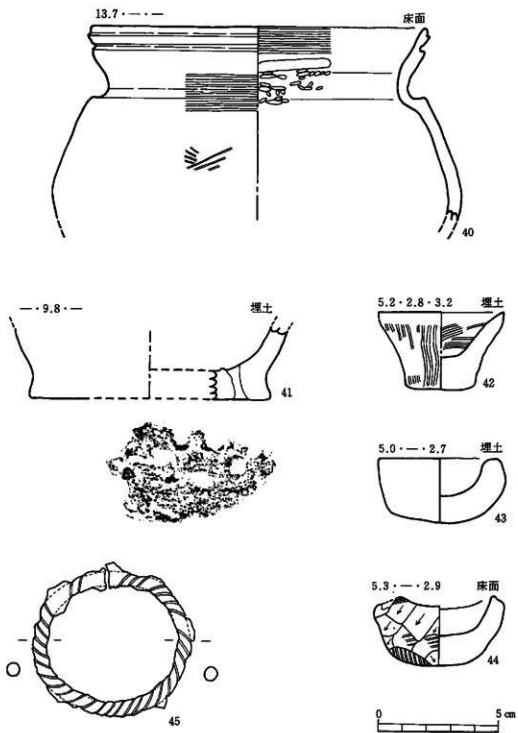
図版115 Dd53住居址出土遺物 (4)



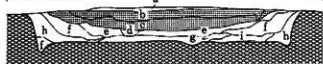
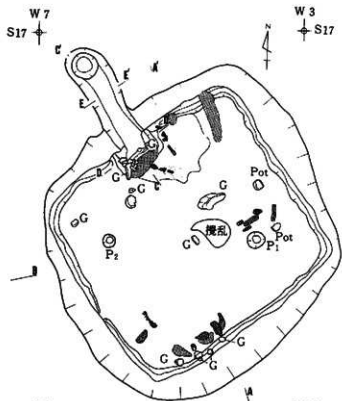
图版116 Dd53住居址出土遗物 (5)



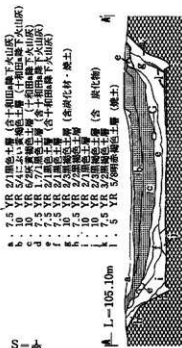
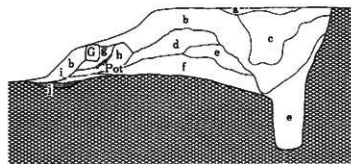
図版117 · D453住居址出土遺物 (6)



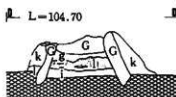
图版118 Dd53住居址出土遺物 (7)



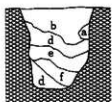
L-105.00m



S-23



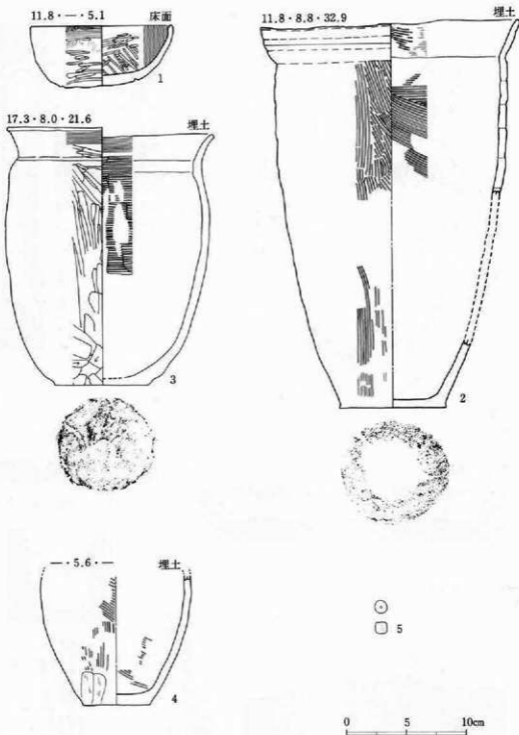
L-104.70



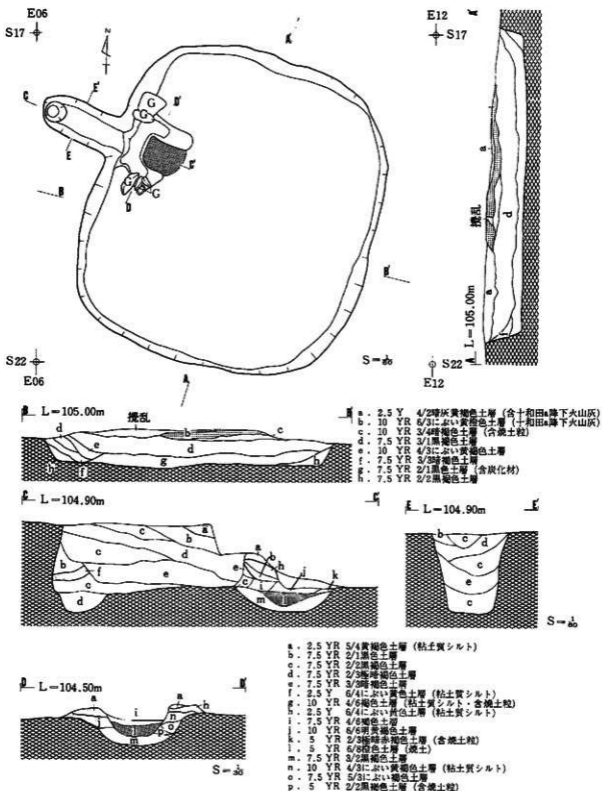
- a. 10 YR 3/3暗褐色土層
- b. 7.5 YR 2/1黒色土層
- c. 10 YR 4/3にふい黄褐色土層
- d. 7.5 YR 1.7/1黒色土層
- e. 10 YR 2/2黒褐色土層
- f. 10 YR 3/4暗褐色土層
- g. 7.5 YR 3/1黒褐色土層 (含粘土質シルト・炭化)
- h. 7.5 YR 6/3にふい褐色土層 (粘土質シルト)
- i. 10 YR 3/3暗褐色土層
- j. 5 YR 6/8褐色土層 (燻土)
- k. 10 YR 2/1黒褐色土層 (含粘土質シルト)
- l. 10 YR 4/2灰黄褐色土層 (粘土質シルト)

S-23

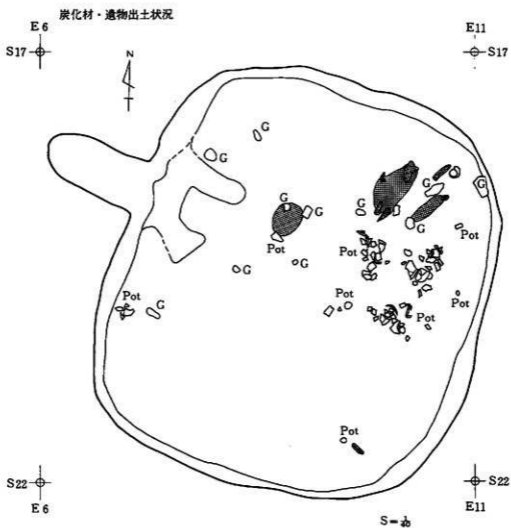
図版119 Dg09住居址



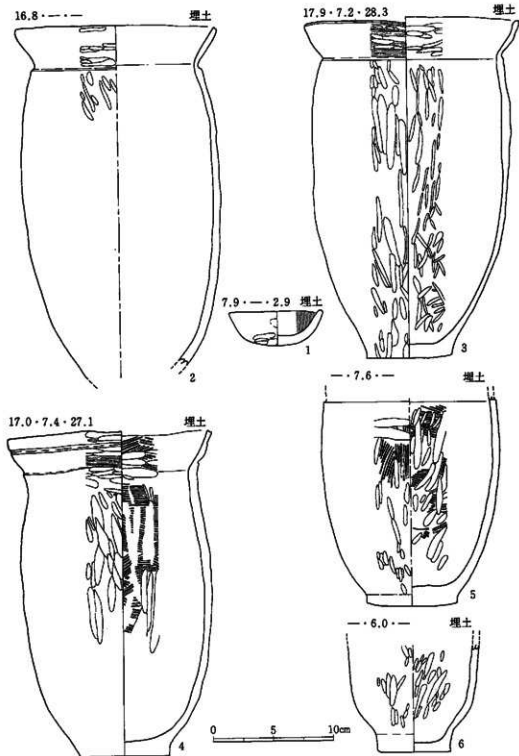
図版120 Dg09住居址出土遺物



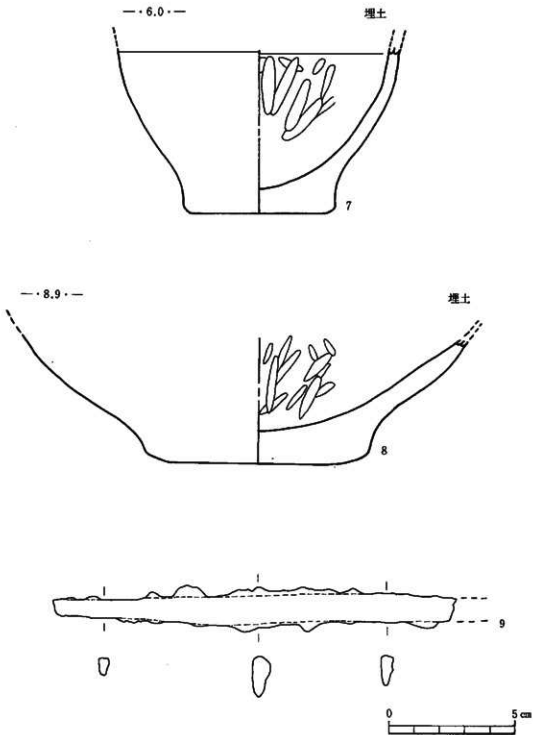
図版121 Dg56住居址(1)



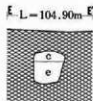
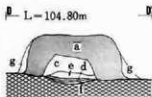
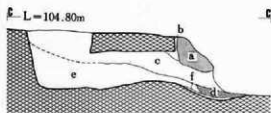
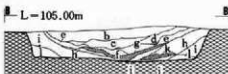
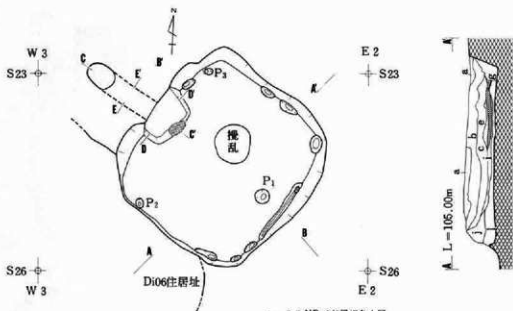
图版122 Dg56住居址 (2)



图版123 Dg56住居址出土遺物 (1)



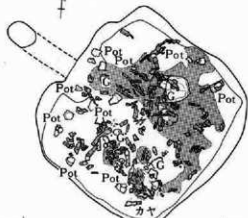
图版124 Dg56住居址出土遺物（2）



- a. 7.5 YR 2/2黒褐色土層
- b. 7.5 YR 2/1黒色土層 (含炭化物)
- c. 7.5 YR 3/1黒褐色土層 (含十和田a降下火山灰・炭化物)
- d. 10 YR 2/2黒褐色土層 (含十和田a降下火山灰)
- e. 10 YR 2/3黒褐色土層 (含十和田a降下火山灰・炭化物)
- f. 7.5 YR 2/1黒色土層 (含十和田a降下火山灰・焼土粒)
- g. 7.5 YR 5/3暗褐色土層 (焼土・含炭化材)
- h. 10 YR 2/1黒色土層 (含炭化材)
- i. 7.5 YR 1.7/1黒色土層
- j. 7.5 YR 2/2黒褐色土層 (含炭化物)
- k. 7.5 YR 6/8棕色土層 (焼土・含炭化材)
- l. 7.5 YR 3/2黒褐色土層

S-ab

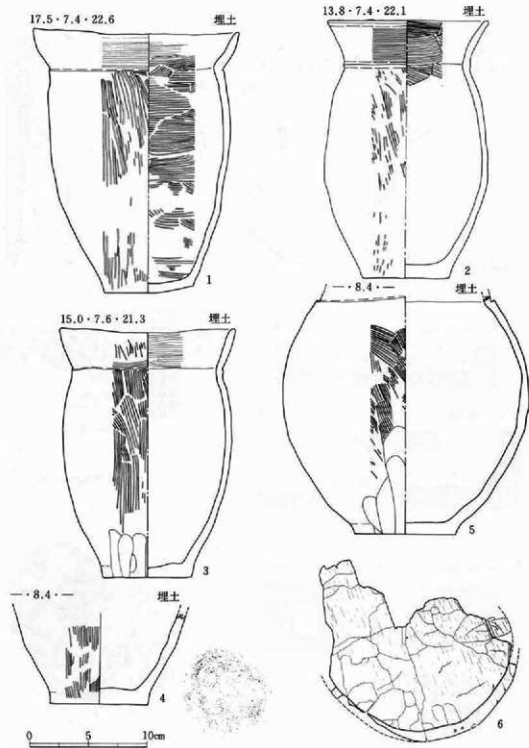
W 2 S22 E1 S22
炭化材・遺物出土状況



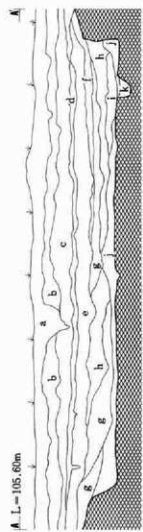
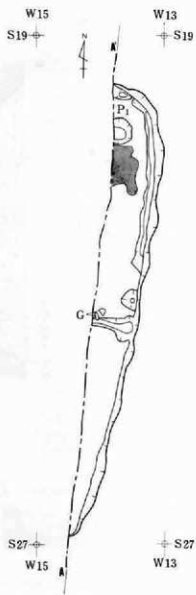
S26 W 2 E1 S26

- a. 5 Y 8/3淡黄色土層 (粘土質シルト)
- b. 10 YR 3/3暗褐色土層 (含粘土質シルト・炭化物)
- c. 7.5 YR 2/1黒色土層 (含炭化物)
- d. 5 YR 6/8棕色土層 (焼土)
- e. 10 YR 2/3黒褐色土層
- f. 10 YR 1.7/1黒色土層 (含焼土粒)
- g. 10 YR 2/1黒色土層 (含粘土質シルト)

図版125 Dh03住居址



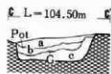
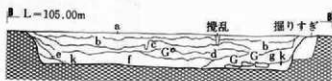
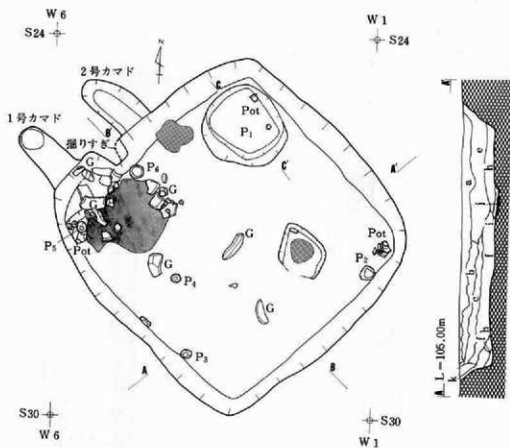
图版126 Dh03住居址出土遺物



- a. 7.5 YR 3/1 暗褐色土層 (I層)
- b. 7.5 YR 3/1 暗褐色土層 (I層)
- c. 7.5 YR 3/2 暗褐色土層 (I層)
- d. 7.5 YR 1.7/1 黑色土層 (高十和山麓下火山灰)
- e. 7.5 YR 2/1 暗褐色土層 (高十和山麓下火山灰)
- f. 7.5 YR 3/1 暗褐色土層 (高十和山麓下火山灰)
- g. 7.5 YR 2/2 暗褐色土層
- h. 7.5 YR 2/2 暗褐色土層
- i. 7.5 YR 1.7/1 黑色土層
- j. 7.5 YR 1.7/1 黑色土層
- k. 7.5 YR 3/4 暗褐色土層

S = 1/50

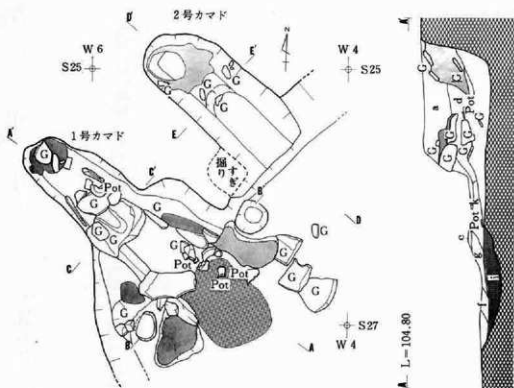
図版127 Dh15住居址



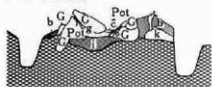
- S-ab
- a. 7.5 YR 3/4暗褐色土層
 - b. 7.5 YR 3/1黒褐色土層
 - c. 7.5 YR 4/2灰褐色土層 (含十和田a降下火山灰)
 - d. 7.5 YR 3/2黒褐色土層 (含十和田a降下火山灰)
 - e. 7.5 YR 4/6褐色土層 (含十和田a降下火山灰)
 - f. 7.5 YR 2/2黒褐色土層 (含十和田a降下火山灰)
 - g. 7.5 YR 4/3にぶい褐色土層 (含十和田a降下火山灰)
 - h. 7.5 YR 2/3暗褐色土層 (含炭化物)
 - i. 7.5 YR 4/4褐色土層 (含炭化物・焼土粒)
 - j. 5 YR 5/8明赤褐色土層 (焼土)
 - k. 7.5 YR 2/1黒色土層

- a. 7.5 YR 4/6褐色土層 (含炭化物・焼土粒)
- b. 7.5 YR 2/2黒褐色土層 (含十和田a降下火山灰)
- c. 7.5 YR 3/3暗褐色土層

図版128 Di06住居址 (1)



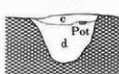
A-L=104.60m



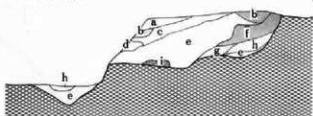
1号カマド

- a. 7.5 YR 2/2黒褐色土層
- b. 10 YR 7/3にぶい黄褐色土層 (粘土質シルト)
- c. 10 YR 2/1黒色土層
- d. 10 YR 3/1黒褐色土層 (含粘土質シルト)
- e. 7.5 YR 3/4暗褐色土層 (含炭化物・焼土粒)
- f. 7.5 YR 4/4暗褐色土層 (含炭化物・焼土粒)
- g. 7.5 YR 4/6暗褐色土層 (含炭化物・焼土粒)
- h. 10 YR 3/3暗褐色土層 (含焼土粒)
- i. 5 YR 6/2棕色土層 (焼土)
- j. 10 YR 1.7/1黒色土層
- k. 10 YR 3/2黒褐色土層 (含粘土質シルト)

E-L=104.90m



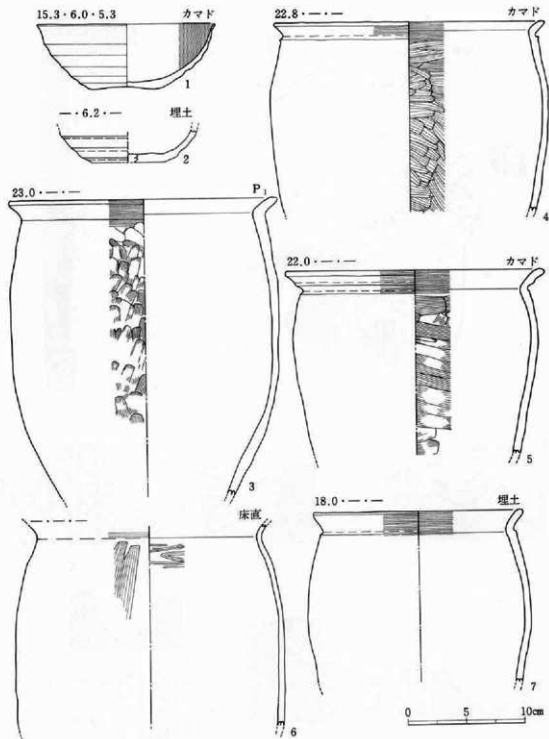
B-L=104.90m



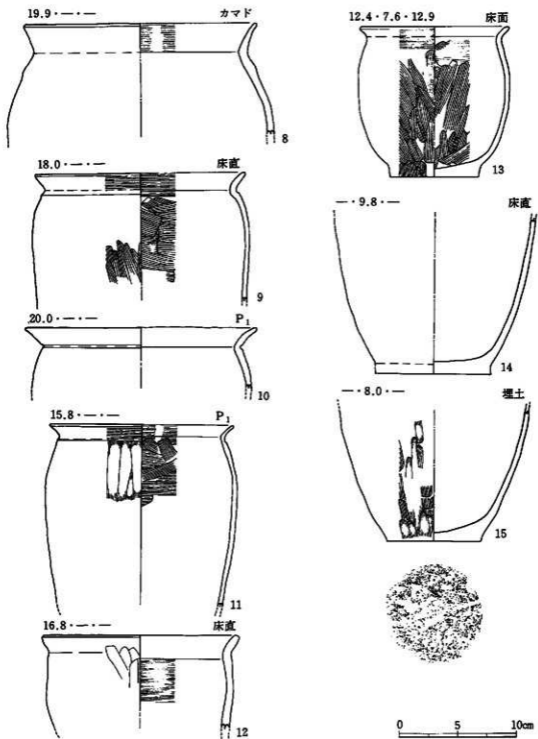
2号カマド

- a. 10 YR 2/1黒色土層
- b. 10 YR 4/2灰褐色土層 (粘土質シルト)
- c. 10 YR 1.7/1黒色土層
- d. 10 YR 3/4暗褐色土層
- e. 10 YR 2/2黒褐色土層
- f. 10 YR 5/4にぶい黄褐色土層 (粘土質シルト)
- g. 10 YR 3/1黒褐色土層
- h. 7.5 YR 3/3暗褐色土層
- i. 5 YR 4/4赤褐色土層 (焼土)

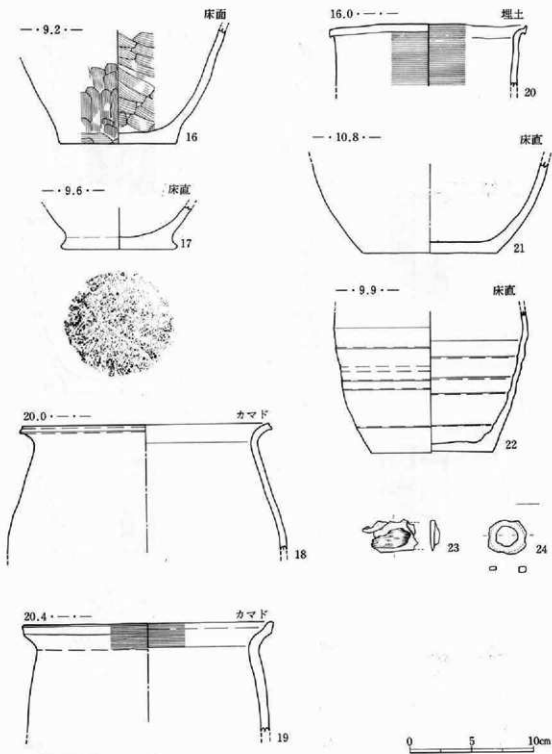
図版129 Di06住居 (1)



図版130 DI06住居址出土遺物(1)



図版131 D106住居址出土遺物 (2)

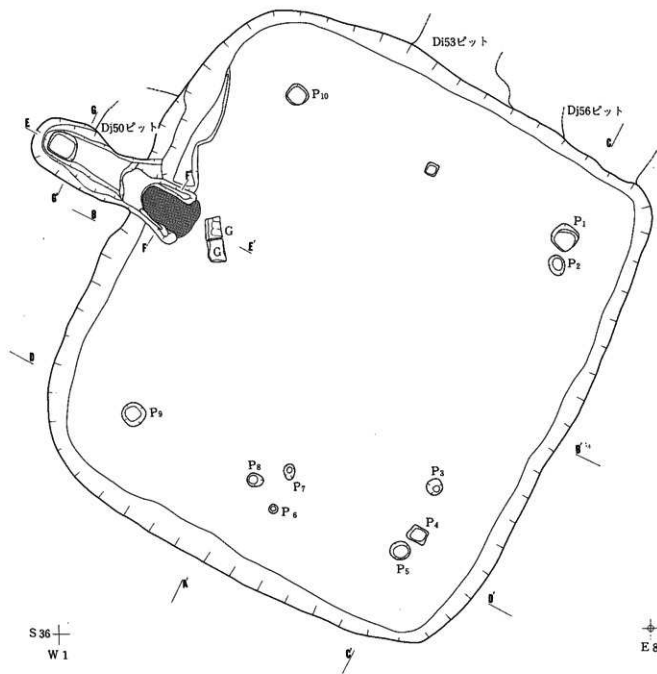


図版132 D106住居址出土遺物 (3)

W 1
S 26

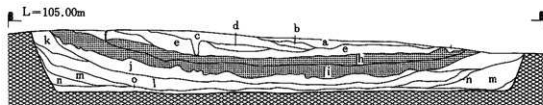
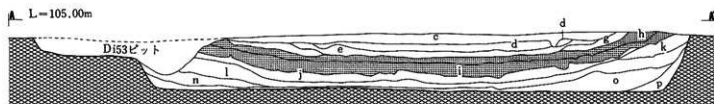


E 8
S 26



S 36
W 1

E 8
S 36

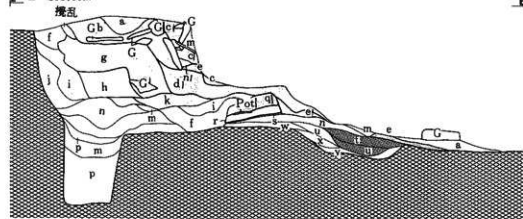


- a - 7.5 YR 3/3暗褐色土層
- b - 10 YR 4/6 褐色土層
- c - 7.5 YR 3/3暗褐色土層 (含十和田a層下火山灰)
- d - 7.5 YR 4/2灰褐色土層 (含十和田a層下火山灰)
- e - 7.5 YR 4/2灰褐色土層 (含十和田a層下火山灰)
- f - 7.5 YR 3/1黒褐色土層 (含十和田a層下火山灰)
- g - 10 YR 3/3に多い黄褐色土層 (含十和田a層下火山灰)
- h - 10 YR 4/2に多い黄褐色土層 (十和田a層下火山灰)
- i - 10 YR 6/3に多い黄褐色土層 (十和田a層下火山灰)
- j - 7.5 Y 2/1黒色土層 (含炭化物・焼土粒)
- k - 7.5 YR 3/4暗褐色土層
- l - 7.5 YR 3/1黒褐色土層
- m - 7.5 YR 2/2黒褐色土層 (含炭化材・焼土)
- n - 7.5 YR 3/1黒褐色土層 (含炭化材・焼土)
- o - 10 YR 3/4暗褐色土層 (含炭化材・焼土)
- p - 7.5 YR 3/2黒褐色土層

0 1 2 3 m

図版133 Dj03住居址 (1)

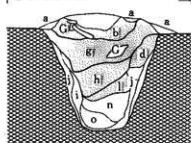
尺 L=105.00m



尺 L=104.00m



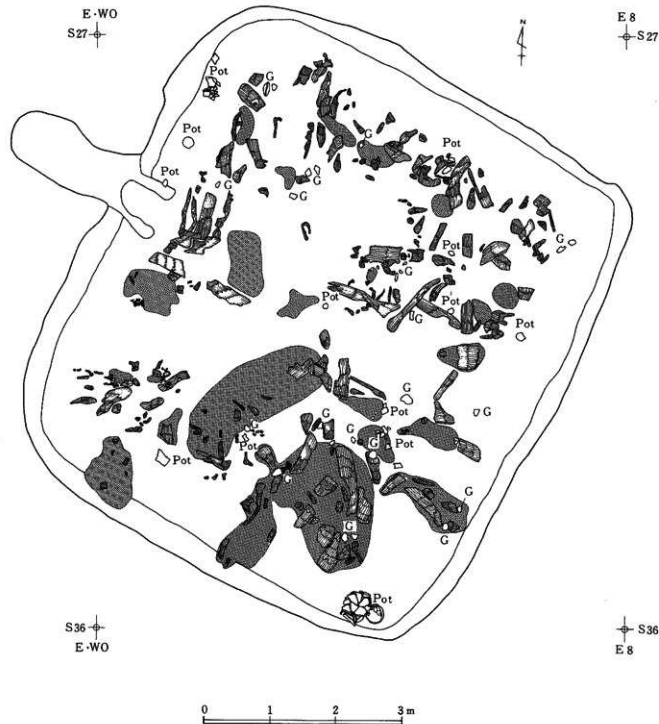
尺 L=105.00m



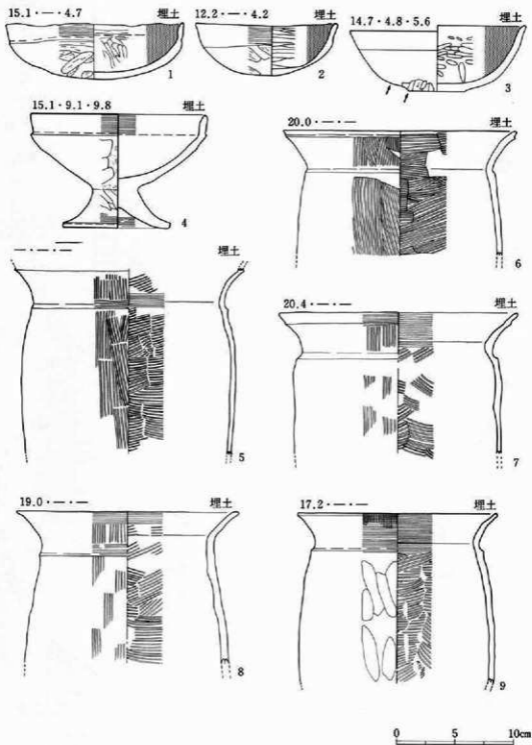
- a. 7.5 YR 3/4暗褐色土層
- b. 2.5 YR 7/4黄褐色土層 (粘土質シルト)
- c. 2.5 Y 5/4黄褐色土層 (粘土質シルト)
- d. 2.5 Y 3/3暗オリーブ褐色土層 (粘土質シルト)
- e. 2.5 Y 7/4黄褐色土層 (粘土質シルト)
- f. 7.5 YR 2/2黒褐色土層
- g. 2.5 Y 7/4黄褐色土層 (粘土質シルト)
- h. 2.5 Y 6/4にぶい黄色土層 (粘土質シルト)
- i. 10 YR 3/3暗褐色土層
- j. 7.5 YR 2/3極暗褐色土層
- k. 2.5 Y 6/4にぶい黄色土層 (粘土質シルト)
- l. 2.5 Y 5/4黄褐色土層 (粘土質シルト)
- m. 7.5 YR 2/1黒色土層
- n. 10 YR 4/4褐色土層
- o. 5 YR 2/3暗赤褐色土層
- p. 7.5 YR 3/2黒褐色土層 (含炭化物)

- q. 2.5 Y 6/3にぶい黄色土層 (粘土質シルト)
- r. 2.5 Y 7/4黄褐色土層 (粘土質シルト)
- s. 5 YR 2/3極暗赤褐色土層 (粘土質シルト)
- t. 5 YR 5/8暗赤褐色土層 (粘土)
- u. 5 YR 4/8赤褐色土層 (粘土)
- v. 10 YR 2/2黒褐色土層
- w. 7.5 YR 4/4褐色土層
- x. 10 YR 2/3黒褐色土層
- y. 10 YR 3/4暗褐色土層

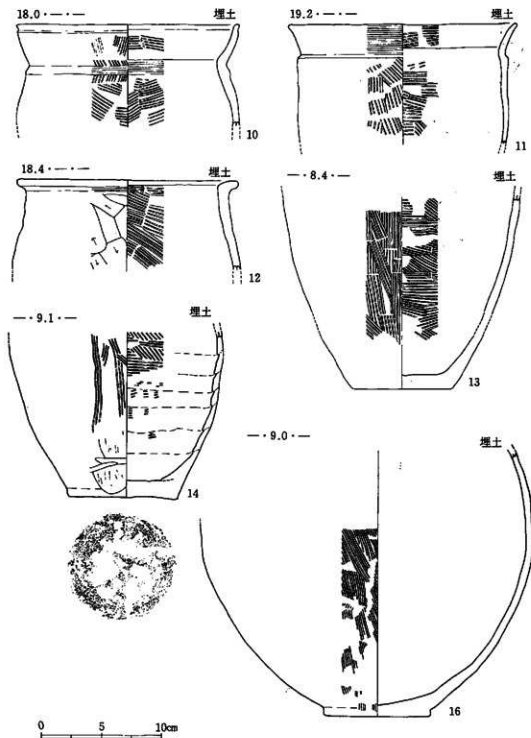
炭化材・遺物出土状況



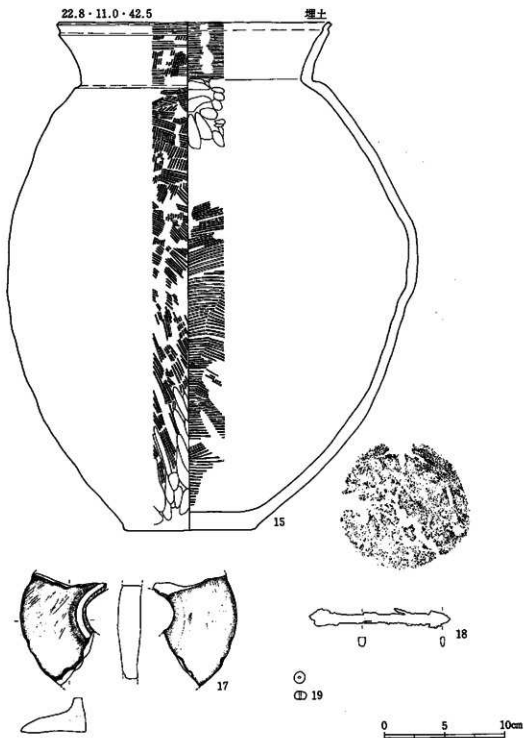
図版134 D_j03住居址 (2)



图版135 D_J03住居址出土遗物 (1)



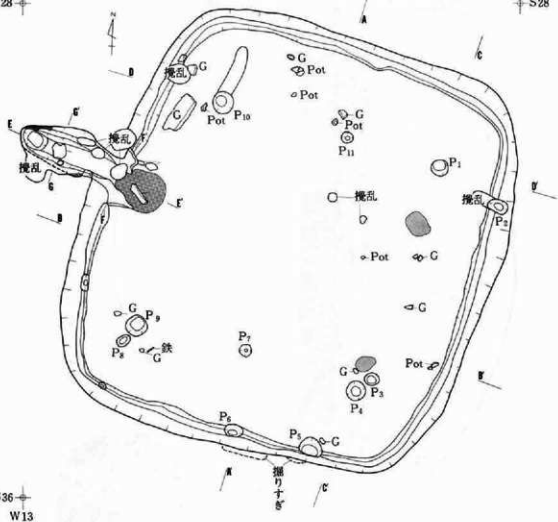
图版136 DJ03住居址出土遺物(2)



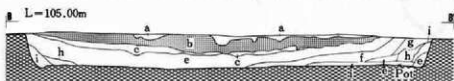
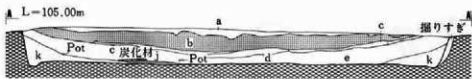
图版137 Dj03住居址出土遗物(3)

W13
S28

W5
S28



S36
W13

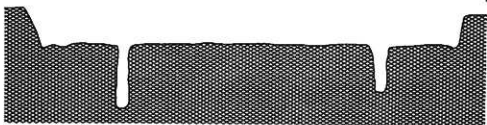


- | | |
|-----------------------------------|--------------------------|
| a. 7.5 YR 4/2 灰褐色土層 (含十和田a降下火山灰) | g. 7.5 YR 3/3 暗褐色土層 |
| b. 2.5 Y 8/3 淡黄色土層 (十和田a降下火山灰) | h. 7.5 YR 1.7/1 黒色土層 |
| c. 7.5 YR 1.7/1 黒色土層 (含十和田a降下火山灰) | i. 10 YR 3/4 暗褐色土層 |
| d. 7.5 YR 5/2 灰褐色土層 (含十和田a降下火山灰) | j. 7.5 YR 6/4 暗褐色土層 (燒土) |
| e. 7.5 YR 3/2 黑褐色土層 (含炭化材・燒土) | k. 7.5 YR 3/1 黑褐色土層 |
| f. 7.5 YR 2/3 極暗褐色土層 | |

S-60

図版138 Ea12住居址 (1)

⊥ L=105.10m



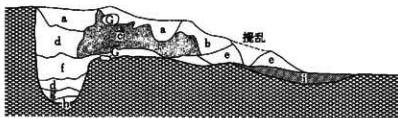
⊥ L=105.10m



⊥ L=104.90m

S=ab

E



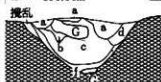
⊥ L=104.70m

F



⊥ L=104.90m

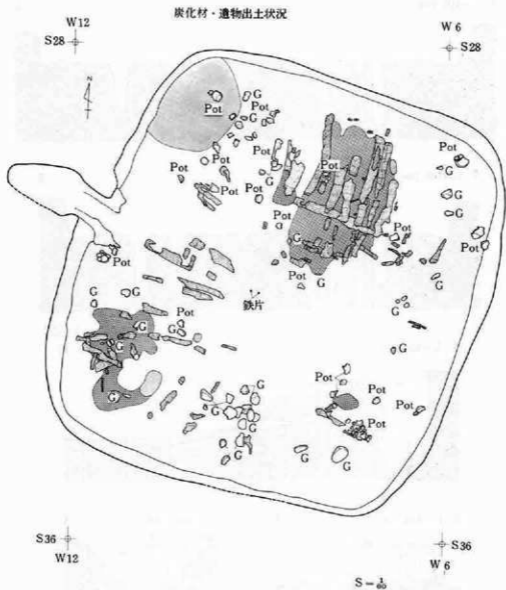
E



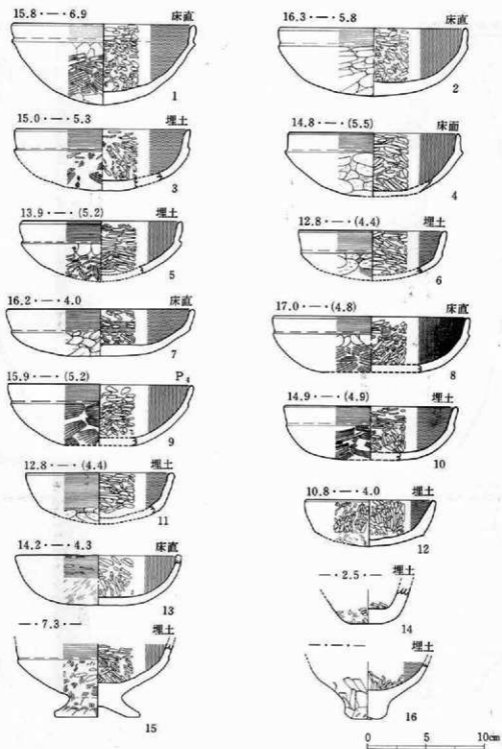
S=ab

- a. 7.5 YR 4/2 灰褐色土層
- b. 7.5 YR 5/2 灰褐色土層
- c. 2.5 Y 6/4 におい黄色土層 (粘土質シルト)
- d. 7.5 YR 2/1 黒色土層
- e. 10 YR 3/2 暗褐色土層
- f. 7.5 YR 3/2 暗褐色土層
- g. 10 YR 6/3 におい黄褐色土層 (粘土質シルト)
- h. 7.5 YR 1.7/1 黒色土層
- i. 5 YR 6/8 棕色土層 (鐵土)
- j. 2.5 Y 8/3 淡黄色土層 (粘土質シルト)
- k. 7.5 YR 3/1 黒褐色土層
- l. 10 YR 2/1 黒色土層

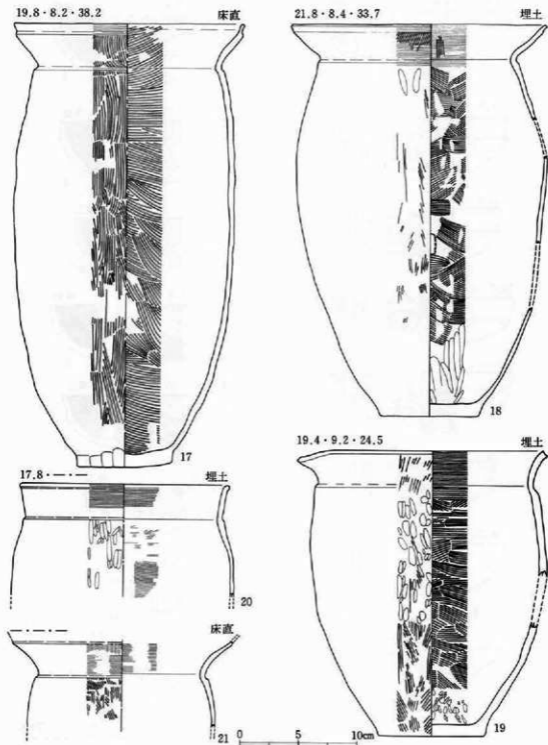
図版139 Ea12住居址 (2)



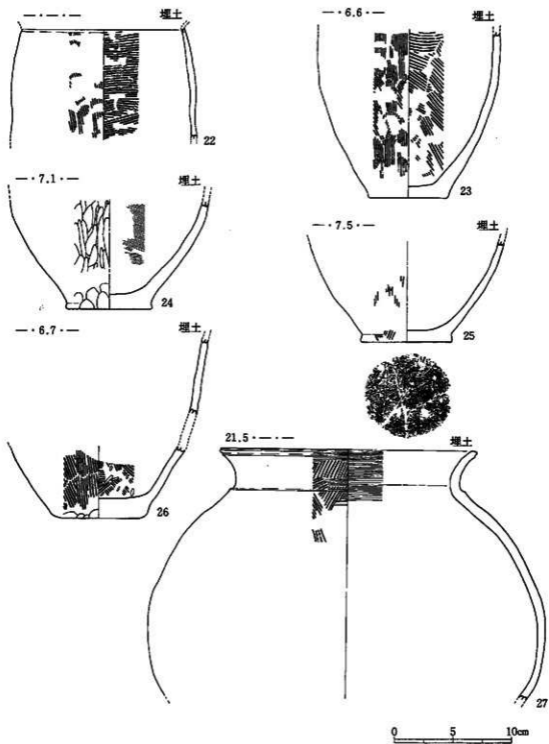
図版140 Ea12住居址 (3)



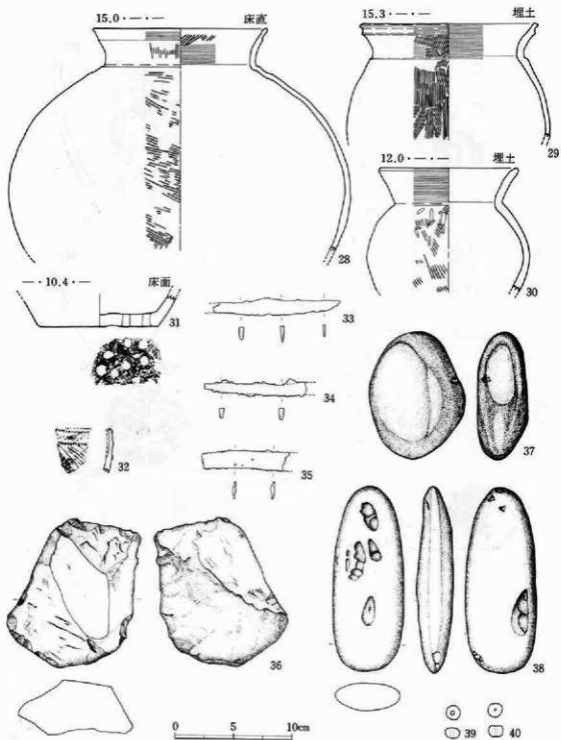
図版141 Ea12住居址出土遺物(1)



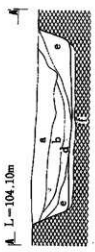
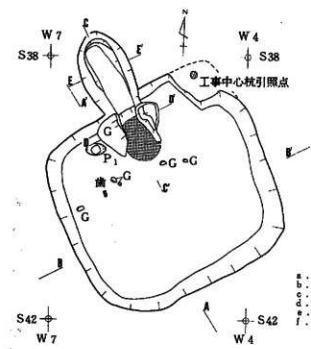
图版142 Ea12住居址出土遺物 (2)



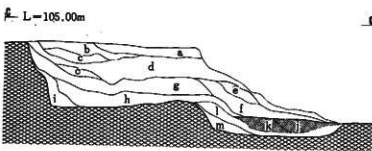
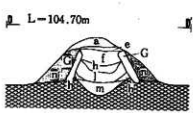
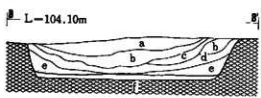
图版143 E_a12住居址出土遗物(3)



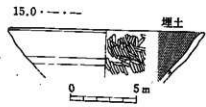
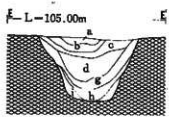
图版144 Ea12住居址出土遗物(4)



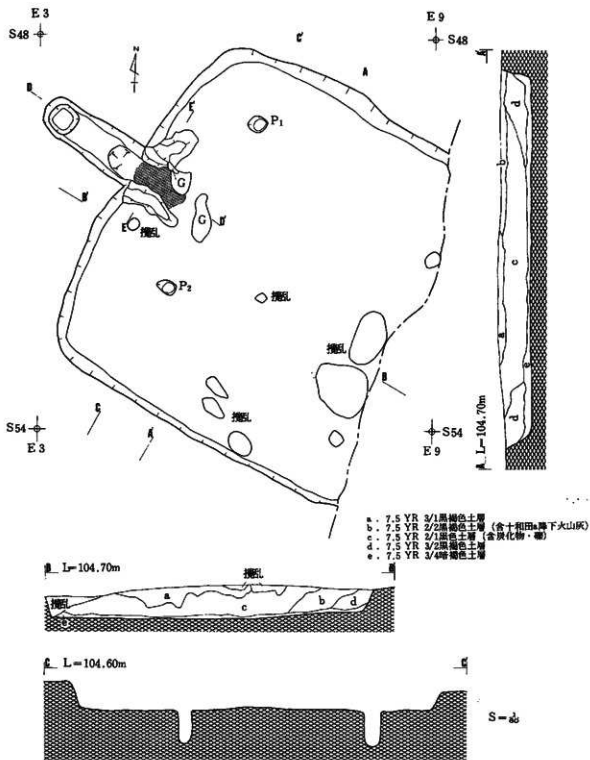
- a. 7.5 YR 2/2黒褐色土層 (含十和田a降下火山灰)
- b. 7.5 YR 3/1黒褐色土層 (含十和田a降下火山灰)
- c. 7.5 YR 3/3暗褐色土層 (含十和田a降下火山灰)
- d. 7.5 YR 3/2暗褐色土層 (含十和田a降下火山灰)
- e. 7.5 YR 2/1黒色土層 (含十和田a降下火山灰)
- f. 7.5 YR 1.7/1黒色土層 (含十和田a降下火山灰)



- a. 7.5 YR 3/1黒褐色土層 (含十和田a降下大)
- b. 10 YR 5/6に多い黄褐色土層
- c. 7.5 YR 3/2黒褐色土層 (含十和田a降下大)
- d. 7.5 YR 2/2黒褐色土層
- e. 10 YR 7/3に多い黄褐色土層 (粘土層シ)
- f. 7.5 YR 5/8明褐色土層 (含炭化物・焼土)
- g. 7.5 YR 3/1黒褐色土層
- h. 10 YR 3/3暗褐色土層
- i. 7.5 YR 2/1黒色土層
- j. 7.5 YR 6/8褐色土層 (焼土)
- k. 7.5 YR 5/8明褐色土層 (焼土)
- l. 7.5 YR 3/4暗褐色土層
- m. 7.5 YR 3/3暗褐色土層 (粘土質シルト)
- n. 7.5 YR 4/3褐色土層 (粘土質シルト)

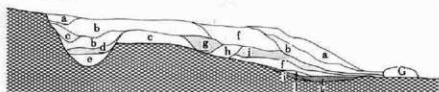


図版145 Ed09住居址・出土遺物

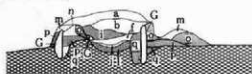


図版146 Eg53住居址(1)

■ L=104.10m



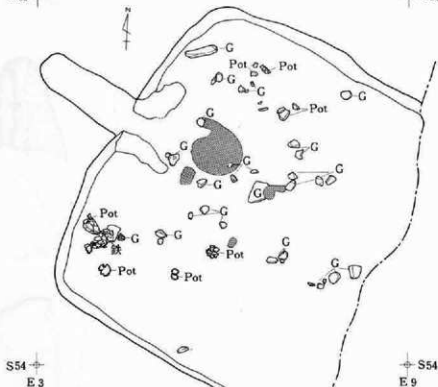
■ L=104.70m



遺物出土状況

E 3
S48

E 9
S48



S54
E 3

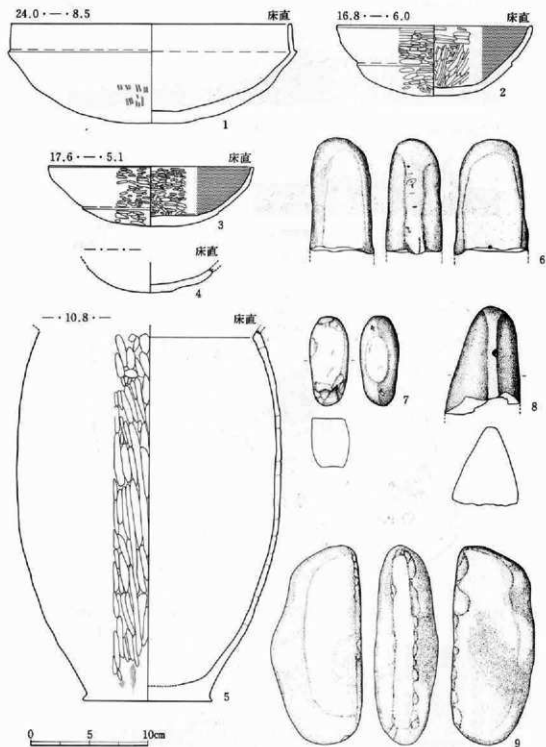
S54
E 9

- a. 7.5 YR 3/1黒褐色土層
- b. 7.5 YR 3/2黒褐色土層 (含炭化物)
- c. 7.5 YR 2/2黒褐色土層
- d. 10 YR 6/4にぶい黄褐色土層 (粘土質シルト)
- e. 7.5 YR 2/1黒色土層
- f. 10 YR 3/3暗褐色土層
- g. 7.5 YR 3/3暗褐色土層 (粘土質シルト)
- h. 10 YR 3/4暗褐色土層 (含粘土質シルト)
- i. 10 YR 6/4にぶい黄褐色土層 (粘土質シルト)
- j. 7.5 YR 5/4にぶい褐色土層 (含炭化物)
- k. 5 YR 4/8赤褐色土層 (礫土)
- l. 5 YR 3/4暗赤褐色土層 (礫土)
- m. 10 YR 2/2黒褐色土層

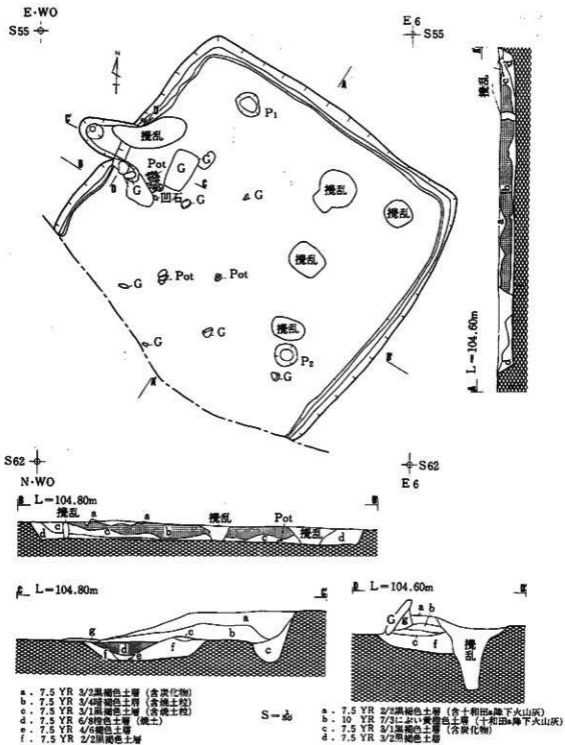
- n. 7.5 YR 2/3極暗褐色土層
- o. 7.5 YR 5/4にぶい褐色土層 (粘土質シルト)
- p. 10 YR 5/4にぶい黄褐色土層 (粘土質シルト)
- q. 2.5 Y 6/4にぶい黄褐色土層 (粘土質シルト)

S-ab

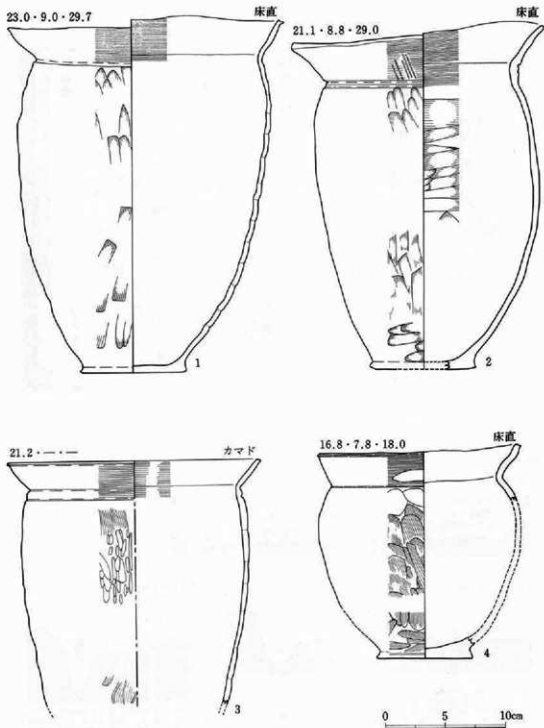
図版147 Eg53住居址 (2)



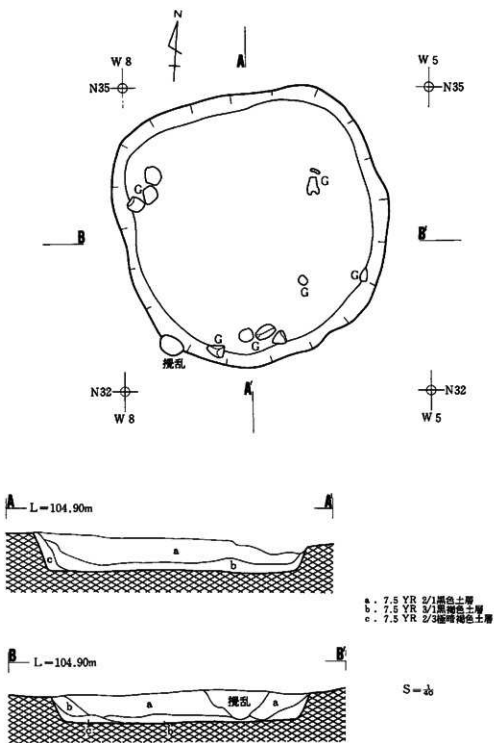
图版148 Eg53住居址出土遺物



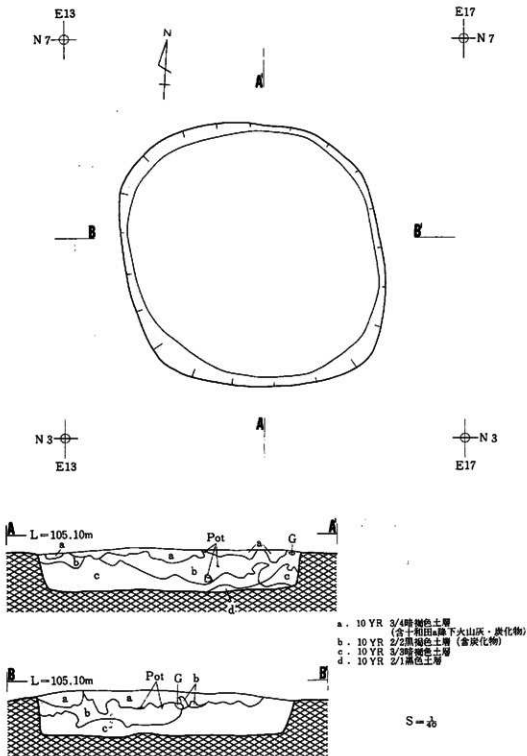
図版149 EI50住居址



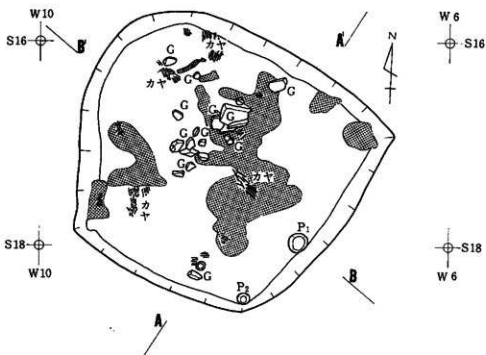
図版150 E150住居址出土遺物



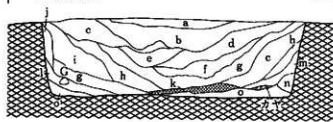
图版151 Bi06住居址状遺構



図版152 Ci62住居址状遺構

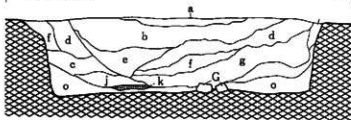


A L=105.10m



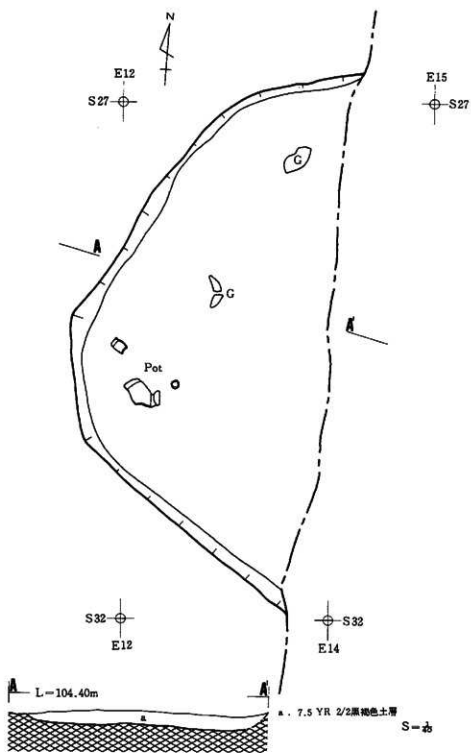
- a. 7.5 YR 2/1黒色土層
- b. 7.5 YR 3/2黒褐色土層 (含十和田a降下火山灰)
- c. 10 YR 3/5暗褐色土層 (含十和田a降下火山灰)
- d. 7.5 YR 3/1黒褐色土層 (含十和田a降下火山灰)
- e. 7.5 YR 1.7/1黒色土層 (含十和田a降下火山灰)
- f. 7.5 YR 2/2黒褐色土層 (含十和田a降下火山灰)
- g. 7.5 YR 2/1黒色土層 (含十和田a降下火山灰)
- h. 7.5 YR 4/1暗灰色土層 (含十和田a降下火山灰)
- i. 7.5 YR 3/4暗褐色土層 (含十和田a降下火山灰)
- j. 7.5 YR 8/6黄褐色土層 (砂土)
- k. 7.5 YR 1.7/1黒色土層
- l. 7.5 YR 3/1黒褐色土層
- m. 7.5 YR 2/2黒褐色土層
- n. 7.5 YR 2/2黒褐色土層
- o. 10 YR 2/1黒色土層

B L=105.10m

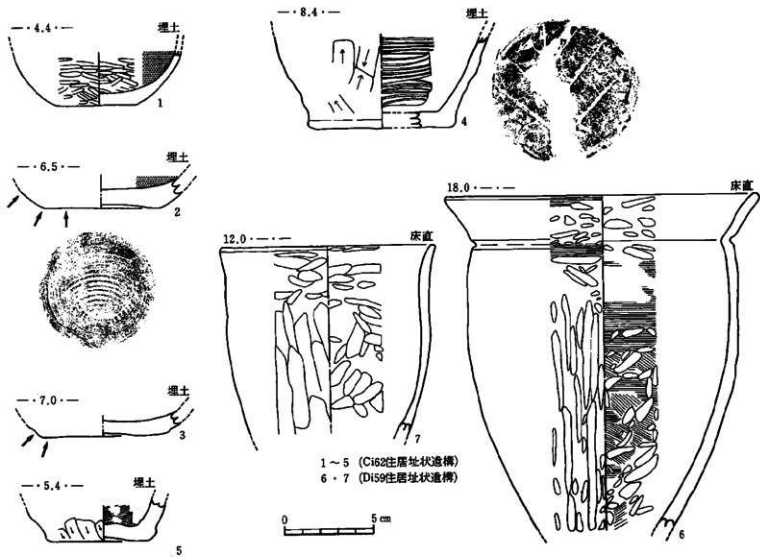


S=25

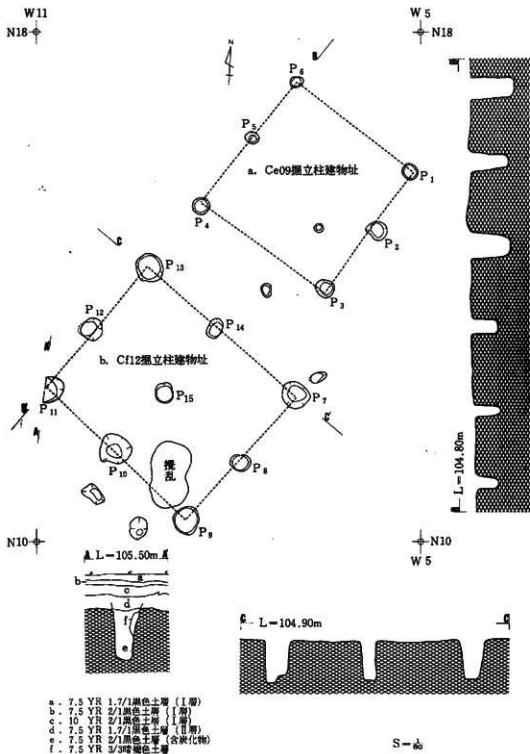
図版153 Df12住居址状遺構



图版154 D159住居址状遺構

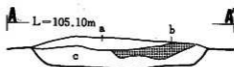
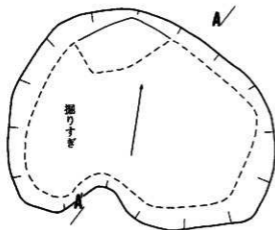


図版155 Ci62住居址状遺構出土遺物



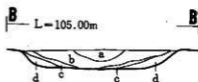
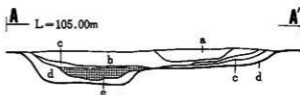
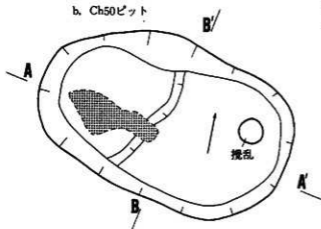
圖版156 Ce09·Cf12柱立柱建物址

a. Cf62ピット



- a. 7.5 YR 3/2黒褐色土層 (含十和田山降下火山灰)
 b. 10 YR 4/4褐色土層 (焼土)
 c. 7.5 YR 2/2黒褐色土層

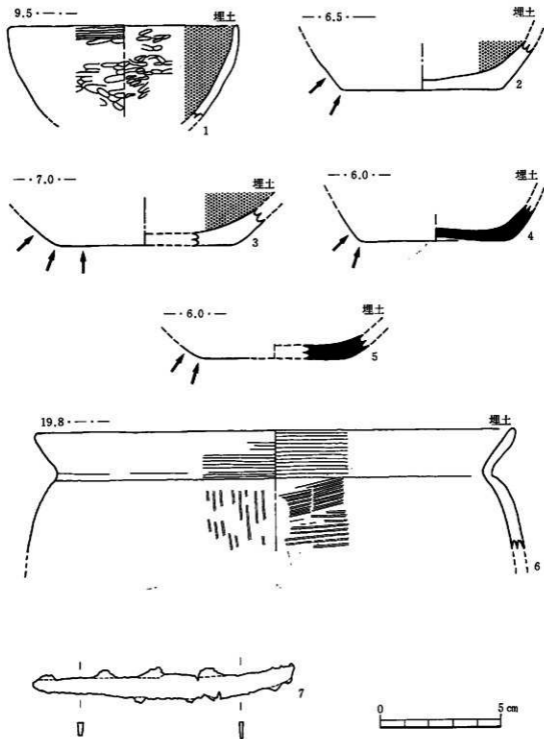
b. Ch50ピット



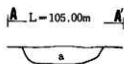
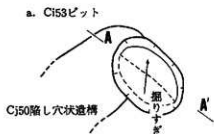
- a. 7.5 YR 5/8明褐色土層
 b. 7.5 YR 2/3暗褐色土層 (含十和田山降下火山灰)
 c. 7.5 YR 2/1黒色土層
 d. 7.5 YR 2/3暗褐色土層
 e. 7.5 YR 5/8明褐色土層 (焼土)

S-6

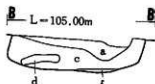
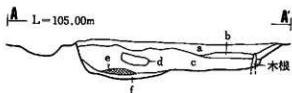
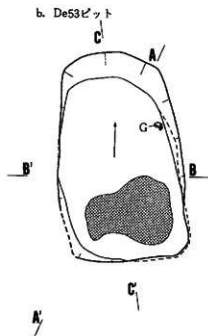
図版157 Cf62・Ch50ピット



図版158 Cf62ピット出土遺物

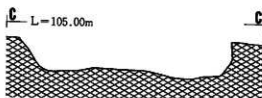
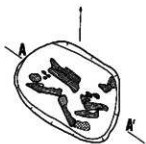


a. 10 YR 3/1黒褐色土層

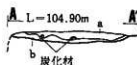


- a. 10 YR 3/2黒褐色土層 (含十和田^a降下火山灰・炭化物)
- b. 10 YR 2/3黒褐色土層 (含十和田^a降下火山灰)
- c. 10 YR 2/2黒褐色土層 (含十和田^a降下火山灰・炭化物)
- d. 10 YR 2/1黒褐色土層 (含十和田^a降下火山灰)
- e. 5 YR 4/8赤褐色土層 (焼土)
- f. 10 YR 3/2黒褐色土層 (含十和田^a降下火山灰)

c. Dj03ピット

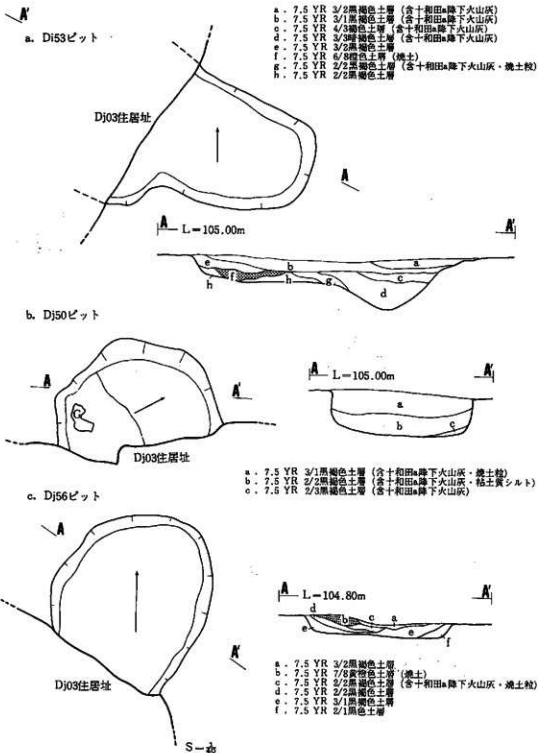


S=石

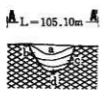
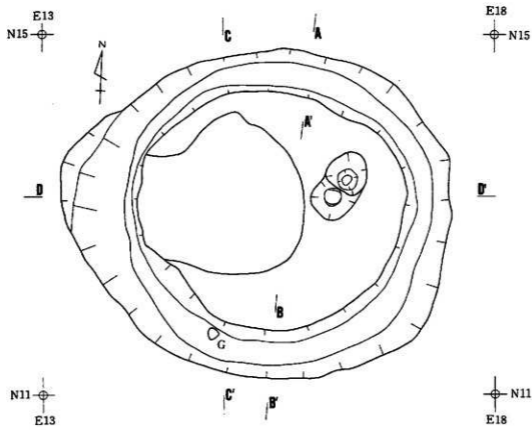


- a. 10 YR 1.7/1黒色土層 (含炭化材)
- b. 10 YR 3/3暗褐色土層

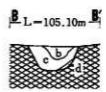
図版159 C153・De53・Dj03ピット



図版160 Dj53・Dj50・Dj56ピット

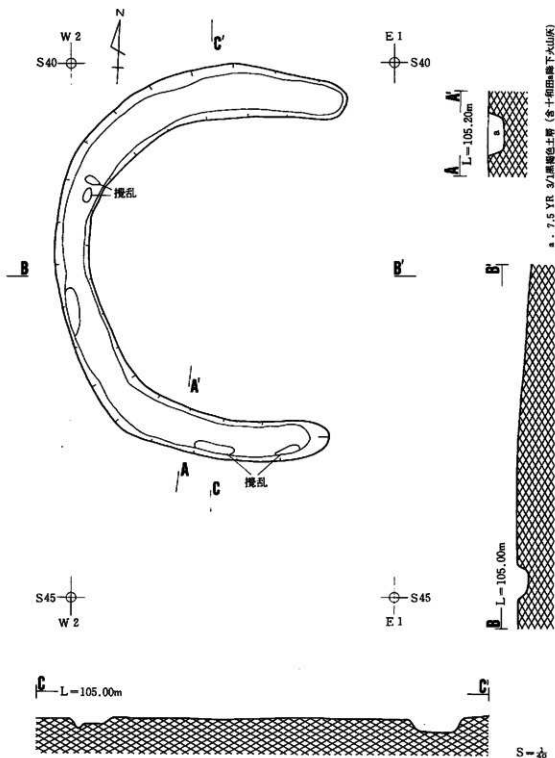


- a. 7.5 YR 3/1 黑褐色土層
- b. 7.5 YR 2/3 暗褐色土層
- c. 7.5 YR 2/2 暗褐色土層
- d. 7.5 YR 3/4 暗褐色土層



S-4b

圖版161 Cf62周溝



图版162 Ed03周溝

3. 近世

土坟墓

B d 62土坟墓

遺構 (図版163-a・写真図版92-a~d)

この土坟墓はⅢ層の上面で検出されたもので、調査対象区の北側寄りに位置している。墓域は開口部径130cm±×120cm±・底部径100cm±×85cm±の規模をもち、平面形が円形を示すものである。断面形はピーカー形を呈する。

埋土は黒褐色土や暗褐色土などの混合土で構成されていた。

底面は上下2段に分れており、それぞれの検出面からの深さは82cm±(上面)・102cm±(下面)となっている。このうち下面から40~50歳の男性(推定身長1559.2mm)と考えられる人骨が検出された。なお底面は全体的にやや堅くしまっている。

出土遺物 (図版168・写真図版152)

上述の人骨の周辺部から古銭7点(1~7)・キセル1点(8)などが出土している。1~7の古銭は銅製の寛永通宝であり、径2.2cm±~2.4cm±・重量1.84g±~3.80g±を計る。8のキセル途中で破損しているが、残存状態は良好である。以上のほかに漆器の細片や木棺の一部と考えられる木片が得られている。

B d 65土坟墓

遺構 (図版163-b・写真図版92-e・f)

この土坟墓はⅢ層の上面で検出されたもので、前述のB d 62土坟墓からみて1m±南東に位置している。墓域は開口部径157cm±×120cm±・底部径134cm±×90cm±・深さ34cm±の規模をもち、平面形が楕円形を示すものである。断面形は皿形を呈する。

埋土は黒褐色土・暗褐色土などの混合土で構成されていた。

底面は凹凸があり、やや軟質なものとなっている。この底面上から40~45歳の女性(推定身長1495.2mm)と考えられる人骨が検出された。

出土遺物 (図版168・写真図版152)

上述の人骨の周辺部から古銭7点(9~15)・キセル1点(16)が出土している。9~15の古銭は銅製の寛永通宝である。16のキセルは途中で破損しているが、残存状態は良好である。

B d 68 土墳墓

遺 構 (図版164・写真図版93-a~c)

この土墳墓はⅢ層の上面で検出されたもので、前述のB d 65土墳墓からみて50cm±南東に位置している。墓址は開口部が径160cm±×143cm±の円形、また底部が一辺の長さ74cm±の隅丸方形となっている。断面形はピーカー形を呈する。

埋土は黒褐色土・暗褐色土などの混合土で構成されていた。

底面は上下2段に分かれており、それぞれの検出面からの深さが105cm±(上面)・130cm±(下面)となっている。このうち下面から36~40歳の女性(推定身長1584.8mm)と考えられる人骨が検出された。

この土墳墓は古代のB e 68住居址のカマド煙道部を切りこんでいる。

出土遺物 (図版169・写真図版153)

上述した人骨の周辺部から古銭6点(17~22)・キセル1点(23)などが出土している。古銭はいずれも銅製の寛永通宝である。23のキセルは雁首が破損しているものである。以上のほかに漆器の小片が得られている。

B e 68 土墳墓

遺 構 (図版165-a・写真図版93-d)

この土墳墓は古代のB e 68住居址の精査中に発見されたもので、住居址のカマドの左袖部を切りこんでいる。墓址は開口部径80cm±・底部径60cm±・深さ55cm±の規模をもち、平面形が円形を示すものである。断面形は浅いピーカー形を呈する。

埋土は黒褐色土や暗褐色土などの混合土で構成されていた。

底面は丸味をもっており、やや堅くしまっている。この底面上から人骨が検出されたが、鑑定を行わないで旧地権者に引き渡してしまったためその詳細は不明である。

出土遺物 (図版169・写真図版153)

上述した人骨の周辺部から古銭が4点(24~27)出土した。古銭はいずれも銅製の寛永通宝である。

E a 56-1 土墳墓

遺 構 (図版165-b・写真図版93-e)

この土墳墓はⅢ層の上面で検出されたもので、調査対象区の南側に位置している。墓址は開口部径140cm±・底部径105cm±・深さ88cm±の規模をもち、平面形が楕円形を示すものである。断面形はピーカー形を呈する。

埋土は黒褐色土や暗褐色土などの混合土で構成されていた。

底面はほぼ平坦で堅くしまっている。この底面上から46～54歳の女性（推定身長1519.0mm）と考えられる人骨が検出された。なおこの土壌墓はE a 56-2 土壌墓を切っている。

出土遺物（図版169・写真図版153）

上述した人骨の周辺部から古銭が6点出土している。このうち5点（28～32）は銅製の寛永通宝であり、残りの1点は鉄製のものであるが破損がひどく細部は不明である。

E a 56-2 土壌墓

遺構（図版165-e・写真図版93-e）

この土壌墓はⅢ層の上面で検出されたもので、E a 56-1 土壌墓に切られている。墓域はその一部が消失しているが、開口部径70cm±・底部径43cm±・深さ36cm±の規模をもち平面形が円形を示すものと考えられる。

埋土は黒褐色土や暗褐色土などの混合土で構成されていた。

底面は丸味がありやや堅くしまっている。この底面上から性別不明の2～3歳の幼児と考えられる人骨が検出された。

出土遺物（図版170・写真図版154）

上述した人骨の周辺部から古銭が6点出土した。このうち5点（33～37）は銅製の寛永通宝であり、残りの1点は鉄製であるが腐食が激しく銘の有無も確認できない。

E b 56-1 土壌墓

遺構（図版165-d・写真図版93-f）

この土壌墓はⅢ層の上面で検出されたもので、E b 56-2 土壌墓を切っている。墓域は開口部105cm±×95cm±・底部75cm±・深さ46cm±の規模をもち、平面形が隅丸形状を示すものである。断面形は浅いピーカー形を呈する。

埋土は黒褐色土や暗褐色土などの混合土で構成されていた。

底面はほぼ平坦で堅くしまっている。この底面上から約20歳の女性（推定身長1437.0mm）と考えられる人骨が検出された。出土遺物はない。

E b 56-2 土壌墓

遺構（図版166-a・写真図版94-b）

この土壌墓はⅢ層の上面で検出されたもので、E b 56-1 土壌墓およびE b 56-5 土壌墓に切られている。墓域はこれらの重複関係によって南北の一部が消失しているが、残存部分から

推定して開口部 107 cm±・底部87cm±の規模をもち、平面形が隅丸方形を示すものと考えられる。断面形はピーカー形を呈する。

埋土は黒褐色土や暗褐色土などの混合土で構成されていた。

底面は上下2段に分かれており、それぞれの検出面からの深さは89cm±（上面）・110 cm±（下面）を計る。このうち下面から約40歳の男性（推定身長1587.6mm）と考えられる人骨が検出された。

出土遺物（図版170・写真図版154）

上述した人骨の周辺部から古銭3点（39～41）と串刺の乾柿（写真図版 152—42）が出土している。古銭はいずれも銅製の寛永通宝である。

E b 56—3 土壌墓

遺構（図版166—c・写真図版94—a）

この土壌墓はⅢ層の上面で検出された断面形が皿形を呈するものであるが、E b 56—4 土壌墓およびE b 56—5 土壌墓との重複関係によって大半が消失しているためその規模・形状の詳細は不明である。深さ20cm±を計る残存部の底面上から40～49歳の女性（身長推定不可能）と考えられる人骨が検出された。出土遺物はない。

E b 56—4 土壌墓

遺構（図版166—d・写真図版94—a）

この土壌墓はⅡ層の上面で検出されたもので、E b 56—3 土壌墓およびE b 56—5 土壌墓を切っている。墓域は開口部 110 cm±×105 cm±・底部95cm±×85cm±・深さ 115 cm±の規模をもち、平面形が隅丸形状を示すものである。断面形はピーカー形を呈する。

埋土は黒褐色土や暗褐色土などの混合土で構成されていた。

底面は多少凹凸があり、堅緻なものとなっている。この底面上から20～50歳の男性（推定身長1515.8mm）と考えられる人骨が検出された。出土遺物はない。

E b 56—5 土壌墓

遺構（図版166—b・写真図版94—a）

この土壌墓はⅢ層の上面で検出されたもので、E b 56—2 土壌墓およびE b 56—3 土壌墓を切りE b 56—4 土壌墓に切られている。墓域は開口部 100 cm±・底部85cm±×76cm±・深さ90 cm±の規模をもち、平面形が隅丸方形を示すものである。断面形はピーカー形を呈する。

埋土は黒褐色土や暗褐色土などの混合土で構成されていた。

底面は丸味をもち、堅くしまっている。出土遺物はない。

E c 56-1 土塚墓

遺構 (図版167-a・写真図版94-a)

この土塚墓はⅢ層の上面で検出されたもので、その一部分がE b 56-4 土塚墓と重複している。しかしこれらの先後関係については不明である。墓壇は開口部径95cm±×75cm±・底部径80cm±×55cm±・深さ93cm±の規模をもち、平面形が楕円形状を示すものである。断面形はピーカー形を呈する。

埋土は黒褐色土や暗褐色土などの混合土で構成されていた。

底面は幾分凹凸があり、堅くしまっている。この底面上から熟年期(40~59歳)と考えられる人骨が検出されたが、その性別および推定身長は不明である。

出土遺物 (図版170・写真図版154)

上述した人骨の周辺部から古銭が1点(41)が出土した。この古銭は銅製の寛永通宝である。

E c 56-2 土塚墓

遺構 (図版167-b・写真図版94-a)

この土塚墓はⅢ層の上面で検出されたもので、E c 59土塚墓を切っている。墓壇は開口部120cm±×100cm±・底部105cm±×75cm±の規模をもち、平面形が隅丸長方形形状を示すものである。断面形はピーカー形を呈する。

埋土は黒褐色土や暗褐色土などの混合土で構成されていた。

底面は上下2段に分かれており、それぞれの検出面からの深さは100cm±(上面)・125cm±(下面)となっている。底面全体はほぼ平坦で堅くしまっている。出土遺物はない。

E c 59土塚墓

遺構 (図版167-c・写真図版94-a)

この土塚墓はⅢ層の上面で検出されたもので、前述のE c 56-2 土塚墓に切られている。墓壇は開口部80cm±・底部75cm±・深さ70cm±の規模をもち、平面形が隅丸方形形状を示すものである。断面形はピーカー形を呈する。

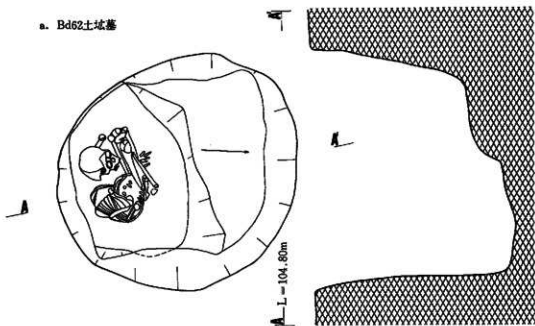
埋土は黒褐色土や暗褐色土などの混合土で構成されていた。

底面はやや平坦で堅くしまっている。出土遺物はない。

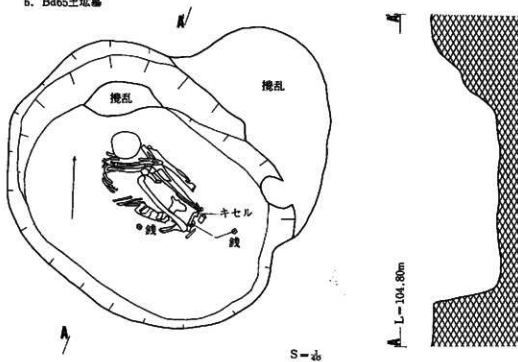
なお土塚墓から検出された11体の人骨のうち10体分については、岩手医科大学医学部教授、

(現東京大学医学部教授) 山内昭雄氏に鑑定を依頼した。それぞれの人骨に関する鑑定結果は、「岩手県二戸市米沢字長瀬で出土した人骨の鑑定書」(山内、1979)として、岩手県埋文センター文化財調査報告書第22集『二戸バイパス関連遺跡発掘調査報告書 二戸市長瀬C遺跡・長瀬D遺跡』(本沢ら、1981)の中に収録されているのでそちらを参照されたい。

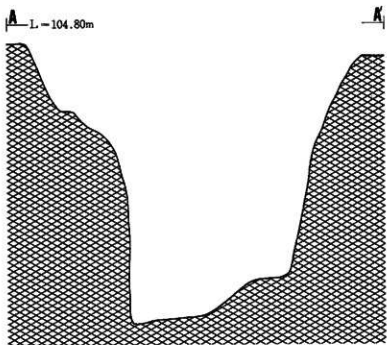
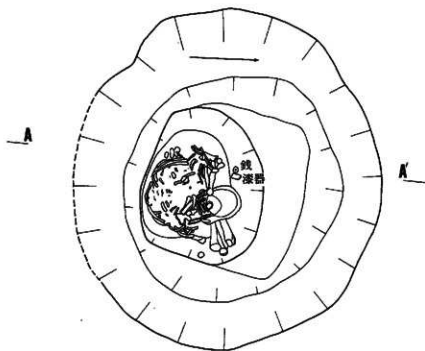
a. Bd62土坟墓



b. Bd65土坟墓



図版163 Bd62・Bd65土坟墓



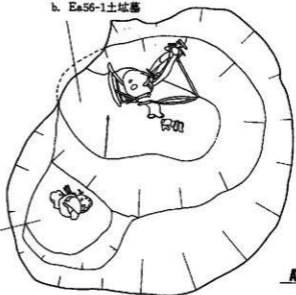
图版164 B68土坑墓

S-46

a. Be68土坟墓

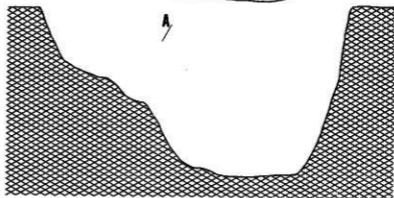


b. Ea56-1土坟墓

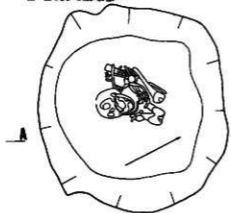


c. Ea56-2土坟墓

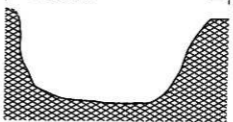
A—L—104.30m



d. Eb56-1土坟墓



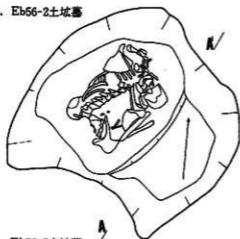
A—L—104.30m



S=2b

图版165 Be68·Ea56-1, 2·Eb56-1土坟墓

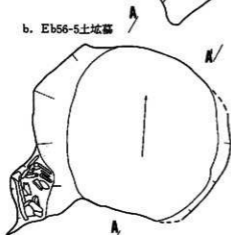
a. Eb56-2土坟墓



A L=104.30m



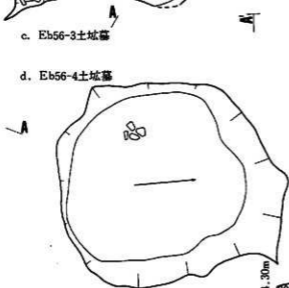
b. Eb56-5土坟墓



A L=103.60m



c. Eb56-3土坟墓

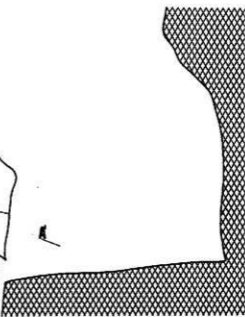


A

d. Eb56-4土坟墓

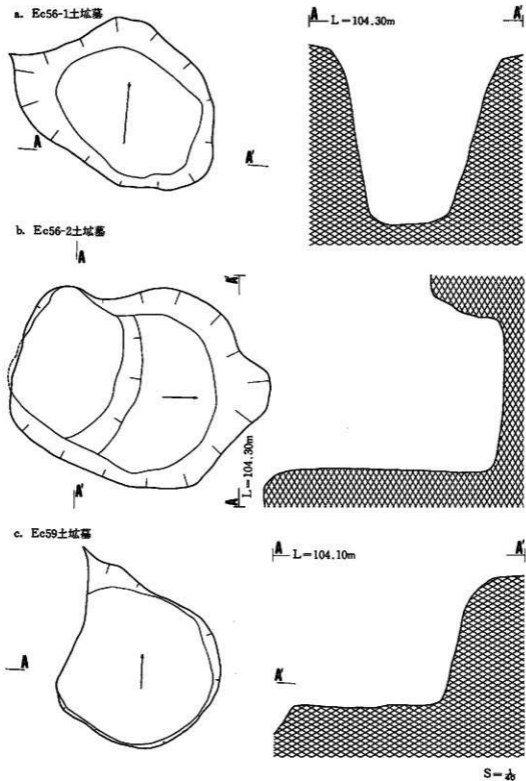


A L=104.30m



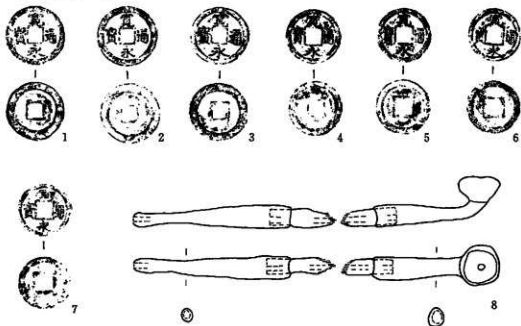
S-25

図版166 Eb56-2~5土坟墓

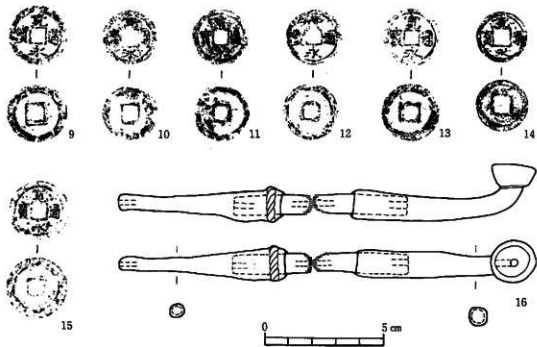


图版167 Ec-1, 2·Ec59土城墓

Bd62土坑墓 (1~8)

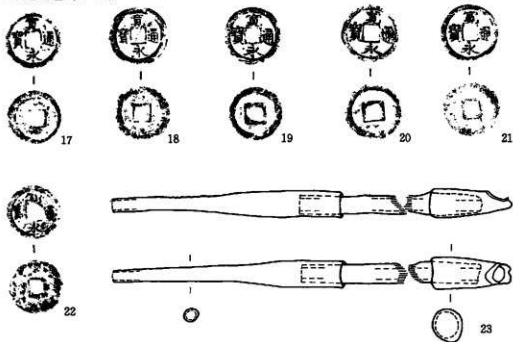


Bd65土坑墓 (9~16)

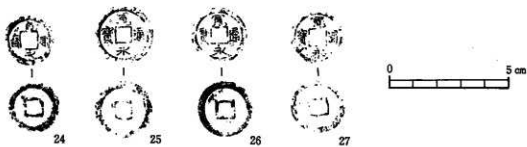


图版168 土坑墓出土遗物 (1)

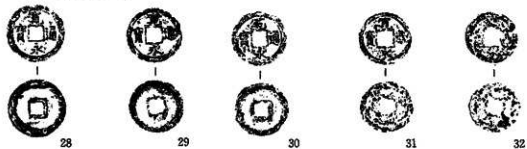
Bd68土坑墓 (17~23)



Be68土坑墓 (24~27)

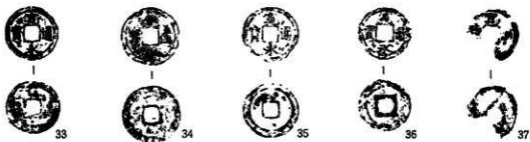


Ea56-1土坑墓 (28~32)

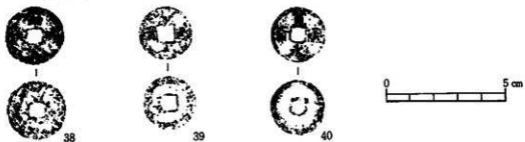


图版169土坑墓出土遗物(2)

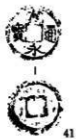
Ea56-2土坟墓 (33~37)



Eb56-2土坟墓 (38~40)



Ec56-1土坟墓 (41)



图版170土坟墓出土遺物 (3)

Ⅲ．遺構外の出土遺物

長瀬B遺跡の遺構外の出土遺物は、土器・石器・土製品からなる。出土した土器は縄文土器・土師器・須恵器である。石器としては石槍・石鏃・石匙・トランシェ状石器・スクレイパー・不定形石器・ピエス＝エスキュー・使用痕のある剝片・石斧・凹石・磨石・石錘が出土している。また土製品としては鐔形土製品が出土している。以下にこれらの出土遺物について述べる。但し出土層位が不明なものや表採資料などは記述の対象から除外した。

1. 土 器

(1) 原始時代

① 縄文土器

長瀬B遺跡の遺構外から出土した縄文土器は、第Ⅰ群土器（縄文時代早期）および第Ⅱ群土器（縄文時代前期）に属するものである。

〔1〕第Ⅰ群土器（図版171～176・写真図版155～160）

この群に属する土器はⅥ層の上位およびⅣ層の下位から出土しているが、いずれも破片であるため口縁部から底部までの器形や文様の全容が把握できるものはない。したがって記載にあたっては、口縁部・体部・底部の各部位ごとに文様上の特徴を中心として筆を進めることとしたい。

- 口縁部（図版171—1～15、172—16～39、173—40～66、174—67～86・写真図版155—1～16、156—17～41、157—42～66、158—67～86）

文様上の特徴により次のように分けられる。

Ⅰ．無文のもの（1～3）

但しこれらの土器の口唇部上面には、縄状の圧痕（1）や貝殻腹縁の圧痕（2・3）が施されている。内外面はいずれも入念なミガキ調整となっており、色調はよい橙色（1・2）・灰褐色（3）のそれぞれを示す。なお1の内面にはススが少量付着している。

Ⅱ．文様があるもの（4～86）

この中に含まれるものは、施文されている文様の状況によって以下のように細分できる。

A. 刺突文がないもの (4~25)

1) 貝殻腹縁文だけのもの (4~23)

次のような形の貝殻腹縁文が施文されている。

a. 斜位の貝殻腹縁文が施文されているもの (4~12)

いずれの口唇部上面にも貝殻腹縁の圧痕がみられる。12は波状口縁となっている。色調はにぶい橙色~褐灰色を示す。なお11には補修孔が認められる。

b. 縦位の貝殻腹縁文が施文されているもの (13・14)

13には貝殻腹縁文が一部斜位にも施文されており、その部分では鋸歯状を呈する。この内外面に多くのスガが付着している。13・14の口唇部上面にも貝殻腹縁の圧痕が施されている。色調はにぶい橙色 (13)・橙色 (14) を示す。

c. 横位の貝殻腹縁文が多数施文されているもの (15~18)

18にはこの文様の下方に縦位の貝殻腹縁文が付加されている。色調はにぶい褐色 (15~17)・にぶい橙色 (18) を示す。いずれも口唇部上面に貝殻腹縁の圧痕が施されている。

d. 平行沈線状の横位の貝殻腹縁文+斜位の貝殻腹縁文が施文されているもの (19~21)

19の器面調整は粗雑である。21には補修孔が1個みられる。いずれも口唇部上面に貝殻腹縁の圧痕が施されている。色調はにぶい褐色 (19・20)・にぶい橙色を示す。

e. 平行沈線状の横位の貝殻腹縁文+羽状の貝殻腹縁文が施文されているもの (22)

口唇部上面に貝殻腹縁の圧痕がみられる。内外面に多量のスガが付着しており、全体の色調が黒褐色を呈する。

2) 平行沈線文+斜位の貝殻腹縁文が施文されているもの (23・24)

23は2本の平行沈線を1単位としており、また24は3本の平行沈線を1単位とし数段に渡って施されている。どちらも口唇部上面に貝殻腹縁の圧痕がみられ、褐灰色の色調を示す。

3) 貝殻条痕文+斜位の貝殻腹縁文が施文されているもの (25)

貝殻条痕文は横位と斜位のもので文様が構成されている。この口唇部上面には圧痕はみられない。色調は橙色を示す。

B. 刺突文があるもの (26~86)

1) 沈線文がないもの (26~66)

a. 刺突文だけのもの (26~31)

26~31に施文されている刺突文は爪形のものであり、このうち26~30は刺突文の下方が無文となっている。26~28は斜位の爪形の刺突文が施文されており、口唇部上面に刻目が施されている。また29・30は横位の爪形の刺突文が施文されており、口唇部上面に縄圧痕が施されている。31は斜位の爪形の刺突文が縦横に展開されている。これらの土器の色調は褐灰色 (26~30)

・橙色(31)を示す。

b. 刺突文+貝殻腹縁文が施文されているもの(32~57・64・65)

b₁. 刺突文が爪形のもの(32~46)

32~40は斜位の爪形の刺突文となっており、それぞれの下方に次のような貝殻腹縁文がみられる。斜位の貝殻腹縁文(32・34・35・37~39)・縦位の貝殻腹縁文(33・36)・網目状の貝殻腹縁文(40)の3種類の文様が付加されている。39を除く土器の口唇部上面には貝殻腹縁の圧痕(32~36・38・40)・縄圧痕(37)がみられる。色調は褐灰色~にぶい橙色を示す。

41~46は横位の爪形の刺突文となっており、それぞれの下方に次のような貝殻腹縁文がみられる。斜位の貝殻腹縁文(41~43・45)・横位の貝殻腹縁文(44)・縦位の貝殻腹縁文(46)の3種類の文様が付加されている。これらの土器の口唇部上面には貝殻腹縁の圧痕(41・43・44・46)・縄圧痕(42・45)がみられる。色調はにぶい橙色~黒褐色を示す。

b₂. 刺突文が貝殻腹縁によるもの(47~57・64・65)

47~53および64・65は口唇部に沿って施文された刺突文の下方に種々の貝殻腹縁文が付加されているもので、後述する54などのような平行沈線状の横位の貝殻腹縁文がみられない土器である。刺突文の下方に施文されている貝殻腹縁文は、斜位のもの(47・48)・縦位のもの(49~52)・鋸歯状のもの(53)・網目状のもの(64・65)となっている。これらの口唇部上面の圧痕はいずれも貝殻腹縁の圧痕である。色調はにぶい橙色~褐灰色を示す。

54~57は口唇部に沿って刺突文と平行沈線状の横位の貝殻腹縁文が対をなす形で施文されているものである。それぞれの下方には、斜位(54・55)および縦位の貝殻腹縁文がみられる。これらの土器はいずれも口唇部上面に貝殻腹縁の圧痕が施されており、灰褐色の色調を示す。

c. 刺突文+貝殻条痕文が施文されているもの(58~63)

c₁. 刺突文が爪形のもの(58~62)

58~61は斜位の爪形の刺突文が施文されているものであり、その下方には次のような貝殻条痕文が付加されている。58~60には横位の貝殻条痕文、また61には斜位の貝殻条痕文がみられる。なお61の刺突文は条痕文の部分にも及んでおり、幾何学的な様相を呈している。色調は橙色を示す60のほかはすべて黒褐色となっている。

62は横位の爪形の刺突文と斜位の貝殻条痕文とで文様が構成されている。色調は黒褐色を示す。

以上の58~62の口唇部上面の圧痕はいずれも貝殻腹縁の圧痕である。

c₂. 刺突文が貝殻腹縁によるもの(63)

63の刺突文の下方には横位の貝殻条痕文と斜位の貝殻腹縁文が施文されている。口唇部上面には貝殻腹縁の圧痕が施されている。色調は黒褐色を示す。

d. 刺突文+縄文が施文されているもの (66)

66の刺突文は斜位の爪形のものである。外面の色調は黒褐色を呈する。口唇部上面には縄文痕が施されている。

2) 沈線文があるもの (67-86)

a. 刺突文の下位に意匠的な沈線文が施文されているもの (67・68)

刺突文は貝殻腹縁によるもので、口唇部に沿って施文されている。それぞれの口唇部上面には貝殻腹縁の圧痕 (67) や刻目 (68) が施されている。色調は67が浅黄色、また68はにぶい赤褐色を示す。

b. 平行沈線文によって刺突文を区画しているもの (69-86)

b₁. 平行沈線間に2条以上の刺突文がみられるもの (69-75)

75は横位の爪形の刺突文が施文されているが、そのほかはすべて斜位の爪形の刺突文となっている。70は波状口縁の形態を有する。それぞれの口唇部上面には、貝殻腹縁の圧痕 (69-72) ・刻目 (73・75) ・縄文痕 (74) が施されている。色調は橙色を示す74以外は黒褐色～褐灰色を呈するものとなっている。

b₂. 平行沈線間に1条の刺突文がみられるもの (76-86)

76-79には爪形の刺突文が施文されており、また80-86には貝殻腹縁の刺突文が施文されている。78・80・83は波状口縁の形態を有する。83の口唇部上面には縄文痕が施されているが、これ以外の土器の口唇部上面の圧痕はすべて貝殻腹縁の圧痕となっている。色調は灰褐色～褐灰色を示す。

- 体 部 (図版174-87-89、175-90-105、176-106-114・125-128・写真図版158-87・88、159-89-106、160-107-114・125-128)

文様上の特徴により次のように分けられる。

I. 貝殻腹縁文が施文されているもの (87-94・101・102)

次のような形の貝殻腹縁文が施文されている。

- A. 斜位の貝殻腹縁文のもの (87-90)
B. 横位の貝殻腹縁文のもの (91・92)
C. 幾何学的な貝殻腹縁文のもの (93-94)
D. 網目状の貝殻腹縁文のもの (101・102)

以上の土器の内面は一部を除いてやや雑なナゲ調整となっている。101には貝殻腹縁の刺突文もみられる。色調は橙色・浅黄橙色・灰褐色などを示す。

II. 貝殻条痕文が施文されているもの (96-100)

99・100の条痕文は貝殻腹縁の押しきによって描出されたものである。IIに属する土器はIの

ものに比べて内面の器面調整が幾分入念であり、色調は橙色～褐灰色を呈する。

Ⅲ．沈線文が施文されているもの (103～105)

103・104の沈線文は鋸歯状に施文されており、また105の沈線文は網目状に施文されている。色調は浅黄橙色～橙色を呈する。

Ⅳ．縄文が施文されているもの (106～114)

106の上部には沈線文と爪形の刺突文がみられる。107はRLの単節の斜縄文が施文されている。また108～114は羽状縄文のものとなっている。色調は褐灰色～橙色を呈する。

Ⅴ．半截竹管状の工具によって文様が施文されているもの (125～128)

直線的な沈線と曲線的な沈線とで文様が描出されている。色調は灰黄褐色を示す。

●底 部 (図版176—115—124・写真図版160—115—124)

底部はいずれも円錐形の形態を有するもので、それぞれに次のような文様が施文されている。斜位の貝殻腹縁文 (115～118)・貝殻条痕文 (119～122)・羽状の貝殻腹縁文+貝殻条痕文 (123)・貝殻条痕文+爪形の刺突文 (124) などの文様がみられる。色調は橙色～にぶい黄褐色を呈する。

これまでに述べたすべての土器の胎土に繊維が含まれている。また125～128の土器はⅣ層の低位から出土しているが、これらのほかはいずれもⅥ層の上位から出土したものである。

〔2〕第Ⅱ群土器 (図版177—129—145・写真図版161—129—145)

この群に属する土器はいずれもⅣ層の上位から出土したものであり、その胎土に多量の繊維が含まれている。129～133は口唇部に沿って平行沈線状に縄文が施文された後その下方に羽状縄文が付加されている。一般的にこの群の土器は条間の稜が明瞭であるのに対して節が不明瞭であるものが多い。色調は橙色～褐灰色を呈する。

(2) 古 代

① 土師器

遺構外から出土した土師器は極めて少量で、いずれもロクロ不使用の細片である。これらの細片の中ではハケ目が施されている甕の破片が大半を占める。

② 須恵器

遺構外から出土した須恵器は数点であり、杯や壺などの細片である。杯の破片は底部の切り離しが回転ヘラ切りとなっているものである。

2. 石器

(1) 原始時代

① 石槍 (図版178-1・写真図版162-1)

出土した石槍は1点(1)でⅥ層上位から得られている。この石槍は凝灰質硬質泥岩を加工して作られたもので、左側縁部に折断面がみられる。基部や側縁部には階段状剝離による調整が施されているが、やや粗い調整となっている。

② 石鏃 (図版178-2~12・写真図版162-2~12)

出土した石鏃は11点(2~12)である。それぞれの出土層準は次のとおりである。2~7はⅥ層上位、8・9はⅣ層上位、10~12はⅡ層下位である。2~5は縦長で無茎の石鏃であり、このうち3の右側縁部には折断面がみられる。6は平面形が三角形を呈し、全体に入念な剝離調整が施されている。7の平面形は不整な三角形を呈する。8~9も無茎の石鏃であるが、基部の状態が若干異なる。8・10は基部が僅に凹状を示すものであり、10の基部はほぼ直線的である。11は有茎の石鏃で腹面に第一次剝離面が残存している。12は玻璃質流紋岩の石材を加工して作った雁股の石鏃である。

③ 石匙 (図版178-13~15・写真図版162-13~15)

出土した石匙は3点(13~15)である。それぞれの出土層準は、13がⅣ層上位、14・15がⅡ層下位となっている。13・14はつまみ部が石器の長軸方向にある石匙である。14の腹面はほとんど再調整が加えられておらず、第一次剝離面が大きく残されている。15は石器の長軸方向に対して右側の位置につまみ部が作られているものであり、腹面にやはり第一次剝離面が残されている。

④ トランシェ状石器 (図版178-16・写真図版162-16)

出土したトランシェ状石器は1点(16)であり、Ⅵ層上位から得られている。全体の剝離調整は粗いものとなっている。

⑤ スクレイパー (図版179-17~30、180-31・32・写真図版162-17、163-18~30、164-31・32)

出土したスクレイパーは16点(17~32)であり、それぞれ次の層準から得られている。17~26・30はⅥ層上位、27~29はⅣ層上位、31・32はⅡ層下位となっている。これらのスクレイパーは刃部が形成されている位置によって次のように分けられる。

A. 石器の長軸と直交する縁辺に刃部が形成されているもの(17~19)

3点の腹面には第一次剝離面が大きく残されている。19の周縁部には3つの折断面がみられる。

B. 石器の長軸に平行する縁辺に刃部が形成されているもの (20~32)

両面全体に再調整の剝離が施されているスクレイパーは24だけである。折断面がみられるスクレイパーは20・24・30・31の4点である。30は硬砂岩の石材を加工して作ったものである。

⑥ 不定形石器 (図版180—33・写真図版164—33)

出土した不定形石器は1点 (33) だけであり、Ⅱ層下位から得られている。この不定形石器はその長軸に平行する縁辺の一部分に刃部加工が施されているものである。

⑦ ビエス・エスキュー (図版180—34・写真図版164—34)

出土したビエス・エスキューは1点 (34) だけであり、Ⅳ層上位から得られている。このビエス・エスキューは平面形が長方形を示す縦長のもので、その両面に上下両端から走る剝離痕がみられる。

⑧ 使用痕のある剥片 (図版180—35~42・写真図版164—35~42)

出土した使用痕のある剥片は8点 (35~42) であり、それぞれの出土層準は次のとおりである。35~39はⅤ層上位、40はⅣ層上位、41・42はⅡ層下位となっている。いずれも剥片の長軸に平行する側縁部に使用痕が認められるものである。この中で折断面がみられるものは、35と42の2点である。

⑨ 石 斧 (図版181—43~46・写真図版165—43~46)

出土した石斧は4点 (43~46) であり、いずれも磨製のものである。それぞれの出土層準はⅤ層上位 (43・46)・Ⅱ層下位 (44・45) となっている。43~45の刃部は著しく破損している。46は他のものに比べて小型で、基部が欠如している。

⑩ 凹 石 (図版181—47~51、182—52~58・写真図版165—47~57、166—58)

出土した凹石は12点 (47~58) である。出土層準はⅤ層上位 (47~56) およびⅡ層下位 (56・57) である。これらの凹石はその平面形の形状によって次のように分けられる。

A. 平面形が長楕円形状を呈するもの (47~52)

49の凹石以外はすべて両面の中央部に数個の凹みが形成されている。

B. 平面形が円形または楕円形を呈するもの (53~55・57・58)

いずれも両面の中央部に数個の凹みが形成されている。

C. 平面形が隅丸の三角形を呈するもの (56)

両面の中央部に凹みが形成されている。

⑪ 磨 石 (図版182—59・60、183—61~68・写真図版166—59~68)

出土した磨石は10点 (59~68) であり、いずれもⅤ層上位から得られたものである。研磨痕

のほかに敲打痕が認められるものは65の磨石1点だけである。

⑫ 石 錘 (図版183—69・写真図版166—69)

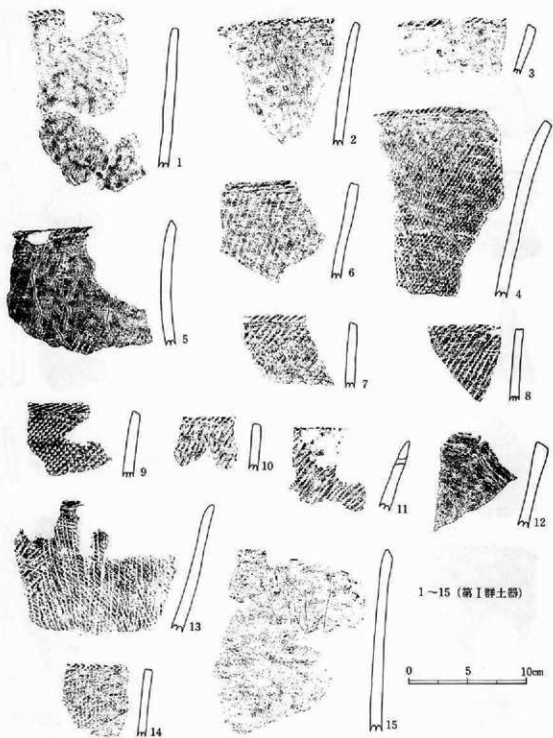
出土した石錘は1点(69)のみで、Ⅱ層上位から得られている。この石錘は、平面形が隅丸方形を呈する扁平な輝石安山岩の自然礫を素材としており、その長軸の両端に打ちかきが行われているものである。

3. 土製品

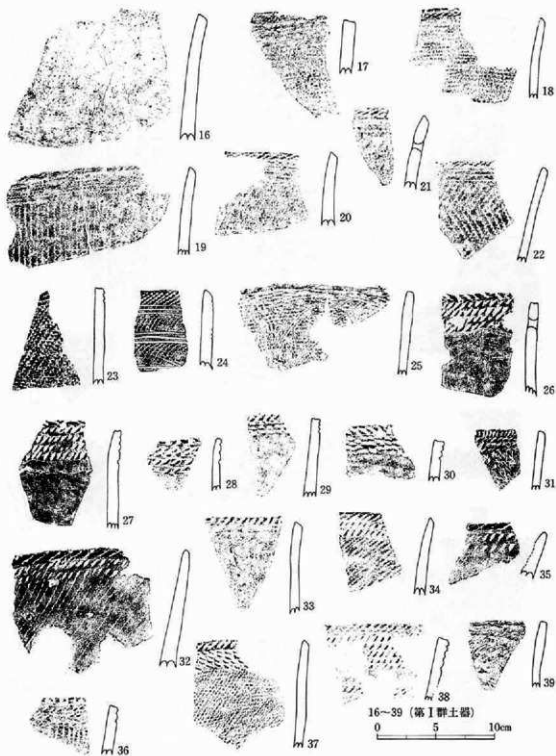
(1) 原始時代

① 鐎形土製品 (図版183—70・写真図版166—70)

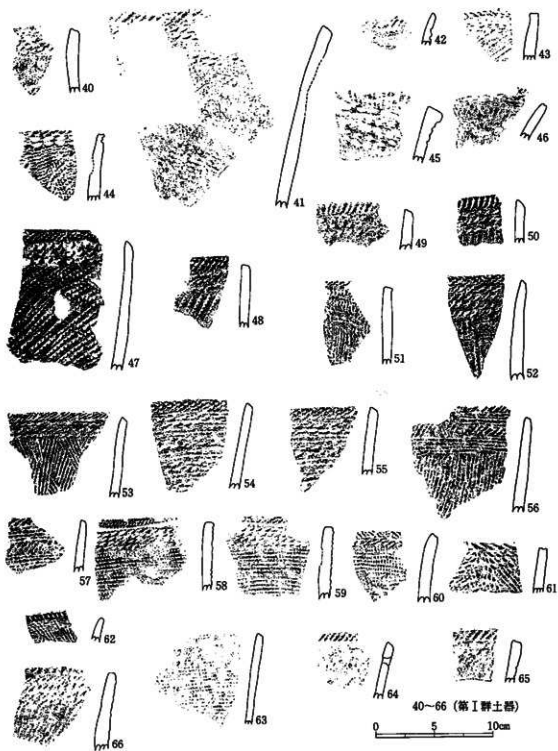
出土した鐎形土製品はⅡ層の下位から得られたものである。上部に吊り手状の孔が設けられている。この土製品には入組状の沈線文が施文されているが、この文様からみて縄文時代後期前葉に位置づけられるものと考えられる。内外面の器面調整は入念なミガキ調整となっている。色調はにぶい橙色を示す。なお外面の一部に黒疵が認められる。



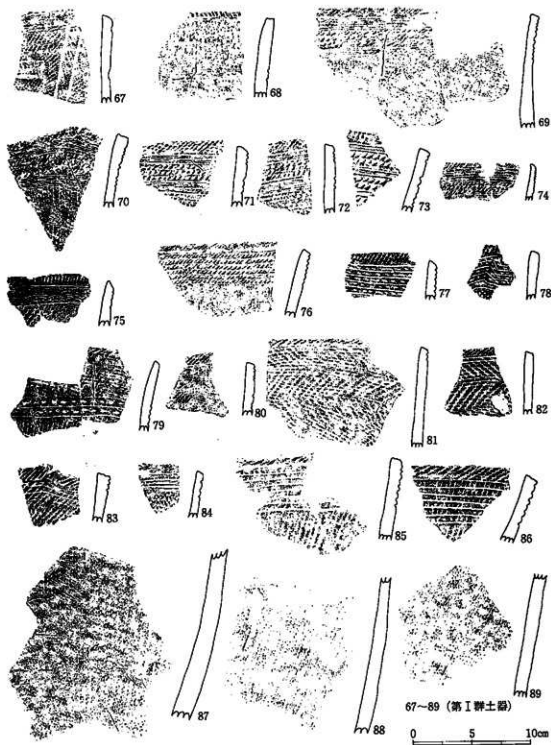
図版171 遺構外の出土遺物 (1)



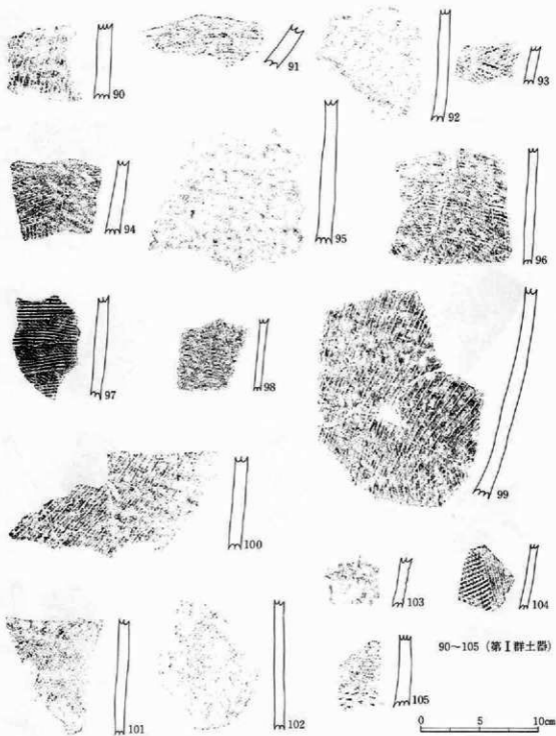
図版172 遺構外の出土遺物 (2)



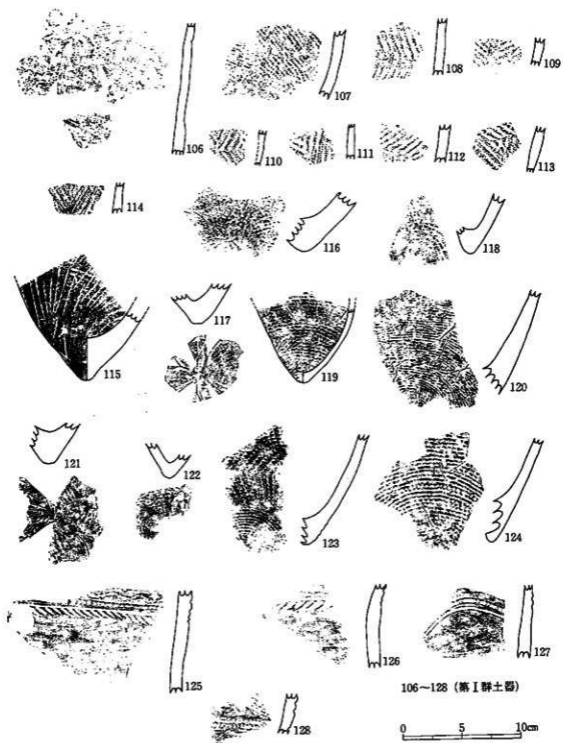
図版173 遺構外の出土遺物 (3)



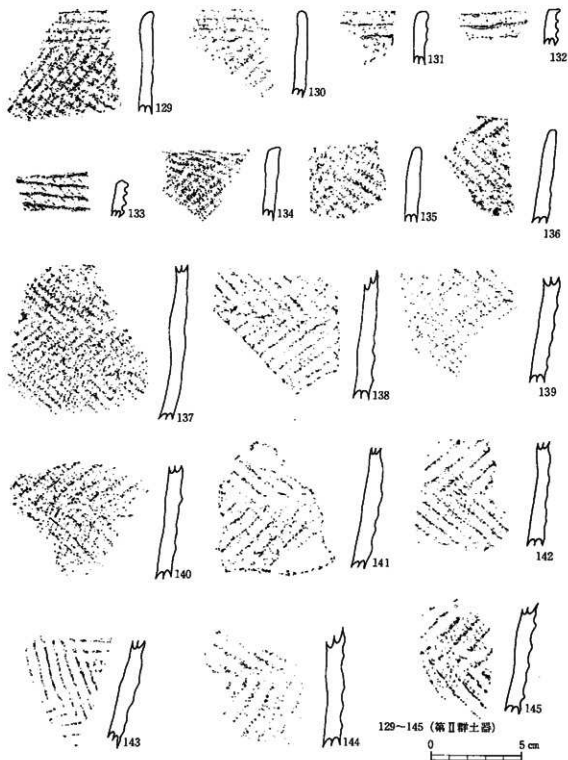
図版174 遺構外の出土遺物 (4)



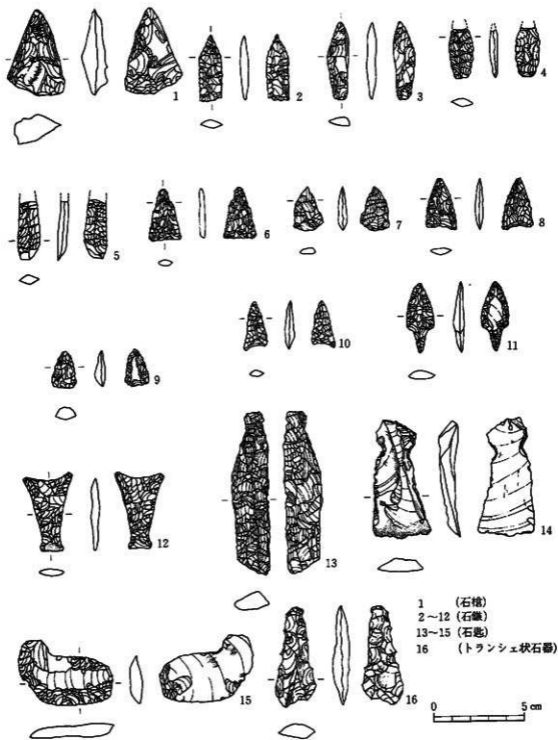
図版175 遺構外の出土遺物 (5)



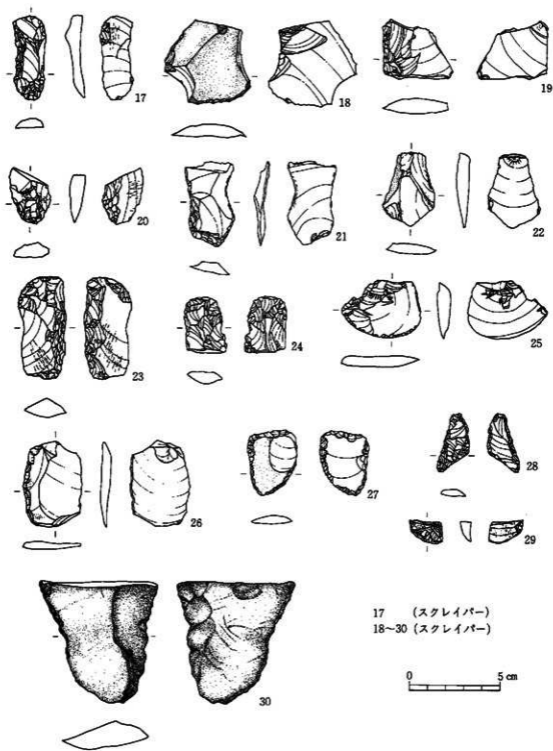
図版176 遺構外の出土遺物 (6)



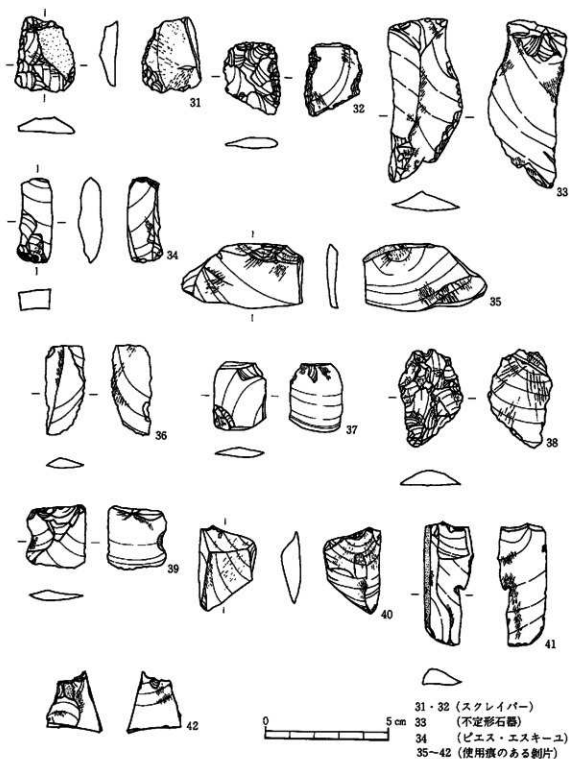
図版177 遺構外の出土遺物(7)



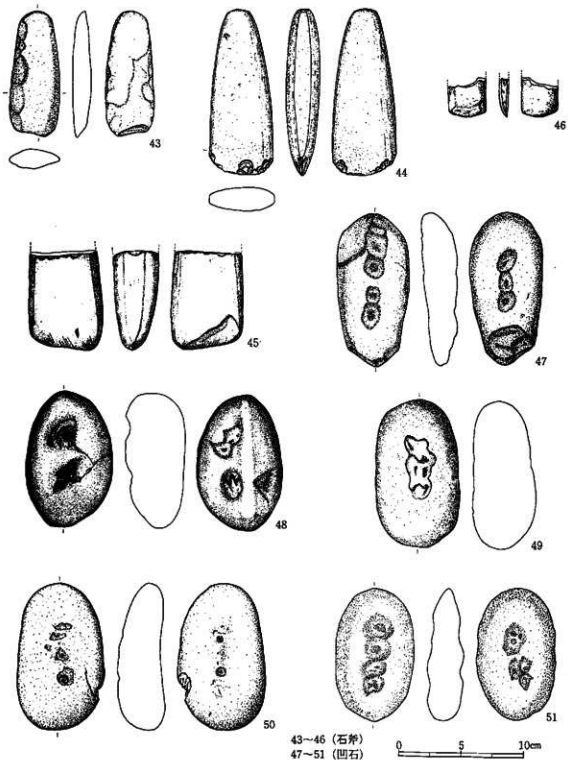
図版178 遺構外の出土遺物 (8)



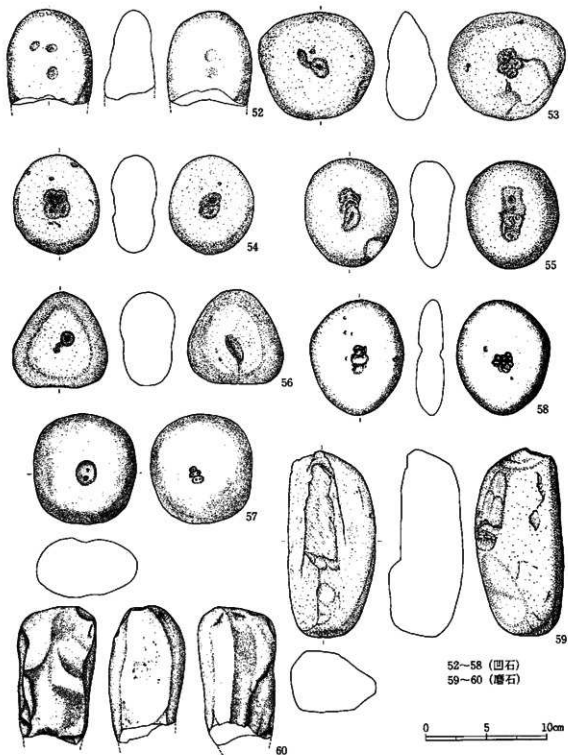
図版179 遺構外の出土遺物 (9)



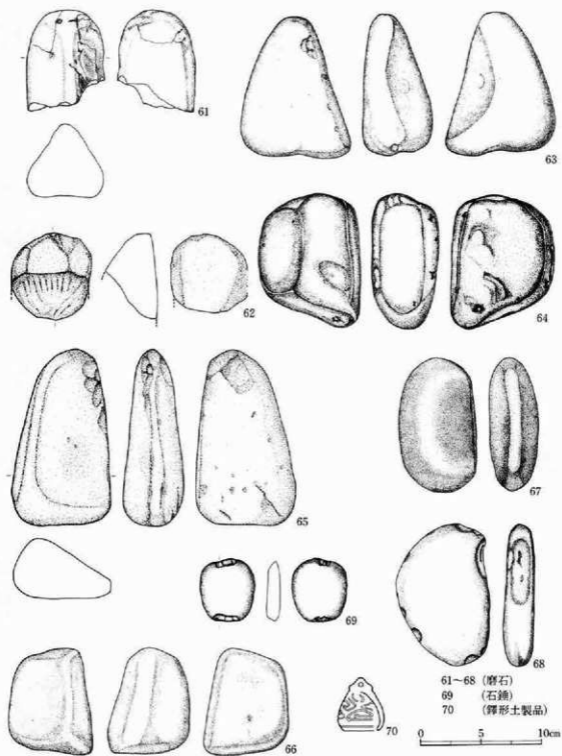
図版180 遺構外の出土遺物 (10)



図版181 遺構外の出土遺物 (11)



図版182 遺構外の出土遺物 (12)



図版183 遺構外の出土遺物 (13)

IV. まとめ

長瀬B遺跡の発掘調査の結果、検出された遺構および出土した遺物はこれまでに述べたとおりである。これらについて要約すると以下のようになる。

1. 遺構

(1) 竪穴住居址

当遺跡で検出された住居址は合計37棟であるが、その内訳は原始時代に位置づけられるものが5棟、古代に位置づけられるものが32棟となっている。

① 原始時代

●時期

5棟の住居址は、出土遺物や遺構の形態などからみて縄文時代早期中葉に位置づけられるものと考えられる。またこれらの住居址は層位的には十和田火山を給水源とする降下火山砕屑物層の1つである南部浮層の直下に存在し、この浮石層によって被覆されている。調査期間などの制約もあって第2面における遺構検出は不十分なものとなったが、5棟の住居址の配置状況等から推測して、調査対象区域内のみならずその周辺部にはまだこれらのほかに同時期の住居址が何棟か点在している可能性があるように思われる。なお以上の住居址に共伴する土器群は、貝殻腹縁文を主文様とするものである。

●規模および形状

調査範囲や調査期間などの関係から完掘できず精査された部分から規模・形状を推定した住居址もあるが、おおよそ次のように2つの型に大別できそうである。1つは最大径3.0m±～5.5m±を計り、平面形が円形～楕円形を呈するものである。この型に属する住居址は、O e 65住居址・O j 71住居址・B g 06住居址・D a 06住居址の4棟である。もう1つは長軸の最大の長さが9.6m±を計り、平面形が隅丸長方形を呈するものである。この型に属する住居址はB i 03住居址1棟だけである。この住居址は上述の4棟に比較して非常に大型である。5棟の住居址の壁の状況は次のようになっている。壁の高さは45cm±～95cm±を計り、全体的に深くなっている。また壁の立ちあがりは比較的緩やかで床面との境界線が不明瞭なものが多い。

●柱穴配置

柱穴が確認された住居址はO j 71住居址・B g 06住居址・B i 03住居址の3棟であるが、このうち柱穴配置まで把握できたものは2棟（O j 71住居址・B i 03住居址）である。O j 71住居址の場合には長方形の配置を示し、またB i 03住居址の場合には平面的に1棟として登録されている中に一部柱穴を異にして長方形に近い五角形の形を示す2組の配置がみられる。これまでB i 03住居址にみられるような事象については、「建て替え」という形で単純に処理してきたものであるが、家ノ上遺跡や長瀬A遺跡をはじめとする他遺跡などの事例から推し測ってただ単に「建て替え」というだけでは解釈し得ない要素が含まれているものと考えられる。筆者はこのような見地から2組の柱穴配置に対してそれぞれに一定の独自性をもたせ、B i 03—a住居址・B i 03—b住居址という形で名称を与え遺構の事実記載を行なった。

●その他

O e 65住居址・B g 06住居址・B i 03住居址には炉は存在していない。また部分的な精査に終ったO j 71住居址・D a 06住居址にも炉は存在していないものと思われる。なおB i 03住居址にのみ貯蔵穴状のピットが認められた。

② 古 代

●時 期

32棟の住居址は、出土遺物などからみてクロロ使用前の時期（A）とクロロ使用後の時期（B）に大別できそうである。前者Aに属する住居址は、A d 62住居址・A f 59住居址・A h 50住居址・B a 68住居址・B d 03住居址・B e 68住居址・B g 50住居址・B h 50住居址・B i 59住居址・B j 50住居址・C b 59住居址・C d 59住居址・C g 50住居址・C i 06住居址・D a 50住居址・D c 03住居址・D d 53住居址・D g 09住居址・D g 56住居址・D h 03住居址・D h 15住居址・D j 03住居址・E a 12住居址・E g 53住居址・E i 50住居址の25棟である。また後者Bに属する住居址はC b 53—1住居址・C b 53—2住居址・C j 06住居址・D a 62住居址・D c 09住居址・D i 06住居址・E d 09住居址の7棟である。政治史的な時代区分からすると、Aは奈良時代末葉に、またBは平安時代前葉にそれぞれ位置づけられるものと考えられる。

●規模および形状

A. 規模に関しては住居址間にかなりの相違がみられるが、概ね次のような傾向がみられるようである。一辺の長さが約3mを計るものや約7m～8mを計るものはそれぞれ3棟ずつで数が少なく、約4m～6mを計るものが大半を占める。Aに含まれる住居址の中でD j 03住居址は8.4m土の最大長を計り、他のものとの差が特に著しい大型の住居址である。平面形は隅丸方形を示すものと隅丸長方形を示すものとに分けられる。前者の形状を示す住居址がほとんどであり、後者の形状を示す住居址は僅4棟（C d 59住居址・D c 03住居址・D d 53住居址・

D g 56住居址) だけである。

B、Aと比較して7棟と数は少ないが、一辺の長さが2.8m±～6.5m±の範囲の数値をそれぞれ示し規模は一様ではない。平面形は隅丸方形を示すものと隅丸長方形を示すものとに分けられる。前者の形状を示すものは5棟(C b 53—2住居址・C j 06住居址・D c 09住居址・D i 06住居址・E d 09住居址)であり、後者の形状を示すものは2棟(C b 53—1住居址・D a 62住居址)である。

●埋土

A・Bに属する32棟の住居址の埋土中には十和田a降下火山灰(大池、1972)が層をなす状態やブロック化した状態で存在している。この十和田a降下火山灰の堆積状態について形態分類を行なうと次のようになる。

I型……十和田a降下火山灰が埋土の最上部に層をなして堆積している型である。

II型……十和田a降下火山灰が層をなして住居址内に少し食い込む形で堆積しているものでその上面に黒褐色土などを載せる型である。

III型……十和田a降下火山灰が層をなしてIIよりさらに住居址内に食い込む形で堆積しているもので、その上面に灰褐色土・黒褐色土などを載せる型である。

IV型……十和田a降下火山灰が層をなしてIIIよりもさらに住居址に食い込み床面直上にまで達している型である。

V型……十和田a降下火山灰がブロック状となって黒褐色土などの中に混入し、埋土の上位から中位にかけて点在している型である。

VI型……埋土全体あるいは下位の部分にブロック状の十和田a降下火山灰が混入している型である。

VII型……遺構検出作業の最初の段階ではその上部に十和田a降下火山灰の堆積が認められたものの、その後に行なわれた平面形の確認作業の際に削刺されて消滅してしまい土層断面中に火山灰がみられない型である。

以上の分類の中でI型・II型・III型・IV型・V型・VII型はロクロ使用前の時期すなわちAに属する住居址にみられる堆積形態である。またVI型はロクロ使用以後の時期すなわちBに属する住居址にだけみられる堆積形態である。それぞれの型別の該当住居址は次のとおりである。

I型……A h 50住居址・B j 50住居址・C d 59住居址・D c 03住居址・D g 56住居址・E g 53住居址

II型……D d 53住居址・D g 09住居址

III型……A f 59住居址・B g 50住居址・C b 59住居址・C g 50住居址・D j 03住居址・E a 12住居址

Ⅳ型……E i 50住居址

Ⅴ型……C i 06住居址・D h 03住居址

Ⅵ型……C b 53—1住居址・C b 53—2住居址・C j 06住居址・D a 62住居址・D c 09住居址・D i 06住居址・E d 09住居址

Ⅶ型……A d 62住居址・B a 68住居址・B e 68住居址・B d 03住居址・B i 59住居址・D a 50住居址

十和田 a 降下火山灰が種々の堆積形態を示しながら古代の遺構の埋土中に存在しているという事象は、二戸地方に分布する長瀬B遺跡以外の遺跡においても認められることである。近年その調査事例も増大してきているが、この点に関する端緒を切り開いたのは草間俊一である。(草間、1965)

なお長瀬B遺跡の住居址内の十和田 a 降下火山灰層は大変ラミナが発達しており、特にⅡ型およびⅢ型の堆積形態を示すものに顕著にみられる。またこの火山灰層中からはほとんど遺物は出土していないが、E a 12住居址の場合には火山層中の下位の部分から刀子が2点出土しており、このことは火山灰層の堆積過程を考える上で非常に注目に値する事実である。

●柱穴配置

A. 柱穴が確認された住居址は、A f 59住居址・A h 50住居址・B a 68住居址・B e 68住居址・B g 50住居址・B h 50住居址・B i 59住居址・B j 50住居址・C b 59住居址・C g 50住居址・D e 03住居址・D d 53住居址・D g 09住居址・D h 15住居址・D j 03住居址・E a 12住居址・E g 53住居址・E i 50住居址の18棟である。このうち全体の柱穴配置まで把握できた住居址は11棟であり、次のような柱穴配置がみられる。正方形の配置を示すもの(A f 59住居址・A h 50住居址・B g 50住居址・B i 59住居址・B j 50住居址・C b 59住居址・D j 03住居址・E a 12住居址)・長方形の配置を示すもの(C g 50住居址・D d 53住居址)・台形状の配置を示すもの(A f 59住居址・B g 50住居址・D e 03住居址)の3種類となっている。

B. 柱穴が確認された住居址はD a 62住居址およびD i 06住居址の2棟だけであるが、これらの2棟も全体の柱穴配置を把握するまでには至らなかった。

●壁および壁溝

いずれの住居址の壁もほぼ垂直に近い状態で立ちあがっている。また壁の高さは40cm～60cmの数値を示すものが多く、全体的に深い位置に床面をもっている。中でもD j 03住居址の場合には最も深いところで80cm土を計り、深さの点でも一段と際立っている。他の住居址と比べて極めて浅い位置に床面をもっているものは、A d 62住居址(25cm土)・E i 50住居址(28cm土)の2棟である。十和田 a 降下火山灰層が各住居址内においていろいろな堆積状態を示すことは先にふれたが、このような状態が生じた要因の1つとしてD j 03住居址やE i 50住居址などの

状況からみてそれぞれの住居址の竪穴部分の容積の問題が大きく関与しているように考えられる。

壁溝の状況には、全部の壁に設けられているもの・一部の壁にのみ設けられているもの・全く認められないもの、の3つの形が存在している。Aの時期の場合は壁溝が設けられている住居址と全く認められない住居址の数の差はほとんどないが、Bの時期の場合には壁溝がみられる住居址は2棟だけである。

●カマド

A・Bどちらの時期の住居址のカマドも板状の凝灰岩と黄褐色系の色調を示す粘土質シルトを多用して構築されている点で共通性がみられる。しかしカマドの方向や設置されている位置についてはA・Bの各時期によって相異点が認められる。

Aの時期の住居址に伴うカマドは西壁中央部の位置に構築されているものがほとんどであるが、中には北西壁の中央部の位置にあるもの(D g 09住居址)や西壁のやや北側に偏った位置にあるもの(D g 56住居址)もある。

Bの時期の住居址に伴うカマドの場合には布設されている壁の中央部からずれた偏った位置にある点では共通性らしいものも認められるが、その方向に関しては北壁(C j 06住居址・D a 62住居址)・東壁(C b 53-1住居址・C b 53-2住居址・D e 09住居址)・南壁(D a 62住居址)・西壁(D e 09住居址・D i 06住居址)・北西壁(E d 09住居址)と大変多様なものとなっている。

煙道部が割貫式のトンネル構造となっているものは、C i 06住居址とD h 03住居址の2棟だけである。また煙出し部にピットがみられる住居址はA・B両時期ともそれぞれ半分以上を占めている。

なおD a 50住居址にはカマドは存在せず、張り出し部に設けられた地床炉が確認されている。

●その他

E d 09住居址を除くBの時期の各住居址には貯蔵穴状のピットがみられる。C b 53-2住居址およびC j 06住居址のピットは、それぞれの床面全体の4分の1強のスペースをとることや底面が深い位置にあることなどの点で他の住居址のものとはやや異質な感じを受ける。これらのピットは、次に示すような事実からみて鍛冶生産と密接関連をもったものではないかと考えられる。その事実とは、ピット内部や周辺部から銹滓が出土していることとC b 53-2住居址の床面上から鑄の羽口の破片が出土していることである。以上のような事象は長瀬A遺跡のC a 09住居址にもみられたことである。

ところでA・B各時期の半数以上の住居址が焼失を受けているものと考えられる。これらの住居址に検出された炭化材や現地性の焼土は床面直上のレベルにあるもので床面密着のものが

ほとんどない。しかも壁際の炭化材は床面から大きく浮いた状態であって、その下には第1次埋没土と思われる黒褐色土などの土の堆積がみられた。筆者はこのような状況から判断して、それぞれの住居址は廃棄後崩壊が進みその周辺部から土砂が流入して堆積するだけの一定の日数が経過したのちに焼失を受けたものであろう、との解釈をフィールドにおいて行なった（四井ら、1977）。その後、都南村湯沢遺跡（高橋ら、1977）で縄文時代の焼失住居址を詳細に観察しこの種の住居址に大きな関心を払っていた高橋文夫は、1978年8月に北海道網走市に所在するモヨロ貝塚で屋根の上に土砂を被せてある北方民族ギリヤーク人の「冬の家」の復元住居を実見した際に、炭化材および現地性の焼土が湯沢遺跡・長瀬B遺跡などでみられたような状態で検出される住居址や焼失を受けていないものでも壁際に第1次埋没土の堆積が観察できる住居址の屋根には上述の「冬の家」と同様に土砂が被せられていたと解釈すべきではないか、との発想を行なった。長瀬B遺跡の焼失住居址について現時点で再検討してみると、高橋が指摘するように解釈するのが妥当であると思われる。以上の解釈に立って考えられることは、これらの住居址が失火などの偶発的な要因によって焼失したものではなく、かなり意図的な形で「火」を放たれて焼失したものではなかろうかということである。このことは、カマドが意識的に破壊されている点などからも推察できそうである。

1979年に高橋の説を裏付けるような2つの発見例があった。1つは高橋が担当した松尾村長者屋敷遺跡（高橋ら、1981）の古代の焼失住居址であり、もう1つは安代町扇畑I遺跡（佐々木ら、1981）の同時代の焼失住居址である。これらの住居址は先の時期区分でいえばBの時期にあたるもので、いずれも炭化材の直下に火熱により赤色変化した十和田a降下火山灰が検出されている。この十和田a降下火山灰は検出状態からみて、屋根の上にあったものが住居址の焼失とともに転落し火熱を受けたとしか考えられないものであった。2棟の住居址を実見した高橋は、上記の発見例から自説をさらに補強し、その後研修会等で口頭による発表を何回か行なっている。扇畑I遺跡の報告書における「C I-1住居址の上層構造の推察」（P66～P67）は高橋の発想と教示のもとにしたためられた一文である。

なお、安代町・松尾村などで発見されたBの時期の住居址群の埋土中にみられるブロック状の十和田a降下火山灰の成因の1つとして、高橋は屋根からの転落によって生じたものではないかとの考えを示しているが、長瀬B遺跡の場合にはむしろ火山灰降下後に渡来した人間集団による攪拌によって生じた可能性が強いように思われる。それは次のような理由によるものである。Aの時期の住居址内に堆積した十和田a降下火山灰層の上部が例えばDj03住居址にみられるようにブロック化し黒褐色土などと混合して1つの層を形成しているが、この土層はB期の遺物などを包含していることからみて人為的な攪拌によって生じたとしか考えられないものである。しかもB期の住居址やピットの埋土とはほぼ同一の性状を示しており、また貼床に

使用されている土ともほぼ同一である。以上の理由から、長瀬B遺跡においては十和田a降下火山灰のブロック化には人的営力が強く作用していたのではないかと考えるものである。

(2) 竪穴住居址状遺構

検出された住居址は合計4棟であり、いずれも古代に位置づけられるものである。出土遺物や埋土の性状からみて、次のように時期区分できる。Aの時期に属するものはB i 06住居址状遺構・D f 12住居址状遺構・D i 59住居址状遺構の3棟であり、またBの時期に属するものはC i 62住居址状遺構1棟だけである。このうちD f 12住居址状遺構は焼失を受けている。

以上4棟の住居址状遺構を「住居址」として認定しなかった理由は、それぞれの遺構にコマDあるいは地床炉などの施設が確認されなかったためである。

(3) 掘立柱建物址

検出された掘立柱建物址は2棟であり、いずれも古代に位置づけられるものである。この2棟は東西1間×南北2間の配置を示すもの(C e 09掘立柱建物址)と東西2間×南北2間の配置を示すもの(C f 12掘立柱建物址)とからなる。時期については断定できないが、掘立柱の埋土中に十和田a降下火山灰が混入していないことから推測して、Aの時期に位置づけられる可能性がある。

(4) 炉 址

検出された炉址は2基であり、層的にみて縄文時代早期中葉に位置づけられるものと考えられる。この2基の炉址は同時期のO e 65住居址などと密接な関連をもった「屋外炉」と思われる。

(5) ピット

検出されたピットは合計21基で、原始時代のもが13基、古代のもが8基となっている。

① 原始時代

13基のピットは断面形がフラスコ形・ピーカー形・皿形のそれぞれを示すものである。時期的には縄文時代中期に位置づけられるものと考えられる。一部のピットから縄文時代早期中葉

の土器片が出土しているが、これらの土器片はⅥ層の崩壊土とともに転落して混入したものであろうと思われる。

② 古代

8基のピットは出土遺物や埋土の性状からみて、ロクロ使用以後のBの時期に位置づけられるものである。断面形は皿形を呈するものがほとんどであり、僅に1基だけ浅いピーカー形を呈するもの(Dj50ピット)がある。

(6) 周溝

検出された周溝は古代のもので、円形を呈するCf62周溝と馬蹄形を呈するEd03周溝の2基である。前者の溝内の埋土には十和田a降下火山灰はみられないが、後者の埋土には少量混入している。Ed03周溝出土の遺物からみて、2基ともAの時期に属するものと考えられる。

(7) 陥し穴状遺構

検出された陥し穴状遺構は合計8基である。いずれも長楕円形の平面形を呈する細長いものである。断面形は漏斗状を示すものがほとんどである。これらの陥し穴状遺構は、中瀬浮石層(Ⅲ層)を切っていることや長瀬A遺跡においてこの種の遺構(Dg09陥し穴状遺構)が縄文時代後期前葉の住居址を切りこんでいる例などから判断して、縄文時代後期前葉以降に位置づけられるものと考えられる。なお8基の陥し穴状遺構の配置関係については規則性はみられないようである。

(8) 土器埋設遺構

検出された土器埋設遺構は1基(Ca09土器埋設遺構)だけである。埋設されている土器や長瀬A遺跡のDe50土器埋設遺構の時期から推定して、Ca09土器埋設遺構は縄文時代後期前葉に位置づけられるものと考えられる。

(9) 土坑墓

検出された土坑墓は近世末葉のもので、合計14基である。これらの土坑墓は、配置状況から北と南の2群に分けられる。人骨が出土した土坑墓は11基であるが、今回の調査で人骨が得ら

れなかった3基の土坑墓にも人骨が存在した可能性がある。それは、3基の土坑墓に新しい掘り返しの痕跡が認められたからである。なお調査対象区から20m土東側のルート外にある墓地には「文化」・「文政」・「安政」の銘をもった墓標が5～6基ほどみられる。

2. 遺物

(1) 土器

① 縄文土器

遺構内外から出土した縄文土器は、縄文時代早期中葉・前期前葉・後期前葉に位置づけられるものである。このうち縄文時代早期中葉に位置づけられるものが量的に多く、貝殻腹縁文を主文様とする土器群で構成されている。これらの貝殻腹縁文が施文されている土器群は、従来の型式名でいえば「白浜式」や「吹切沢式」と関連をもつものであろうが、2つの型式そのものの内容が曖昧模範としたものであり、いずれの型式に属するかどうかなどを論ずることはただいたずらに混乱をまねくだけで、また実際長瀬B遺跡から出土した土器群に施文されている文様の多様性からみても無理と言わざるを得ない。

② 弥生土器

E a 12住居地の埋土中から出土した口縁部の破片が1点だけである。施文されている文様からみて、いわゆる「後北C式」に併行する土器と考えられる。D j 03住居地の埋土中から出土した磨製の環状石斧はこの土器と関連するものではなからうかと思われる。

③ 土師器

長瀬B遺跡から出土した土師器はロクロ使用前のものと同く使用後のものとに大別される。前者に属する土師器の器種は、坏・甕・壺・甔などから構成されている。坏は体部を有する丸底のものが大半を占める。甕・壺は内外面の器面調整としてハケ目が施されているものが多い。甔はすべて多孔式の形態のものである。後者に属する土師器の器種は、坏・甕・甔からなる。坏はほとんどがロクロ成形のもので回転糸切りされているものが多い。またこれらの底部には指ナデ・手持ちのヘラケズリなどの再調整がみられる。甕はロクロ成形のものもあるが、多くはロクロを不使用の輪積み成形のものであり外面に粗いヘラケズリが施されている。甔は

1点だけであり、しかも破片である。成形技法は輪積み成形となっている。

④ 須恵器

長瀬B遺跡で出土した須恵器は、坏・甕・壺の器種である。坏は回転ヘラ切り後底部が再調整されているものが多い。須恵器の出土量は土師器の全体量に比べて大変少量である。

(2) 石器

出土した石器の中で剥片石器は、器種に関係なく折断加工されているものが大変多い。縄文時代早期中葉の時期に位置づけられる石器では凹石や磨石の出土点数が多いことが注目される。

(3) その他

O j 71住居址から出土した「有孔岩版」やB i 03住居址から出土した「刻線岩球」などの石製品の名称は、これらの2棟の住居址の精査を担当した佐藤 洋が命名したものである。

追記

長瀬B遺跡の遺構から得られた炭化材などの14C試料の測定を日本アイソトープ協会に依頼したが、その結果は次のとおりである。

①D e 53ピット	N-3160	1480±80 y. B. P.	(1440±75 y. B. P.)
②D d 53住居址	N-3161	1580±80 y. B. P.	(1510±80 y. B. P.)
③D d 53住居址	N-3162	1260±85 y. B. P.	(1220±80 y. B. P.)
④D d 53住居址	N-3163	1430±80 y. B. P.	(1390±75 y. B. P.)
⑤B i 03住居址	N-3164	11300±140 y. B. P.	(11000±135 y. B. P.)
⑥B i 03住居址	N-3165	12300±150 y. B. P.	(12000±150 y. B. P.)
⑦D a 06住居址	N-3166	8590±115 y. B. P.	(8350±110 y. B. P.)
⑧D a 06住居址	N-3167	8480±115 y. B. P.	(8240±110 y. B. P.)

参考・引用文献

- 芹沢長介 1972 『石器時代の日本』
- 鈴木孝志 1958 『岩手県岩手郡松尾村水切場遺跡調査概報』 『上代文化第28輯』
- 山内清男 1964 『縄文式土器Ⅰ』 日本原始美術Ⅰ
- 林 謙作 1965 『縄文文化の発展と地域性—東北—』 『日本の考古学Ⅱ』
- 草間俊一ら 1967 『盛岡市一本松熊の沢遺跡』
- 草間俊一ら 1971 『貝島貝塚』
- 市川金丸ら 1973 『亀ヶ岡遺跡発掘調査報告書』
- 草間俊一ら 1974 『岩手県大館町吉里吉里崎山弁天遺跡』
- 村越 潔 1974 『円筒土器文化』
- 村越 潔 1976 『円筒土器に伴う特殊な石器』 『東北考古学の諸問題』
- 高橋文夫・三浦謙一ら 1977 『都南村湯沢遺跡』
- 鈴木克彦ら 1978 『熊沢遺跡』
- 小林達雄 1979 『縄文土器Ⅰ』 日本の原始美術Ⅰ
- 佐原 眞 1979 『縄文土器Ⅱ』 日本の原始美術Ⅱ
- 小岩末治 1961 『弥生式文化の展開』 『岩手県第1巻』
- 武田良夫 1978 『岩手県における弥生式土器について—盛岡地方を主として』 『考古風土記第3号』
- 鈴木克彦 1978 『青森県の弥生時代土器集成Ⅰ』 『考古風土記第3号』
- 岩本義雄ら 1979 『宇鉄Ⅱ遺跡発掘調査報告書』
- 草間俊一 1965 『岩手県福岡町堀野遺跡』
- 高橋信雄 1976 『保土沢遺跡発掘調査報告書』
- 岡 豊 1978 『二戸市中曾根遺跡発掘調査報告書』
- 大池昭二 1972 『十和田火山東麓における完新世テフラの編年』 『第四紀研究第11巻4号』
- 中川久夫 1972 『青森県の第四系』 『青森県の地質』
- 大池昭二 1974 『十和田火山は生きている』 『国土と教育No.26』
- 町田 洋 1977 『火山灰は語る』
- 瀬川司男 1978 『縄文期以後の火山灰と遺跡—岩手県を中心に—』 『どるめん19号』
- 小林達雄 1973 『多摩ニュータウンの先住者—主として縄文時代のセトルメント・システムについて—』 『月刊文化財1月号』
- 四井謙吉ら 1980 『松尾村野駄遺跡、寄木遺跡、西根町崩石遺跡』
- 高橋正之ら 1980 『広瀬Ⅱ遺跡・堂ヶ沢遺跡・紫Ⅲ遺跡』

- 安田喜憲 1980 『環境考古学事始』
- 高橋文夫 1980 『竪穴住居址』 『松尾村長者屋敷遺跡（Ⅰ）』
- 高橋文夫ら 1981 『松尾村長者屋敷遺跡（Ⅱ）』
- 本沢慎輔・遠藤勝博ら 1981 『二戸市長瀬C遺跡・長瀬D遺跡』
- 遠藤勝博・高橋義介ら 1981 『二戸市 上田面遺跡・大滝遺跡・火行塚遺跡』
- 関 豊 1978 『中曽根遺跡発掘調査報告書』
- 関 豊 1981 『中曽根Ⅱ遺跡発掘調査報告書』
- 佐々木清文ら 1981 『二戸郡安代町 扇畑Ⅰ遺跡』
- 高橋与右衛門 1978 『二戸市 沢内B遺跡』
- 上野 猛 1978 『二戸市 沢内遺跡』
- 四井謙吉 1976 『二戸市米沢 長瀬地区試掘調査実績報告書』
- 四井謙吉ら 1977 『二戸B・P. 関連長瀬遺跡現地説明会資料』
- 名久井文明 1974 『北日本縄文早期編年に関する一試考——青森県三戸町寺の沢遺跡出土遺物について』 『考古学雑誌』60—3
- 江坂輝弥 1950 『縄文式文化について（五）』 『歴史評論』5—2

表1 長瀬B遺跡出土石器・石製品計測表

番号	器種	出土遺構・地区	図版番号	写真図版番号	計測値				石質	産地
					最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量(g)		
1	石槍	O e 65住居址	13-37	96-37	4.3	2.6	0.7	9.05	硬質泥岩	奥羽山地、中新統
2	鐮状石器	O e 65住居址	13-38	96-38	5.2	2.3	1.0	10.35	硬質泥岩	奥羽山地、中新統
3	スクレイパー	O e 65住居址	13-39	96-39	3.9	3.2	0.7	9.10	硬質泥岩	奥羽山地、中新統
4	不定形石器	O e 65住居址	13-40	96-40	7.7	3.2	1.0	33.05	硬質泥岩	奥羽山地、中新統
5	磨石	O e 65住居址	13-41	96-41	6.9	6.5	4.3	260.00	両輝石安山岩	新湖火山、第四系
6	石鏃	O j 71住居址	19-54	100-53	4.1	1.2	0.5	1.90	粘板岩質チャート	北上山地、古生界
7	鐮状石器	O j 71住居址	19-55	100-54	4.9	2.1	1.2	11.43	硬質泥岩	奥羽山地、中新統
8	スクレイパー	O j 71住居址	19-56	100-55	4.9	2.6	0.8	7.30	硬質泥岩	奥羽山地、中新統
9	スクレイパー	O j 71住居址	19-57	100-56	2.5	2.5	0.7	3.53	硬質泥岩	奥羽山地、中新統
10	不定形石器	O j 71住居址	19-58	100-57	3.6	3.2	0.6	4.32	粘板岩質チャート	北上山地、古生界
11	不定形石器	O j 71住居址	19-59	100-58	3.4	1.4	0.5	1.85	硬質泥岩	奥羽山地、中新統
12	不定形石器	O j 71住居址	19-60	100-59	2.6	1.8	0.4	1.43	硬質泥岩	奥羽山地、中新統
13	凹石	O j 71住居址	19-61	100-60	14.0	6.0	4.9	450.00	輝石安山岩	奥羽山地、新第三系
14	凹石	O j 71住居址	19-62	100-61	13.3	4.5	3.6	295.00	輝石安山岩	奥羽山地、新第三系
15	凹石	O j 71住居址	19-63	100-62	6.9	6.6	3.0	200.00	輝石安山岩	奥羽山地、新第三系
16	凹石	O j 71住居址	19-64	100-63	7.3	6.8	4.1	300.00	輝石安山岩	奥羽山地、新第三系
17	磨石	O j 71住居址	19-65	100-64	18.4	7.2	4.2	900.00	角閃石珸岩	北上山地、古生界
18	磨石	O j 71住居址	20-66	100-65	12.8	8.5	7.0	1200.10	凝灰質硬砂岩	北上山地、古生界
19	磨石	O j 71住居址	20-67	100-66	8.4	6.9	4.3	380.00	輝石安山岩	奥羽山地、新第三系
20	磨石	O j 71住居址	20-68	100-67	6.2	5.5	4.5	271.00	角閃石珸岩	北上山地、古生界
21	磨石	O j 71住居址	20-69	100-68	6.4	5.2	2.9	111.00	硬砂岩	北上山地、古生界
22	磨石	O j 71住居址	20-70	100-69	6.9	3.6	5.2	220.00	輝石安山岩	奥羽山地、第三系
23	磨石	O j 71住居址	20-71	101-70	11.6	6.0	3.4	350.00	スピライト凝灰岩	北上山地、古生界
24	磨石	O j 71住居址	20-72	101-71	11.1	7.7	3.6	461.00	輝石安山岩	奥羽山地、新第三系

25	磨石	O j 71住居址	20-73	101-72	9.7	8.2	3.9	535.00	輝石矽岩	北上山地、中生代貫入岩
26	磨石	O j 71住居址	20-74	101-73	7.2	5.8	2.6	160.00	輝石安山岩	奥羽山地、新第三系
27	磨石	O j 71住居址	20-75	101-74	8.0	7.3	3.5	320.00	凝灰質硬砂岩	北上山地、古生界
28	磨石	O j 71住居址	20-76	101-75	7.1	5.8	5.0	240.00	輝石安山岩	奥羽山地、新第三系
29	石錘	O j 71住居址	21-77	101-76	9.4	5.9	1.7	160.00	輝石安山岩	奥羽山地、新第三系
30	石錘	O j 71住居址	21-78	101-77	10.4	5.9	1.7	150.00	綠泥石片岩	北上山地、古生界
31	敲石	O j 71住居址	21-79	101-78	10.7	4.5	2.5	220.00	輝石安山岩	奥羽山地、新第三系
32	敲石	O j 71住居址	21-80	101-79	6.4	5.5	1.4	70.00	綠泥石片岩	北上山地、古生界
33	有孔岩版	O j 71住居址	21-81	101-80	8.0	4.7	1.6	25.90	流紋岩質細粒凝灰岩	奥羽山地、新第三系
34	台石	O j 71住居址	21-82	—	33.5	13.6	8.8	4620.00	輝石安山岩	奥羽山地、新第三系
35	台石	O j 71住居址	21-83	101-81	21.3	15.0	2.4	1250.00	輝石安山岩	奥羽山地、新第三系
36	鏡状石器	B g 06住居址	23- 2	102- 2	6.0	3.0	1.4	26.35	玻璃質流紋岩	奥羽山地、中新統
37	磨石	B g 06住居址	23- 3	102- 3	9.0	7.9	3.6	450.00	凝灰質硬砂岩	北上山地、古生界
38	磨石	B g 06住居址	23- 4	102- 4	10.1	7.7	3.7	480.00	輝石矽岩	北上山地、中生代貫入岩
39	磨石	B g 06住居址	23- 5	102- 5	10.7	8.0	4.5	600.00	輝石安山岩	奥羽山地、新第三系
40	磨石	B g 06住居址	23- 6	102- 6	9.1	7.9	3.6	378.00	輝石安山岩	奥羽山地、新第三系
41	石匙	B i 03住居址	29-16	103-16	2.6	2.3	5.5	2.85	硬質泥岩	奥羽山地、中新統
42	スクレイパー	B i 03住居址	29-17	103-17	3.1	3.3	0.5	4.25	玻璃質流紋岩	奥羽山地、中新統
43	スクレイパー	B i 03住居址	29-18	103-18	3.0	2.8	0.3	4.83	硬質泥岩	奥羽山地、中新統
44	スクレイパー	B i 03住居址	29-19	103-19	2.2	1.8	0.3	1.52	硬質泥岩	奥羽山地、中新統
45	スクレイパー	B i 03住居址	29-20	103-20	3.6	2.1	0.8	5.43	硬質泥岩	奥羽山地、中新統
46	スクレイパー	B i 03住居址	29-21	103-21	2.9	1.0	1.3	2.70	粘板岩質チャート	北上山地、古生界
47	スクレイパー	B i 03住居址	29-22	103-22	2.4	1.4	0.5	1.70	硬質泥岩	奥羽山地、中新統
48	スクレイパー	B i 03住居址	29-23	103-23	3.2	3.1	0.7	7.25	硬質泥岩	奥羽山地、中新統
49	スクレイパー	B i 03住居址	29-24	103-24	4.1	1.9	0.7	3.33	粘板岩質チャート	北上山地、古生界
50	スクレイパー	B i 03住居址	29-25	103-25	3.3	2.3	0.6	6.10	硬質泥岩	奥羽山地、中新統
51	スクレイパー	B i 03住居址	29-26	103-26	3.4	2.3	1.0	5.87	硬質泥岩	奥羽山地、中新統
52	不定形石器	B i 03住居址	29-27	103-27	3.4	2.4	0.8	9.13	硬質泥岩	奥羽山地、中新統

53	不定形石器	B i 03住居址	29-28	103-28	3.2	2.5	1.8	8.07	粘板岩質チャート	北上山地、古生界
54	不定形石器	B i 03住居址	30-29	103-29	2.6	2.6	0.3	2.15	粘板岩質チャート	北上山地、古生界
55	不定形石器	B i 03住居址	30-30	103-30	2.1	1.2	0.4	0.81	粘板岩質チャート	北上山地、古生界
56	不定形石器	B i 03住居址	30-31	103-31	3.3	2.9	0.7	4.15	粘板岩質チャート	北上山地、古生界
57	不定形石器	B i 03住居址	30-32	103-32	3.0	1.5	0.5	1.98	粘板岩質チャート	北上山地、古生界
58	不定形石器	B i 03住居址	30-33	103-33	3.2	2.5	0.6	6.69	硬質泥岩	奥羽山地、中新統
59	不定形石器	B i 03住居址	30-34	103-34	3.8	2.5	0.5	3.80	粘板岩質チャート	北上山地、古生界
60	不定形石器	B i 03住居址	30-35	103-35	3.7	2.0	1.2	7.96	硬質泥岩	奥羽山地、中新統
61	不定形石器	B i 03住居址	30-36	103-36	4.2	2.1	1.2	8.00	玻璃質流紋岩	奥羽山地、中新統
62	使用痕のある剥片	B i 03住居址	30-37	103-37	4.5	3.2	0.9	7.36	粘板岩質チャート	北上山地、古生界
63	使用痕のある剥片	B i 03住居址	30-38	104-38	3.3	2.9	0.8	6.56	粘板岩質チャート	北上山地、古生界
64	使用痕のある剥片	B i 03住居址	30-39	104-39	3.0	2.6	0.4	3.20	玻璃質流紋岩	奥羽山地、中新統
65	使用痕のある剥片	B i 03住居址	30-40	104-40	3.6	2.0	0.9	4.67	粘板岩質チャート	北上山地、古生界
66	使用痕のある剥片	B i 03住居址	30-41	104-41	2.6	1.6	0.5	1.35	粘板岩質チャート	北上山地、古生界
67	使用痕のある剥片	B i 03住居址	30-42	104-42	2.7	1.9	0.2	1.25	粘板岩質チャート	北上山地、古生界
68	使用痕のある剥片	B i 03住居址	30-43	104-43	3.0	1.4	0.5	1.34	硬質泥岩	奥羽山地、中新統
69	凹石	B i 03住居址	30-44	104-44	9.6	6.7	4.1	360.00	輝石安山岩	奥羽山地、新第三系
70	凹石	B i 03住居址	31-45	104-45	9.6	7.8	3.6	370.00	輝石安山岩	奥羽山地、新第三系
71	凹石	B i 03住居址	31-46	104-46	8.6	4.9	3.9	210.00	輝石安山岩	奥羽山地、新第三系
72	磨石	B i 03住居址	31-47	104-47	8.0	7.1	5.8	390.00	輝緑岩	北上山地、中生界
73	磨石	B i 03住居址	31-48	104-48	10.8	8.8	3.7	530.00	花崗閃緑岩	北上山地、中生界
74	磨石	B i 03住居址	31-49	104-49	8.8	8.3	4.6	570.00	輝石珩岩	北上山地、中世代貫入岩
75	敲石	B i 03住居址	31-50	104-50	15.5	9.1	3.4	1000.00	輝石安山岩	奥羽山地、新第三系
76	刻線岩球	B i 03住居址	31-51	104-51	6.5	6.0	6.0		流紋岩細粒凝灰岩	奥羽山地、新第三系
77	台石	B i 03住居址	31-52	104-52	25.5	21.8	3.4	2380.00	輝石安山岩	奥羽山地、新第三系
78	石鏃	D a 06住居址	35-27	105-27	4.0	1.7	0.4	2.05	流紋岩質細粒凝灰岩	奥羽山地、中新統
79	トランシェ状石器	D a 06住居址	35-28	105-28	6.2	3.4	1.6	18.50	凝灰質硬質泥岩	奥羽山地、中新統
80	使用痕のある剥片	D a 06住居址	35-29	105-29	2.2	1.4	0.2	1.35	硬質泥岩	奥羽山地、中新統

81	磨石	D a 06住居址	35-30	106-30	9.7	5.7	4.9	400.00	輝石安山岩	奥羽山地、新第三系
82	凹石	D a 06住居址	35-31	106-31	12.1	7.5	2.9	350.00	輝石安山岩	奥羽山地、新第三系
83	有孔石製品	A d 62住居址	48-6	107-5	4.5	3.8	0.8	36.35	硬砂岩	北上山地、古生界
84	勾玉	B d 03住居址	60-17	112-36	1.5	1.0	0.9	1.67	メノウ	
85	凹石	B e 68住居址	62-8	113-43	10.7	7.4	4.1	570.00	輝石安山岩	奥羽山地、新第三系
86	磨石	B i 59住居址	71-4	116-61	8.6	7.1	7.2	630.00	珪岩	北上山地、古生界
87	環状石斧	D j 03住居址	137-17	145-213-a	8.4	6.2	1.8	150.00	硬砂岩	北上山地、古生界
88	砥石	E a 12住居址	144-36	148-234	12.6	10.5	4.4	610.00	流紋岩	奥羽山地、中新統
89	砥石	E a 12住居址	144-37	148-233	10.9	8.2	4.3	490.00	流紋岩	奥羽山地、中新統
90	石斧	E a 12住居址	144-38	148-235	15.9	6.0	2.3	480.00	硬砂岩	北上山地、古生界
91	砥石	E g 53住居址	148-6	149-242	9.7	5.2	4.5	370.00	輝石安山岩	奥羽山地、新第三系
92	砥石	E g 53住居址	148-7	149-243	7.7	3.3	3.1	150.00	流紋岩	奥羽山地、中新統
93	磨石	E g 53住居址	148-8	149-244	8.0	6.1	5.6	400.00	凝灰質硬砂岩	北上山地、古生界
94	石槍	E g 53住居址	148-9	149-245	16.8	7.8	5.3	940.00	輝石安山岩	奥羽山地、新第三系
95	石槍	C f 50-VI	178-1	162-1	4.7	3.1	1.2	14.15	凝灰質硬質泥岩	奥羽山地、中新統
96	石鐵	A d 59-VI	178-2	162-2	3.6	1.2	0.4	1.92	粘板岩質チャート	北上山地、古生界
97	石鐵	C h 06-VI	178-3	162-3	4.3	1.2	0.5	2.44	硬質泥岩	奥羽山地、中新統
98	石鐵	A h 50-VI	178-4	162-4	2.7	1.3	0.4	1.45	硬質泥岩	奥羽山地、中新統
99	石鐵	B d 03-VI	178-5	162-5	3.1	1.2	0.5	1.38	硬質泥岩	奥羽山地、中新統
100	石鐵	A d 59-VI	178-6	162-6	2.8	1.7	0.3	155.00	硬質泥岩	奥羽山地、中新統
101	石鐵	D e 06-VI	178-7	162-7	2.4	1.5	0.5	0.93	玻璃質流紋岩	北上山地、中新統
102	石鐵	D a 62-IV	178-8	162-8	2.6	1.6	0.4	1.45	硬質泥岩	奥羽山地、中新統
103	石鐵	E f 06-09-IV	178-9	162-9	2.0	1.3	0.5	0.97	玻璃質流紋岩	奥羽山地、中新統
104	石鐵	D b 56-II	178-10	162-10	2.4	1.2	0.5	1.33	泥質凝灰岩	奥羽山地、中新統
105	石鐵	C h 12-II	178-11	162-11	3.8	1.5	0.6	2.38	硬質泥岩	奥羽山地、中新統
106	石鐵	D e 50-II	178-12	162-12	4.0	2.6	0.4	2.60	玻璃質流紋岩	奥羽山地、中新統
107	石匙	D a 62-IV	178-13	162-13	8.9	1.9	0.9	16.85	硬質泥岩	奥羽山地、中新統
108	石匙	D f 09-II	178-14	162-14	6.4	3.1	1.0	13.26	硬質泥岩	奥羽山地、中新統

109	石 匙	D d 06-II	178-15	162-15	4.9	3.3	0.6	4.76	粘板岩質チャート	北上山地、古生界
110	トランシェ状石器	A b 62-VI	178-16	162-16	5.2	2.2	0.9	8.70	凝灰質硬質泥岩	奥羽山地、中新統
111	スクレイパー	C i 62-VI	179-17	162-17	4.6	1.6	0.8	7.28	硬質泥岩	奥羽山地、中新統
112	スクレイパー	D a 53-VI	179-18	163-18	4.6	4.4	0.7	21.90	硬質泥岩	奥羽山地、中新統
113	スクレイパー	E g 53-VI	179-19	163-19	3.8	3.1	0.8	10.20	粘板岩質チャート	北上山地、古生界
114	スクレイパー	A d 56-VI	179-20	163-20	2.7	2.1	0.8	5.05	硬質泥岩	奥羽山地、中新統
115	スクレイパー	B d 03-VI	179-21	163-21	4.6	2.6	0.6	6.38	硬質泥岩	奥羽山地、中新統
116	スクレイパー	B d 03-VI	179-22	163-22	4.1	2.8	0.7	7.03	硬質泥岩	奥羽山地、中新統
117	スクレイパー	A c 68-VI	179-23	163-23	5.6	2.5	1.1	17.73	粘板岩質チャート	北上山地、古生界
118	スクレイパー	B d 03-VI	179-24	163-24	3.1	2.2	0.7	6.62	凝灰質硬質泥岩	奥羽山地、中新統
119	スクレイパー	B b 59-VI	179-25	163-25	4.3	3.1	0.6	9.68	粘板岩質チャート	北上山地、古生界
120	スクレイパー	E i 50-VI	179-26	163-26	4.7	3.2	0.5	8.60	玻璃質流紋岩	奥羽山地、中新統
121	スクレイパー	E d 12-IV	179-27	163-27	3.4	2.7	0.5	5.90	硬質泥岩	奥羽山地、中新統
122	スクレイパー	E a 06-09-IV	179-28	163-28	2.7	1.5	0.3	1.90	硬質泥岩	奥羽山地、中新統
123	スクレイパー	E f 06-IV	179-29	163-29	1.7	1.2	0.5	1.35	粘板岩質チャート	北上山地、古生界
124	スクレイパー	E a 12-VI	179-30	163-30	6.7	6.5	1.3	69.00	硬砂岩	北上山地、古生界
125	スクレイパー	D a 06-II	180-31	164-31	3.0	2.3	0.6	4.67	玻璃質流紋岩	奥羽山地、中新統
126	スクレイパー	A d 65-II	180-32	164-32	2.8	2.2	0.4	3.65	硬質泥岩	奥羽山地、中新統
127	不定形石器	B a 03-II	180-33	164-33	6.4	2.7	0.8	16.50	硬質泥岩	奥羽山地、中新統
128	ピエス・エスキュー	E f 06-IV	180-34	164-34	3.4	3.3	0.9	5.73	硬質泥岩	奥羽山地、中新統
129	使用痕のある剥片	A a 59-VI	180-35	164-35	4.9	2.7	0.4	8.14	硬質泥岩	奥羽山地、中新統
130	使用痕のある剥片	B d 03-VI	180-36	164-36	3.6	1.5	0.4	2.03	硬質泥岩	奥羽山地、中新統
131	使用痕のある剥片	D c 06-VI	180-37	164-37	2.8	2.1	0.4	3.14	泥質凝灰岩	奥羽山地、中新統
132	使用痕のある剥片	B d 03-VI	180-38	164-38	3.9	2.5	0.6	4.50	黒曜石	奥羽山地、中新統
133	使用痕のある剥片	D f 50-VI	181-39	164-39	2.5	2.4	0.4	2.69	硬質泥岩	奥羽山地、中新統
134	使用痕のある剥片	E f 06-IV	181-40	164-40	3.4	2.3	0.7	5.60	粘板岩質チャート	北上山地、古生界
135	使用痕のある剥片	D h 06-II	181-41	164-41	4.9	0.2	0.6	5.75	凝灰質硬質泥岩	奥羽山地、中新統
136	使用痕のある剥片	E a 59-II	18-42	164-42	2.4	2.1	-	1.83	硬質泥岩	奥羽山地、中新統

137	石 斧	C d 06—Ⅵ	181—43	165—43	10.1	3.9	1.6	90.00	凝灰質硬砂岩	北上山地、古生界
138	石 斧	D a 62—Ⅱ	181—44	165—44	13.4	5.1	2.7	310.00	凝灰質硬砂岩	北上山地、古生界
139	石 斧	D i 03—Ⅱ	181—45	165—45	8.0	5.9	3.7	290.00	斑れい岩	石切所、中生界
140	石 斧	B b 06—Ⅵ	181—46	165—46	2.9	3.0	0.7	36.35	硬砂岩	北上山地、古生界
141	凹 石	A d 56—Ⅵ	181—47	165—47	12.2	5.8	2.8	249.00	輝石安山岩	奥羽山地、新第三系
142	凹 石	A d 56—Ⅵ	181—48	165—48	11.0	6.9	4.8	455.00	輝石安山岩	奥羽山地、新第三系
143	凹 石	C d 06—Ⅵ	181—49	165—49	11.9	6.7	5.1	546.00	輝石安山岩	奥羽山地、新第三系
144	凹 石	A c 71—Ⅵ	181—50	165—50	11.8	6.9	3.7	426.00	輝石安山岩	奥羽山地、新第三系
145	凹 石	A c 59—Ⅵ	181—51	165—51	10.6	6.4	2.8	222.00	輝石安山岩	奥羽山地、新第三系
146	凹 石	C d 06—Ⅵ	182—52	165—52	7.3	6.9	4.2	341.00	霞輝石安山岩	新期火山、第四系
147	凹 石	A d 59—Ⅵ	182—53	165—53	8.9	9.5	4.1	440.00	輝石安山岩	奥羽山地、新第三系
148	凹 石	C h 06—Ⅵ	182—54	165—54	8.1	7.0	3.7	270.00	輝石安山岩	奥羽山地、新第三系
149	凹 石	C b 56—Ⅵ	182—55	165—55	9.0	7.7	3.6	316.00	輝石安山岩	奥羽山地、新第三系
150	凹 石	A h 50—Ⅵ	182—56	165—56	7.8	7.8	4.5	420.00	輝石安山岩	奥羽山地、新第三系
151	凹 石	D j 03—Ⅱ	182—57	165—57	9.1	8.5	5.0	500.00	輝石安山岩	奥羽山地、新第三系
152	凹 石	C h 06—Ⅱ	182—58	166—58	9.6	7.8	2.3	190.00	輝石安山岩	奥羽山地、新第三系
153	磨 石	C e 50—Ⅵ	182—59	166—59	15.5	7.7	6.0	926.00	硬砂岩	北上山地、古生界
154	磨 石	C h 03—Ⅵ	182—60	166—60	11.4	6.3	6.1	550.00	輝石安山岩	奥羽山地、新第三系
155	磨 石	C h 06—Ⅵ	183—61	166—61	8.0	6.2	6.0	360.00	輝石安山岩	新期火山、第四系
156	磨 石	D c 06—Ⅵ	183—62	166—62	7.2	6.5	4.1	200.00	輝石安山岩	奥羽山地、新第三系
157	磨 石	A d 59—Ⅵ	183—63	166—63	11.4	8.7	5.7	660.00	輝石安山岩	奥羽山地、新第三系
158	磨 石	B d 03—Ⅵ	183—64	166—64	10.6	8.4	5.5	680.00	輝石安山岩	奥羽山地、新第三系
159	磨 石	O i 71—Ⅵ	183—65	166—65	14.6	8.1	5.0	790.00	輝石安山岩	奥羽山地、新第三系
160	磨 石	D c 09—Ⅵ	183—66	166—66	8.8	6.8	6.7	438.00	輝石安山岩	奥羽山地、新第三系
161	磨 石	D g 53—Ⅵ	183—67	166—67	11.2	6.4	4.0	420.00	輝石安山岩	奥羽山地、新第三系
162	磨 石	C d 03—Ⅵ	183—68	166—68	11.8	7.6	2.5	320.00	輝石安山岩	奥羽山地、新第三系
163	石 錘	D i 03—Ⅵ	183—69	166—69	5.2	4.5	1.1	50.00	輝石安山岩	奥羽山地、新第三系

表2 長瀬B遺跡土坑墓出土古銭計測表

番号	名 称	出 土 遺 構	図版番号	写真図版 番 号	計 測 値			備 考
					直 径 (cm)	最 大 厚 (cm)	重 量 (g)	
1	寛永通宝	B d 62土坑墓	168-1	152	2.4	0.15	3.80	銅 銭
2	寛永通宝	B d 62土坑墓	168-2	152	2.4	0.11	2.55	銅 銭
3	寛永通宝	B d 62土坑墓	168-3	152	2.4	0.11	3.55	銅 銭
4	寛永通宝	B d 62土坑墓	168-4	152	2.2	0.11	2.68	銅 銭
5	寛永通宝	B d 62土坑墓	168-5	152	2.2	0.11	2.70	銅 銭
6	寛永通宝	B d 62土坑墓	168-6	152	2.2	0.11	1.84	銅 銭
7	寛永通宝	B d 62土坑墓	168-7	152	2.2	0.11	1.94	銅 銭
8	寛永通宝	B d 65土坑墓	168-9	152	2.4	0.11	2.88	銅 銭
9	寛永通宝	B d 65土坑墓	168-10	152	2.2	0.11	2.85	銅 銭
10	寛永通宝	B d 65土坑墓	168-11	152	2.3	0.11	2.70	銅 銭
11	寛永通宝	B d 65土坑墓	168-12	152	2.3	0.11	2.29	銅 銭
12	寛永通宝	B d 65土坑墓	168-13	152	2.4	0.11	3.00	銅 銭
13	寛永通宝	B d 65土坑墓	168-14	152	2.1	0.10	2.15	銅 銭
14	寛永通宝	B d 65土坑墓	168-15	152	2.5	0.11	3.12	銅 銭
15	寛永通宝	B d 68土坑墓	169-17	153	2.3	0.10	2.45	銅 銭
16	寛永通宝	B d 68土坑墓	169-18	153	2.4	0.15	3.43	銅 銭
17	寛永通宝	B d 68土坑墓	169-19	153	2.3	0.10	3.17	銅 銭
18	寛永通宝	B d 68土坑墓	169-20	153	2.3	0.11	3.08	銅 銭
19	寛永通宝	B d 68土坑墓	169-21	153	2.3	0.11	3.57	銅 銭
20	寛永通宝	B d 68土坑墓	169-22	153	2.2	0.10	2.55	銅 銭

21	寬永通寶	B e 68土城墓	169—24	153	2.1	0.11	2.75	銅錢
22	寬永通寶	B e 68土城墓	169—25	153	2.4	0.11	3.52	銅錢
23	寬永通寶	B e 68土城墓	169—26	153	2.3	0.10	2.50	銅錢
24	寬永通寶	B e 68土城墓	169—27	153	2.2	0.10	1.85	銅錢
25	寬永通寶	E a 56—1土城墓	169—28	153	2.4	0.15	4.00	銅錢
26	寬永通寶	E a 56—1土城墓	169—29	153	2.2	0.10	2.55	銅錢
27	寬永通寶	E a 56—1土城墓	169—30	153	2.2	0.10	2.50	銅錢
28	寬永通寶	E a 56—1土城墓	169—31	153	2.1	0.10	2.30	銅錢
29	寬永通寶	E a 56—1土城墓	169—32	153	2.1	0.11	2.25	銅錢
30	寬永通寶	E a 56—2土城墓	170—33	154	2.2	0.11	2.50	銅錢
31	寬永通寶	E a 56—2土城墓	170—34	154	2.4	0.10	2.32	銅錢
32	寬永通寶	E a 56—2土城墓	170—35	154	2.3	0.11	2.22	銅錢
33	寬永通寶	E a 56—2土城墓	170—36	154	2.1	0.10	1.88	銅錢
34	寬永通寶	E a 56—2土城墓	170—37	154	(2.3)	0.11	1.19	銅錢
35	寬永通寶	E b 56—2土城墓	170—38	154	2.4	0.15	2.85	銅錢
36	寬永通寶	E b 56—2土城墓	170—39	154	2.2	0.10	2.30	銅錢
37	寬永通寶	E b 56—2土城墓	170—40	154	2.3	0.11	2.32	銅錢
38	寬永通寶	E c 56—1土城墓	170—41	154	2.3	0.10	3.27	銅錢



写真図版1 遺跡周辺の航空写真



a. 遺跡遠景



b. 遺跡近景

写真図版 2



a. 試掘調査状況



b. 検出遺構群

写真図版 3



a. 調査風景

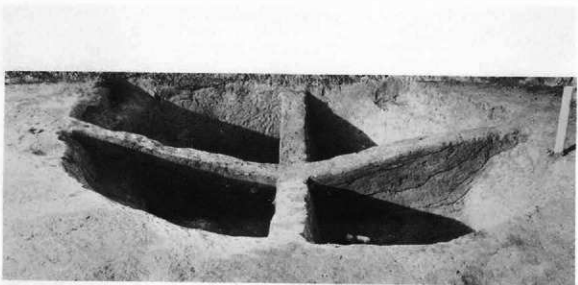


b. 調査風景

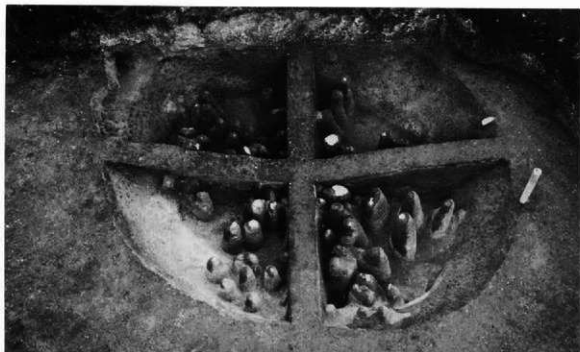
写真図版 4



a. Oe65住居址



b. Oe65住居址（土層断面）



a . Oe65住居址 (遺物出土状況)



b . Oj71住居址

写真図版 6



a. Oj71住居址 (土層断面)



b. Oj71住居址 (土器出土状況)



c. Oj71住居址 (土器出土状況)



d. Bg06住居址

写真図版 7



a . Bg06住居址 (土層断面)

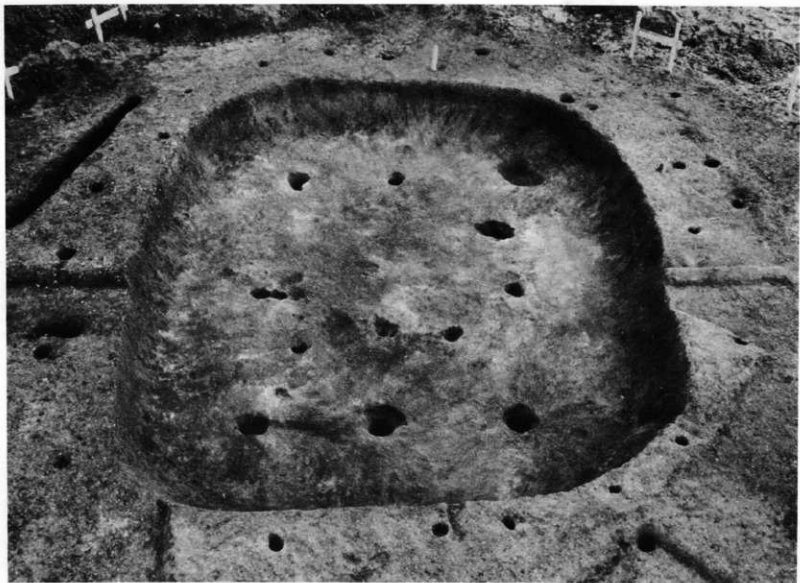


b . Bg06住居址 (土層断面)



c . Bg06住居址 (遺物出土状況)

写真図版 8



B103住居址



a . Bi03住居址 (土層断面)



b . Bi03住居址 (土層断面)



c . Bi03住居址 (刻線岩球出土状況)



a. Bi03住居址 (遺物出土状況)



b. Da06住居址

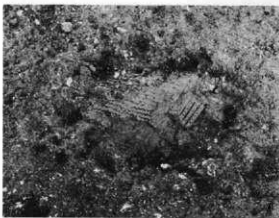
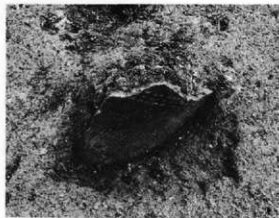
写真図版11



a. Ac56炉址(1)・Ad56炉址(2)



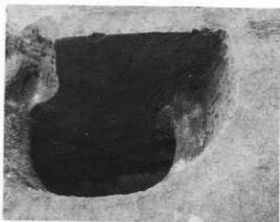
b. 縄文時代早期遺物包含層調査状況



a ~d 縄文時代早期土器出土状況



a. Aj68ピット



b. Aj68ピット (土層断面)

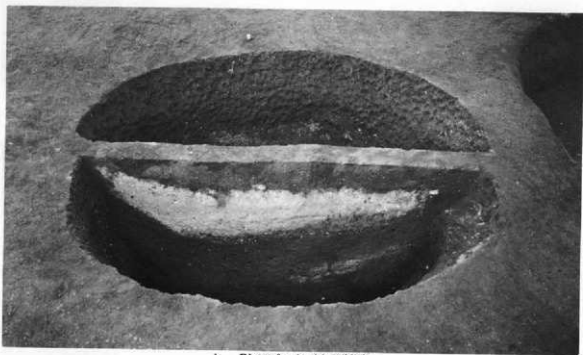


c. Ba71ピット (土層断面)





a. Bb68ピット



b. Bb68ピット (土層断面)

写真図版15



a. Bd59ピット



b. Bd59ピット (土層断面)



c. Cg50ピット



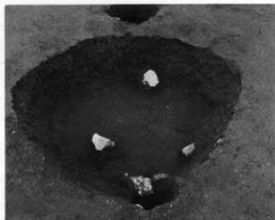
d. Cg50ピット (土層断面)



e. Ch62ピット



f. Ch62ピット (土層断面)



a. Da03ピット



b. Da03ピット (土層断面)



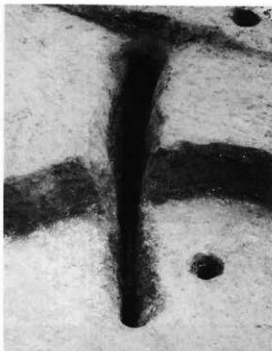
c. Dh53ピット



d. Dh53ピット (土層断面)



a. A j06陥し穴状遺構 (土層断面)



b. B j62陥し穴状遺構



c. B h56陥し穴状遺構



d. B h56陥し穴状遺構 (土層断面)



a . Cf59陥し穴状遺構



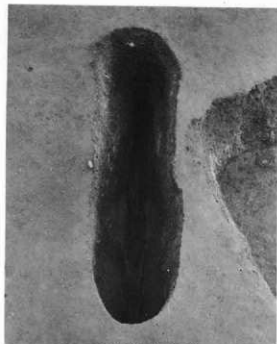
b . Cf59陥し穴状遺構 (土層断面)



c . Ch56陥し穴状遺構



d . Ch56陥し穴状遺構 (土層断面)



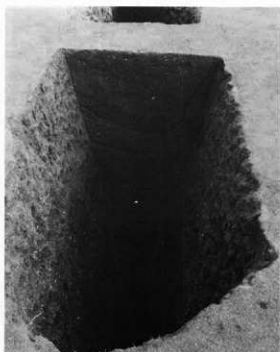
a. Cj50陥し穴状遺構



b. Cj50陥し穴状遺構 (土層断面)



c. Db12陥し穴状遺構



d. Db12陥し穴状遺構 (土層断面)



a. Db53陥し穴状遺構



b. Db53陥し穴状遺構 (土層断面)



c. Ca09土器埋設遺構



d. Ca09土器埋設遺構 (断面)



a. Ad62住居址



b. Ad62住居址 (土層断面)



a. Af59住居址



b. Af59住居址(土層断面)



a. Af59住居址 (土層断面)



b. Af59住居址 (炭化材出土状況)



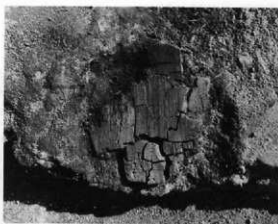
a. Af59住居址カマド



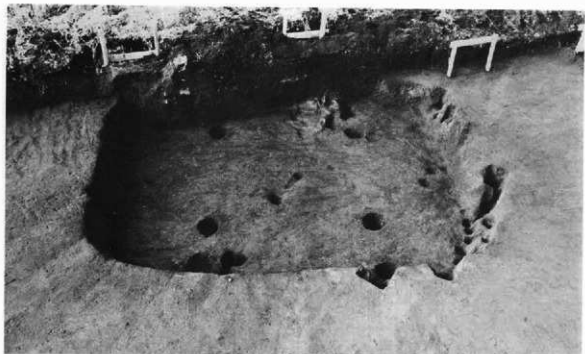
b. Af59住居址カマド (掘り方)



c. Af59住居址カマド (凝灰岩使用状況)



d. Af59住居址 (炭化木製品出土状況)



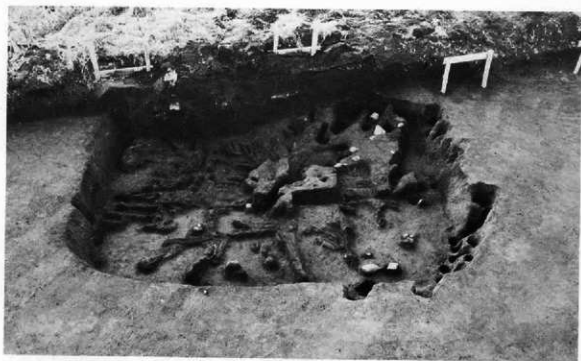
a. Ah50住居址



b. Ah50住居址(土層断面)



a. Ah50住居址 (土層断面)



b. Ah50住居址 (炭化材出土状況)



a. Ah50住居址カマド



b. Ba68住居址

写真図版28



a. Ba68住居址 (土層断面)



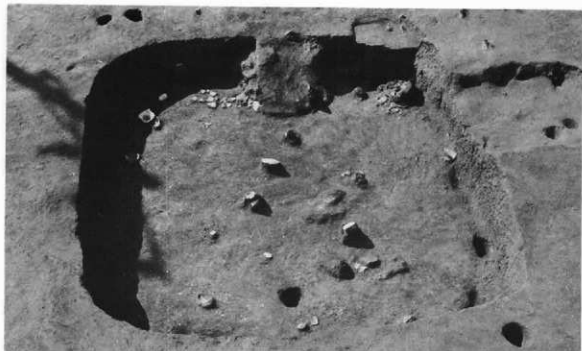
b. Ba68住居址 (土層断面)



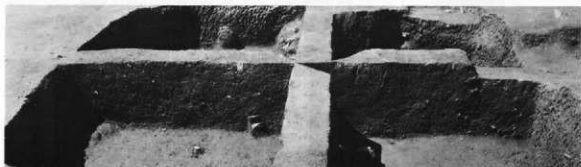
c. Ba68住居址カマド



d. Ba68住居址カマド (掘り方)



a. Bd03住居址



b. Bd03住居址(土層断面)



c. Bd03住居址(土層断面)

写真图版30



a. Bd03住居址カマド



b. Bd03住居址カマド (土器出土状況)



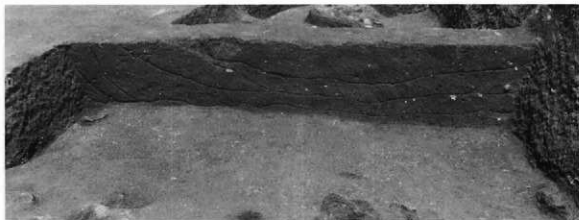
c. Bd03住居址 (土器出土状況)



d. Bd03住居址 (土器出土状況)



a . Be68住居址



b . Be68住居址 (土層断面)



a. Be68住居址カマド



b. Be68住居址(土器出土状況)



c. Bg50住居址

写真図版33



a. Bg50住居址 (土層断面)



b. Bg50住居址 (土層断面)

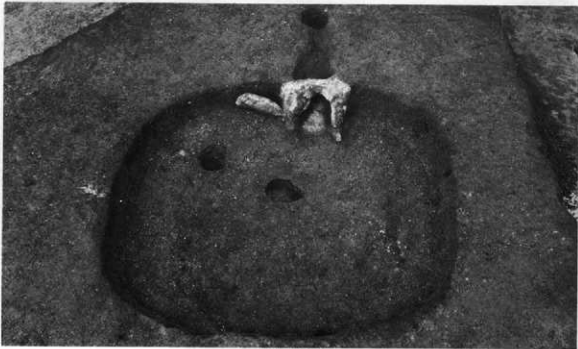


c. Bg50住居址カマド (検出状況)

写真図版34



a. Bg50住居址カマド



b. Bh50住居址

写真図版35



a . Bh50住居址 (土層断面)



b . Bh50住居址 (土層断面)



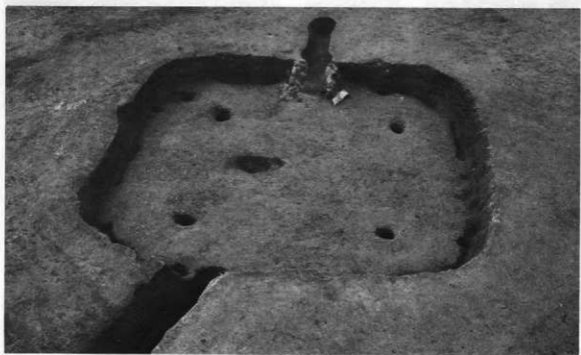
c . Bh50住居址カマド



d . Bh50住居址 (土器出土状況)



a. Bh50住居址 (炭化材出土状況)



b. B159住居址

写真図版37



a . Bi59住居址 (土層断面)



b . Bi59住居址カマド (検出状況)



c . Bi59住居址カマド



d . Bi59住居址 (カマド使用凝灰岩出土状況)



a. B₅₀住居址



b. B₅₀住居址 (土層断面)



c. B₅₀住居址 (土層断面)

写真図版39



a . B150住居址カマド



b . B150住居址カマド (掘り方)

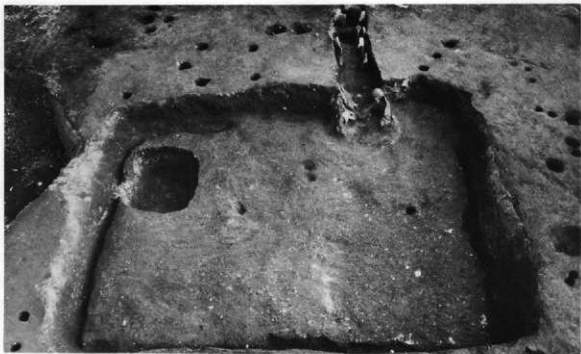


c . B150住居址 (土器出土状況)

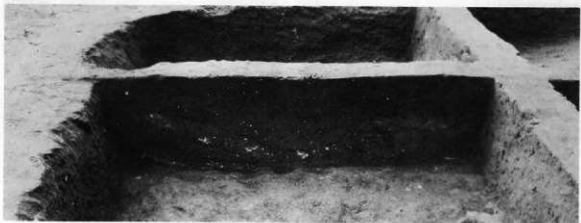


d . B150住居址 (炭化材出土状況)

写真図版40



a . Cb53 - 1 住居址



b . Cb53 - 1 住居址 (土层断面)



a. Cb53 - 1住居址 (土層断面)



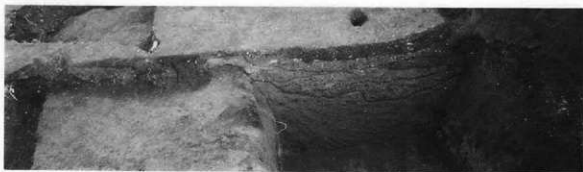
b. Cb 53 - 1住居址カマド



c. Cb 53 - 1住居址カマド (土器出土状況)



a. Cb53- 2住居址

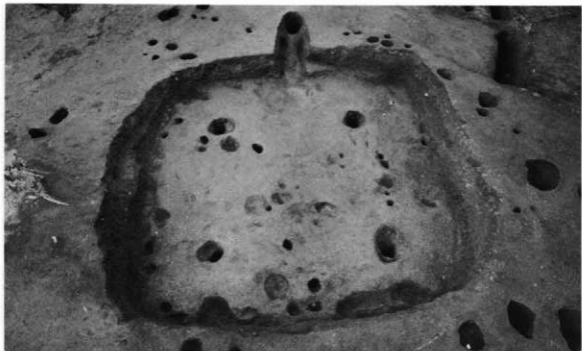


b. Cb53- 2住居址 (土层断面)



c. Cb53- 2住居址 (煙道断面)

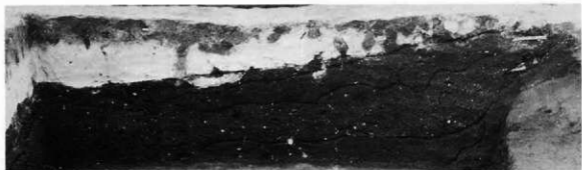
写真図版43



a. Cb59住居址



b. Cb59住居址(土層断面)

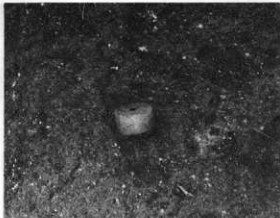


c. Cb59住居址(土層断面)

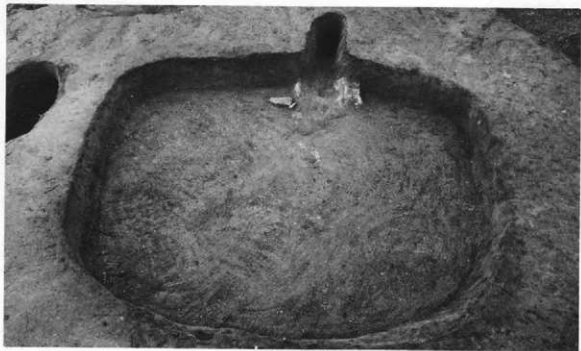
写真図版44



a . Cb59住居址カマド



b . Cb59住居址 (紡錘車出土状況)



c . Cd59住居址

写真図版45



a . Cd59住居址 (土層断面)



b . Cd59住居址 (土層断面)

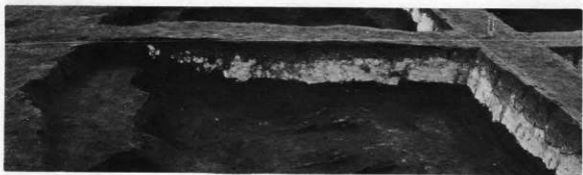


c . Cd59住居址カマド

写真図版46



a. Cg50住居址

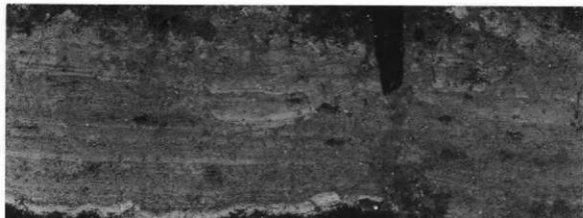


b. Cg50住居址 (土层断面)



c. Cg50住居址 (土层断面)

写真图版47



a. Cg50住居址 (十和田a降下火山灰層)



b. Cg50住居址 (炭化材出土状況)



a. Cg50住居址カマド



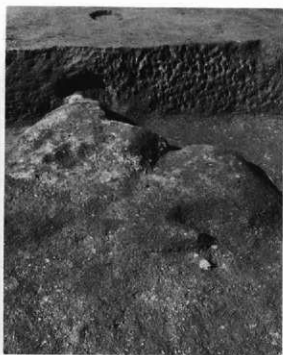
b. Cg50住居址(炭化クルミ出土状況)



c. C106住居址



a . C106住居址カマド



b . C106住居址カマド (粘土質シルト残存状況)

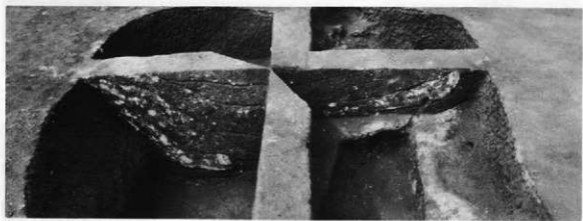


c . C106住居址

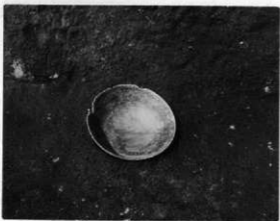
写真図版50



a. Cj06住居址 (土層断面)



b. Cj06住居址 (土層断面)



c. Cj06住居址 (土器出土状況)

写真図版51



a. Da50住居址



b. Da50住居址 (土層断面)



c. Da50住居址 (土層断面)

写真图版52



a. Da62住居址



b. Da62住居址 (土层断面)



c. Da62住居址 (土层断面)

写真図版53



a . Da62住居址 (遺物出土状況)



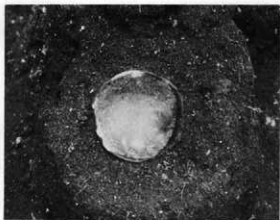
b . Da62住居址 1号カマド



c . Da62住居址 2号カマド・P₂



a. Da62住居址P₂ (土層断面)



b. Da62住居址 (土器出土状況)



c. Da62住居址 (鉄器出土状況)



d. Da62住居址 (鉄器出土状況)



a. Dc03住居址



b. Dc03住居址 (土層断面)



c. Dc03住居址 (土層断面)

写真図版56



a . De03住居址カマド

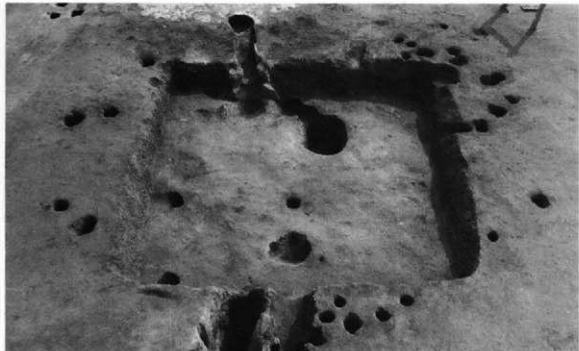


b . De03住居址 (土器出土状況)



c . De03住居址 (遺物出土状況)

写真図版57



a . Dc09住居址



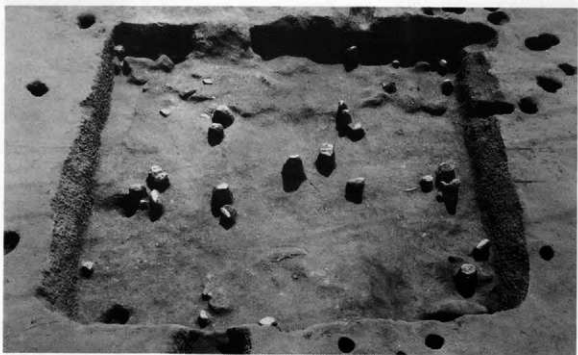
b . Dc09住居址 (土层断面)



a. De09住居址カマド



b. De09住居址カマド (掘り方)



c. De09住居址 (遺物出土状況)

写真図版59



a. Dd53住居址



b. Dd53住居址 (土層断面)



c. Dd53住居址 (土層断面)

写真図版60



a . Dd53住居址カマド



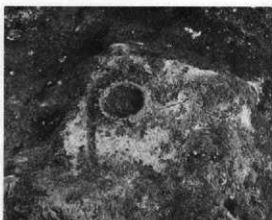
b . Dd53住居址 (炭化材出土状況)

写真図版61



a ~f Dd53住居址 (土器出土状況)

写真図版62



a. Dd53住居址 (鉄製品出土状況)



b. Dd53住居址 (炭化材出土状況)



c. Dd53住居址 (炭化材出土状況)



d. Dd53住居址 (炭化材出土状況)



a. Dg09住居址



b. Dg09住居址 (土層断面)



c. Dg09住居址 (土層断面)

写真図版64



a . Dg09住居址カマド

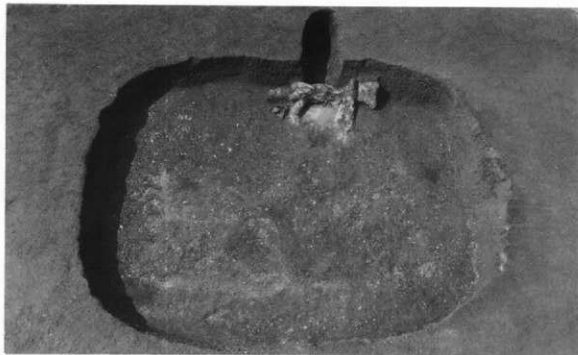


b . Dg09住居址カマド (掘り方)



c . Dg09住居址 (炭化材・礫出土状況)

写真図版65



a. Dg56住居址



b. Dg56住居址(土层断面)



c. Dg56住居址(土层断面)

写真図版66



a . Dg56住居址カマド



b . Dg56住居址 (遺物出土状況)

写真図版67



a. Dh03住居址



b. Dh03住居址(土层断面)



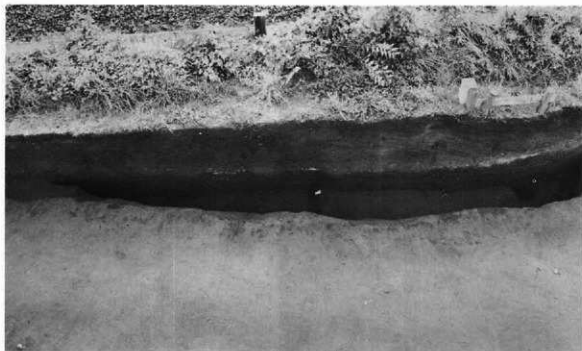
a . Dh03住居址カマド



b . Dh03住居址 (炭化木製品出土状況)



c . Dh03住居址 (炭化材出土状況)



a . Dh15住居址



b . Di06住居址

写真図版70



a. Di06住居址 (土層断面)



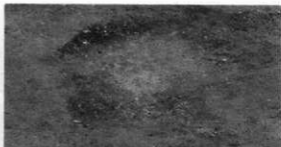
b. Di06住居址1号カマド



c. Di06住居址1号カマド (掘り方)



a . Di06住居址 2号カマド



b . Di06住居址地床炉



c . Di06住居址P₁ (土器出土状況)



d . Di03住居址

写真図版72



a. Dj03住居址(土层断面)



b. Dj03住居址(土层断面)



c. Dj03住居址(炭化材出土状況)

写真図版73



a . Dj03住居址カマド



b . Dj03住居址 (土器出土状況)



c . Dj03住居址 (土器出土状況)



a. Ea12住居址



b. Ea12住居址 (土層断面)



c. Ea12住居址 (土層断面)

写真図版75



a. Ea12住居址カマド



b. Ea12住居址カマド (掘り方)



c. Ea12住居址 (炭化材出土状況)



a. Ea12住居址 (土器出土状況)



b. Ea12住居址 (土器出土状況)



c. Ea12住居址 (鉄器出土状況)



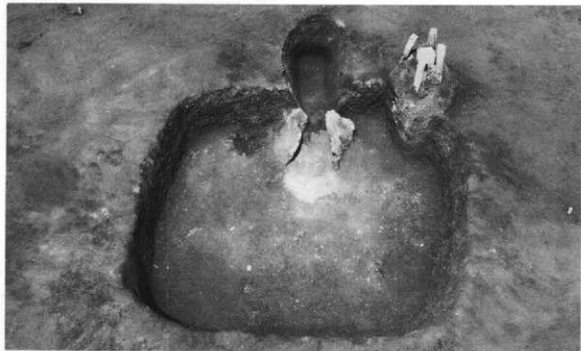
d. Ea12住居址 (炭化材加工痕)



e. Ea12住居址 (炭化材加工痕)



f. Ea12住居址 (礫出土状況)



a. Ed09住居址



b. Ed09住居址 (土層断面)



c. Ed09住居址 (土層断面)

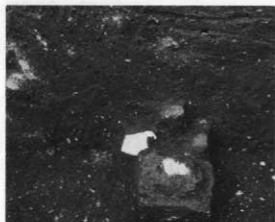
写真図版78



a . Ed09住居址カマド



b . Ed09住居址 (動物の歯の出土状況)



c . Ed09住居址 (動物の歯の出土状況)



d . Ed09住居址 (動物の歯の出土状況)



a. Eg53住居址



b. Eg53住居址 (土層断面)



c. Eg53住居址 (土層断面)

写真図版80



a. E_g53住居址カマド

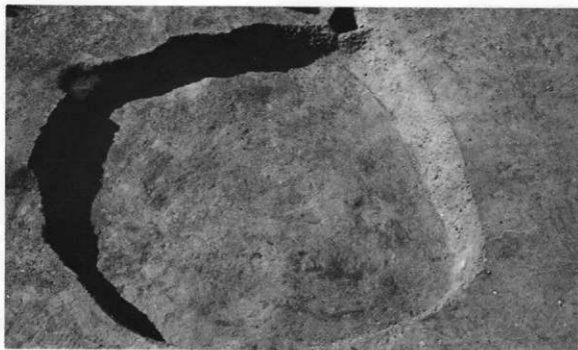


b. E_i50住居址

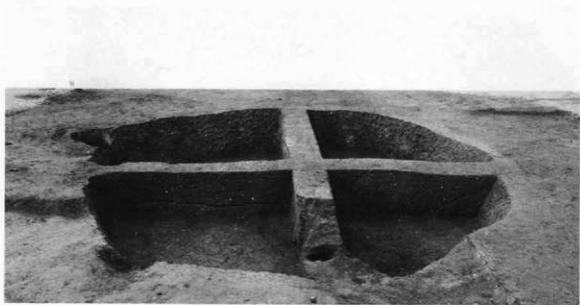
写真図版81



b. E150住居址カマド

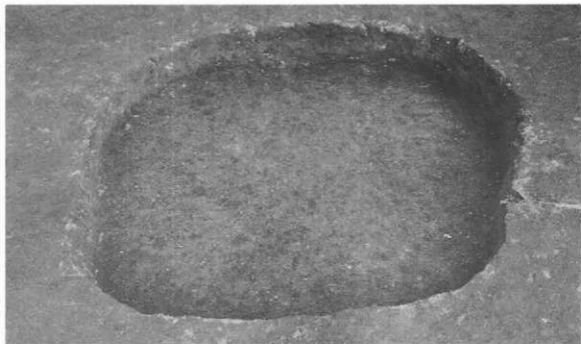


a. Bi06住居址状遺構

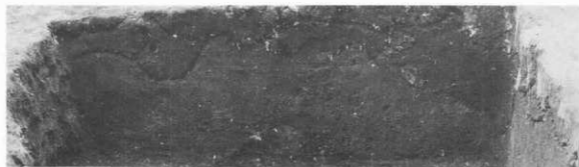


b. Bi06住居址状遺構 (土層断面)

写真図版83



a. Ci62住居址状遺構



b. Ci62住居址状遺構 (土層断面)



c. Ci62住居址状遺構 (遺物出土状況)

写真図版84



a. D112住居址状遺構



b. D112住居址状遺構 (土層断面)



c. D112住居址状遺構 (土層断面)

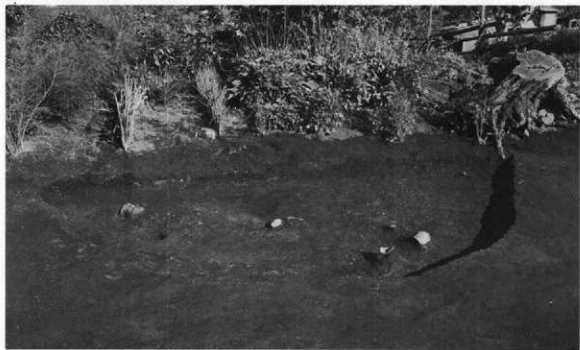
写真図版85



a. Df12住居址状遺構 (カヤ出土状況)



b. Di59住居址状遺構 (土器出土状況)



c. Di59住居址状遺構



a. Ce09掘立柱建物址 (1)
Cf12掘立柱建物址 (2)



b. Ch50ピット



c. Ch50ピット (土層断面)



a. Ci53ビット



b. Ci53ビット (土層断面)



c. De53ビット



d. De53ビット (土層断面)



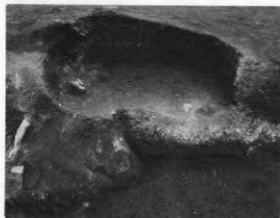
e. Di53ビット



a. Dj03ピット



b. Dj03ピット (炭化材出土状況)



c. Dj50ピット



d. Dj50ピット (土層断面)



e. Dj56ピット



f. Dj56ピット (土層断面)

写真図版89



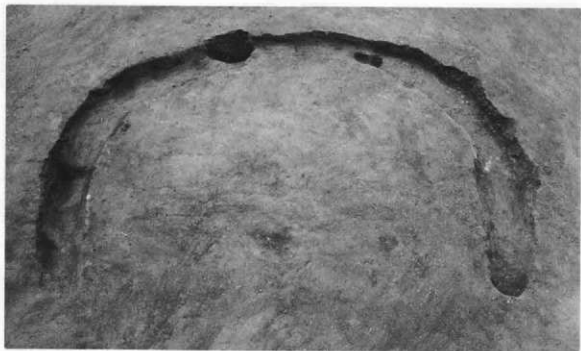
a. Cf62周溝



b. Cf62周溝 (土層断面)



c. Cf62周溝 (土層断面)

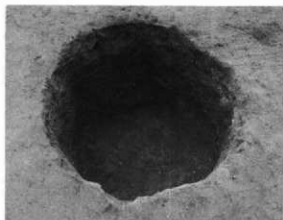


a. Ed03周溝



b. B区土坑墓群

写真図版91



a. Bd62土塚墓



b. Bd62土塚墓 (キセル出土状況)



c. Bd62土塚墓 (人骨出土状況)



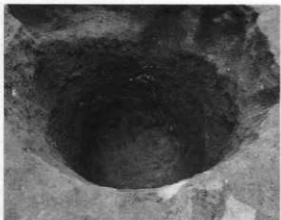
d. Bd62土塚墓 (人骨出土状況)



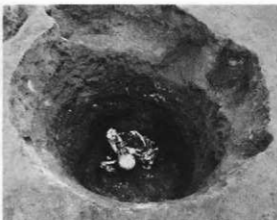
e. Bd65土塚墓



f. Bd65土塚墓 (人骨出土状況)



a. Bd68土坟墓



b. Bd68土坟墓 (人骨出土状況)



c. Bd68土坟墓 (人骨出土状況)



d. Be68土坟墓 (人骨出土状況)

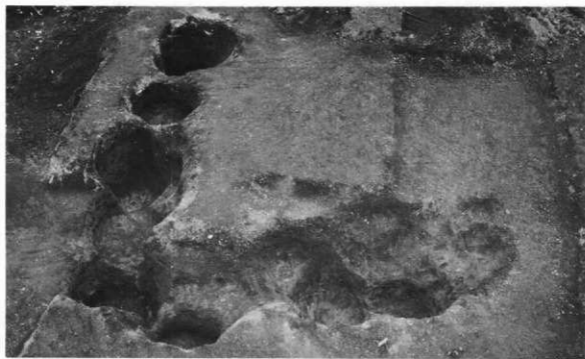


e. Ea56-1・2土坟墓 (人骨出土状況)



f. Eb56-1土坟墓 (人骨出土状況)

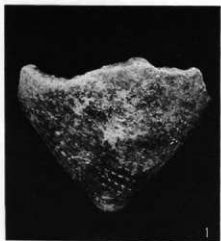
写真図版93



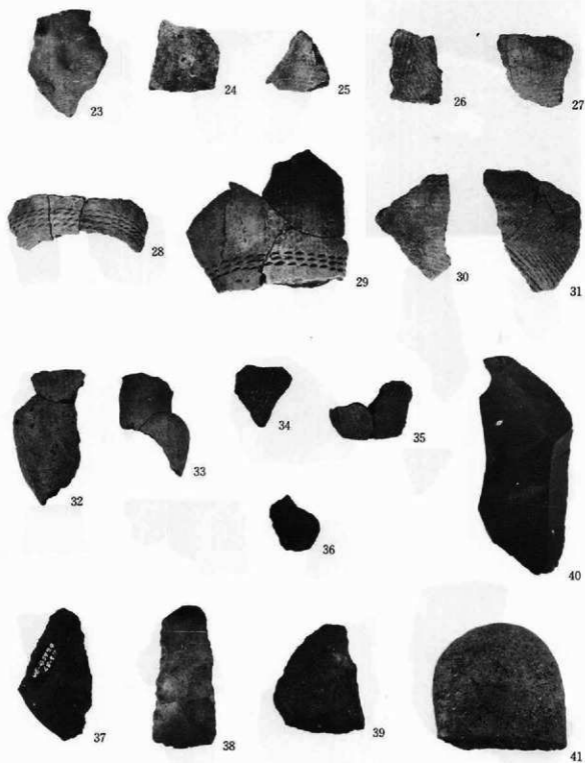
a. E区土坛墓群



b. Eb56-2土坛墓(人骨出土状况)



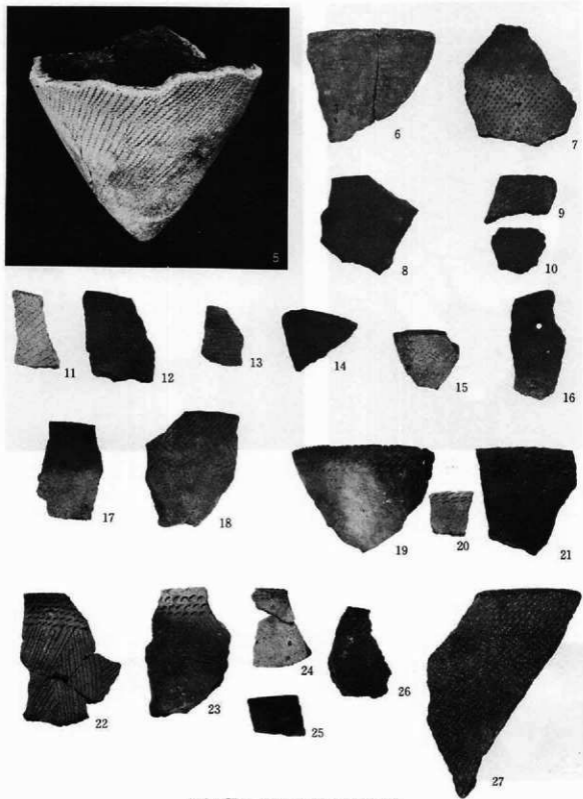
写真図版95 Oe65住居址出土遺物(1)



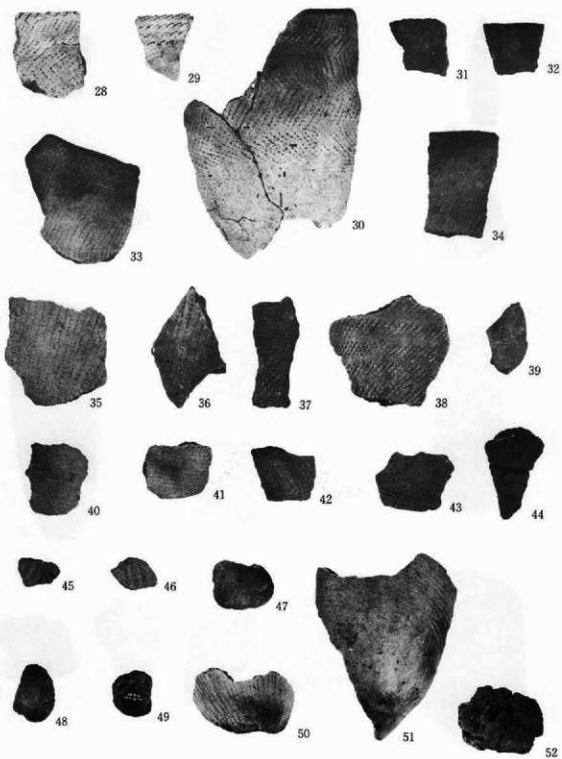
写真図版96 Oe住居址出土遺物(2)



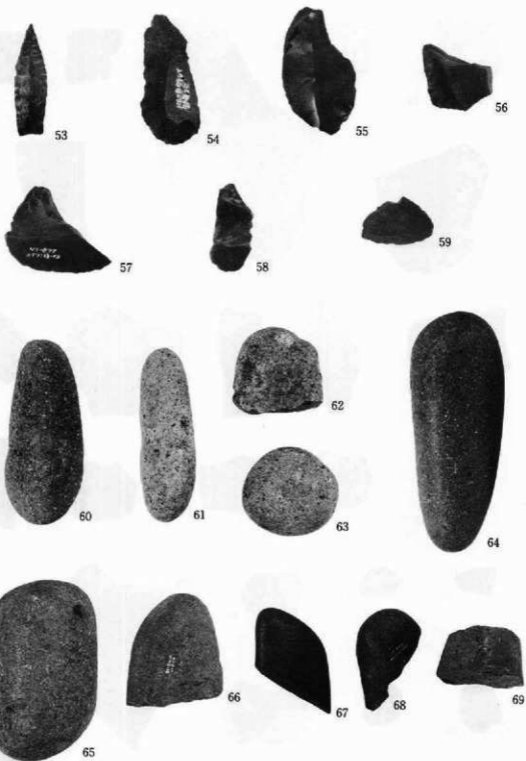
写真図版97 Oj71住居址出土遺物(1)



写真図版98 Oj71住居址出土遺物(2)



写真図版99 OJ71住居址出土遺物(3)



写真図版100 Oj71住居址出土遺物(4)



70



71



72



73



74



75



76



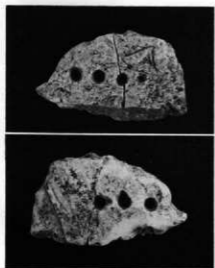
77



78



79

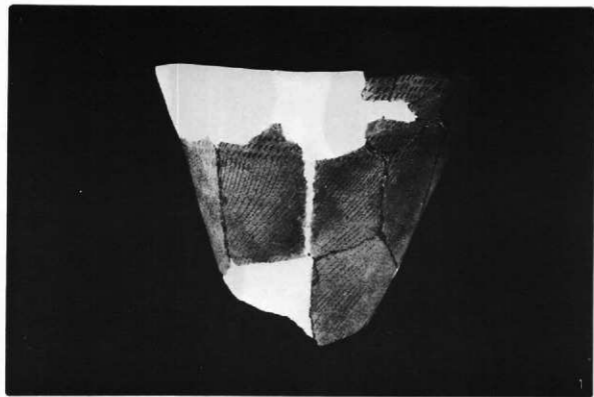


80



81

写真図版101 Oj71住居址出土遺物(5)



2



3



4

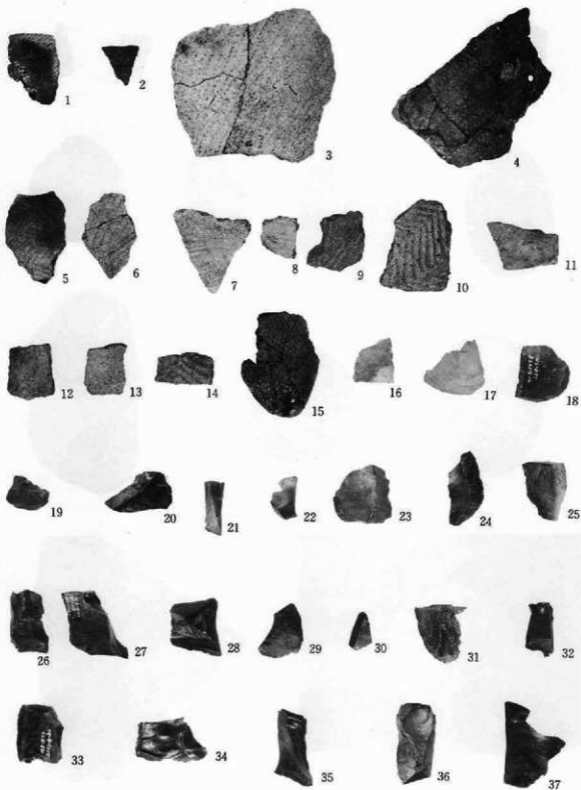


5

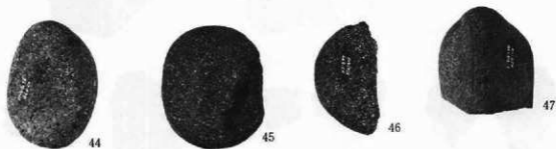


6

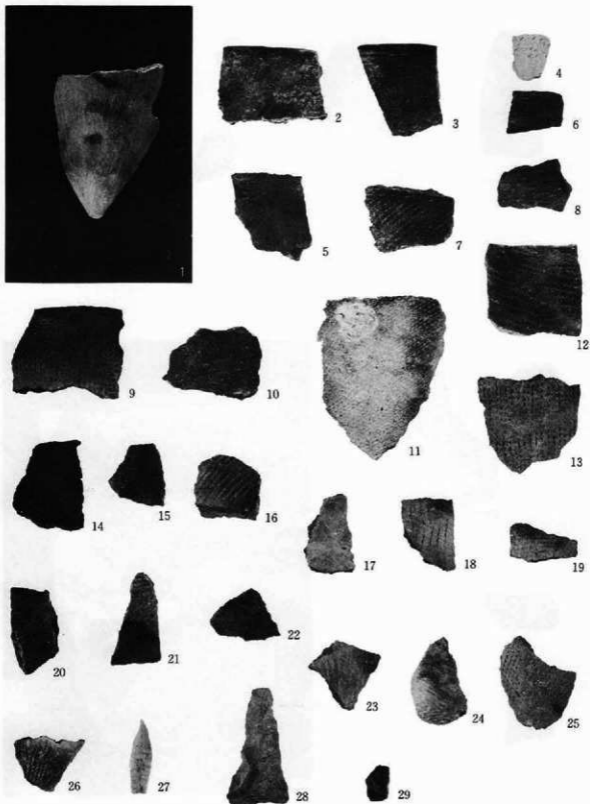
写真図版102 Bg06住居址出土遺物



写真図版103 B103住居址出土遺物(1)



写真図版104 B i03住居址出土遺物 (2)



写真図版105 Da06住居址出土遺物(1)



30



31



32



33



34



35



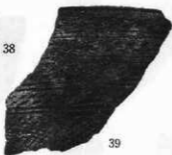
36



37



38



39



40

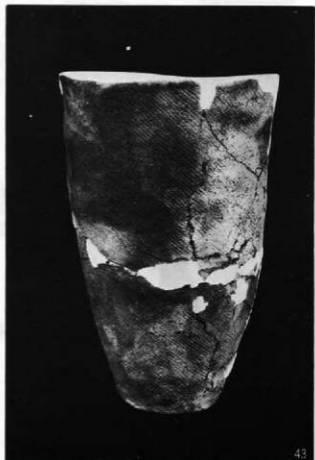


41



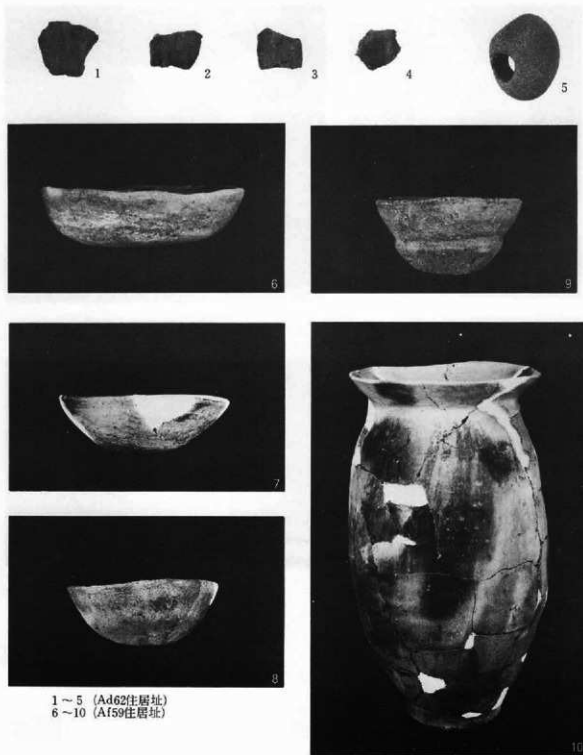
42

30~31 (Da06住居址)
 32~37 (Bb68ピット)
 38~42 (Cg50ピット)
 43 (Cg09土器埋設遺構)



43

写真図版106 Da06住居址出土遺物(2)
 Bb68・Cg50ピット、Ca09土器埋設遺構出土遺物



1 ~ 5 (Ad62住居址)
6 ~ 10 (Af59住居址)

写真図版107 Ad62住居址出土遺物
Af59住居址出土遺物(1)



写真図版108 Af59住居址出土遺物(2)



写真図版109 A159住居址出土遺物(3)



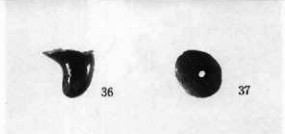
19~22 (Af59住居址)
23 (Ah50住居址)

写真図版110 Af59住居址出土遺物(4)
Ah50住居址出土遺物

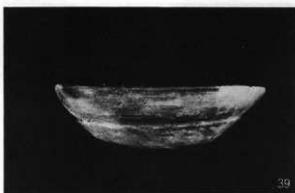


24 (Ba68住居址)
25~29 (Bd03住居址)

写真図版111 Ba68住居址出土遺物
Bd03住居址出土遺物(1)



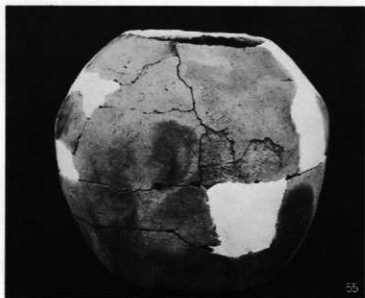
写真図版112 B403住居址出土遺物(2)



写真図版113 Be68住居址出土遺物



写真図版114 Bg50住居址出土遺物(1)



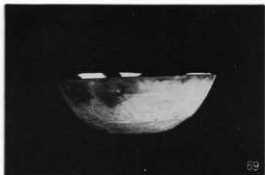
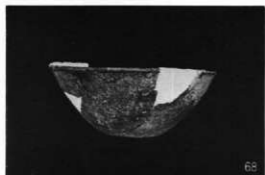
写真図版115 Bg50住居址出土遺物(2)



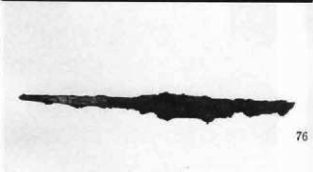
59 (Bh50住居址)
60-62 (Bi59住居址)



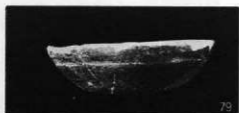
写真図版117 Bj50住居址出土遺物



写真図版118 Cb53 - 1住居址出土遺物(1)



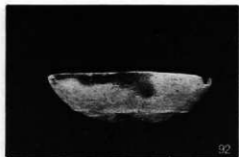
写真図版119 Cb53-1住居址出土遺物(2)



写真図版120 Cb59住居址出土遺物(1)



写真図版121 Cb59住居址出土遺物(2)



92



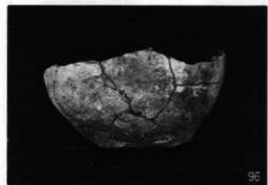
93



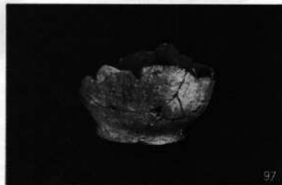
94



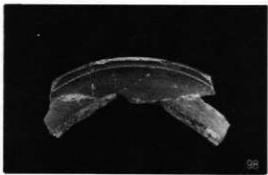
95



96



97



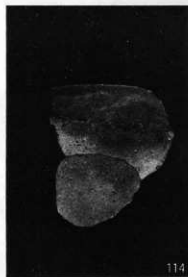
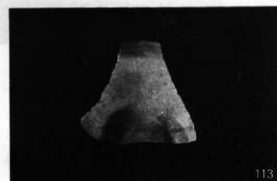
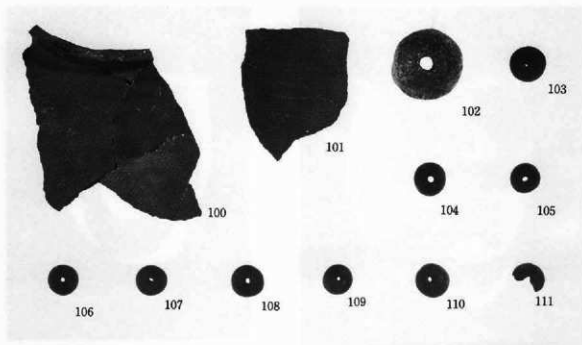
98



99

92・93 (Cd59住居址)
94～99 (Cg50住居址)

写真図版122 Cd59住居址出土遺物
Cg50住居址出土遺物(1)

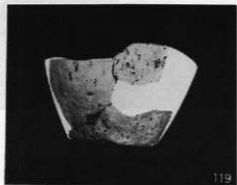


100~111 (Cg50住居址)
 112・113 (Cj06住居址)
 114 (Da50住居址)

写真図版123 Cg50住居址出土遺物(2)
 Cj06住居址・Da50住居址出土遺物



写真図版124 Da62住居址出土遺物(1)



写真図版125 Da62住居址出土遺物(2)



写真図版126 De03住居址出土遺物(1)



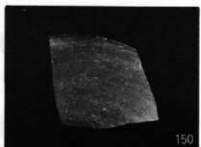
写真图版127 De03住居址出土遗物(2)



写真図版128 De09住居址出土遺物(1)



写真図版129 Dc09住居址出土遺物(2)



写真図版130 Dd53住居址出土遺物(1)



151



152



153



154

写真図版131 Dd53住居址出土遺物(2)



写真図版132 Dd53住居址出土遺物(3)



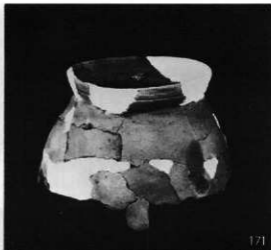
写真図版133 Dd53住居址出土遺物(4)



写真図版134 Dd53住居出土遺物(5)



写真图版135 Dd53住居址出土遺物（6）



写真図版136 Dd53住居址出土遺物(7)



写真図版137 Dd53住居址出土遺物(8)



写真図版138 Dg09住居址出土遺物



188

写真図版139 Dg56住居址出土遺物



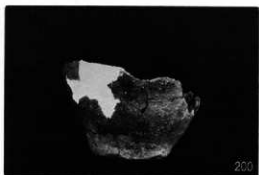
写真図版140 Dh03住居址出土遺物(1)



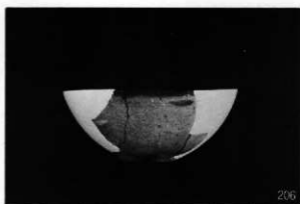
写真図版141

193・194 (Dh03住居址)
195～197 (Di06住居址)

Dh03住居址出土遺物(2)
Di06住居址出土遺物(1)



写真図版142 Di06住居址出土遺物(2)



写真図版143 Dj03住居址出土遺物(1)



写真図版144 Dj03住居址出土遺物(2)



212



213-a



213-b

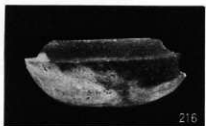


214



215

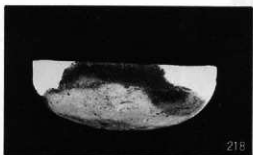
写真図版145 Dj03住居址出土遺物(3)



216



217



218



219



220



221



222

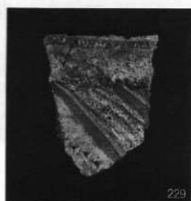
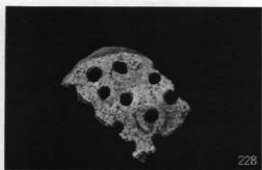


223

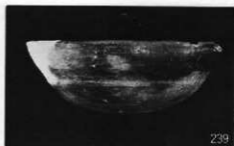
写真図版146 Ea12住居址出土遺物(1)



写真図版147 Ea12住居址出土遺物(2)



写真図版148 Ea12住居址出土遺物(3)



242

243



244

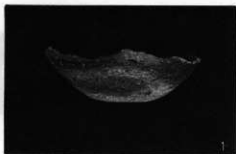


245

写真図版149 Eg53住居址出土遺物



写真図版150 E150住居址出土遺物

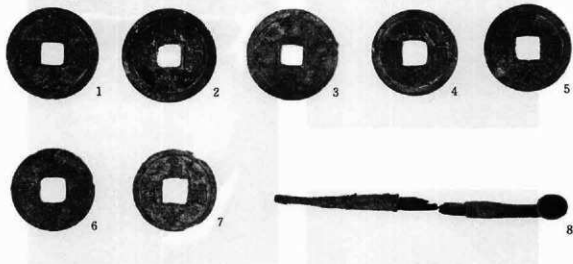


5

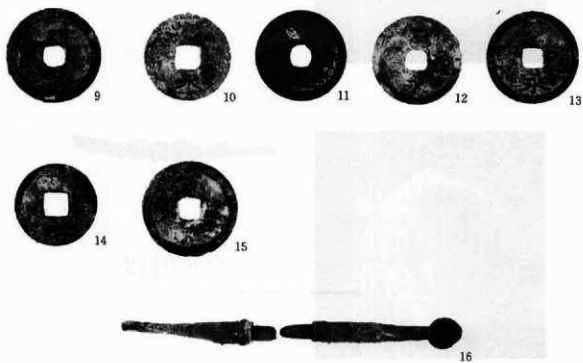
- 1 ~ 3 (Ci62住居址状遺構)
4 (Di59住居址状遺構)
5 (Cf62ピット)

写真図版151 Ci62・Di59住居址状遺構、Cf62ピット出土遺物

Bd62土塚墓 (1~8)

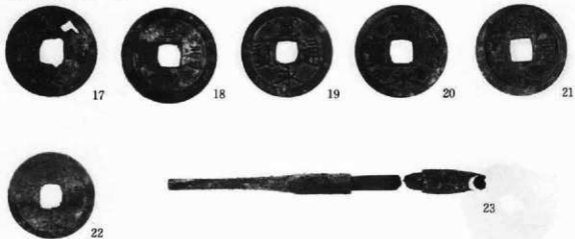


Bd65土塚墓 (9~16)



写真図版152 土塚墓出土遺物 (1)

Bd68土塚墓 (17~23)



Be68土塚墓 (24~27)



Ea56 - 1 土塚墓 (28~32)



Ea56 - 2 土塚墓 (33~38)

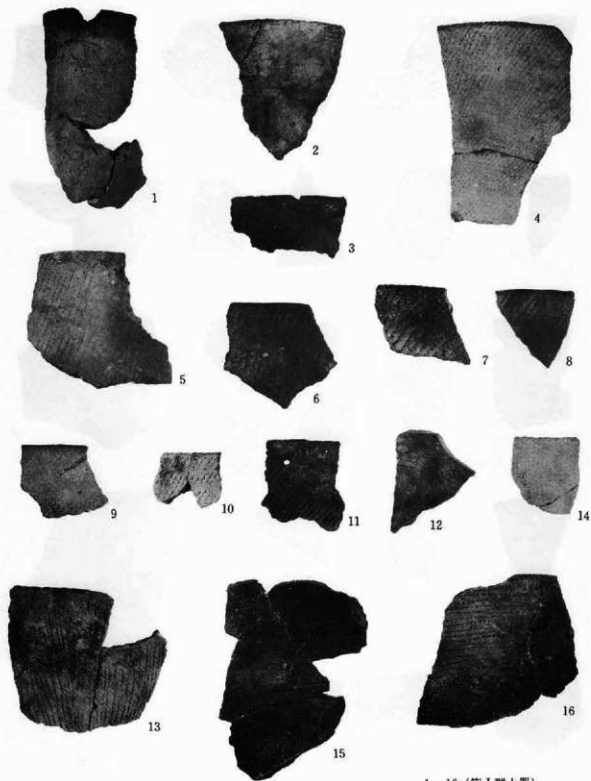


Eb56 - 2 土塚墓 (39~42)



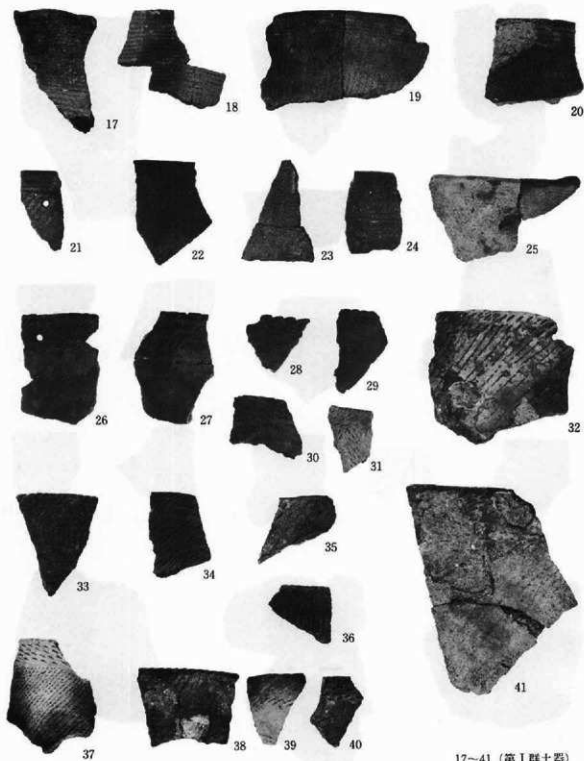
Ec56 - 1 土塚墓 (43)





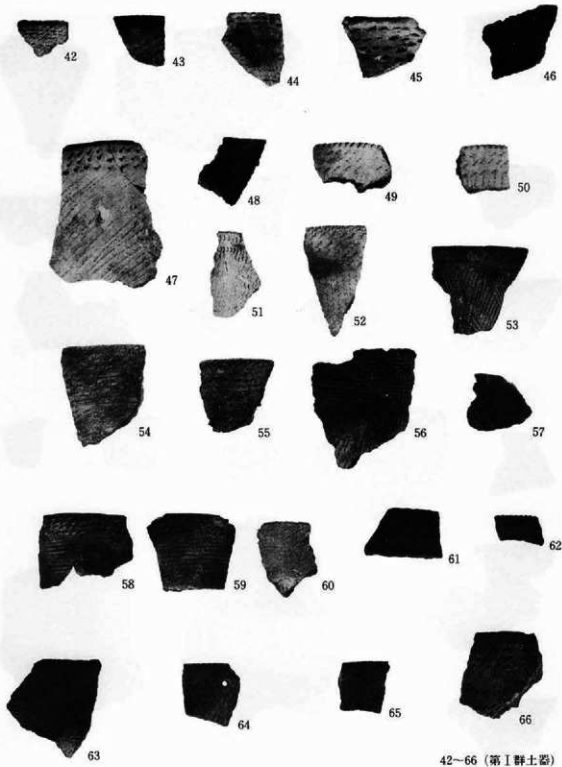
1 - 16 (第I群土器)

写真図版155 遺構外の出土遺物 (1)



17~41 (第I群土器)

写真図版156 遺構外の出土遺物(2)



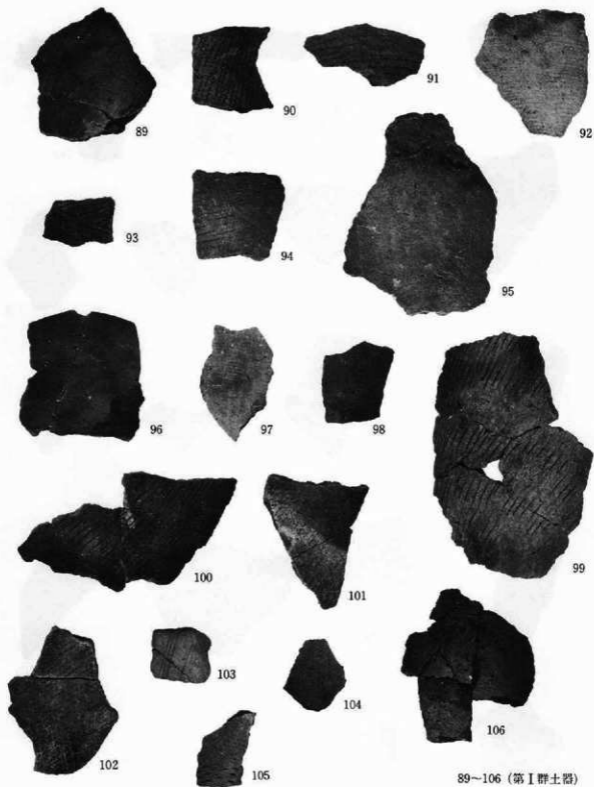
42~66 (第I群土器)

写真図版157 遺構外の出土遺物(3)



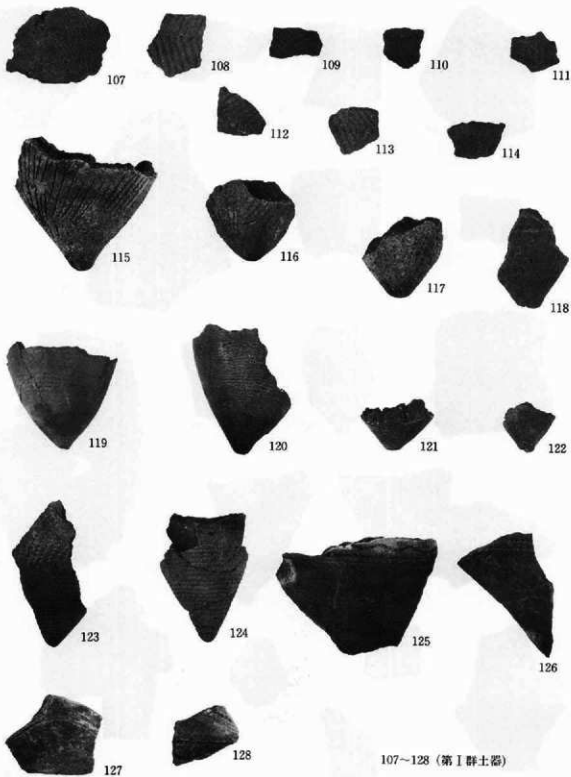
67~88 (第I群土器)

写真図版158 遺構外の出土遺物(4)

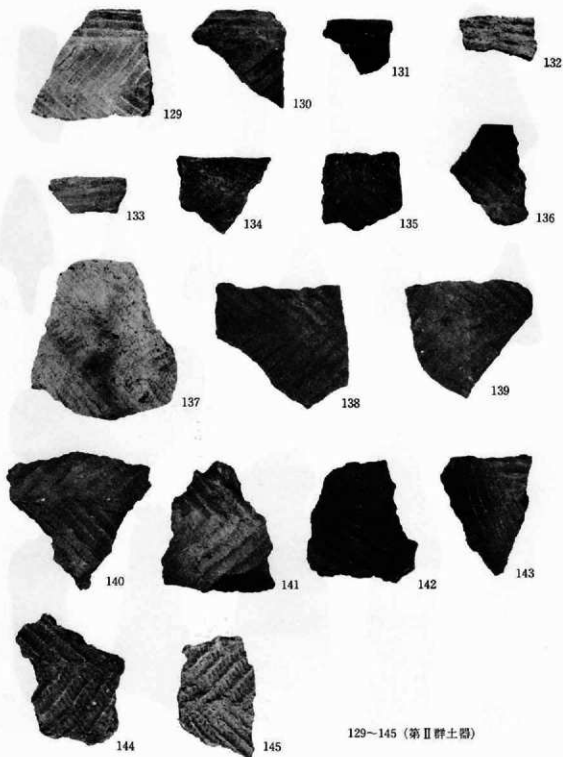


89-106 (第I群土器)

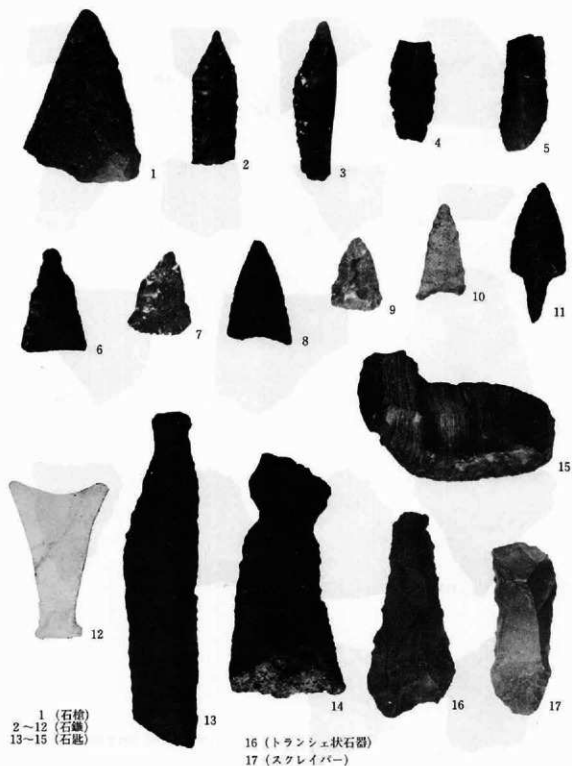
写真図版159 遺構外の出土遺物(5)



写真図版160 遺構外の出土遺物(6)



写真図版161 遺構外の出土遺物(7)



写真図版162 遺構外の出土遺物(8)



18



19



20



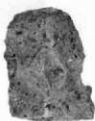
21



22



23



24



25



26



27



28



29



30

18~30 (スクレイパー)

写真図版163 遺構外の出土遺物(9)



31



32



33



34



35



36



37



38



39



40



41



42

31~32 (スクレイパー)
 33 (不定形石器)
 34 (ピエス・エスキューユ)
 35~42 (使用痕のある剝片)

写真図版164 遺構外の出土遺物 (10)



43



44



45



47



46



48



49



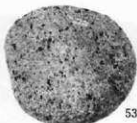
50



51



52



53



54



55



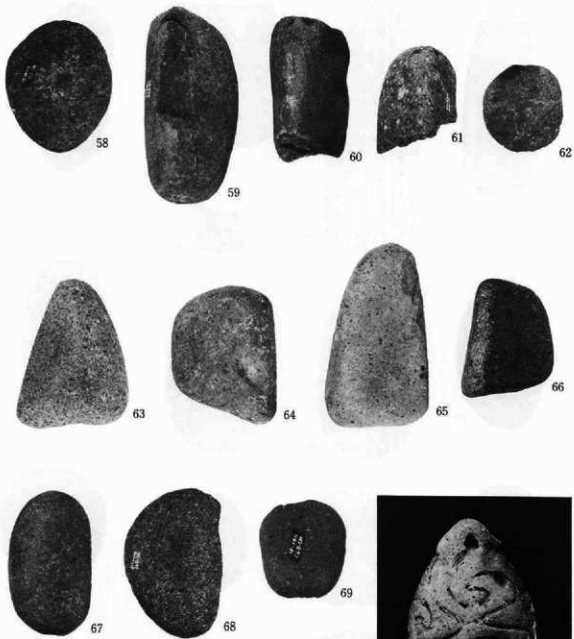
56



57

43~46 (石斧)
47~57 (凹石)

写真図版165 遺構外の出土遺物 (11)



- 58 (凹石)
- 59-68 (磨石)
- 69 (石錘)
- 70 (鐔形土製品)

写真図版166 遺構外の出土遺物 (12)

二戸バイパス関連遺跡発掘調査協力者名簿

(1976年 長瀬B遺跡)

二戸市米沢	竹林卯太郎	二戸市米沢	畑本 トヨ	二戸市福岡	山本 順悦
◇	三ツ森与助	◇	前澤 フキ	一戸町鳥越	柴田宗次郎
◇	澤内 義一	◇	小林 テイ	◇	稲葉 熊吉
◇	吉田 森	◇	近田 ミサ	◇	柴田 留吉
◇	藤村 徳治	◇	平 フデ	一戸町高善寺	西向 功
◇	畑中 七蔵	◇	内村 リエ	一戸町小鳥谷	牧田 嘉男
◇	畑本 芳雄	◇	泉館 妙子		
◇	平 昭雄	◇	欠端 キヨ		
◇	稲葉 幸作	◇	米田 フツ		
◇	平 留治	◇	峠 琴子		
◇	田口 優	◇	前澤千賀子		
◇	畑山 博	二戸市下斗米	中道 清		
◇	中島 重志	◇	米田 福治		
◇	高村 浩司	◇	槻館庚午郎		
◇	小野寺光則	◇	米田 武司		
◇	三ツ森ホノ	◇	槻館 絹江		
◇	吉田 初代	◇	槻館 トミ		
◇	小野寺ミヨ	◇	槻館 ミチ		
◇	小野寺カヤ	◇	槻館 禮子		
◇	小野寺敏子	◇	高村 サダ		
◇	平 サメ	◇	槻館 テル		
◇	平 ニナエ	◇	米田 セイ		
◇	澤内 ヒデ	◇	高村 キエ		
◇	畑本 吉衛	二戸市石切所	多井作悦蔵		
◇	畑本 トス	◇	熊谷 義幸		
◇	畑中ハルノ	◇	山田 繁		
◇	畑中 トシ	◇	小野寺秋男		
◇	小林マツノ	◇	高橋 トワ		
◇	欠端 ツヨ	◇	薬部 ハル		

(1977年 長瀬B・長瀬C・長瀬D・上田面遺跡)

二戸市米沢	竹林卯太郎	二戸市米沢	欠端 キヨ	二戸市米沢	欠端トキエ
◇	古館 重雄	◇	欠端 ミネ	◇	久保田久子
◇	沢内 義一	◇	高橋 敏子	◇	吉田 輝子
◇	畑本 芳雄	◇	小川 ソメ	◇	平 テイ子
◇	藤村 徳治	◇	近田 アキ	◇	欠端 タミ
◇	稲葉 幸作	◇	平 トヨ	◇	欠端 光子
◇	畑中 七蔵	◇	中田 福子	◇	平 栄子
◇	平 留治	◇	竹林 弘子	◇	米田 典子
◇	泉館 源司	◇	平 トミ	◇	大羽沢トメ
◇	小川弥七郎	◇	小野寺セイ	◇	石川 リン
◇	高屋敷友雄	◇	平 ツエ	◇	吉田ミツ子
◇	畑本 光宣	◇	小川 ナカ	◇	古館 サト
◇	欠端 誠一	◇	畑本 吉衛	◇	欠端 礼子
◇	吉田 森	◇	畑本トヨ	◇	前沢 キツ
◇	沢内 秀夫	◇	欠端 ツヨ	◇	国分 ハヨ
◇	小野寺光則	◇	澤内 ヒデア	◇	近田 ミサ
◇	高村 浩司	◇	小林マツノ	◇	小林 テイ
◇	高村 勝美	◇	米田 フツ	◇	三浦 ソヨ
◇	三ツ森ホノ	◇	内村 リエ	◇	畑本 トス
◇	吉田 初代	◇	泉館 妙子	◇	畑中 トシ
◇	小野寺ミヨ	◇	前澤 フキ	◇	平 イネ
◇	小野寺カヤ	◇	前澤 弘子	◇	前沢千賀子
◇	小野寺敏子	◇	泉館 キワ	◇	前沢 成子
◇	平 フデア	◇	小川キヨノ	◇	欠端 弘子
◇	近田キクエ	◇	高村 イシ	◇	内村美津恵
◇	小林 和子	◇	高村ハギヨ	◇	畑本 啓子
◇	平 サメ	◇	船田 イソ	二戸市下斗米	槻館庚午郎
◇	石川 イト	◇	欠端 ウメ	◇	中道 清
◇	畑中ハルノ	◇	横山 スエ	◇	米田 文雄
◇	平 ナカ	◇	泉館 タミ	◇	槻館 清吉

二戸市下斗米	槻館 俊美	二戸市石切所	小野寺秋男	二戸市金田一	馬淵ひとみ
◇	米田 福治	◇	築部 義美	◇	佐藤あつ子
◇	槻館 絹江	◇	熊谷 義幸	二戸市仁佐平	佐藤 信一
◇	高村 サダ	◇	浪岡 一典	二戸市御返地	田口 健藏
◇	槻館 テル	◇	西野キン子	二戸市堰野	円子 當子
◇	槻館 トミ	◇	田中 タヨ	二戸市安比	田口 征子
◇	高村 キエ	◇	小野寺ツネ	二戸市似島	田口真紀子
◇	槻館 トワ	◇	築部 ハル	一戸町鳥越	柴田宗次郎
◇	米田 英子	◇	小野寺マサ	一戸町宇別	中嶋 忠
◇	高村 クニ	◇	高橋 トワ	浄法寺町岩淵	亀谷 律
◇	米田 セイ	◇	久保田栄子		
◇	槻館 啓子	◇	小野寺タマ		
◇	高村 タエ	◇	小笠原サヨ		
◇	米田 キエ	◇	晴山 幸子		
◇	米田 イサ	◇	浪岡 満子		
◇	槻館富美江	二戸市福岡	新毛 勝		
◇	陳場キヨミ	◇	君成田高雄		
◇	槻館 ヤエ	◇	佐藤 俊一		
◇	米田 ワカ	◇	本宮 芳藏		
◇	槻館 ツル	◇	大平 フヂ		
◇	槻館トミエ	◇	柴田 ヌエ		
◇	米田ヨシノ	◇	稲葉 マサ		
◇	槻館 ミチ	◇	相馬 智子		
◇	槻館 禮子	◇	沢藤 順子		
◇	高村 サワ	◇	中居真知子		
◇	欠端 キヨ	◇	田川 敦子		
◇	槻館 トシ	◇	奥 清子		
◇	高村 悦子	◇	田中 稔子		
◇	槻館 洋子	◇	黒沢 逸子		
二戸市石切所	柴田 留吉	二戸市金田一	十字架雅一		
◇	多井作悦藏	◇	竹田 ツル		
◇	関上 義隆	◇	並岡 ハギ		

岩手県埋文センター文化財調査報告書第36集

二戸バイパス関連遺跡発掘調査報告書

二戸市 長瀬日遺跡

昭和57年3月20日印刷

昭和57年3月25日発行

発行 財団法人岩手県埋蔵文化財センター

〒020 岩手県紫波郡南村大字下飯岡第11地割
字高屋敷185 TEL (0196) 38-9001

印刷 株式会社河北印刷
